



# S-Class Coupé

取扱説明書



Mercedes-Benz

## マーク

この説明書には以下のマークがあります：

### 警告

警告ステッカーには、お客様や他の乗員などの健康または生命を危険にさらすおそれのある事項について記載されています。

### 環境に関する注意

環境に関する注意は、環境を意識した行動や廃棄についての情報を提供しています。

**!** 車両の損傷につながる危険を喚起する、機材の損傷に関する注意です。

**i** これらのマークは、お客様の助けになるような、便利な操作方法や詳細情報を示しています。

▶ このマークは、お客様に従っていただきたい説明を示しています。

▶ 連続しているマークは、いくつかの手順がある操作を示しています。

(▷ このマークは、項目についての詳細情報がある場所を示しています。ジ)

▷▷ このマークは次のページに続く警告または操作を示しています。

**ディ** この表記は、マルチファンクションディスプレイ/COMAND ディスプレイ/オーディオディスプレイのメッセージを示しています。

 このマークは、デジタル版取扱説明書に情報があることを示しています。

車両のソフトウェア部品は © 2005 The FreeType Project <http://www.freetype.org> の著作権により保護されています。

## メルセデス・ベンツ車をお買い上げいただきありがとうございます。

運転される前に、この取扱説明書をお読みいただき、特に安全面と警告事項についてのご理解を深めてください。お客様自身と周りの人々を危険から守り、お車を最大限に楽しんでいただくことができます。

便利な機能の追加情報は COMAND システムの中の車両のデジタル版取扱説明書に記載されています。

お客様の車両の装備や名称はオプションや仕様により異なる場合があります。

この取扱説明書のイラストは主に左ハンドル車両のものを使用しています。右ハンドル車両では、車両の部品の配置や位置、そして操作方法が異なる場合がありますので、ご注意ください。

取扱説明書には 100 km/h を上回る車両速度での性能データおよび車両状況も記載されています。ただし、公道を走行するときは常に、その場所で適用される法定速度または制限速度に従ってください。

メルセデス・ベンツは常に車両を最高水準にするための改良を行なっています。

メルセデス・ベンツでは、デザインや装備の分野の変更を行なう権利を有しています。そのため、本取扱説明書の記述やイラストが異なることがあります。

以下のものは、車両の一部です。常に車両に搭載してください。

- デジタル版取扱説明書
- 取扱説明書
- 整備手帳
- 装備に応じた補足版

また次のオーナーに車両をお譲りになる場合は、必ずすべての書類をお渡しください。

Daimler AG の技術文献チームはお客様が安全で快適な運転をされることを望んでいます。

メルセデス・ベンツ

さくいん .....	4	各部の名称 .....	29
デジタル版取扱説明書 .....	22	安全性 .....	43
はじめに .....	24	開閉 .....	91
		シート、ステアリングとミラー ..	111
		ライトおよびフロントワイパー ..	117
		エアコンディショナー .....	125
		走行と駐車 .....	129
		マルチファンクションディスプレイと表示 .....	181
		COMAND システム .....	213
		収納と機能 .....	221
		メンテナンスおよび手入れ .....	229
		万ーのとき .....	243
		ホイールとタイヤ .....	265
		サービスデータ .....	285

## あ

アクティブ・ボディ・コントロール(ABC)	
機能/注意事項	161
アクティブパーキングアシスト	
機能/注意事項	164
重要な安全上の注意	164
アクティブブラインドスポットアシスト	
機能/注意	174
設定/解除(マルチファンクションディスプレイ)	186
ディスプレイメッセージ	187
アクティブブレーンキーピングアシスト	
機能/注意	177
ディスプレイメッセージ	187
アシスト画面(マルチファンクションディスプレイ)	186
アダプティブハイビームアシスト	
ディスプレイメッセージ	187
アダプティブハイビームアシスト・プラス	
機能/注意事項	120
アダプティブブレーキ	84
アダプティブブレーキアシスト	
機能/注意事項	80
アダプティブブレーキライト	81
アテンションアシスト	
機能/注意	169
設定/解除	186
ディスプレイメッセージ	187
アドレス帳	
デジタル版取扱説明書をご覧ください	214
安全	
助手席エアバッグ自動解除システム	54
安全性	
参照 操作安全性	
アンチロック・ブレーキング・システム	
参照 ABS(アンチロック・ブレーキング・システム)	

## い

イージーエントリー機能	
機能/注意事項	115
イグニッションロック	
参照 キーの位置	
イモビライザー	87
インジケーター	
参照 方向指示灯	
インテリジェントライトシステム	
オン/オフ	186
概要	119
ディスプレイメッセージ	187
ロービームヘッドライトの左側/右側通行の設定	186

## う

ウィンタータイヤ	
ウィンタータイヤ	269
速度制限(マルチファンクションディスプレイ)	186
ウインドウ	
清掃	241
デフロスター	127
参照 サイドウインドウ	
ウインドウウォッシャー	
注意	291
補給	238
ウインドウウォッシャー液	
参照 ウインドウウォッシャー	
ウインドウバッグ	
機能	54
ウォッシャー液	
ディスプレイメッセージ	187
ウッドトリム(清掃の説明)	241
運転席	
概要	30
運転席ドア	
参照 ドア	
運転のヒント	
新しいブレーキディスク	144
一般	144
オートマチックトランスミッション	138
下り坂の傾斜	144
最初の 1500 km	130
新品のブレーキパッド/ライニング	144

スノーチェーン .....	269
ディストロニック・プラス ...	155
冬季の走行 .....	145
凍結した路面 .....	145
凍結防止剤等が撒かれた路面で のブレーキ性能の制限 .....	144
慣らし運転について注意事項 ..	130
濡れた路面の走行 .....	144
ハイドロプレーニング現象 ...	144
ブレーキ .....	144
AMG セラミックブレーキ ....	144

## え

## エアコンディショナー

イオン発生 .....	127
ウインドウの曇りを取る .....	127
エアコンディショナーモードの 設定 .....	127
オートエアコンディショナー ..	127
オン/オフ .....	127
温度の設定 .....	127
コンビエンスオープニング/ クロージング(内気循環モー ド) .....	127
システムの概要 .....	126
全体的な注意事項 .....	126
送風配分の選択 .....	127
送風量の調整 .....	127
同調機能のオンおよびオフの切 り替え .....	127
内気循環モードの作動/解除 ..	127
パフュームアトマイザー .....	127
表示灯 .....	127
フロントウインドウの霜を取 る .....	127
余熱ヒーターのオン/オフ .....	127
リアデフォグガーの作動/解 除 .....	127
リアデフォグガーの不具合 ...	127
AC モード .....	127
AC モードの不具合 .....	127
AUTO モード .....	127

## エアコンディショナーシステム

参照 エアコンディショナー

## エアバッグ

ウインドウバッグ .....	54
概要 .....	50

格納場所 .....	52
サイドバッグ .....	53
作動 .....	60
重要な安全上の注意点 .....	51
助手席エアバッグ表示灯 .....	45
ディスプレイメッセージ .....	197
ニーバッグ .....	53
フロントエアバッグ(運転席、 助手席) .....	52

## エマージェンシーキー

運転席ドアの解錠 .....	97
機能/注意 .....	95
車両の施錠 .....	98
挿入 .....	95
取外し .....	95

## エンジン

エンジン番号 .....	287
オーバーヒート .....	238
キーレスゴースイッチで停止す る .....	143
キーレスゴースイッチでの始 動 .....	134
警告灯(エンジン診断) .....	201
けん引始動(車両) .....	261
作動不良 .....	136
始動時のトラブル .....	136
車両のキーで停止する .....	143
ジャンプスタート .....	255
停止 .....	143
ディスプレイメッセージ .....	199
ECO スタートストップ機能 ..	135

## エンジンオイル

エンジンオイル量の点検 .....	232
オイルグレードについての注 意 .....	289
充填容量 .....	290
定期交換 .....	236
ディスプレイメッセージ .....	187
添加剤 .....	290
粘度 .....	290
補給 .....	235
マルチファンクションディスプ レイを使用したオイル量の点 検 .....	234
油量および消費についての注 意 .....	232
レベルゲージを使用してオイル 量を点検する .....	232

エンジン自動始動(ECO スタート ストップ機能) .....	136
エンジン自動停止(ECO スタート ストップ機能) .....	136
エンジンの始動 キー操作 .....	134
エンジンの電子制御部品 故障(誤作動) .....	136

## お

## オイル

参照 エンジンオイル

## オートマチックトランスミッション

アクセルペダルのポジション ..	138
運転のヒント .....	138
Eマージェンシーモード .....	138
エンジンの始動 .....	134
オートマチック走行モード .....	138
概要 .....	136
ギアシフト操作 .....	138
キックダウン .....	138
シフトポジション .....	138
シフトポジション表示 .....	138
ステアリングパドルシフト .....	138
走行モード選択スイッチ .....	138
ディスプレイメッセージ .....	187
ドライブポジションの選択 .....	137
トラブル(不具合) .....	138
ニュートラルの選択 .....	137
パーキングポジションPの選 択 .....	137
パーキングポジションの自動選 択 .....	137
発進 .....	135
マニュアル走行モード(AMG 車両) .....	138
リバースギアの選択 .....	137
DIRECT SELECT レバー .....	137
オートマチックトランスミッシ ョンのエマージェンシーモード .....	138
オートマチックヘッドライトモ ード .....	118
オートライト ディスプレイメッセージ .....	187
オーバーヘッドコントロールユ ニット .....	39

オドメーター .....	186
参照 トリップメーター	
音楽ファイル デジタル版取扱説明書をご覧く ださい .....	214
音声認識機能 参照 別冊取扱説明書	
温度 設定(エアコン) .....	127

## か

外気温度計 .....	182
解錠 車内から(セントラルロックン グスイッチ) .....	97
非常時の解錠 .....	97
懐中電灯 .....	244
ガソリン .....	288
カップホルダー 重要な安全上の注意 .....	226
リア .....	226
可変スピードリミッター 可変機能 .....	147
可変機能の解除 .....	149
機能/注意 .....	147
現在の速度を記憶する .....	148
重要な安全上の注意 .....	147
選択 .....	148
LIM 表示灯 .....	147
環境保護 全体的な注意事項 .....	24
寒冷時の走行 重要な安全上の注意 .....	269
スノーチェーン .....	269
滑りやすい路面 .....	145

## き

ギアまたはセレクターレバー(清 掃の説明) .....	241
キー 位置(エンジンスイッチ) .....	131
Eマージェンシーキー .....	95
エンジンの始動 .....	134
概要 .....	92
キーレスゴースタート機能 .....	94
重要な安全上の注意 .....	92
設定変更 .....	95

セントラルロックによる施錠/  
 解錠 ..... 93  
 ディスプレイメッセージ ..... 187  
 電池交換 ..... 96  
 電池点検 ..... 96  
 不具合(異常) ..... 97  
 紛失 ..... 97

**キーの位置**  
 キー ..... 131  
 キーレスゴースイッチ ..... 132

**キーレスゴー**  
 解除 ..... 93  
 解錠 ..... 93  
 施錠 ..... 93  
 ディスプレイメッセージ ..... 187

**キーレスゴースイッチ**  
 エンジンの始動 ..... 134  
 取り外し ..... 133

**キックダウン**  
 運転のヒント ..... 138  
 マニュアル走行モード ..... 139

**機能** ..... 226  
**救急セット** ..... 244  
**救助カード** ..... 27

**給油**  
 給油のしかた ..... 140  
 重要な安全上の注意 ..... 139  
 燃料計 ..... 34  
 参照 燃料

**緊急**  
 事故後の自動措置 ..... 63  
**緊急時点灯機能** ..... 122

◀

**クーリングボックス** ..... 226  
**クルーズコントロール**  
 解除 ..... 147  
 機能/注意 ..... 145  
 クルーズコントロールレバー .. 146  
 現在の速度を記憶および維持する ..... 147  
 作動条件 ..... 147  
 重要な安全上の注意 ..... 145  
 選択 ..... 146, 147  
 走行装備 ..... 145  
 速度の設定 ..... 147  
 ディスプレイメッセージ ..... 187

LIM 表示灯 ..... 146  
**クロージングサポーター** ..... 97  
**グローブボックス** ..... 223  
**クロスウインドアシスト(マジック  
 ボディコントロール装備車両) ...** 161  
**クロスウインドアシスト(マジック  
 ボディコントロール非装備車両) ...** 83  
**クロストラフィックアシスト付き  
 BAS プラス(ブレーキアシスト・  
 プラス)**  
 重要な安全上の注意 ..... 84

**け**

**警告および表示灯**  
 ステアリング ..... 211

**警告灯/表示灯**  
 一般的な注意 ..... 201  
 エンジン診断 ..... 201  
 各部の名称 ..... 35  
 シートベルト ..... 202  
 車間距離警告 ..... 211  
 乗員保護装置 ..... 209  
 燃料残量 ..... 201  
 ブレーキ ..... 203  
 冷却水 ..... 210  
 ABS ..... 205  
 ESP® ..... 207  
 ESP®オフ ..... 209  
 LIM(可変スピードリミッ  
 ター) ..... 147  
 LIM(クルーズコントロール) .. 146  
 LIM(ディストロニック・プラ  
 ス) ..... 151

**警告灯と表示灯**  
 助手席エアバッグ ..... 45

**携帯電話**  
 周波数 ..... 286  
 送信出力(最大) ..... 286  
 取り付け ..... 286

**警報**  
 オフにする(ATA) ..... 87  
 機能のオン/オフを切り替える  
 (ATA) ..... 87  
 ATA(盗難防止警報システム) ... 87

**けん引**  
 けん引フックの取り付け ..... 260  
 けん引フックの取り外し ..... 260

重要な安全上の注意	258
フロントおよびリアが接地した状態	260
リアをつり上げて	261
4MATIC 車両に関する注意事項	261
<b>けん引始動</b>	
エンジンエマージェンシースタート	261
重要な安全上の注意	258
<b>けん引フック</b>	<b>245</b>
<b>けん引防止</b>	
オフにする	88
解除	88
機能	88
待機状態	88
<b>言語の設定</b>	
デジタル版取扱説明書をご覧ください	214

## こ

<b>高圧式ブレーガンの使用</b>	<b>241</b>
<b>後席</b>	
小物入れ	223
<b>後席のセンターコンソール</b>	
小物入れ	223
<b>コーナリングライト</b>	
機能/注意	119
ディスプレイメッセージ	187
<b>故障</b>	
参照 けん引	
参照 パンクしたタイヤ	
<b>故障メッセージ</b>	
参照 ディスプレイメッセージ	
<b>故障メッセージを表示させる</b>	
参照 ディスプレイメッセージ	
<b>子供</b>	
乗員保護装置	65
乗せるとき	64
<b>小物入れ</b>	
アームレスト(下)	223
カップホルダー	226
グローブボックス	223
後席	223
後席のセンターコンソール	223
重要な安全上の注意	222
センターコンソール	223

ドア	223
メガネホルダー	223
ラゲッジネット	223
<b>コンビエンスオープニング/クロージング(内気循環モード)</b>	<b>127</b>
<b>コンビネーションスイッチ</b>	<b>119</b>

## さ

<b>サービス</b>	
参照 メンテナンスインジケーター	
<b>サービスセンター</b>	
参照 メルセデス・ベンツ指定サービス工場	
<b>サービスデータ</b>	
車両データ	292
タイヤ/ホイール	278
容量	287
<b>サービスプロダクト</b>	
燃料	287
ブレーキ液	290
<b>サイドウィンドウ</b>	
開閉(すべて)	105
開閉(フロント)	105
重要な安全上の注意	104
不具合(異常)	106
リセット	105
<b>サイドバッグ</b>	<b>53</b>
<b>サイドランプ</b>	
オン/オフの切り替え	118
<b>サスペンション制御</b>	
ABC(アクティブ・ボディ・コントロール)	161
<b>サスペンションの制御</b>	
AIR マテックサスペンション	162
<b>サマータイヤ</b>	
冬季	269
<b>サンバイザー</b>	<b>226</b>

## し

<b>シート</b>	
運転席のシートポジション	112
シートコンフォートパッケー	
ジ	114
シートヒーター	114
シートヒーターのトラブル	115
シートヒーターを使用する	114

シートベンチレーターの使用 .. 114  
 重要な安全上の注意 ..... 113  
 調整(電動式) ..... 114  
 電動ランバーサポートを調整する ..... 114  
 表面の手入れ ..... 241  
 アクティブマルチコントロールシートバック ..... 114  
 メモリー機能(設定の記憶) ..... 116  
**シートコンフォートパッケージ .. 114**  
**シートベルト**  
 運転席および助手席シートベルト ..... 50  
 解除 ..... 49  
 概要 ..... 46  
 警告灯 ..... 202  
 警告灯(機能) ..... 50  
 重要な安全上の注意点 ..... 46  
 正しい着用方法 ..... 47  
 着用 ..... 48  
 手入れ ..... 241  
**シートベルトテンショナー**  
 作動 ..... 60  
**事故**  
 事故後の自動措置 ..... 63  
**時刻の設定**  
 デジタル版取扱説明書をご覧ください ..... 214  
**事故のとき ..... 63**  
**自宅住所**  
 デジタル版取扱説明書をご覧ください ..... 214  
**室内センサー**  
 解除 ..... 89  
 機能 ..... 88  
 待機状態 ..... 88  
**指定サービス工場**  
 参照 メルセデス・ベンツ指定サービス工場  
**始動(エンジン) ..... 133**  
**車外ライト**  
 参照 ライト  
**車間距離警告機能**  
 機能/注意 ..... 79  
 作動/解除 ..... 186  
**車間距離警告信号(警告灯) ..... 211**

**車高**  
 アクティブ・ボディ・コントロール(ABC) ..... 161  
**遮光フィルム ..... 227**  
**車載工具 ..... 245**  
**車体寸法 ..... 292**  
**車台ナンバープレート**  
 参照 ビークルプレート  
**車台番号**  
 参照 VIN  
**ジャッキ**  
 収納場所 ..... 245  
 使用方法 ..... 274  
**車両**  
 運搬 ..... 261  
 解錠(キー) ..... 93  
 けん引 ..... 258  
 ジャッキアップ ..... 274  
 ジャッキダウン ..... 278  
 車両が動き出さないよう固定する ..... 274  
 車両データ ..... 292  
 施錠(キー) ..... 93  
 操作安全性 ..... 25  
 装備 ..... 25  
 正しい使用 ..... 27  
 駐車 ..... 143  
 ディスプレイメッセージ ..... 201  
 データ取得 ..... 27  
 電子制御部品 ..... 286  
 発進 ..... 135  
 非常時の解錠 ..... 97  
 非常時の施錠 ..... 98  
**車両を運搬する ..... 261**  
**ジャンプスタート(エンジン) ..... 255**  
**住所の入力**  
 デジタル版取扱説明書をご覧ください ..... 214  
**収納スペース**  
 荷物の固定 ..... 225  
 ラゲッジネットリテーナー ..... 225  
 リアシートバックレスト ..... 223  
**周波数**  
 携帯電話 ..... 286  
 無線機 ..... 286  
**乗員安全性**  
 子供を乗せるとき ..... 64  
 事故後の自動措置 ..... 63



**セントラルロック**

参照 セントラルロックシステム

**そ****走行安全システム**

EBD(エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション) ..... 84

**走行安全装備**

アダプティブブレーキ ..... 84

アダプティブブレーキアシスト ..... 80

アダプティブブレーキライト ... 81

概要 ..... 75

クロストラフィックアシスト付きBAS プラス ..... 76

コリジョンプリベンションアシストプラス ..... 78

車間距離警告機能 ..... 79

重要な安全上の注意点 ..... 75

ステアコントロール ..... 86

ABS(アンチロック・ブレーキング・システム) ..... 75

BAS(ブレーキアシスト) ..... 76

ESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム) ..... 81

ETS/4ETS(エレクトロニックトラクションシステム) ..... 81

PRE-SAFE® ブレーキ ..... 84

**走行距離記録** ..... 186

参照 オドメーター

**走行システム**

ステアリングアシストおよびストッパ&amp;ゴーパイロット付ディストロニック・プラス ..... 156

ABC(アクティブ・ボディ・コントロール) ..... 161

**走行時の注意**

冠水路の走行(オンロード) .... 144

濡れた路面 ..... 144

**走行装備**

アクティブパーキングアシスト ..... 164

アクティブブラインドスポットアシスト ..... 174

アクティブレーンキーピングアシスト ..... 177

アテンションアシスト ..... 169

可変スピードリミッター ..... 147

クルーズコントロール ..... 145

ディストロニック・プラス .... 149

ドライビングアシスタンスパッケージ ..... 174

ナイトビューアシストプラス .. 171

パークトロニック ..... 162

ホールド機能 ..... 159

リアビューカメラ ..... 165

360° カメラシステム ..... 167

AIR マテックサスペンション ..... 161

**双方向ラジオ**

フロントウィンドウ(赤外線反射) ..... 226

**走行モード**

オートマチック ..... 138

マニュアル(AMG 車両) ..... 138

**走行モード選択スイッチ** ..... 138**操作**

デジタル版取扱説明書 ..... 22

**操作安全性**

重要な安全上の注意 ..... 25

**操作システム**

参照 マルチファンクション

ディスプレイ

**送風口**

送風の設定 ..... 127

**送風配分の設定** ..... 127**送風量の設定** ..... 127**速度制限の設定**

参照 可変スピードリミッター

**速度の制御**

参照 クルーズコントロール

**た****タイヤ**

回転方向 ..... 273

交換 ..... 272

重要な安全上の注意 ..... 266

新品の車輪の取り付け ..... 277

タイヤサイズ(データ) ..... 278

タイヤの交換 ..... 272

タイヤの取り付け ..... 273

タイヤの取り外し ..... 277

タイヤのトレッド ..... 267

耐用年数 .....	268
ディスプレイメッセージ .....	200
点検 .....	267
冬季のサマータイヤ .....	269
ホイールとタイヤの組み合わせ .....	280
保管 .....	273
参照 パンクしたタイヤ MOExtended タイヤ .....	268

### タイヤ空気圧

指定 .....	269
達している(タイヤフィット) ..	250
達しない(タイヤフィット) .....	249
ディスプレイメッセージ .....	200

### タイヤ空気圧警告システム

再起動 .....	271
重要な安全上の注意 .....	271
全体的な注意事項 .....	271

### タイヤの取り付け

ジャッキアップ .....	274
ジャッキダウン .....	278
車両が動き出さないよう固定する .....	274
車両の準備 .....	273
車輪の装着 .....	277
車輪の取り外し .....	277

### タイヤフィット ..... 247

### タコメーター ..... 182

### ダッシュボード

参照 メーターパネル

## ち

### チャイルドセーフティシート

後ろ向き乗員保護装置 .....	68
純正 .....	73
助手席に装着 .....	67
適切な位置 .....	69
テザーアンカー .....	67
前向き乗員保護補助装置 .....	69
ISOFIX .....	66

### 駐車

重要な安全上の注意 .....	142
助手席側ドアミラーの位置 .....	115
リアビューカメラ .....	165
参照 パークトロンニック 参照 駐車 .....	28

### 著作権 ..... 28

## て

### 停止表示板 ..... 244

### ディストロニック・プラス

運転のヒント .....	155
解除 .....	154
機能/注意 .....	149
クルーズコントロールレバー ..	151
作動 .....	151
作動条件 .....	151
指定最低距離の設定 .....	154
重要な安全上の注意 .....	150
選択する .....	151
ディスプレイメッセージ .....	187
マルチファンクションディスプレイの表示 .....	154

### ディスプレイ

参照 ディスプレイメッセージ

参照 警告および表示灯

### ディスプレイ(日常の手入れ) ..... 241

### ディスプレイメッセージ

安全装備 .....	189
エンジン .....	199
キー .....	187
キーレスゴー .....	187
車両 .....	201
全体的な注意事項 .....	187
タイヤ .....	200
はじめに .....	187
非表示(マルチファンクションディスプレイ) .....	187
メンテナンスインジケーター ..	239
呼び出し(マルチファンクションディスプレイ) .....	187
ライト .....	187

### デイトムドライブングライト

機能/注意 .....	118
ディスプレイメッセージ .....	187
点灯/消灯(マルチファンクションディスプレイ) .....	186

### 手入れ

ウインドウ .....	241
ウッドトリム .....	241
カーペット .....	241
ギア/セレクターレバー .....	241
高圧式スプレーガン .....	241
シート表皮 .....	241
シートベルト .....	241

自動洗車機 ..... 240  
 車外ライト ..... 241  
 車内 ..... 241  
 センサー ..... 241  
 洗車 ..... 241  
 注意 ..... 239  
 ディスプレイ ..... 241  
 塗装面 ..... 241  
 トリム部品 ..... 241  
 ナイトビューアシストプラス .. 241  
 プラスチックトリム ..... 241  
 ホイール ..... 241  
 マットペイント ..... 241  
 マフラー ..... 241  
 リアビューカメラ ..... 241  
 ルーフライニング ..... 241  
 ワイパーブレード ..... 241  
 360° カメラシステム ..... 241

**データ**  
 参照 サービスデータ

**テールランプ**  
 ディスプレイメッセージ ..... 187  
 参照 ライト

**テザーアンカー ..... 67**  
**デジタルスピードメーター ..... 186**  
**デジタル版取扱説明書**  
 概要 ..... 22  
 ヘルプ ..... 22

**テレビ**  
 操作(マルチファンクション  
 ディスプレイ) ..... 186  
 参照 別冊の取扱説明書

**添加剤(エンジンオイル) ..... 290**  
**電球の交換**  
 一般的な注意事項 ..... 122

**電源ソケット**  
 センターコンソール ..... 226  
 全体的な注意 ..... 226  
 トランク ..... 226  
 リア ..... 226

**電子制御部品**  
 注意 ..... 286

**電池(キー)**  
 交換 ..... 96  
 重要な安全上の注意 ..... 95  
 点検 ..... 96

**電動ブラインド**  
 パノラミックルーフ ..... 106

リアウインドウ ..... 226

**電話**  
 通話の拒否/終了 ..... 186  
 デジタル版取扱説明書をご覧ください ..... 214  
 電話帳からの番号 ..... 186  
 電話を受ける(マルチファンク  
 ションステアリング) ..... 186  
 リダイヤル ..... 186

**電話帳**  
 デジタル版取扱説明書をご覧ください ..... 214

**と**

**ドア**  
 クロージングサポーター ..... 97  
 車速感応ドアロック(スイッ  
 チ) ..... 97  
 重要な安全上の注意 ..... 97  
 センทรัลロックによる施錠/  
 解錠(キー使用) ..... 93  
 ディスプレイメッセージ ..... 187  
 非常時の解錠 ..... 97  
 非常時の施錠 ..... 98  
 開く(車内から) ..... 97

**ドアの操作パネル**  
 各部の名称 ..... 40

**ドアミラー**  
 格納/展開(自動) ..... 115  
 格納/展開(電動) ..... 115  
 外側に曲げられたとき ..... 115  
 調整 ..... 115  
 防眩(自動) ..... 115  
 メモリー機能(設定の記憶) .... 116  
 リセット ..... 115  
 リバースポジションの記憶 .... 115

**ドアロック**  
 車速感応 ..... 97

**冬季の使用**  
 サマータイヤ ..... 269

**盗難防止**  
 イモビライザー ..... 87  
 けん引防止機能 ..... 88  
 室内センサー ..... 88  
 ATA(盗難防止警報システム) ... 87

**読書灯 ..... 122**  
**塗装面(日常の手入れ) ..... 241**

飛び出し検知機能付 BAS プラス (ブレーキアシスト・プラス)	
機能/注意事項	76
ドライビングアシスタンスパッ ケージ	174
トランク	
開閉(車外からの自動)	100
開閉(車外からのハンズフリー アクセス)	101
開閉(車内からの自動)	102
クロー징サポーター	97
重要な安全上の注意	99
独立施錠	103
非常時の解錠	103
トランクの積載量(最大)	292
トランクフロアボード下の収納ス ペース	225
トランクリッド	
開閉	99
障害物検知	99
ディスプレイメッセージ	187
開いたときの寸法	292
トランスミッション	
参照 オートマチックトランス ミッション	
取扱説明書	
概要	25
車両装備	25
トリップコンピューター (マルチ ファンクションディスプレイ) ...	186
トリップメーター	
呼び出し	186
トリム部品(清掃の説明)	241
<b>な</b>	
内気循環モードの作動および解 除	127
ナイトビューアシストプラス	
機能/注意	171
作動/停止	173
自動作動のオン/オフの切り替 え	186
清掃	241
不具合(故障)	174
ナビゲーション	
デジタル版取扱説明書をご覧く ださい	214

メニュー(マルチファンクショ ンディスプレイ)	186
参照 別冊の取扱説明書	
慣らし運転	130

**に**

ニーバッグ	53
荷物の積み方	222

**ね**

燃費(マルチファンクションディ スプレイ)	186
燃料	
給油	139
グレード(ガソリン)	288
重要な安全上の注意	287
消費に関する情報	289
走行可能距離の表示	186
タンク容量/予備燃料	288
添加剤	289
燃料計	34
燃料消費の表示	186
平均燃費	186
問題があるとき	142
燃料および油脂	
ウォッシュャー液	291
エンジンオイル	289
重要な安全上の注意	287
冷却水(エンジン)	290
燃料キャップ	
参照 燃料給油口フラップ	
燃料給油口フラップ	
開く	141
燃料残量	
警告灯	201
走行可能距離の呼び出し(マル チファンクションディスプレ イ)	186
ディスプレイメッセージ	187
燃料タンク	
不具合	142
容量	288
燃料容量	
燃料計	34



ヒューズボックス		
助手席足元のヒューズボックス	263	
表示および警告灯		
コリジョンプリベンションアシストプラス	211	
表示灯		
参照 警告灯/表示灯		
ヒルスタートアシスト	135	
<b>ふ</b>		
フォグランプ(強化機能)	120	
ブラインドスポットアシスト		
参照 アクティブブラインドスポットアシスト		
プラスチックトリム(清掃の説明)	241	
ブレーキ		
アダプティブブレーキアシスト		
ト	80	
運転のヒント	144	
強化ブレーキシステム	144	
クロストラフィックアシスト付きBAS プラス	76	
警告灯	203	
重要な安全上の注意	144	
ディスプレイメッセージ	189	
パーキングブレーキ	143	
ヒルスタートアシスト	135	
ブレーキ液(注意)	290	
ホールド機能	159	
ABS	75	
BAS	76	
EBD(エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション)	84	
ブレーキアシスト		
参照 BAS(ブレーキアシスト)		
ブレーキ液		
注意	290	
ディスプレイメッセージ	194	
ブレーキ液量	239	
ブレーキランプ		
アダプティブ	81	
ディスプレイメッセージ	187	
フロアマット	227	
フロントウインドウ		
赤外線反射	226	
フロントワイパー		
不具合	124	
<b>へ</b>		
ヘッドアップディスプレイ		
明るさの調整	186	
位置の設定	186	
オン/オフを切り替える	184	
機能 / 注意事項	184	
重要な安全上の注意事項	184	
設定の保存(メモリー機能)	116	
ディスプレイのオン/オフを切り替える	186	
ヘッドバッグ		
ディスプレイメッセージ	195	
ヘッドライト		
くもり	118	
参照 オートマチックヘッドライトモード		
ヘッドレスト		
調整(リア)	114	
ペットを乗せるとき	74	
ベルト		
参照 シートベルト		
<b>ほ</b>		
ホイール		
交換/ローテーション	272	
締め付けトルク	278	
重要な安全上の注意	266	
清掃	241	
タイヤの交換	272	
点検	267	
ホイールサイズ/タイヤサイズ		
ズ	278	
保管	273	
ホイールとタイヤの組み合わせ		
参照 タイヤ		
ホイールボルトの締め付けトルク	278	
方向指示灯		
ディスプレイメッセージ	187	
点灯/消灯	119	
ホールド機能		
解除	160	

機能/注意 .....	159
作動 .....	159
<b>ホーン</b> .....	<b>30</b>
<b>歩行者保護</b>	
アクティブボンネット(歩行者 保護) .....	230
<b>ボンネット</b>	
アクティブボンネット(歩行者 保護) .....	230
重要な安全上の注意 .....	230
ディスプレイメッセージ .....	201
閉じる .....	232
開く .....	231

**ま**

マジックスカイコントロール .....	108
マジックボディコントロール .....	160
マットペイント(日常の手入れ) ...	241
マフラー(手入れ) .....	241
アクティブマルチコントロール シートバック .....	114
<b>マルチファンクションステアリン グ</b>	
概要 .....	36
マルチファンクションディスブ レイの操作 .....	183
<b>マルチファンクションディスプレ イ</b>	
アシスト一覧メニュー .....	186
安全に関する重要事項 .....	182
機能/注意 .....	182
基本画面 .....	186
サブメーター .....	186
設定初期化サブメニュー .....	186
操作 .....	183
ディストロニック・プラス ...	154
テレビの操作 .....	186
点検メッセージの表示 .....	239
ナビゲーションメニュー .....	186
ビデオ DVD の操作 .....	186
ヘッドアップディスプレイ ...	184
メッセージの記憶 .....	187
メディアメニュー .....	186
メニューの概要 .....	186
メンテナンスメニュー .....	186
ライトサブメニュー .....	186
ラジオメニュー .....	186

**み****ミラー**

参照 ドアミラーまたはルームミラー  
参照 バニティミラー (サンバ  
イザー内)  
参照 ルームミラー

**む****無線機**

周波数 .....	286
送信出力(最大) .....	286
取り付け .....	286

**め****メーターパネル**

各部の名称 .....	34
警告灯/表示灯 .....	35

**メーターパネル照明** 36**メガネホルダー** 223**メッセージ**

参照 ディスプレイメッセージ  
参照 警告および表示灯

**メッセージの記憶(マルチファンク  
ションディスプレイ)** 187**メモリーカード(オーディオ)** 186**メモリー機能** 116**メルセデス・ベンツ・インテリ  
ジェントドライブ**

アクティブパーキングアシス ト .....	164
アクティブブラインドスポット アシスト .....	174
アクティブレーンキーピングア シスト .....	177
アテンションアシスト .....	169
可変スピードリミッター .....	147
クルーズコントロール .....	145
クロスウインドアシスト(マ ジックボディコントロール装備 車両) .....	161
クロスウインドアシスト(マ ジックボディコントロール非装 備車両) .....	83
ステアリングアシストおよびス トップ&ゴーパイロット付ディ ストロニック・プラス .....	156

全般的な注意事項 .....	145
ディストロニック・プラス .....	149
飛び出し検知機能付 BAS プラス(ブレーキアシスト・プラス) .....	76
ナイトビューアシストプラス ..	171
パーキングアシストリアビューカメラ .....	165
パークトロニック .....	162
マジックボディコントロール ..	160
路面スキャン .....	161
360° カメラシステム .....	167
ABS(アンチロック・ブレーキング・システム) .....	75
BAS(ブレーキアシスト) .....	76
ESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム) .....	81
PRE-SAFE®(予見的乗員保護システム) .....	62
PRE-SAFE®プラス(予期乗員保護措置プラス) .....	62
PRE-SAFE®ブレーキ .....	84
<b>メルセデス・ベンツ指定サービス工場 .....</b>	<b>27</b>
<b>メルセデス・ベンツ純正部品 .....</b>	<b>24</b>
<b>メンテナンスインジケーター</b>	
注意 .....	239
特別な点検が必要なとき .....	239
メンテナンスインジケーターのリセット .....	239
メンテナンスメッセージ .....	239
メンテナンスメッセージの非表示 .....	239
メンテナンスメッセージの表示 .....	239
<b>メンテナンスメニュー(マルチファンクションディスプレイ) .....</b>	<b>186</b>

## よ

容量(サービスデータ) .....	287
余熱ヒーター(エアコンディショナー) .....	127
予備(燃料タンク)	
参照 燃料	

## ら

<b>ライセンスランプ(ディスプレイメッセージ) .....</b>	<b>187</b>
<b>ライター .....</b>	<b>226</b>
<b>ライト</b>	
アクティブライトシステム ....	119
アダプティブハイビームアシストプラス .....	120
インテリジェントライトシステム(機能) .....	119
インテリジェントライトシステムのオン/オフ .....	186
コーナリングライト .....	119
車外ライトの設定 .....	118
車幅灯 .....	118
スポットライトのオン/オフの切り替え .....	186
デイトタイムドライビングライトの点灯/消灯(マルチファンクションディスプレイ) .....	186
パーキングランプ .....	118
ハイウェイモード .....	120
ハイビームヘッドライト .....	119
非常点滅灯 .....	118
フォグランプ(強化機能) .....	120
ヘッドライトのオートモード ..	118
ヘッドライトのパッシング ....	119
方向指示灯 .....	119
ランプスイッチ .....	118
リアフォグランプ .....	118
ロービームヘッドライト .....	118
参照 電球の交換	
<b>ライトセンサ .....</b>	<b>187</b>
<b>ラゲッジネット .....</b>	<b>223</b>
<b>ラゲッジネットフック .....</b>	<b>225</b>
<b>ラゲッジルーム .....</b>	<b>222</b>
<b>ラジオ</b>	
放送局の選択 .....	186
参照 別冊の取扱説明書	
<b>ラジオモード</b>	
デジタル版取扱説明書をご覧ください .....	214
<b>ランバーサポート</b>	
電動ランバーサポートの調整 ..	114
<b>ランプ</b>	
参照 警告灯/表示灯	

## り

リアウインドウの電動ブラインド .....	226
リアシート	
概要 .....	41
リアデフォッガー	
機能のオン/オフ .....	127
トラブル(故障) .....	127
リアビューカメラ	
オン/オフ .....	166
機能/注意 .....	165
清掃の説明 .....	241
リアフォグランプ	
ディスプレイメッセージ .....	187
点灯/消灯 .....	118
リアランプ	
参照 ライト	
リターンスイッチ .....	219
リバース機能	
サイドウインドウ .....	105
電動ブラインド .....	107
トランクリッド .....	99

## る

ルート(ナビゲーション)	
参照 ルート案内(ナビゲーション)	
ルート案内	
デジタル版取扱説明書をご覧ください .....	214
ルート案内(ナビゲーション) .....	186
ルーフ	
ディスプレイメッセージ .....	187
ルーフの積載量(最大) .....	292
ルーフライニングとカーペット(清掃の説明) .....	241
ルームミラー	
防眩(自動) .....	115
防眩(手動) .....	115
ルームライト	
概要 .....	122
緊急時点灯機能 .....	122
自動点灯 .....	122
手動点灯 .....	122
読書灯 .....	122

## れ

冷却水(エンジン)	
温度計 .....	182
警告灯 .....	210
重要な安全上の注意 .....	290
定期交換 .....	238
ディスプレイメッセージ .....	199
補給 .....	237
量の点検 .....	236
冷房	
参照 エアコンディショナー	
レーンキーピングアシスト	
設定/解除(マルチファンクションディスプレイ) .....	186
参照 アクティブレーンキーピングアシスト	

## ろ

ロードサインアシスト	
警告機能の作動/解除 .....	186
ディスプレイメッセージ .....	187
ロービームヘッドライト	
ディスプレイメッセージ .....	187
点灯/消灯 .....	118
左側/右側通行の設定 .....	186
路面スキャン .....	161

## わ

ワークショップ	
参照 メルセデス・ベンツ指定サービス工場	
ワイパー	
ワイパーの操作 .....	123
ワイパーブレードの交換 .....	123
ワイパーブレード	
交換 .....	123
重要な安全上の注意 .....	123
清掃 .....	241
輪止め .....	274

## 英字

4ETS	
参照 ETS/4ETS (エレクトロニックトラクションシステム)	
4MATIC(オフロードシステム) ..	162

4MATIC (フルタイム 4 輪駆動) .....	162	EBD(エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション)	
12V ソケット		機能/注意 .....	84
参照 電源ソケット		ディスプレイメッセージ .....	193
360° カメラシステム		<b>ECO スタートストップ機能</b>	
機能/注意 .....	167	一般的な注意 .....	136
清掃 .....	241	エンジン自動始動 .....	136
<b>ABS(アンチロック・ブレーキング・システム)</b>		エンジン自動停止 .....	136
機能/注意 .....	75	概要 .....	135
警告灯 .....	205	作動/解除 .....	136
重要な安全上の注意 .....	75	重要な安全上の注意 .....	135
ディスプレイメッセージ .....	189	<b>ECO ディスプレイ</b>	
<b>AC モードのオン/オフ</b> .....	127	機能 / 注意事項 .....	144
<b>AIR マティックスサスペンション</b>		<b>ESP</b>	
機能/注意 .....	161	参照 ESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)	
<b>ATA(盗難防止警報システム)</b>		<b>ESP® (エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)</b>	
機能 .....	87	解除/作動 .....	83
警報の解除 .....	87	機能/注意 .....	81
作動/解除 .....	87	警告灯 .....	207
<b>BAS(ブレーキアシスト)</b> .....	76	作動/解除 .....	186
<b>Bluetooth®</b>		重要な安全上の注意 .....	82
デジタル版取扱説明書をご覧ください .....	214	全体的な注意事項 .....	81
<b>CD</b>		ディスプレイメッセージ .....	189
デジタル版取扱説明書をご覧ください .....	214	特性 .....	82
<b>CD プレーヤー/CD チェンジャー(マルチファンクションディスプレイ)</b> .....	186	ETS/4ETS .....	81
<b>COMAND Online</b>		<b>ETS/4ETS(エレクトロニックトラックションシステム)</b> .....	81
ディスプレイ .....	218	<b>Google™ ローカル検索</b>	
<b>COMAND システム</b>		デジタル版取扱説明書をご覧ください .....	214
コントローラー .....	218	<b>iPod</b>	
<b>CPA プラス</b>		デジタル版取扱説明書をご覧ください .....	214
作動 / 解除 .....	186	<b>ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート</b> .....	66
操作 / 注意事項 .....	78	<b>LIM 表示灯</b>	
<b>DIRECT SELECT レバー</b>		可変スピードリミッター .....	147
オートマチックトランスミッション .....	137	クルーズコントロール .....	146
<b>DVD ビデオ</b>		ディストロニック・プラス ...	151
操作(マルチファンクションディスプレイ) .....	186	<b>M+S タイヤ</b> .....	269
デジタル版取扱説明書をご覧ください .....	214	<b>MBC</b>	
		参照 マジックボディコントロール	
		<b>MOExtended タイヤ</b> .....	246
		<b>MP3</b>	
		操作 .....	186

デジタル版取扱説明書をご覧ください	
ださい	214
参照 別冊の取扱説明書	
<b>PRE-SAFE® プラス(予期乗員保護プラス)</b>	
操作	62
<b>PRE-SAFE®(予見的乗員保護システム)</b>	
機能の仕方	62
<b>PRE-SAFE® ブレーキ</b>	
機能/注意	84
警告灯	211
設定/解除	186
<b>QR コード</b>	
救助カード	27
<b>SD メモリーカード</b>	
デジタル版取扱説明書をご覧ください	
ださい	214
<b>USB 機器の接続</b>	
デジタル版取扱説明書をご覧ください	
ださい	214
<b>VIN</b>	286

## はじめに

印刷版取扱説明書には、車両の安全操作についての情報が記載されています。デジタル版取扱説明書には、車両に装備されている追加機能および装備について記載されています。車両の機能およびCOMAND システムの機能については、デジタル版取扱説明書に記載されています。COMAND システムを使用してデジタル版取扱説明書呼び出すことができます。

**i** デジタル版取扱説明書のご利用にあたり、お客様には一切費用はかかりません。デジタル版取扱説明書はインターネットに接続せずに作動します。

デジタル版取扱説明書の項目にアクセスするためには、3つの方法があります：

#### ・イメージ検索

イメージ検索により、車両を"システム上"で調べることができます。車外イメージあるいは車内イメージのいずれかから開始し、デジタル版取扱説明書に記載されているさまざまな項目にアクセスすることができます。車両のインテリアの項目にアクセスするためには、"車両のインテリア"の図を選択します。

#### ・キーワード検索

キーワード検索は、文字入力によりキーワードの検索ができます。さらなる情報は、デジタル版取扱説明書の"COMAND システム"の"文字入力"にあります。

#### ・目次

目次の個別項目を選択できます。

**i** 安全上の理由のため、走行中デジタル版取扱説明書は作動しません。

## 操作

## デジタル版取扱説明書の呼び出し

- ▶ センターコンソールの  スイッチを押します。  
車両に関連した概要が開きます。
- ▶ ダイヤルをまわすか **【◎】**、スライドして **◀◎▶**、メニュー項目の"取扱説明書"を選択します。
- ▶ 警告および安全上の注意事項についてのメッセージを確認します 。  
デジタル版取扱説明書の基本メニューが開きます。

## デジタル版取扱説明書の操作

## 全体的な注意事項

コントローラーの操作についての情報に従ってください (▶ 218 ページ)。

## コンテンツページ

イメージ検索、キーワード検索、または目次を使用してコンテンツページにアクセスすることができます。



- ▶ 前/後にスクロールする：コントローラーをまわします **【◎】**。
- ▶ 全画面/アニメーションで表示する：コントローラーを左 **①** にスライドします **◀◎**。

- ▶ **情報メッセージを選択する/ブックマークを保存する**：コントローラーを右 ② にスライドします 。
- ▶ **リンクを選択する**：コントローラーを下 ③ にスライドします 。
- ▶ **コンテンツページを終了する**： マーク ④ を選択します。
- ▶ **デジタル版取扱説明書の基本メニューを呼び出す**： マーク ⑤ を選択します。
- ▶ **センターコンソールのスイッチを使用して、機能を COMAND システムに切り替える**：、、 または  スイッチを押します。  
選択されたメニューが開きます。デジタル版取扱説明書は、バックグラウンドで開いたままになります。

## 環境保護

### 全体的な注意事項

#### 🌀 環境に関する注意

Daimler は、包括的な環境保護の一つとして対策を明確にしています。

それは、地球上で少しずつ使われ、自然と人間双方の要求に注意を促す、我々の存在の源となる自然資源のためです。

環境的に配慮のある方法で車両を操作することも、環境を保護する一助になります。

燃費やエンジン回転、トランスミッション、ブレーキ、タイヤの摩耗具合は、以下の要因に左右されます。

- お客様の車両の使用状況
- お客様の個人的な運転スタイル

お客様は、いずれの要因にも影響を及ぼしています。以下のことにご注意ください。

#### 使用状況

- 短距離の走行は燃料消費を増やす原因となります。
- タイヤの空気圧が常に適正であることを確認してください。
- 不要な重量物は積載しないでください。
- 必要でないときは、ルーフラックを取り外してください。
- 定期的な車両の整備は、環境保護に貢献します。整備の間隔を守ってください。
- 点検整備は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

#### 個人的な運転スタイル

- エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。
- 車両を停止したままのエンジン暖機は行なわないでください。
- 注意して運転し、前方の車両との適切な距離を保持してください。
- 頻繁な、または急な加速やブレーキ操作は避けてください。

- 適切なタイミングでギアを変え、それぞれのギアの使用は、エンジン最高回転数の  $\frac{2}{3}$  までにとどめてください。
- 渋滞しているときは、エンジンを停止してください。
- 車両の燃費に注意してください。

## メルセデス・ベンツ純正部品

#### 🌀 環境

Daimler AG では、新品同様の品質を持つ、リサイクルしたアッセンブリーやパーツも供給しています。新品と同様の保証が適用されます。

■ 以下の部位の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナー、また乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。

- ドア
- ドアピラー
- サイドシル
- シート
- ダッシュボード
- メーターパネル
- センターコンソール

これらの部位にオーディオなどのアクセサリーを取り付けしないでください。修理や板金作業を行なわないでください。乗員保護装置の作動効果が損なわれるおそれがあります。

アクセサリーを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

メルセデス・ベンツにより承認されていない安全性に関わる部品、タイヤおよびホイール、ならびにアクセサリーなどを使用した場合は、車両の走行安全性を損なうおそれがあります。ブレーキシステムなどの安全に関連したシステムが故障するおそれがあります。メルセデス・ベ

ンツ純正部品または同等の品質の部品を必ず使用してください。タイヤやホイール、アクセサリなどは必ず、車両用に明確に承認された製品のみを使用してください。

メルセデス・ベンツでは、純正部品や交換部品、アクセサリに対して、それらの信頼性や安全性、適合性が明確に車両に適しているかをテストしています。継続的な市場調査に関わらず、メルセデス・ベンツはすべての部品を入手できるわけではありません。そのため、公的に承認されている、またはテストセンターによって独自に承認されている場合でも、メルセデス・ベンツ車でのそのような部品の使用については、メルセデス・ベンツは責任を負い兼ねます。

メルセデス・ベンツ純正部品を注文するときは、常に車台番号（VIN）（▶ 286ページ）を確認する必要があります。

## 取扱説明書

### 車両の装備

車両のすべての標準およびオプション装備については、別冊の補足版をご覧ください。

装備や操作について不明点があるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

取扱説明書と整備手帳は重要な書類ですので、車内に保管してください。

## 操作安全性

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

規定の点検整備または必要な修理を行っていないと、故障やシステム故障を引き起こすおそれがあります。事故の危険性があります。

規定の点検整備、必要な修理は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行ってください。

#### ⚠ 警告

排気システムの熱くなった部品に触れた場合は、葉、草または小枝のような可燃性の物質が発火するおそれがあります。火災の危険性があります。

オフロードまたは舗装されていない道路を走行するときは、車両の下側を定期的に点検してください。特に、挟まった植物や他の可燃物を取り除いてください。損傷している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

#### ⚠ 警告

電子部品、ソフトウェア配線への改造は、それらの機能およびその他のネットワークでつながっている構成部品の機能を損なうことがあります。特に、安全にかかわるシステムに影響が生じるおそれがあります。結果として、車両の機能が適切に作動しないあるいは走行安全性が危険にさらされることがあります。けがや事故の危険が高まります。

また、決して配線、電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。電気装備および電子機器に関するすべての作業および改造はメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですべて行ってください。

車両の電子制御部品に変更を行なった場合は、一般使用許可は無効になります。

❗ 以下のときは、車両が損傷することがあります：

- 高い縁石や舗装されていない道路で車両が立ち往生した
- 縁石や道路のくぼみなどの障害物の上を速すぎる速度で走行した
- 重量のある障害物がボディ下部やシャーシの部品にぶつかった

このような状況では、目に見える損傷はなくても、ボディ、ボディ下部、シャー

シ部品、ホイール、タイヤが損傷しているおそれがあります。このようにして損傷した部品は予期せず故障するおそれがあり、事故の場合には、設計されている負荷に耐えることができなくなるおそれがあります。

ボディ下部のパネルが損傷しているときは、葉、草または小枝のような可燃性の素材がボディ下部とボディ下部パネルの間に堆積することがあります。これらの素材が排気システムの高温の部品に触れた場合は、発火するおそれがあります。

そのような場合には、すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場 で点検および修理を受けてください。走行している場合に、走行安全性が損なわれていると感じた場合は、道路や交通状況に注意しながらすみやかに移動し、停車してください。このような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

### 診断器接続部

診断器接続部は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場 で診断機器のみを接続するように想定されています。

#### ⚠ 警告

機器を診断機の接続部に接続すると、車両システムの操作に影響を与える場合があります。車両の走行安全性が損なわれることがあります。事故の危険性があります。

いかなる機器も車両の診断機の接続部に接続しないでください。

#### ⚠ 警告

運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルを妨害することがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。フロアマットは指示にしたがって必ず確実に固定し、ペダル操作の妨げにならないようにペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。

■ エンジンが停止しているときに診断機の接続部の装備品を使用すると、スターターバッテリーが放電することがあります。

診断機器を診断器接続部に接続すると、例えば排出ガスモニター情報のリセットにつながります。これにより、次回の主要な点検の際の排出ガス試験の要件に適合しなくなる場合があります。

### 日常点検および検査

お客様自身の責任において日常点検と定期検査を行なうことが法律で定められています。それぞれの検査手順についての詳細情報は、整備手帳をご覧ください。

### オートマチックトランスミッションの操作

#### 全体的な注意事項

適切にご使用いただくために、オートマチックトランスミッションを使用する前に、特徴や操作に関連する事項についての理解を深めてください。

"走行および駐車"の指示もご覧ください。(▷ 136 ページ)。

## オートマチックトランスミッションの特徴

### クリーブ現象

エンジンがかかっている状態でトランスミッションがトランスミッションポジション D または R のときは、駆動輪に動力が伝達されています。その結果、アクセルペダルを踏んでいなくても、車両が動き出します。

### メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場は、車両に必要な作業を適切に行なうため、専門的な知識、ツールおよび資格を有しています。これは特に安全に関する作業を行なう際に適応されます。

整備手帳にある注意事項に従ってください。

以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

- 安全に関する作業
- 整備およびメンテナンス作業
- 修理作業
- 改造、取り付け、交換
- 電子部品の作業

メルセデス・ベンツ指定サービス工場をご利用いただくことをお勧めします。

### 正しく使用するために

警告ステッカーをはがすと、お客様や他の方々が発見できないことがあります。警告ステッカーをはがさないでください。

車両を運転しているときは以下の情報に従ってください。

- 本説明書の安全に対する注意点
- 本説明書のサービスデータ

- 道路交通法
- 自動車に関する法律と安全基準

### レスキューカード用 QR コード

QR コードは燃料給油口フラップおよび反対側の B ピラーにあります。事故の際、お客様の車両に適した救助カードを QR コードによりレスキュー隊員がすばやく見つけられます。電気ケーブルの配線のようなお客様の車両に関する最も重要な情報が、最新の救助カードにはコンパクトな形式で含まれています。

さらなる情報は <https://portal.aftersales.i.daimler.com> にあります。

### 車両に記憶されているデータ

車両の数多くの電子部品には、データメモリーが装備されています。

これらのデータメモリーは、以下に関する技術情報を一時的または恒常的に保存します：

- 車両の作動状態
- 発生した事象
- 故障

一般的に、この技術情報は構成部品、モジュール、システムまたは環境の状態ついて記録します。

例えば、以下を含みます：

- 油脂類のレベルなどのシステム構成部品の作動状況
- 車両の状況メッセージ、およびホイール回転数/速度、減速、横方向の加速度、アクセルペダルの位置など個別の構成部品の状況メッセージ
- ライト、ブレーキなどの重要なシステム構成部品の故障および異常

- エアバッグの作動、スタビリティコントロールシステムの介入などの特殊な走行状態での車両の反応および作動条件

- 外気温度などの外気条件

このデータは以下の技術的なことにのみ使用されます：

- 故障や不具合の検知および改良の支援
- 事故後などの車両機能の解析
- 車両機能の最適化

データを使用して、車両の動きをたどることはできません。

お客様の車両が整備を受けたときは、この技術情報が発生事象データメモリーおよび故障データメモリーから読み出されます。

例えば以下の整備が含まれます：

- 修理整備
- 整備処理
- 保証の事象
- 品質保証

この情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場の認定された従業員（メーカーを含む）が特別な診断機を使用して読み出します。必要に応じて、より詳細な情報を取得します。

故障が解決されたあと、情報は故障メモリーから消去されるか、絶えず上書きされます。

車両を操作する場合、その他の情報と併せて（必要に応じて、該当機関に相談し）、この技術データから個人を特定することがあります。

以下の例が含まれます：

- 事故情報
- 車両への損傷
- 目撃者証言

お客様と合意したその他の追加機能によっても、同様に特定の車両データを車両から取得することがあります。追加機

能は、非常時の車両位置などを含んではいません。

## 著作権の情報

### 全体的な注意事項

車両およびその電子部品に使用されているフリーおよびオープンソースのソフトウェアのライセンスに関する情報は、下記のウェブサイトから入手できます：

<http://www.mercedes-benz.com/opensource>

運転席 .....	30
メーターパネル .....	34
マルチファンクションステアリング .....	36
センターコンソール .....	38
オーバーヘッドコントロールパネル .....	39
ドアコントロールパネル .....	40
リアシート .....	41

## 運転席



	機能	ページ
①	ステアリングギアシフトパドル	
②	コンビネーションスイッチ	119
③	ホーン	
④	メーターパネル	34
⑤	DIRECT SELECT レバー	137
⑥	オーバーヘッドコントロールパネル	39

	機能	ページ
⑦	以下のコントロールパネル： <input type="checkbox"/> リアシートのヘッドレストを下げる 電動ブラインド（リアウインドウ）の展開/格納 シートベルトフィーダーを前方に動かす 助手席エアバッグ表示灯 メーターパネル照明および COMAND ディスプレイの明るさの調整	 226 48 45 
⑧	クライメートコントロール	126
⑨	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ	131 132
⑩	ステアリングの調整 ステアリングヒーター	 
⑪	クルーズコントロールレバー	146
⑫	電気式パーキングブレーキ	143

	機能	ページ
⑬	診断器接続部	26
⑭	ボンネットを開く	231
⑮	ライトスイッチ	118
⑯	以下のコントロールパネル：	
	ステアリングアシストおよびストップ&ゴーパイロットの作動	156
	アクティブレーンキーピングアシストの作動	177
	パークトロニックの解除	162
	360° カメラシステムを作動させる	167
	ナイトビューアシストの作動	171
	ヘッドアップディスプレイの作動	



	機能	ページ
①	オーバーヘッドコントロールパネル	39
②	コンビネーションスイッチ	119
③	ホーン	
④	メーターパネル	34
⑤	DIRECT SELECT レバー	137
⑥	ステアリングギアシフトパドル	
⑦	ボンネットを開く	231
⑧	診断器接続部	26

	機能	ページ
⑨	以下のコントロールパネル： ステアリングアシストおよびストップ&ゴーパイロットの作動 アクティブレーンキーピングアシストの作動 パークトロンニックの解除 360° カメラシステムを作動させる ナイトビューアシストの作動 ヘッドアップディスプレイの作動	156 177 162 167 171 
⑩	ライトスイッチ	118
⑪	電気式パーキングブレーキ	143
⑫	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ	131 132
⑬	ステアリングの調整 ステアリングヒーター	 
⑭	クルーズコントロールレバー	146

	機能	ページ
⑮	クライメートコントロール	126
⑯	以下のコントロールパネル：  リアシートのヘッドレストを下げる   電動ブラインド（リアウインドウ）の展開/格納 シートベルトフィーダーを前方に動かす  助手席エアバッグ表示灯 メーターパネル照明および COMAND ディスプレイの明るさの調整	45

## メーターパネル

## ディスプレイおよび操作



PS4.33.3000-01

	機能	ページ
①	スピードメーター	
②	外気温度表示付きマルチ ファンクションディスプレ イ	
③	タコメーター	

	機能	ページ
④	冷却水温度	
⑤	燃料量と燃料給油口フ ラップ位置表示	

燃料給油口フラップ位置表示 ：燃料  
給油口キャップは右側にあります。

## 警告および表示灯



P54.33.3002-01

機能	ページ
①  ABS	205
②  ESP®解除 ESP®	207
③  方向指示灯、左	
④  ロービームヘッドライト	
⑤  ハイビームヘッドライト	
⑥  リアフォグランプ	
⑦  車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明	
⑧  方向指示灯、右	
⑨  距離警告	211

機能	ページ
⑩  電気式パーキングブレーキ (黄色)	
⑪  電気式パーキングブレーキ (赤色)	
⑫  エンジン診断	
⑬  パワーステアリング	211
⑭  ブレーキ (赤色)	203
⑮  ブレーキ (黄色)	203
⑯  シートベルト	202
⑰  乗員保護装置	209
⑱  このランプには機能はありません	

## マルチファンクションステアリング



	機能	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	
②	メーターパネル照明とCOMANDディスプレイの照度の調整	
③	COMAND ディスプレイ (別冊の COMAND システムの取扱説明書をご覧ください)	
④	CD および DVD プレーヤー/チェンジャー (別冊の COMAND システムの取扱説明書をご覧ください)	
⑤	COMAND コントローラーおよびスイッチ (別冊の COMAND システムの取扱説明書をご覧ください)	

	機能	ページ
⑥	 通話の拒否、または終了  電話帳/発信履歴の終了  発信、または受話 発信履歴への切り替え  音量の調整  ミュート  音声認識機能の作動 (別冊の取扱説明書をご覧ください)	

	機能	ページ
⑦	 メインメニューの呼び出し	
	  メニュー/サブメニューの選択またはリストのスクロール	
	 選択の確定	
	ディスプレイメッセージの非表示	
	 戻る	
	 音声認識機能の停止（別冊の取扱説明書をご覧ください）	

## センターコンソール



機能	ページ
① COMAND システムの作 動/停止の切り替え	
② 音量の調整/ミュート	
③  ECO スタートス トップ機能	
④ タッチパッド テレフォンキーパッド	 
⑤  車高を設定する	161
	161
⑥ サスペンション制御を調 整する	161
	161
⑦  走行モードを選択す る/走行モード選択ス イッチ	138
走行モードを選択す る/走行モード選択ス イッチ (AMG 車両)	138

機能	ページ
⑧ リターンスイッチ	
⑨ シート調整スイッチ	
⑩ ナビゲーションスイッチ	
⑪ ラジオスイッチ	
⑫  非常点滅灯	118
⑬ メディアスイッチ	
⑭ 電話、アドレス帳および インターネットスイッチ	
⑮ 車両およびシステム設定 スイッチ	
⑯ COMAND コントロー ラー	

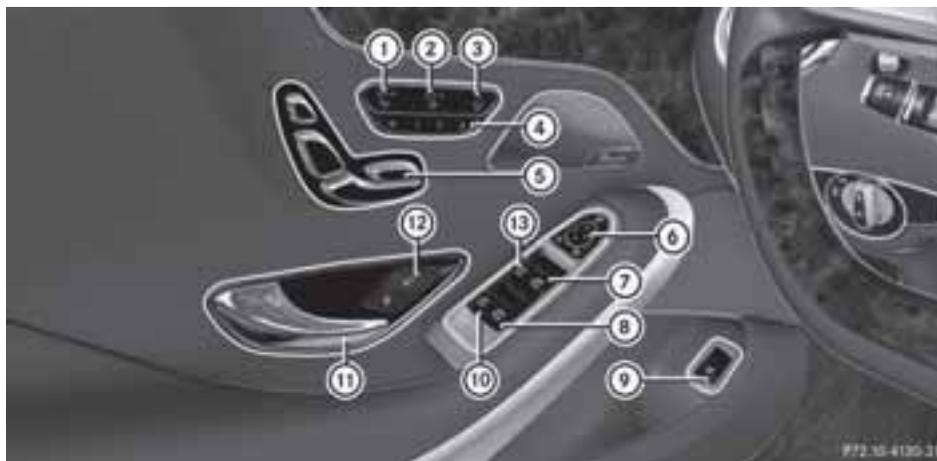
オーバーヘッドコントロールパネル



機能	ページ
①  左側読書灯の点灯/消灯の切り替え	
②  ルームライト自動点灯のオン/オフの切り替え	
③  フロントルームライトの点灯/消灯の切り替え	
④  リアルームライトの点灯/消灯の切り替え	
⑤  右側読書灯の点灯/消灯の切り替え	

機能	ページ
⑥  サングラスケース	
⑦  マジックスカイコントロールの操作 マジックスカイコントロール非装備車両：パノラミックルーフの電動ブラインドの操作	108 106
⑧  パノラミックルーフの電動ブラインドの操作	106

## ドアコントロールパネル



	機能	ページ
①	シートベンチレーター	
②	シートヒーター	
③	運転席からの助手席シートの調整	
④	<b>M</b> <b>1</b> <b>2</b> <b>3</b> シート、ドアミラー、ステアリング設定の記憶	116
⑤	シートの電動調整	
⑥	ドアミラーの電動調整および格納/展開	
⑦	右サイドウィンドウの開閉	

	機能	ページ
⑧	右リアサイドウィンドウの開閉	
⑨	トランクリッドの開閉	102
⑩	左リアサイドウィンドウの開閉	
⑪	ドアを開く	
⑫	車両の解錠/施錠	
⑬	左サイドウィンドウの開閉	

リアシート



機能	ページ
① シートバックレスト内の 収納ボックス クーリングボックス	 
② リアシートアームレスト 内の小物入れ	

機能	ページ
③ カップホルダー	
④ センターコンソール内の 小物入れ 電源ソケット	 

役に立つ情報 .....	44
乗員の安全性 .....	44
子供を乗せるとき .....	64
ペットを乗せるとき .....	74
走行安全システム .....	75
盗難防止 .....	87

## 役に立つ情報

**i** この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

**i** メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて情報をご覧ください。(▷ 27 ページ)

## 乗員の安全性

### 乗員保護装置をご使用になる前に

乗員保護装置により、事故の際に車両乗員が車内の部品に接触する危険性を軽減します。乗員保護装置は、車両乗員が事故中に受ける力を軽減することもできます。

乗員保護装置は以下を含みます：

- ・シートベルトシステム
- ・エアバッグ
- ・チャイルドセーフティシート
- ・チャイルドセーフティシート固定装置

乗員保護装置の構成部品は補完的なものです。すべての乗員が以下のときに、最大の保護を行ないます：

- ・シートベルトを正しく着用している (▷ 47 ページ)
- ・シートおよびヘッドレストを正しく調整している (▷ 113 ページ)

運転者は、ステアリングが正しく調整されていることも確認しなければなりません。運転席シートの正しい位置についての情報に従ってください (▷ 112 ページ)。

さらに、作動した場合に、エアバッグが妨げられることなく膨らむようにしなければなりません (▷ 51 ページ)。

エアバッグは、正しく着用されたシートベルトの補助的なものです。補助的な安全装置として、エアバッグは事故の状況で車両乗員により大きな保護を行ないません。例えば事故の際にシートベルトが十分な保護を行なう場合は、エアバッグは作動しません。また、対応する事故の状況で保護を行なうことができると想定されるエアバッグのみが作動します。ただし一般的に、シートベルトとエアバッグは外側から車両を入り込む物に対する保護は行ないません。

乗員保護装置の作動内容についての情報は、「シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動」にあります (▷ 60 ページ)。

乳幼児および子供を車両に乗せての走行、またはチャイルドセーフティシートについてのさらなる情報は、「子供を乗せるとき」をご覧ください (▷ 64 ページ)。

## 重要な安全上の注意事項

### 警告

改造が行なわれた後は、乗員保護装置が正しく機能しなくなることがあります。例えば、事故のときに作動しなかったり、または予期せず作動することにより、乗員保護装置が意図した保護機能を発揮しないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

乗員保護装置の部品を改造しないでください。また、配線、電子部品やソフトウェアを決して改造しないでください。

障害のある方に合わせてエアバッグシステムを改造する必要がある場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

## 乗員保護装置警告灯

乗員保護装置の機能は、イグニッションがオンになった後、そしてエンジンがかかっている間は定期的に点検されます。そのため、不具合を適時検知することができます。

メーターパネルの乗員保護装置警告灯  は、イグニッションをオンにしたときに点灯します。車両が始動した後、数秒以内に消灯します。乗員保護装置の構成部品は、作動準備が整っています。

乗員保護装置警告灯  が以下の場合には、不具合が発生しています：

- イグニッションをオンにした後に点灯しない
- エンジンがかかって数秒後に消灯しない
- エンジンがかかっている間に再度点灯する

### ⚠ 警告

乗員保護装置が故障している場合は、車両の減速度が大きい事故の際に、乗員保護装置の構成部品が不意に作動したり、またはまったく作動しないことがあります。これは、たとえばシートベルトテンショナーあるいはエアバッグに影響を与えることがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で乗員保護装置の点検を受けて修理してください。

## 助手席エアバッグ表示灯



助手席エアバッグオフ表示灯 ① および助手席エアバッグオン表示灯 ② は、助手席エアバッグ自動解除システムの一部です。表示灯は助手席エアバッグの状況を示しています。

- 助手席エアバッグオフ ① が点灯：助手席エアバッグが無効です。その場合は、事故のときには作動しません。
- 助手席エアバッグオン ② が点灯：助手席エアバッグが有効です。事故のときにすべての作動基準が満たされている場合は、助手席エアバッグが作動します。

助手席シートの乗員によって、助手席エアバッグは有効または無効のいずれかになります。以下の点をご覧ください。走行前および走行中のいずれのときも、確認しなければなりません。

- **後ろ向きチャイルドセーフティシートの子供**：助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しなければなりません。助手席エアバッグは無効になります。"助手席エアバッグ自動解除システム" (▷ 54 ページ) および"子供を乗せるとき" (▷ 64 ページ) にある注意事項に必ず従ってください。
- **前向きチャイルドセーフティシートの子供**：取り付けられているチャイルドセーフティシートおよび子供の年齢および体格によって、助手席エアバッグ

は有効または無効になります。そのため、"助手席エアバッグ自動解除システム" (▷ 54 ページ) および"子供を乗せるとき" (▷ 64 ページ) にある注意事項に必ず従ってください。

- **他のすべての乗員**：助手席エアバッグオン表示灯が点灯している必要があります。助手席エアバッグは有効になります。助手席の乗員の体格によって、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することがあります。助手席エアバッグが無効になります。その場合は、事故のときには作動しません。この場合は、助手席シートを使用しないでください。"助手席エアバッグ自動解除システム" (▷ 54 ページ) ならびに"シートベルト" (▷ 46 ページ) および "エアバッグ" (▷ 50 ページ) にある注意事項に必ず従ってください。そこには、適切なシート位置についての情報もあります。

## シートベルト

### はじめに

正しく装着されたシートベルトは、衝突あるいは車両が横転したときに乗員の動きを抑える最も効果的な手段です。これにより、乗員が車内の部品にぶつかったり、車両から投げ出されることを防ぎます。シートベルトを着用することで、乗員と作動するエアバッグの距離を最適に保つこともできます。

シートベルトシステムは以下で構成されています。

- シートベルト
- シートベルトテンショナーおよびベルトフォースリミッター

シートベルトが急に、あるいは激しくシートベルトフィーダーを使用して引き出されると、ベルトアンカーがロックさ

れます。シートベルトはそれ以上引き出すことはできません。

ベルトテンショナーは、衝突が起これると、乗員の身体にぴったり合うようにシートベルトを締めます。しかし、シートバックレストの方向に乗員を引き戻すことはしません。

しかし、ベルトテンショナーは、正しくないシート位置を正しくしたり、着用の仕方が正しくないシートベルトの取回しを正しくすることはありません。

ベルトフォースリミッターは、乗員の身体に加わるシートベルトの拘束力が一定レベル以上にならないように抑える働きをします。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、減速力の一部となるフロントエアバッグと連動しています。これにより、事故の際に乗員が受ける衝撃が緩和されます。

**❗** 助手席に乗車していない場合は、助手席シートベルトのプレートバックルに差し込まないでください。衝突の際にシートベルトテンショナーが作動することがあります。

## 重要な安全上の注意事項

### ⚠ 警告

正しく装着されないと、シートベルトは意図された保護機能を果たすことができません。間違ったシートベルトの装着は、たとえば事故のとき、ブレーキを掛けた時や急な方向転換のときに、けがの危険を増やします。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

すべての乗員が適切に着席して、シートベルトを正しく着用していることを確認してください。

### ⚠ 警告

バックレストをほぼ垂直の位置に動かししていない場合は、シートベルトは意図さ

れた保護レベルを発揮しません。ブレーキ時または事故の場合に、シートベルトの下側にもぐり込み、腹部または頸部などがけがを負うおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

走行を開始する前に、シートを正しい位置に調整してください。バックレストがほぼ垂直の位置にあり、シートベルトのショルダー部分が肩の中央にかかっていることを常に確認してください。

### ⚠ 警告

身長が約 150 cm 未満の乗員は、追加の適切な乗員保護装置を使用しないとシートベルトを正しく装着できません。正しく装着されないと、シートベルトは意図された保護機能を果たすことができません。間違ったシートベルトの装着は、たとえば事故のとき、ブレーキを掛けた時や急な方向転換のときに、けがの危険を増やします。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

そのため身長約 150 cm 未満の乗員は、必ず適切な乗員保護装置を使用してください。

年齢が 12 歳以下で、身長が 150 cm 以下の子供が乗車する場合：

- 子供は常に、メルセデス・ベンツ車に適したチャイルドセーフティシートに固定してください。チャイルドセーフティシートは子供の年齢、体重および体格に適合してははいけません。
- 助手席エアバッグ自動解除システムの指示および安全上の注意事項に従っていることを確認してください。(▶ 54 ページ)
- チャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に加えて、本取扱説明書の"子供を乗せるとき"の説明および安全上の注意事項 (▶ 64 ページ) に常に従ってください。

### ⚠ 警告

以下の場合、シートベルトは意図された保護機能を発揮しないことがあります：

- 損傷している、改造されている、極端に汚れている、漂白されている、または着色されている
- シートベルトのバックルが損傷している、または極端に汚れている
- シートベルトテンショナー、ベルトアンカーまたはリトラクターが改造されている

事故が起こった際には目には見えない場合でも、たとえばガラスの破片によってシートベルトに損傷していることがあります。改造または損傷したシートベルトは事故のときなどに裂けたり、または作動しないおそれがあります。改造されたシートベルトテンショナーは不意に作動したり、または必要なときに作動しないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

シートベルト、シートベルトテンショナー、ベルトアンカーまたはリトラクターを改造しないでください。シートベルトが損傷していない、擦り切れていない、そして汚れていないことを確認してください。事故後はただちに、シートベルトをメルセデス・ベンツ指定サービス工場点検してください。

お客様の車両用にメルセデス・ベンツにより特別に承認されたシートベルトのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します。さもないと、車両の一般使用許可が無効になるおそれがあります。

### シートベルトの正しい使用方法

シートベルトの安全上の注意事項に従ってください (▶ 46 ページ)。

走行を開始する前に、すべての乗員はシートベルトを正しく着用する必要があります。車両が動いている間も、すべて

の乗員は、シートベルトを正しく着用するようにしてください。

シートベルトを着用するときは、必ず以下を確認してください。

- シートベルトのプレートが必ずそのシートのベルトバックルに差し込まれている。

- シートベルトが乗員の身体に密着している。

冬用コートなどの厚手の衣類の着用は避ける。

- シートベルトにねじれがない。

そのときにのみ、発生した力をベルト周囲に分散させることができます。

- ベルトの肩部分が常に肩の中心にかかっている。

シートベルトの肩部分が首に接触していたり、腕の下を通過してはいけません。

- 腰ベルトができるだけ締め、低い位置で腰部分にかかっている。

腰ベルトは常に腰骨にかかるように、そして腹部にかからないようにしなければなりません。これは特に妊娠中の女性にあてはまります。必要な場合は腰ベルトを腰骨に押し下げ、ベルトの肩部分を使用して強く引きます。

- 鋭利な、先の尖った、または壊れやすい物の上にシートベルトがかかっている。

ペン、キー、めがねなどのようなものが衣服に入っている場合は、それらを適切な場所に収納してください。

- シートベルトは、必ず1人の乗員のみが使用してください。

乳児や子供を他の車両乗員の膝の上に座らせて走行しないでください。事故

の際に、車両乗員とシートベルトの間でつぶされるおそれがあります。

- シートベルトがいずれかの車両乗員により使用されている場合は、そのシートベルトで物を固定しないでください。

シートベルトは、乗員を固定して抑えるためのものです。物、手荷物または積載物を固定するためには常に、「積載のガイドライン」に従ってください（▶ 222 ページ）。

### シートベルトの着用

シートベルトについての安全上の注意事項（▶ 46 ページ）、およびシートベルトの正しい使用についての情報（▶ 47 ページ）に注意してください。

#### ⚠ 警告

車両が動いている最中にシートベルトフィーダーが伸長すると、シートベルトは正しく身体を横切るよう取回されません。シートベルトは、意図された保護機能を果たすことができません。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

車両が動いている間はシートベルトフィーダーが格納されていることを必ず確認してください。



シートベルトフィーダー

運転者および助手席乗員のシートベルトフィーダーにより、シートベルトの着用を補助します。対応するドアが閉じていて、エンジンスイッチのキーを 1 または

2 の位置にまわしたときに、シートベルトフィーダー ③ は展開します。



シートベルトフィーダー ③ をシートベルトフィーダースイッチ ④ で展開することもできます。

- ▶ シートベルトフィーダースイッチ ④ を押します。  
シートベルトフィーダー ③ が展開します。

以下の場合、シートベルトフィーダー ③ が再度格納されます：

- シートベルトのプレートがシートベルトバックルに固定された
- 60 秒以内にシートベルトのプレートがシートベルトバックルに固定されていない

この場合は、シートベルトフィーダー ③ を再度展開することができます。シートベルトフィーダースイッチ ④ を再度押します。

- 対応するドアが開いている
- エンジンスイッチのキーを 0 の位置にまわした
- シートバックレストのロックを解除して前方に倒した
- 約 5 秒後に助手席に着座しないままである

この後でシートベルトフィーダースイッチ ④ を押した場合は、シートベルトフィーダー ③ は展開しません。



- ▶ シート (▷ 112 ページ) を調整します。シートバックレストはほぼ垂直の位置になければなりません。
- ▶ シートベルトフィーダー ③ からシートベルトをゆっくりと引き出して、ベルトのプレート ② をベルトバックル ① に固定します。  
運転席および助手席のシートベルトは自動的に締まる場合があります。"シートベルト調整"をご覧ください (▷ 50 ページ)。
- ▶ 必要な場合は、肩ベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。

## シートベルトの解除

**!** シートベルトが完全に巻き取られていないことを確認してください。ベルトが完全に収納されていないと、シートベルトやプレートがドアに挟まれたりシート機構に引っかかることがあります。その結果、ドアやドアトリムパネル、シートベルトを損傷するおそれがあります。損傷したシートベルトは保護機能を果たすことができなくなるため、必ず新品と交換してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。



- ▶ ロック解除スイッチ ①を押して、シートベルトのプレート ②をしっかり持ち、シートベルトフィーダーの方に戻します ③。

### シートベルトの調整

シートベルト調整は、PRE-SAFE® コンビニエンス機能の一部です。この機能は、運転席および助手席のシートベルトを乗員の上半身に適合させます。

以下のときに、シートベルトを少し引き込みます。

- シートベルトフィーダーが格納され、シートベルトのプレートがベルトバックルに差し込まれている、そして
- イグニッションがオンである

車両乗員とシートベルトの間たるみを検知した場合は、シートベルト調整は特定の締め付け力を加えます。調整している間は、シートベルトを強くつかまないでください。

COMAND システムを使用して、シートベルト調整の設定および解除を切り替えることができます。ベルト調整機能の設定および解除に関する情報は、デジタル版取扱説明書または別冊のCOMAND システムの取扱説明書にあります。

### 運転席および助手席乗員のシートベルト警告

メーターパネルのシートベルト警告灯  は、すべての車両乗員がシートベルトを着用しなければならないことを促します。点灯し続けるか、または点滅します。さらに、警告音が鳴ることがあります。

運転者と助手席乗員がシートベルトを着用したときは、シートベルト警告灯  が消灯し、警告音が停止します。

**i** シートベルト警告灯  に関するさらなる情報は、「メーターパネルの警告および表示灯、シートベルト」(▶ 202 ページ)をご覧ください。

### エアバッグ

#### はじめに

エアバッグの取り付け位置は、AIRBAG のマークで示されています。

エアバッグは正しく着用しているシートベルトの補助を行なうものです。シートベルトの代わりになるものではありません。エアバッグは、事故の状況下で補助的な保護を行ないます。

事故の際に、すべてのエアバッグが作動するわけではありません。各エアバッグシステムは、それぞれ独立して作動します (▶ 60 ページ)。

ただし、現在装備されているどのシステムも、けがや致死を完全になくすことはできません。

エアバッグは高速で展開するため、エアバッグを原因とするけがの危険性を完全に排除することもできません。

## 重要な安全上の注意事項

### △ 警告

正しいシート位置から外れている場合、エアバッグは本来の保護機能を発揮できず、作動によりさらに負傷の原因となるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。危険な状態を防ぐために、すべての乗員は以下の項目について確認してください。

- シートベルトを正しく着用していること（妊娠中の女性を含む）
  - 正しい位置に座り、エアバッグからできるだけ離れていること
  - 以下の注意事項を遵守すること
- エアバッグと乗員との間に何も物が置かれていないことを必ず確認してください。

- 走行を開始する前にシートを正しく調整してください。必ずシートが垂直に近い位置であることを確認してください。ヘッドレストの中央は、ほぼ目の高さで頭部をサポートしていなければなりません。
- 運転席および助手席シートをできるだけ後方に動かします。運転席シートの位置は、車両を安全に運転できるものでなければなりません。
- ステアリングは外側のみを握ってください。それにより、エアバッグを十分に作動させることができます。
- 運転中は、常にバックレストにもたれかかるようにしてください。前方に倒れたり、ドアまたはサイドウィンドウに寄りかからないでください。さもないと、エアバッグの作動範囲内に入る可能性があります。
- 両足は、常にシート前方のフロアに置いてください。ダッシュボードの上に足をのせないでください。さもないと、エアバッグの作動範囲内に入る可能性があります。
- 身長が 150 cm 以下の人は適切な乗員保護装置に常に固定してください。こ

の身長に満たない場合、シートベルトを正しく着用することができません。

**お子様を車両に乗せて走行する場合、以下の注意事項にも注意してください：**

- 年齢 12 歳以下で、身長が 150 cm 以下の子供は、適切なチャイルドセーフティシートに固定し、安全を確保してください。
- チャイルドセーフティシートはリアシートに装着してください。
- 助手席エアバッグが無効になっており、後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用する場合に限り、子供を助手席シートに固定してください。助手席エアバッグオフ表示灯が常に点灯している場合は、助手席エアバッグは無効になっています（▶ 45 ページ）。
- チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明に加えて、助手席エアバッグ自動解除システム（▶ 54 ページ）、および "子供を乗せるとき"（▶ 64 ページ）の説明および安全上の注意事項に常に従ってください。

**車内に置いている物がエアバッグの正常な機能を妨げる場合があります。** 運転を開始する前に、エアバッグが作動する際の速度により生じる危険を防ぐために、以下のことを確認してください：

- 乗員とエアバッグとの間に、人、動物、物が無い。  
助手席フロントエアバッグの上などダッシュボード上に物を置いていない。
- シート、ドア、B ピラーの間に物が無い。
- コートハンガーなどの固い物がグリップハンドルまたはコートフックにかかっていない。
- カップホルダーなどのアクセサリーがドア、サイドウィンドウ、リアサイドトリムやサイドウォールなどの、エア

バッグの作動範囲内に取り付けられていない。

- 衣服のポケットに重い物やとがった物を入れていない。このような物は適切な場所に収納してください。

#### ⚠ 警告

エアバッグのカバーを改造したり、ステッカーのような物をそれらに貼付している場合は、エアバッグが正しく機能しなくなるおそれがあります。けがの危険性が高まります。

エアバッグのカバーを改造したり、それらに物を貼付しないでください。

#### ⚠ 警告

エアバッグを制御するセンサーがドアの内部にあります。ドアまたはドアパネル、ならびに損傷したドアに改造または作業が正しく行われていないと、センサーの機能が損なわれることがあります。したがって、エアバッグは正しく機能しなくなることがあります。その結果、エアバッグは設計されているように車両乗員を保護することができません。けがをすおそれが高まります。

ドアまたはドアの部品を改造しないでください。ドアまたはドアパネルの作業は常にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

### エアバッグと装着位置

エアバッグ	装着位置
運転席エアバッグ	ステアリング中央のパッド
助手席エアバッグ	グローブボックス上部のダッシュボード
運転席二ーバッグ	ステアリング下部のダッシュボードカバー

エアバッグ	装着位置
サイドバッグ	運転席および助手席シートのバックレストの外側シートクッションおよびリアシートの外側部分
ウインドウバッグ	Aピラー側方からCピラーのルーフレーム

### フロントエアバッグ

❗ 助手席シートには重い物を置かないでください。助手席シートに同乗者がいるとシステムが誤って判断する原因になります。衝突の際に助手席側の乗員保護装置が作動して交換する必要が出るおそれがあります。



運転席エアバッグ①は、ステアリング前面で作動します。助手席エアバッグ②は、グローブボックスの前面と上部で作動します。

作動するときには、フロントエアバッグは前席乗員の頭部や胸部の補助的な保護を行ないます。

助手席エアバッグオフ表示灯および助手席エアバッグオン表示灯は、助手席エアバッグの状況を示しています(▶ 45 ページ)。

助手席エアバッグ②は、以下の場合にのみ作動します：

- 助手席シートに乗車していることを助手席エアバッグ自動解除システムが検知した（▶ 54 ページ）助手席エアバッグオン表示灯が点灯している（▶ 55 ページ）
- 乗員保護装置のコントロールユニットが重大な事故を予見した

## 運転席ニーバッグ



運転席ニーバッグ①は、ステアリングコラムの下で作動します。運転席ニーバッグは、フロントエアバッグと一緒に作動します。

運転席ニーバッグは、運転者の大腿部、膝および下腿の補助的な保護を行ないます。

## サイドバッグ

### ⚠ 警告

シートカバーによって、シートに内蔵されているエアバッグの作動を遮る、または妨げることがあります。その結果、設計されているようにエアバッグが車両乗員を保護できません。さらに、助手席エアバッグ自動解除システム機能が制限されることがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

フロントシートには、シートカバーを使用しないでください。



フロントサイドバッグ①およびリアサイドバッグ②は、シートバックレストの外側クッション脇で作動します。

作動するときは、サイドバッグは胸部の補助的な保護を行ないます。前席シート乗員の骨盤の補助的な保護も行ないます。ただし、以下の保護は行ないません：

- 頭部
- 頸部
- 腕部

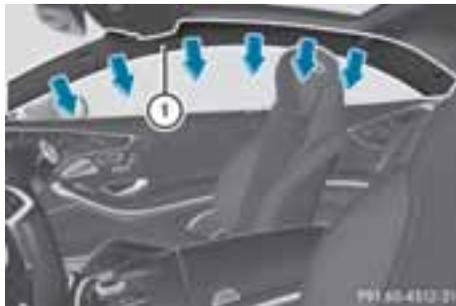
側面衝突の際は、サイドバッグは衝撃が発生した側で作動します。

助手席エアバッグ自動解除システム装備車両：助手席（フロント）サイドバッグは以下の条件で作動します：

- 助手席シートで乗員が検知された、または
- シートベルトのプレートが助手席シートのシートベルトバックルに固定されている

ベルトのプレートがベルトバックルに固定されている場合は、対応する状況の事故が発生した場合に助手席側のサイドバッグが作動します。この場合は、助手席シートに乗車しているかどうかとは関係なく作動します。

## ウインドウバッグ



ウインドウバッグ①はルーフレーム側面に内蔵され、AピラーからCピラーまでのエリアで展開します。

作動すると、ウインドウバッグは頭部に対する保護レベルを向上させます。ただし、胸部または腕部は保護しません。

側面衝突の際、ウインドウバッグは衝撃が発生した側で作動します。

シートベルトによる乗員保護機能が高めるとシステムが判断した場合は、ウインドウバッグは他の事故状況下で作動する場合があります (▷ 60 ページ)。

### 助手席エアバッグ自動解除

#### はじめに

助手席シートのチャイルドセーフティシートを検知するために、助手席エアバッグ自動解除システムは助手席シートの乗員の分類を行ないます。その結果に応じて、助手席エアバッグは有効または無効のいずれかになります。後ろ向きチャイルドセーフティシートが助手席シートに装着されている場合、助手席エアバッグオフ表示灯はシステムの自己診断の後に点灯し、そのまま点灯し続けます。助手席エアバッグは無効になります。

システムは、以下を無効にしません。

- サイドバッグ
- ウインドウバッグ
- シートベルトテンショナー

お客様の車両に、助手席エアバッグ自動解除システムが装備されていることを確認してください (▷ 67 ページ)。そうでない場合は、チャイルドセーフティシートは常に適切なリアシートに取り付けてください (▷ 69 ページ)。

やむを得ずチャイルドセーフティシートを助手席シートに取り付ける必要がある場合は、チャイルドセーフティシートの正しい配置に従っていることを確認してください。チャイルドセーフティシートの下や背面にクッションなどの物を置かないでください。シートクッションの長さをいっぱいまで短くします。チャイルドセーフティシートの底面全体が常に助手席シートクッションに接触していなければなりません。前向きチャイルドセーフティシートのバックレストは、できるだけ助手席シートのバックレストに接していなければなりません。チャイルドセーフティシートがルーフに触れたり、ヘッドレストにより負荷がかかっているはいけません。それに応じて、シートバックレストの角度およびヘッドレストの位置を調整してください。そうするときのみ、助手席エアバッグ自動解除システムの正しい機能が保証されます。チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明に加えて、チャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報 (▷ 69 ページ) に常に従ってください。

## 助手席エアバッグ自動解除システムの操作



- ① 助手席エアバッグオフ表示灯
- ② 助手席エアバッグオン表示灯

表示灯は、助手席エアバッグが無効か有効かを示しています。

- ▶ キーレスゴースイッチを 1 回または 2 回押す、またはエンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします。
- システムは自己診断を実行します。

助手席エアバッグオフ表示灯および助手席エアバッグオン表示灯は同時に約 6 秒間点灯しなければなりません。

表示灯は助手席エアバッグの状況を示しています。

- 助手席エアバッグオフ ① が点灯：助手席エアバッグは無効です。その場合は、事故のときには作動しません。
- 助手席エアバッグオン ② が点灯：助手席エアバッグは有効です。事故のときにすべての作動基準が満たされている場合は、助手席エアバッグが作動します。

車両が動いている間に助手席エアバッグの状態が変化した場合は、メーターパネルにエアバッグのディスプレイメッセージが表示されます (▶ 197 ページ)。助手席シートに乗車しているときは常に、助手席エアバッグオンまたは助手席エアバッグオフ表示灯に注意してください。

走行前および走行中のいずれのときも、助手席エアバッグの状況に注意してください。

助手席シートにチャイルドセーフティシートが装着されていない場合、助手席乗員は以下のように座る必要があります：

- シートベルトを正しく着用する
- シートのバックレストに背中を付け、ほぼ垂直の位置で

• 可能であれば、フロアに足を置いて  
助手席乗員がこれらの条件に従わない場合は、助手席乗員が以下を行なうことにより、助手席エアバッグ自動解除システムが影響を受けることがあります：

- 車両のアームレストで自分自身を支えることで体重を移動する
- シートクッションから体重を浮かせるように着座する

助手席エアバッグは上記のような動作の結果、誤って無効になる場合があります。この場合は、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままになります。その場合、事故の際に助手席エアバッグは作動しません。

### ⚠ 警告

助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している場合は、助手席フロントエアバッグは無効になります。事故のときに作動せず、意図した保護機能を発揮できません。そして、特にダッシュボードのすぐ近くに乗員が着座している場合は、助手席にいる人が車両のインテリアに接触するなどのおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席に乗車しているときは、常に以下を確認してください。

- 助手席乗員の分類が適切であり、助手席乗員に応じて助手席フロントエアバッグが有効または無効になっている
- 助手席ができるだけ後方に移動している
- 乗員が正しく着座している

走行前および走行中のいずれのときも、助手席の状況が正しいことを確認してください。

### ⚠ 警告

助手席に子供を後ろ向きのチャイルドセーフティシートに固定し、助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合は、事故のときに助手席エアバッグが作動します。エアバッグにより、子供が衝撃を受けるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席エアバッグが無効になっていることを確認してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していなければなりません。

助手席エアバッグオフ表示灯が消灯したままの場合、および/または助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合は、後ろ向きのチャイルドセーフティシートを助手席シートに取り付けしないでください。さらなる情報は、「助手席エアバッグ自動解除システムのトラブル」にあります (▶ 59 ページ)。

### ⚠ 警告

子供を助手席の前向きチャイルドセーフティシートに固定して、助手席位置をダッシュボードのすぐ近くに行っている場合は、事故のときに、子供は以下のようなことがあります。

- 例えば助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している場合に、車室内に接触する
- 助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合は、エアバッグにより衝撃を受ける

これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

常に助手席シートをできるだけ後方に動かし、シートクッションの長さをいっぱいまで短くします。シートベルトの肩部分のストラップが、車両のシートベルトフィーダーからチャイルドセーフティシートの肩部分のシートベルトガイドに向かって、正しく取り回されていることを常に確認してください。シートベルトの肩部分のストラップは、格納されたシートベルトフィーダーから前方および下方に取り回されていないなければなりません。必要な場合は、それに応じて助手席シートを調整してください。本取扱説明書のチャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報、ならびにチャイルドセーフティシートメーカーの装着説明に常に従ってください。

助手席エアバッグ自動解除システムが以下を検知した場合：

- 助手席に乗車していなく、システムの自己診断後に助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、点灯したままである。これは助手席エアバッグが無効であることを示しています。
- 後ろ向きチャイルドセーフティシートで子供が助手席シートに乗車していて、システムの自己診断後に助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、点灯したままである。これは助手席エアバッグが無効であることを示しています。

ただし、後ろ向きチャイルドセーフティシートの場合、システムの自己診断の後に助手席エアバッグオン表示灯が点灯し、点灯したままになります。これは助手席エアバッグが有効であることを示しています。検知の結果は、他の要因や、チャイルドセーフティシートおよび子供の体格によって異なります。チャイルドセーフティシートは適切なリアシートに装着することを推奨します。

- 助手席シートに前向きチャイルドセーフティシートを使用して子供が座っている場合、システムの自己診断後、検知の結果に応じて助手席エアバッグオン表示灯または助手席エアバッグオフ表示灯のいずれかが点灯し、点灯したままになります。検知の結果は、他の要因や、チャイルドセーフティシートおよび子供の体格によって異なります。助手席シートはできるだけ後方に移動してください。"助手席のチャイルドセーフティシート" (p. 67 ページ) および"チャイルドセーフティシートの適切な位置" (p. 69 ページ) の情報に従ってください。可能であれば、チャイルドセーフティシートは適切なリアシートに装着してください。
- 助手席シートに小柄な体格の方（10代の若者または小柄な大人）が乗車していて、システムの自己診断後、どのように検知したかによって助手席エアバッグオン表示灯または助手席エアバッグオフ表示灯のいずれかが点灯し、点灯したままになります。
  - 助手席エアバッグオン表示灯が消灯している場合、助手席シートをできるだけ後ろに移動してください。あ

るいは、小柄な体格の乗員はリアシートに着座してください。

- 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している場合は、小柄な体格の人は助手席を使用しないでください。
- 助手席シートに大人または大人に相当する体格の方が乗車していて、システムの自己診断後に助手席エアバッグオン表示灯が点灯し、点灯したままになる。これは、助手席エアバッグが有効であることを示しています。

子供が車両に乗車する場合は、"子供を乗せるとき"にある注意事項に従ってください (p. 64 ページ)。

助手席エアバッグ自動解除システムに不具合がある場合は、メーターパネルの赤色の乗員保護装置警告灯  および助手席エアバッグオフ表示灯が同時に点灯します。この場合は、助手席エアバッグは無効になり、事故の際に作動しません。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですシステムの点検を受けてください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。助手席シートは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのみ修理してください。

助手席シート、シート表皮またはシートクッションが損傷している場合は、必要な修理作業をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で実施してください。

安全上の理由から、メルセデス・ベンツによりテストされ承認されたチャイルドセーフティシートのみを、助手席エアバッグ自動解除システムと組み合わせて使用することをお勧めします。

## システム自己診断

### 危険

システムの自己診断中に助手席エアバッグオフ表示灯および助手席エアバッグオン表示灯が点灯しない場合は、システムに不具合があります。助手席エアバッグ

が意図せずに作動したり、高い減速度を伴う事故の際に全く作動しないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

この場合は、助手席シートを使用しないでください。助手席シートにチャイルドセーフティシートを取り付けしないでください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で助手席エアバッグ自動解除システムの点検および修理を受けてください。

### ⚠ 警告

システムの自己診断後に助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままの場合は、助手席エアバッグは無効になっています。事故のときには作動しません。この場合は、助手席に乗員が着座しているときなどに、助手席エアバッグは意図した保護機能を発揮できません。

特にダッシュボードの非常に近くに乗員が着座している場合などは、車両のインテリアに接触するおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席に乗車しているときは、常に以下を確認してください。

- 助手席シートの人の分類が適正であり、助手席シートにいる乗員に応じて助手席エアバッグが有効または無効になっている
- 乗員が正しくシートベルトを着用して正しく着座している
- 助手席をできるだけ後方に移動している

助手席エアバッグオフ表示灯が点灯してはいけないときに点灯したままの場合は、助手席シートを使用しないでください。助手席シートにチャイルドセーフティシートを取り付けしないでください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で助手席エアバッグ自動解除システムの点検および修理を受けてください。

### ⚠ 警告

シート表面とチャイルドセーフティシートとの間の物は、助手席エアバッグ自動解除システムの機能に影響を与えるおそれがあります。これにより、事故のときに助手席エアバッグが意図された機能を果たさなくなるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

シート表面とチャイルドセーフティシート間に物を置かないでください。チャイルドセーフティシートの底面全体を助手席シートクッションに接触させる必要があります。前向きのチャイルドセーフティシートのバックレストは、できるだけ助手席シートのバックレストに接触させる必要があります。常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。

システムの自己診断後に、助手席エアバッグオフ表示灯または助手席エアバッグオン表示灯は助手席エアバッグの状況を示します (▷ 55 ページ)。

詳細な情報は"助手席エアバッグ自動解除システムのトラブル"をご覧ください (▷ 59 ページ)。

## 助手席エアバッグ自動解除のトラブル

"システムの自己診断"の注意事項に従っていることを確認してください(▶ 57 ページ)。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
大人または大人に相当する体格の方が助手席シートに乗車していても、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、点灯したままになる。	助手席シート乗員の検知が適切でない。 ▶ 助手席シート乗員の検知の適切な条件が満たされていることを確認します(▶ 55 ページ)。 ▶ 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままの場合は、助手席シートは使用できません。 ▶ すみやかに助手席エアバッグ自動解除システムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。
助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しない、および/または点灯したままにならない。 助手席シートの状態： ・乗車していない ・後ろ向きチャイルドセーフティシートが取り付けられている	助手席エアバッグ自動解除システムに不具合がある。 ▶ シートとチャイルドセーフティシートの間にも挟まれていないことを確認してください。 ▶ チャイルドセーフティシートの底面全体が助手席シートのシートクッションに接触していることを確認してください。 ▶ シートクッションの長さがいっぱいまで短くなっていることを確認してください。 ▶ チャイルドセーフティシートを取り付けるときは、シートベルトが締まっていることを確認します。助手席シートを調整して引くことにより、シートベルトを締めないでください。これにより、シートベルトおよびチャイルドセーフティシートが強く締まりすぎるおそれがあります。 ▶ チャイルドセーフティシートが正しく取り付けられていることを点検します。 ▶ シートに余分な重量をかけている物がないことを確認してください。 ▶ 助手席エアバッグオフ表示灯が消灯したままの場合、および/または助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合は、後ろ向きのチャイルドセーフティシートを助手席シートに取り付けられないでください。チャイルドセーフティシートは適切なリアシートに装着することを推奨します。 ▶ すみやかに助手席エアバッグ自動解除システムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

## シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

エアバッグの作動後は、エアバッグの部品が熱くなっています。けがの危険性があります。

エアバッグの部品に触れないでください。できるだけすみやかに、作動したエアバッグをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

#### ⚠ 警告

作動した火薬式シートベルトテンショナーは作動しなくなり、意図した保護機能を発揮できなくなります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

したがって、作動した火薬式シートベルトテンショナーは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

事故後は車両をメルセデス・ベンツ指定サービス工場までけん引することを、メルセデス・ベンツは推奨します。特にシートベルトテンショナーが作動したり、エアバッグが展開した場合は、このことを考慮してください。

PRE-SAFE®で使用されている電気モーターは、危険な状況でシートベルトの締め付けを行いません。この作動は何回でも行なわれます。

シートベルトテンショナーが作動したり、エアバッグが展開したりするとき、作動音が聞こえ、少量の粉末が放出されることもあります。SRS 警告灯  が点灯します。

作動音は、ごくまれに聴力に影響を与えることがあります。一般に、放出される粉末は健康に害はありませんが、ぜんそくや肺疾患のある方は、この粉末により一時的に呼吸障害を起こすおそれがあり

ます。もし安全であるなら、呼吸障害を防止するため、すぐに車両から離れるか、窓を開けてください。

### 作動

衝突の初期段階の間、乗員保護装置のコントロールユニットは、車両の減速度または加速度に関する以下のような重要な物理的データの評価を行いません：

- 時間
- 方向
- 強さ

このデータの評価に基づいて、乗員保護装置のコントロールユニットは正面衝突または追突の際にシートベルトテンショナーを作動させます。

シートベルトテンショナーは、以下の場合のみ作動します：

- イグニッションがオンである
- 乗員保護装置の構成部品が作動可能である。"SRS 警告灯"をご覧ください。(▷ 45 ページ)
- シートベルトのプレートがフロントシートのそれぞれのベルトバックルに固定されている

後席のシートベルトテンショナーは、シートベルトの固定状態とは独立して作動します。

乗員保護装置のコントロールユニットが特定の正面衝突など、非常に重大な事故を検知すると、乗員保護装置の追加構成部品が相互に関係なく作動します。

- フロントエアバッグと運転席二ーバッグ
- ウィンドウバッグは、作動によりシートベルトの乗員保護機能を高めるとシステムが判断した場合

助手席エアバッグ自動解除システム装備車両の場合：助手席シートの乗員によって、助手席エアバッグは有効または無効のいずれかになります。助手席エアバッ

グは、助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合のみ、事故の際に作動します。助手席エアバッグ表示灯に関する情報に従ってください（p 45 ページ）。お客様の車両には 2 段階式の運転席エアバッグが装備されています。最初の作動段階では、けがの危険性を減少させるために十分な火薬ガスで運転席エアバッグが充填されます。数ミリ秒以内に第 2 段階の作動基準に達すると、フロントエアバッグは最大限に膨らみます。

シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動規定値は、車両のさまざまなポイントでの車両の減速度または加速度の評価に基づいて判断されます。この処理は事前に実行されます。作動/展開決定処理は、衝突の初期段階に適切なタイミングで行なわれる必要があります。

車両の減速度や加速度、衝撃の方向は、基本的に以下の要素によって決まります：

- 衝突時の衝撃エネルギーの分散度
- 衝突の角度
- 車両の変形特性
- 車両と衝突した物体の特性

衝突の発生後に検知される要素は、エアバッグの作動条件とは必ずしも一致しません。また、エアバッグを作動させる基準とはなりません。

エアバッグが作動せずに車両が著しく変形することがあります。変形しやすい衝撃吸収部品のみが衝突の影響を受け、エアバッグを作動させるのに十分な減速度に達していない場合です。反対に車両が軽度のみ変形したにも関わらず、エアバッグが作動することがあります。縦方向のボディメンバーなどの高剛性の部品が衝撃を受けたため、結果として大きな減速度が発生した場合などです。

乗員保護装置のコントロールユニットが側面衝突を検知するか、あるいは車両が横転した場合は、乗員保護装置の適切な構成部品が、事故の形態に応じて相互に独立して作動します。この状況で、作動により乗員保護機能が高まるとシステムが判断した場合は、シートベルトテンショナーも作動します。

- シートベルトテンショナーおよびシートベルトの使用に関係なく、衝撃が発生した側のサイドバッグ  
助手席エアバッグ自動解除システム装備車両：助手席（フロント）サイドバッグは以下の条件で作動します：
  - 助手席シートで乗員が検知された、または
  - シートベルトのプレートが助手席シートのシートベルトバックルに固定されている
- シートベルトの使用および助手席に乗員がいるかどうかに関係なく、衝撃が発生した側のウインドウバッグ
- 特定の状況で車両が横転して、作動がシートベルトの乗員保護機能高めるとシステムが判断したときの運転席側および助手席側のウインドウバッグ

**i** 事故の際に、すべてのエアバッグが作動するわけではありません。各エアバッグシステムは、それぞれ独立して作動します。

エアバッグシステムの作動は、検知された事故の大きさ、特に車両の減速度または加速度、および以下のような事故の形態により決定されます：

- 正面衝突
- 側面衝突
- 横転

## PRE-SAFE® (予期乗員保護措置)

### はじめに

特定の危険な状況で、PRE-SAFE®は乗員を保護するために予防的な措置を行ないます。

### 重要な安全上の注意事項

■ シートの前後位置を調整するときは、足元やシートの下または後方に物が無いことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

車両に PRE-SAFE®システムが装備されていても、事故のときのけがの可能性をなくすことはできません。常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせ、先行車両との間に十分な安全な距離を保ってください。注意して運転してください。

### 機能

PRE-SAFE®は以下のときに作動します。

- BAS が作動しているときなど、緊急ブレーキ状態のとき
- 物理的な限界を超えて車両が著しいアンダーステアやオーバーステアになるなど、危機的な走行状況になったとき
- ドライビングアシスタンスパッケージ装備車両： ドライバーアシスタンスシステムが強力に介入した、または特定の状況でレーダーセンサーシステムが切迫した衝突の危険を検知したとき

PRE-SAFE®は検知した危険な状態に応じて、以下のように作動します。

- フロントシートベルトの張力があらかじめ高まります。
- 車両が横滑りした場合は、サイドウィンドウが少しの間隙を残して閉じます。

- 助手席シートが好ましくない位置にある場合は調整されます。
- マルチコントロールシートバック装備車両： バックレストのサイドサポートの空気圧が上がります。

事故につながることなく危険な状況が過ぎた場合は、PRE-SAFE®がシートベルトの張力を緩めます。マルチコントロールシートバック装備車両では、サイドサポートの空気圧が再び低下します。PRE-SAFE®により行なわれたすべての設定が元に戻ります。

シートベルトの張力が緩まない場合

- ▶ 車両が停止しているときに、シートバックレストまたはシートを後方に少し動かします。あらかじめ高められていたシートベルトの張力が緩み、ロック機構が解除されます。

シートベルト調整は、PRE-SAFE®コンビニエンス機能の一部です。コンビニエンス機能に関する情報は「シートベルト調整」にあります (p. 50 ページ)。

## PRE-SAFE®プラス (予期乗員保護措置プラス)

### はじめに

PRE-SAFE®プラスは、レーダーセーフティパッケージ装備車両でのみ作動します。

レーダーセンサーシステムを使用して、PRE-SAFE®プラスは正面衝突または追突が差し迫っていることを検知します。特定の危険な状況では、PRE-SAFE®プラスが乗員を保護するために予防的な措置を行ないます。

## 重要な安全上の注意事項

PRE-SAFE®プラスの介入により、切迫した衝突を避けることはできません。

PRE-SAFE®プラスが介入しているときは、運転者に警告は行なわれません。

後退するときは、PRE-SAFE®プラスは介入しません。

PRE-SAFE®プラスは、車両が動いているとき、またはパーキングアシストが作動しているときは、ブレーキ操作を行ないません。

## 機能

切迫した正面衝突または追突をレーダーセンサーシステムが検知した場合は、PRE-SAFE®プラスは特定の状況で介入します。

PRE-SAFE®プラスは、検知された危険な状況によって以下の措置を行ないます：

- 正面衝突が差し迫っていることをレーダーセンサーシステムが検知した場合は、シートベルトの張力が事前に上がります。
- 追突が差し迫っているとレーダーセンサーシステムが検知した場合：
  - リアの非常点滅灯が作動し、高い頻度で点滅します。
  - 車両が停止しているときに運転者がブレーキを効かせた場合は、ブレーキ圧が増加します。
  - シートベルトの張力が事前に上がります。

PRE-SAFE®プラスのブレーキの適用は、以下の場合に中止されます：

- ギアが入っているときにアクセルペダルが踏まれた場合
- 衝突の危険性が過ぎた、または検知されなくなった場合
- ディストロニック・プラスが発進する意図を示した場合

事故につながることなく危険な状態が過ぎた場合は、元の設定に戻ります。

## 事故後の自動措置

衝突の種類および大きさによって、事故の後にはただちに以下の措置が行なわれます：

- 非常点滅灯が作動します
- 緊急時点灯機能が作動します
- 車両のドアが解錠されます
- フロントサイドウィンドウが下がります
- 電動調整式ステアリングが上がります
- エンジンが停止して、燃料供給が中断します

## 事故の後で

### 事故の後で

- ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。
- ▶ 非常点滅灯を作動させます。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを手動で効かせてください。
- ▶ 車両から出るときは乗員が危険にさらされていないことを確認してください。
- ▶ 危険な場所の近くに誰もいないことを確認してください。フェンスなどで区

切られた安全な場所に乗員を退避させます。

- ▶ 適切な場所に停止表示板を置いてください。

自動車専用道路や高速道路では、停止表示板を使用することにより後続車両に警告を発することが法律で義務付けられています。

### 車両が動かなくなったとき

- ▶ オートマチックトランスミッションをシフトポジション **N** にシフトします。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを手動で解除してください。
- ▶ 安全な場所まで車両を押してください。必要な場合は、他の人に救援を求めてください。

オートマチックトランスミッションをシフトポジション **N** にできない場合、運転者と乗員は危険な範囲からただちに離れてください。

**i** イグニッションがオンで車輪が回転したときは、車両は自動的に施錠されます。そのため、車両を押すときやダイナモメーターでテストを行なう場合は、閉め出される危険性があります。

**i** 踏切内で車両が動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急な状況では、非常信号用具も使用してください。

### 子供を乗せるとき

#### 重要な安全上の注意事項

事故の統計では、リアシートに固定されている子供は助手席シートに固定されている子供より安全であることが示されています。この理由のため、チャイルドセーフティシートをリアシートに取り付けることを、メルセデス・ベンツは強く

推奨します。一般的に、子供はそのほうがより良く保護されます。

12歳未満および150 cm以下の子供を車両に乗せて走行する場合：

- メルセデス・ベンツ車用に推奨されているチャイルドセーフティシートを使用していることを常に確認してください。チャイルドセーフティシートは子供の年齢、体重および身長に適していなければなりません。
- チャイルドセーフティシートメーカーの取扱説明に加えて、この項目にある説明および安全上の注意事項に常に従ってください。
- 助手席エアバッグ自動解除システムの説明および安全上の注意事項に常に従ってください。(▶ 54 ページ)

#### ⚠ 警告

保護者のいない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキを解除したとき
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟み込まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

#### ⚠ 警告

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

**⚠ 警告**

チャイルドセーフティシートが直射日光または熱にさらされている場合は、部品が高温になることがあります。子供がこれらの部品、特にチャイルドセーフティシートの金属部品で火傷を起こすおそれがあります。けがの危険性があります。運転者および子供が車両から離れる場合は、チャイルドセーフティシートを直射日光にさらさないように気をつけてください。毛布などで覆ってください。チャイルドセーフティシートが直射日光にさらされた場合は、子供を固定する前に冷ましてください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。

車両乗員全員がシートベルトを着用していて、正しく着座していることを常に確認してください。これは特に子供に重要です。

シートベルトについての安全上の注意事項 (p 46 ページ) およびシートベルトの正しい使用についての注意事項 (p 47 ページ) に従ってください。

**チャイルドセーフティシート**

チャイルドセーフティシートの正しい使用に常に従ってください (p 69 ページ)。

安全上の理由のため、メルセデス・ベンツにより推奨されたチャイルドセーフティシートのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します (p 73 ページ)。

**⚠ 警告**

チャイルドセーフティシートが適切なシート位置に正しく取り付けられていない場合は、意図した保護機能を発揮することができません。事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに子供を保護することができません。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

チャイルドセーフティシートメーカーの装着指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用を常に遵守してください。チャイルドセーフティシートの底面全体が常にシートクッションに接触している事を確認してください。チャイルドセーフティシートの下または背面にクッションなどの物を置かないでください。チャイルドセーフティシートには、必ずこのシート専用の純正シートカバーを使用してください。損傷したカバーを取り替えるときは、必ず純正品を使用してください。

**⚠ 警告**

チャイルドセーフティシートが正しく取り付けられていない、または固定されていない場合は、事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに外れるおそれがあります。チャイルドセーフティシートが投げ出されて、乗員にぶつかるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

着座していないチャイルドセーフティシートも常に正しく取り付けてください。常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。

荷物の正しい積載についてのさらなる情報は、「積載のガイドライン」にあります (p 222 ページ)。

**⚠ 警告**

事故で負荷を受けたチャイルドセーフティシートやその固定装置は、意図した保護機能を発揮できないことがあります。事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに、子供が保護されません。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

事故で損傷したり、または負荷を受けたチャイルドセーフティシートはただちに交換してください。チャイルドセーフティシートを再度取り付ける前に、チャイルドセーフティシートの固定装置をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

チャイルドセーフティシートの固定システムは、以下のものです：

- ・シートベルトシステム
- ・ISOFIX 固定リング
- ・テザーアンカー

どうしても助手席で子供を運ぶ必要がある場合は、"助手席のチャイルドセーフティシート"の注意事項に常に従ってください (▶ 67 ページ)。

車内またはチャイルドセーフティシートの警告ラベルに従ってください。

**i** メルセデス・ベンツの手入れ用品を使用して、チャイルドセーフティシートを清掃してください。これについての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場です。入手できます。

### ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

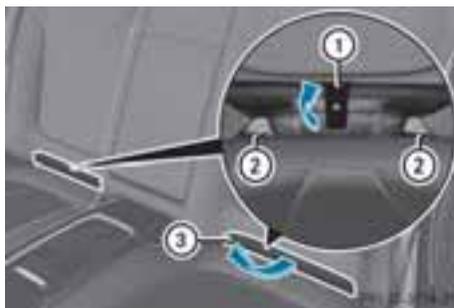
#### ⚠ 警告

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートは、体重が 22 kg 以上でチャイルドセーフティシートに内蔵されたセーフティベルトを使用して固定されている子供には十分な保護効果をもたらしません。例えば、事故のときに子供が正しく固定されないなどのおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

子供の体重が 22 kg 以上の場合は、必ず子供が車両のシートベルトでも固定される ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを使用してください。使用可能であれば、チャイルドセーフティシートをテザーアンカーベルトでも固定してください。

チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの装着および操作指示、およびチャイルドセーフティシートの正しい使用に関する指示に従っていることを確認してください (▶ 69 ページ)。

各走行前に、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートが両方の ISOFIX 固定リングに正しく固定されていることを確認します。



リアシートの ISOFIX 固定リング ② は、ベルククロファスナーで固定された内装ライニング ③ で覆われています。

- ▶ 内装のライニング ③ を上方に起こします。
- ▶ 支柱 ① を 90° まわします。  
内装ライニング ③ は上方に起きたままになります。
- ▶ ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを左右の ISOFIX 固定リング ② に取り付けます。

ISOFIX チャイルドセーフティシートを取り外した後に、内装ライニング ③ の支柱 ① を再度 90° まわします。その後内装ライニング ③ を下に倒します。

ISOFIX は、専用設計されたチャイルドセーフティシートのリアシートへの規格化された固定システムです。2 つの ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート用の ISOFIX 固定リング ② は、リアシートの左および右に取り付けられています。

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置に対応していないチャイルドセーフティシートは、車両のシートベルトで固定してください。チャイルドセーフティシートを装着するときは、メー

カーの装着および操作指示、およびチャイルドセーフティシートの正しい使用に関する指示に従っていることを確認してください (▶ 69 ページ)。

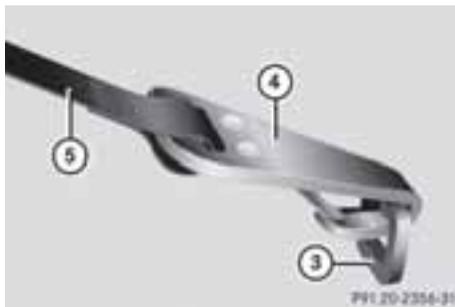
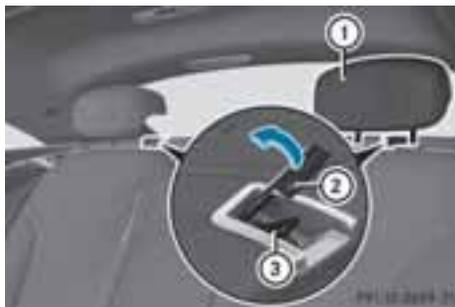
## テザーアンカー

### はじめに

テザーアンカーは、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートと車両の間を補助的に接続します。これにより、けがの危険性をさらに低減する効果を高めます。チャイルドセーフティシートにテザーアンカーベルトが装備されている場合は、常に使用してください。

### テザーアンカー

テザーアンカーは、後席のヘッドレスト後方のパーセルシェルフに取り付けられています。



- ▶ ヘッドレスト ① を上方に動かします。
- ▶ テザーアンカー ③ のカバー ② を起こします。
- ▶ テザーアンカーを装備した ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを装着します。そうするときは、常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。
- ▶ ヘッドレスト ① 下の 2 本のヘッドレストの支柱の間にテザーアンカーベルト ⑤ を通します。
- ▶ テザーアンカーベルト ⑤ のテザーアンカーフック ④ をテザーアンカー ③ に掛けます。  
テザーアンカーベルト ⑤ にねじれがないことを確認します。
- ▶ テザーアンカーベルト ⑤ を張ります。そうするときは、常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。
- ▶ テザーアンカー ③ のカバー ② を倒します。
- ▶ 必要な場合は、ヘッドレスト ① を再度少し下に動かして戻します (▶ 114 ページ)。テザーアンカーベルト ⑤ の正しい取り回しを妨げていないことを確認してください。

## 助手席のチャイルドセーフティシート

### 全体的な注意事項

事故の統計では、リアシートに固定された子供は助手席に固定された子供よりも安全であることが示されています。この理由のため、チャイルドセーフティシートはリアシートに取り付けることを、メルセデス・ベンツは強く推奨します。

助手席エアバッグ自動解除システム装備車両：どうしても助手席シートにチャイルドセーフティシートを取り付けなければならない場合は常に、"助手席エアバツ

グ自動解除システム"にある情報に従ってください(▶ 54 ページ)。

このようにして、以下のために発生するおそれのある危険性を防ぐことができます：

- 助手席エアバッグ自動解除システムによって検知されないチャイルドセーフティシート
- 助手席エアバッグの意図しない無効化
- ダッシュボードのすぐ近くなど、チャイルドセーフティシートの不適切な位置



助手席側サンバイザーの警告ステッカーに従ってください。イラストを参照してください。

#### ⚠ 警告

助手席に子供を後ろ向きチャイルドセーフティシートに固定し、助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合は、事故のときに助手席エアバッグが作動します。エアバッグにより、子供が衝撃を受けおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席エアバッグが無効になっていることを確認してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していなければなりません。

有効になっているフロントエアバッグで保護されているシートでは、後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用しな

いでください。子供に致命的な、または重大なけがを引き起こすことがあります。助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合は、助手席エアバッグは有効になっています(▶ 45 ページ)。

#### 助手席エアバッグ自動解除システム非装備車両



車両の助手席シートに助手席エアバッグ自動解除システムがない場合は、専用のステッカーによって示されます。ステッカーは、助手席側ダッシュボードの側面に貼付されています。助手席ドアを開いたときに、このステッカーが見えます。この場合は常に、後ろ向き乗員保護装置を適切にリアシートに取り付けてください(▶ 69 ページ)。

"後ろ向きチャイルドセーフティシート"および"前向きチャイルドセーフティシート"にある情報、ならびにチャイルドセーフティシートの適切な位置についての情報に従ってください(▶ 69 ページ)。

#### 後ろ向きチャイルドセーフティシート

どうしても助手席に後ろ向きチャイルドセーフティシートを取り付けなければならない場合は、助手席エアバッグが無効になっていることを確認してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し続けている場合のみ(▶ 45 ページ)、助手席エアバッグは無効になっています。

チャイルドセーフティシートメーカーの装着および取扱指示に加えて、チャイルドセーフティシートの適切な位置についての情報に常に従ってください (▶ 69 ページ)。

### 前向きチャイルドセーフティシート

助手席シートの前向きチャイルドセーフティシートに子供を固定する場合は、必ず助手席シートをできるだけ後方の位置に動かしてください。シートクッションの長さをいっぱいまで短くします。チャイルドセーフティシートの底面全体が常に助手席シートクッションに接触していなければなりません。チャイルドセーフティシートのバックレストは、助手席バックレストにできるだけ均一に接触していなければなりません。チャイルドセーフティシートがルーフに触れたり、ヘッドレストにより負荷がかかっているはいけません。それに応じて、シートバックレストの角度およびヘッドレストの位置を調整してください。肩部分のシートベルトが、助手席シートベルトフィーダーからチャイルドセーフティシートの肩ベルトのガイドに向けて正しく取り回されていることを必ず確認してください。肩部分のシートベルトは、助手席シートのシートベルトフィーダーから前方に取り回されていないなければなりません。

チャイルドセーフティシートメーカーの装着および取扱指示に加えて、チャイルドセーフティシートの適切な位置についての情報に常に従ってください (▶ 69 ページ)。

### チャイルドセーフティシートの適切な装着位置

#### はじめに

車両には、欧州経済共同体基準 ECE R44 により承認されたチャイルドセーフティシートのみを装着してください。

体重カテゴリー II または III のいくつかのチャイルドセーフティシートでは、このことにより使用範囲が制限されることがあります。ルーフへの接触の可能性により、チャイルドセーフティシートを最大サイズに設定することができません。

"ユニバーサル" カテゴリーのチャイルドセーフティシートは、オレンジ色の認証ラベルと "universal" の文字で判別できます。



例：チャイルドセーフティシートの認証ラベル

"ユニバーサル" カテゴリーのチャイルドセーフティシートは、"ベルト付きチャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性" または "ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性" の表に従って、U、UF または IUF と表示されたシートで使用できます。

セミユニバーサルチャイルドセーフティシートは、認可ラベルの "semi-universal" の文字で示されています。これらは、車両およびシートがチャイルドセーフティシートメーカーの車両モデルリストに載っている場合に使用できます。

さらなる情報は、チャイルドセーフティシートメーカーにご連絡いただくか、メーカーのウェブサイトをご覧ください。

**助手席シートのチャイルドセーフティシート** - やむを得ず助手席シートのチャイルドセーフティシートに子供を固定する必要がある場合：

- ▶ "助手席でのチャイルドセーフティシート" にある指示に常に注意してください (▶ 67 ページ)。

そこには、肩部分のシートベルトを車両のシートベルトフィーダーまたはベルトの引き出し口からチャイルドセーフティシートの肩ベルトのガイドに向けて正しく取り回す方法についての説明があります (▶ 69 ページ)。

- ▶ 助手席シートをできるだけ後方に動かし、シートクッションの長さをいっぱいまで短くします。

助手席シートの前向きチャイルドセーフティシートに子供を固定する場合は、助手席シートも最も低い位置に動かしします。

- ▶ バックレストをほぼ垂直の位置に動かしします。

チャイルドセーフティシートの底面全体が、常に助手席シートクッションに接していなければなりません。前向きチャイルドセーフティシートのバックレストは、できるだけ助手席シートのバックレストに接していなければなりません。チャイルドセーフティシートがルーフに触れたり、ヘッドレストにより負荷がかかっているはいけません。それに応じて、シートバックレストの角度およびヘッドレストの位置を調整してください。チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明にも注意してください。

- ▶ シートクッションの角度を最も高く、および最も垂直の位置に動かしします。

### ベルト付きチャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性

リアシートでカテゴリー 0 または 0+ のベビーカーシート、または後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用する場合は、シートがチャイルドセーフティシートに接触しないように、運転席および助手席シートを調整しなければなりません。

"チャイルドセーフティシート" の項目 (▷ 65 ページ) およびチャイルドセーフティシートメーカーの装着説明にある注意事項に常に従ってください。

表の凡例

- X この体重カテゴリーの子供に適合していないシート。
- U この体重カテゴリーでの使用が承認された "ユニバーサル" カテゴリーのチャイルドセーフティシートに適合。
- UF この体重カテゴリーでの使用が承認された "ユニバーサル" カテゴリーに属する前向きチャイルドセーフティシートに適合。
- L 推奨チャイルドセーフティシートに適合。"推奨チャイルドセーフティシート" の表をご覧ください (▷ 73 ページ)。車両およびシートがチャイルドセーフティシートメーカーの車両モデルリストに掲載されている場合、セミユニバーサルチャイルドセーフティシートに適合。

体重カテゴリー		助手席シート		リアシート
		助手席エアバッグが有効	助手席エアバッグが無効 <sup>1</sup>	左、右
<b>0</b>	10 kg 以下	X	U、L	U
<b>0+</b>	13 kg 以下	X	U、L	U
<b>I</b>	9 kg ~ 18 kg	UF、L	U、L	U
<b>II</b>	15 kg ~ 25 kg	UF、L	U、L	U
<b>III</b>	22 kg ~ 36 kg	UF、L	U、L	U

### ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性

リアシートでカテゴリー 0 または 0+ のベビーカーシート、または後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用する場合は、シートがチャイルドセーフティシートに接触しないように、運転席および助手席シートを調整しなければなりません。

"チャイルドセーフティシート" の項目 (▷ 65 ページ) およびチャイルドセーフティシートメーカーの装着説明にある注意事項に常に従ってください。

<sup>1</sup> 車両は助手席エアバッグ自動解除システムを装備しています。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯します。

## 表の凡例

- X この体重カテゴリーおよび/またはサイズカテゴリーで、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適合していない ISOFIX の位置。
- IUF この体重カテゴリーでの使用に適合する "ユニバーサル" カテゴリーに属する前向き ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置に適合。
- IL 推奨しているような ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適合。以下の表"推奨チャイルドセーフティシート" (▷ 73 ページ) をご覧ください。  
メーカーは、適合している ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートも推奨しています。そのためには、お客様の車両とシートがチャイルドセーフティシートメーカーのモデルリストに掲載されていなければなりません。さらなる情報は、チャイルドセーフティシートメーカーにご連絡いただくか、メーカーのウェブサイトをご覧ください。

体重カテゴリー		サイズカテゴリー	装備	リアシート 左/右
キャリコット		F	ISO/L1	X
		G	ISO/L2	X
0	10 kg 以下 約 6 ヶ月以下	E	ISO/R1	IL
0+	13 kg 以下 15 ヶ月以下	E	ISO/R1	IL
		D	ISO/R2	IL
		C	ISO/R3	IL <sup>2</sup>
I	9 kg ~ 18 kg 約 9 ヶ月~4 歳	D	ISO/R2	IL
		C	ISO/R3	IL <sup>2</sup>
		B	ISO/F2	IUF
		B1	ISO/F2X	IUF
		A	ISO/F3	IUF

チャイルドセーフティシートがルーフに触れたり、ヘッドレストにより負荷がかかっている状態ではいけません。それに応じて、ヘッドレストの位置を調整してください。チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明にも従ってください。

2 サイズカテゴリー C (ISO/R3) のチャイルドセーフティシートを使用している場合は、フロントシートを最も高い位置に動かして、バックレストを直立位置に動かします。フロントシートバックレストがチャイルドセーフティシートに負荷をかけていないことを確認してください。

## 推奨チャイルドセーフティシート

### 全体的な注意事項

"助手席のチャイルドセーフティシート" (▷ 67 ページ) および"チャイルドセーフティシートの適切な位置" (▷ 69 ページ) の情報に常に注意してください。

適切なチャイルドセーフティシートについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

### 車両のシートベルトに装着する推奨チャイルドセーフティシート

体重カテゴリー	メーカー	タイプ	認証番号 (E1 ...)	注文番号 (A 000 ...) <sup>3</sup>
カテゴリー 0 : 10 kg 以下 約 6 ヶ月以下	Britax Römer	ベビーセーフラス	03 301146 04 301146	970 10 00
		ベビーセーフラス II	04 301146	970 20 00
カテゴリー 0+ : 13 kg 以下 15 ヶ月以下	Britax Römer	ベビーセーフラス	03 301146 04 301146	970 10 00
		ベビーセーフラス II	04 301146	970 20 00
カテゴリー I : 9 kg ~ 18 kg 約 9 ヶ月~4 歳	Britax Römer	デュオプラス	03 301133 04 301133	970 16 00
カテゴリー II/III 15 kg ~ 36 kg 約 4 歳~12 歳	Britax Römer	KIDFIX <sup>4</sup>	04 301198	970 19 00

### 推奨される"ユニバーサル"/"セミユニバーサル" カテゴリーの ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート

体重カテゴリー	サイズカテゴリー	メーカー	タイプ	認証番号 (E1 ...)	注文番号 <sup>3</sup>
キャリコット	F	-	-	-	-
	G	-	-	-	-

<sup>3</sup> カラーコード 9H95。

<sup>4</sup> KIDFIX チャイルドセーフティシートを車両に装着する前に、必ずチャイルドセーフティシートメーカーの装着説明に従ってください。これには装着オプションについての注意事項も含まれません。

体重カテゴリー	サイズカテゴリー	メーカー	タイプ	認証番号 (E1 ...)	注文番号 <sup>3</sup>
カテゴリー0: 10 kg 以下	E	-	-	-	-
カテゴリー0+: 13 kg 以下	E	Britax Römer	ベビーセーフプラス	03 301146 04 301146	B6 6 86 8224
	D	-	-	-	-
	C	-	-	-	-
カテゴリーI: 9 kg ~ 18 kg	D	-	-	-	-
	C	-	-	-	-
	B	-	-	-	-
	B1	Britax Römer	デュオプラス	03 301133 04 301133	A 000 970 16 00
	A	-	-	-	-

## ペットを乗せるとき

### ⚠ 警告

ペットを車内に放置または固定していない場合、ボタンやスイッチを押してしまう場合があります。

その結果：

- 車両装備を作動させて、挟まれる
- システムをオンまたはオフにして、他の道路交通者を危険にさらす

さらに、事故の際やステアリングを切ったとき、急ブレーキをかけたときに、ペットが投げ飛ばされ、乗員が負傷するおそれもあります。事故やけがの危険性があります。

決してペットを車内に放置しないでください。走行中は、適切なキャリーなどを使用して、ペットを必ず正しく固定してください。

<sup>3</sup> カラーコード 9H95。

## 走行安全システム

### 走行安全システムの概要

この項目には、以下の走行安全システムについての情報があります。

- ABS (Anti-lock Braking System : アンチロック・ブレーキング・システム) (▷ 75 ページ)
- BAS (Brake Assist System : ブレーキアシストシステム) (▷ 76 ページ)
- BAS (Brake Assist System : ブレーキアシストシステム) プラス (飛び出し検知機能付ブレーキアシスト・プラス) (▷ 76 ページ)
- CPA プラス (緊急ブレーキ機能) (▷ 78 ページ)
- アダプティブブレーキライト (▷ 81 ページ)
- ESP® (Electronic Stability Program : エレクトロニック・スタビリティ・プログラム) (▷ 81 ページ)
- EBD (Electronic Brake force Distribution : エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション) (▷ 84 ページ)
- アダプティブブレーキ (▷ 84 ページ)
- PRE-SAFE®ブレーキ (▷ 84 ページ)
- ステアコントロール (▷ 86 ページ)

### 重要な安全上の注意事項

運転スタイルを合わせなかったり、注意が散漫になった場合は走行安全システムは事故の危険性を低減することができません。物理的限界を超えることはできません。走行安全システムは、運転の補助のために設計された単なる支援に過ぎません。運転者は、先行車両との距離の維持、車両速度、適時のブレーキ操作およ

び車線の維持に対する責任があります。常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせ、先行車両との間に十分に安全な距離を保ってください。注意して運転してください。

記載されている走行安全システムは、タイヤと路面との間に十分な接触があるときにのみ、可能な限り効果的に作動します。"タイヤとホイール" (▷ 266 ページ) にあるタイヤ、および推奨されるタイヤトレッドの最小深さなどに関する情報に特に注意してください。

冬季の走行状況では、常にウィンタータイヤ (M+S タイヤ) を、必要であればスノーチェーンを使用してください。このようにすることでのみ、本項目に記載されている走行安全システムが可能な限り効果的に作動します。

### ABS (アンチロック・ブレーキング・システム)

#### 全体的な注意事項

ABS は、ブレーキを効かせたときに車輪がロックしないようにブレーキ圧を制御します。これにより、ブレーキを効かせているときに、ステアリング操作を続けることができます。

メーターパネルの ABS 警告灯  は、イグニッションをオンにすると点灯します。エンジンがかかっているときは消灯します。

#### 重要な安全上の注意事項

**i** "重要な安全上の注意事項" の項目に従ってください (▷ 75 ページ)。

#### 警告

ABS に異常があるときは、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。ステアリングでの操縦性およびブレーキ性能が著しく損なわれることがあります。さ

らに、他の走行安全装備が解除されます。横滑りや事故の危険が高まります。注意して運転してください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でのABSの点検をしてください。

ABSが故障している場合は、走行安全システムを含めた他のシステムも作動しません。ABS警告灯(▶ 205 ページ)およびメーターパネル(▶ 189 ページ)に表示されるディスプレイメッセージに関する情報に従ってください。

路面の状況に関わらず、ABSは約8 km/h以上の速度で作動します。滑りやすい路面では、軽くブレーキを効かせただけでもABSは作動します。

## ブレーキ

- ▶ **ABSが作動した場合：** ブレーキ操作の状況が終わるまで、ブレーキペダルをいっぱい力で踏み続けてください。
- ▶ **最大限のブレーキを効かせる：** ブレーキペダルをいっぱい力で踏んでください。

ブレーキ時にABSが作動した場合は、ブレーキペダルに振動を感じます。

ブレーキペダルの振動は、危険な道路状況を知らせることができ、走行中に特別な注意を喚起させるものとして機能します。

## BAS (ブレーキアシスト)

### 全体的な注意事項

BASは、緊急ブレーキの状況で作動します。ブレーキペダルを素早く踏んだ場合は、BASが自動的に制動力を高めて制動距離を短縮します。

## 重要な安全上の注意事項

① "重要な安全上の注意"を遵守してください。(▶ 75 ページ)

### 警告

BASが故障している場合は、緊急ブレーキの状況での制動距離が長くなります。事故の危険性があります。

緊急ブレーキの状況では、ブレーキペダルを思いっきり踏んでください。ABSが車輪のロックを防ぎます。

## ブレーキ

- ▶ 緊急ブレーキ状態から脱するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。  
ABSがホイールのロックを防ぎます。

ブレーキペダルから足を放すと、ブレーキは通常の作動状態に戻ります。BASは解除されます。

## BAS プラス (飛び出し検知機能付ブレーキアシスト・プラス)

### 全体的な注意事項

① "重要な安全上の注意事項"の項目に注意してください(▶ 75 ページ)。

BAS プラスはレーダーセーフティパッケージ装備車両でのみ作動します。

走行しているときにBAS プラスが運転者を支援するためには、レーダーセンサーシステムおよびカメラシステムが作動可能でなければなりません。

センサーシステムおよびカメラシステムの支援で、BAS プラスは以下の障害物を検知できます：

- 長時間車両の進路にある物
- 車両の進路を横切る物

加えて、車両の進路にいる歩行者を検知することができます。

BAS プラスは、身体の輪郭および直立している人の姿勢のような特有な特徴を使用して歩行者を検知します。

レーダーセンサーシステムまたはカメラシステムが故障している場合は、BAS プラスの機能は制限されるか、または使用できなくなります。その場合もブレーキシステムは使用でき、ブレーキの倍力装置および BAS は十分に機能します。

**i** "重要な安全上の注意事項" の項目に記載されている制限に注意してください (p. 84 ページ)。

BAS プラスは、車両および歩行者との衝突の危険性を最小限にし、そのような衝突の影響を減少させることができます。BAS プラスが衝突の危険を検知した場合は、ブレーキ操作時に支援されます。

## 重要な安全上の注意事項

### ⚠ 警告

BAS プラスは、障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるとは限りません。そのような場合は、BAS プラスは以下ようになります：

- 不必要に介入する
- 介入しない

事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

### ⚠ 警告

BAS プラスは、以下では反応しません。

- 子供などの小柄な人
- 動物
- 対向車
- カーブを走行するとき

そのため、BAS プラスはすべての危険な状況下で作動するとは限りません。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

降雪または激しい雨のときは、検知は困難になるおそれがあります。

レーダーセンサーシステムによる検知は、以下のときも困難になります：

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 他のレーダー発生源による干渉がある
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こっている
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行している
- 先行車両が他の車線を走行している
- レーダーセンサーシステムの検知範囲内に急に車両が入り込んだ

カメラシステムによる検知は、以下のときも困難になります。

- カメラが汚れている、またはカメラが覆われている
- 空の低いところにある太陽からなどの、カメラシステムへの眩惑がある
- 周囲が暗い
- 以下の場合：
  - 車両の進路に入り込むなど、歩行者が急に動いた
  - 特殊な衣服または他の物により、カメラシステムが歩行者を人として認識しなくなった
  - 歩行者が他の障害物により隠れている

人特有の輪郭が背景と区別できない車両のフロント部分が損傷したときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ではレーダーセンサーの設定と作動の点検を行なってください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。フロントウインドウが損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での

メラシステムの設定と作動の点検を行なってください。

## 機能

衝突を避けるために、BAS プラスは以下の場合に必要な制動力を計算します：

- ・障害物に接近している
- ・BAS プラスが衝突の危険を検知している

**30 km/h 以下の速度で走行しているとき：**ブレーキペダルを踏んだ場合は、BAS プラスが作動します。BAS プラスからのブレーキ操作の支援は、できる限り最後の瞬間に行なわれます。

**30 km/h 以上の速度で走行しているとき：**ブレーキペダルを急に踏んだ場合は、BAS プラスは交通状況に適した度合いにブレーキ圧を自動的に高めます。

BAS プラスは、7 km/h ~ 250 km/h の間の速度域内で、先行車両との危険な状態のときにブレーキ操作の支援を行います。

約 70 km/h までの速度では、BAS プラスは以下に反応することができます：

- ・停止している、または駐車している車両など、車両の進路にある静止している障害物
- ・車両の進路にいる歩行者
- ・センサーの検知範囲内に移動し、検知された、進路を横切る障害物

**i** BAS プラスが特に強力な制動力を要求している場合は、PRE-SAFE®（予期乗員保護措置）が同時に作動します。

▶ 緊急ブレーキの状況が終わるまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。ABS が車輪のロックを防ぎます。

以下の場合、BAS プラスは解除され、ブレーキは通常通り再度作動します：

- ・ブレーキペダルを放した
- ・衝突の危険性がなくなった

- ・車両前方に検知される障害物がなくなった
- ・アクセルペダルを踏んだ
- ・キックダウンを作動させた

## CPA プラス（緊急ブレーキ機能）

### 全体的な注意事項

CPA プラス（緊急ブレーキ機能）は、自動ブレーキ機能付き距離警告機能およびアダプティブブレーキアシストで構成されます。

CPA プラス（緊急ブレーキ機能）は、先行車両との衝突の危険性を最小限にする、またはそのような衝突の影響を低減する支援をします。

CPA プラス（緊急ブレーキ機能）が衝突の危険があることを検知した場合は、視覚的および聴覚的に警告が発せられます。運転者が視覚的および聴覚的な衝突警告に反応しなかった場合は、危険な状況になると自動ブレーキが作動します。危険な状況で運転者自身がブレーキを効かせた場合は、CPA プラス（緊急ブレーキ機能）のアダプティブブレーキアシストが運転者を支援します。

### 重要な安全上の注意事項

特に以下のときは、障害物の検知が困難になることがあります。

- ・センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- ・雪または激しい雨が降っている
- ・他のレーダー発生源による干渉がある
- ・立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こっている
- ・オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行している
- ・先行車両が他の車線を走行している
- ・新車である、または CPA プラス（緊急ブレーキ機能）の点検整備後である

慣らし運転の項目にある注意事項に注意してください (▷ 130 ページ)。

車両のフロント部分が損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を受けてください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

## 距離警告機能

### 重要な安全上の注意事項

**i** 走行安全システムの"重要な安全上の注意事項"の項目に従ってください (▷ 75 ページ)。

#### 警告

車間距離警告機能は、以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差する交通
- カーブを走行するとき

そのため、車間距離警告機能はすべての危険な状況で警告を行うとは限りません。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

#### 警告

車間距離警告機能は、常に障害物および複雑な交通状況を明確に識別できるわけではありません。

そのような場合は、車間距離警告機能は以下になることがあります。

- 不必要な警告を発する
- 警告を発しない

事故の危険性があります。

常に交通状況に十分注意を払い、車間距離警告機能のみに頼らないでください。

## 機能

▶ **設定/解除する**：マルチファンクションディスプレイで距離警告機能を設定または解除します (▷ 186 ページ)。

距離警告機能が解除された場合は、マークがアシスト一覧表示に表示されます。

距離警告機能は、先行車両と衝突する危険性を最小限にし、またはそのような衝突の影響を低減させるために運転者を補助することができます。距離警告機能が衝突の危険を検知した場合は、視覚的および聴覚的に警告が発せられます。

距離警告機能は、以下の速度で警告を発します。

- 約 30 km/h またはそれ以上で、数秒間にわたり前方を走行している車両との間に保たれている距離が不十分な場合。メーターパネルの距離警告灯  が点灯します。
- 約 7 km/h またはそれ以上で、先行車両に急激に接近した場合。断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの距離警告灯  が点灯します。

▶ 先行車両との車間距離を広げるためにただちにブレーキを効かせてください。

または

▶ 安全確認のうえ、危険回避の操作を行なってください。

システムの特性により、危険ではないけれど、特に複雑な走行状況もシステムが警告を表示する原因になることがあります。

レーダーセンサーシステムの支援で、距離警告機能は車両の進路に長時間ある障害物を検知することができます。

約 70 km/h 以下の速度では、距離警告機能は停止している、または駐車している車両のような静止物にも反応できます。

障害物に接近し、距離警告機能が衝突の危険を検知した場合は、視覚的および聴覚的両方で運転者に警告を行ないます。

## 自動ブレーキ機能

危険な状況で運転者が距離警告信号に反応しなかった場合は、自動ブレーキ機能により、CPA プラス（緊急ブレーキ機能）は運転者の支援を行ないます。

自動ブレーキ機能

- 危険な運転状況に運転者が反応できるさらなる時間を確保します
- 運転者の衝突回避を支援します、または
- 事故の被害を低減します

自動ブレーキ機能は以下の速度範囲で使用できます。

- 動いているものに対しては、7 km/h ~ 約 105 km/h
- 静止しているものに対しては、7 km/h ~ 約 50 km/h

自動ブレーキ機能が特に強力な制動力を要求している場合は、PRE-SAFE®（予期乗員保護措置）が同時に作動します。

## アダプティブブレーキアシスト

**i** "重要な安全上の注意" の項目に注意してください (▶ 75 ページ)。

アダプティブブレーキアシストは、7 km/h 以上の速度での危険な状況で、ブレーキ操作の支援を行ないます。レーダーセンサー技術を利用して交通状況を評価します。

### ⚠ 警告

アダプティブブレーキアシストは、障害物や複雑な交通状況を常に明確に識別できるとは限りません。

そのような場合は、アダプティブブレーキアシストは以下を行なうことがあります。

- 不必要に介入する
- 介入しない

事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキを効かせる準備をしてください。危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

### ⚠ 警告

アダプティブブレーキアシストは以下には反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差交通
- カーブを走行するとき

そのため、アダプティブブレーキアシストはすべての危機的な状況で作動しない場合があります。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキを効かせる準備をしてください。

システムの特性により、危険ではないけれど、特に複雑な走行状況もブレーキアシストが介入する原因になることがあります。

レーダーセンサーシステムの故障によりアダプティブブレーキアシストが使用できない場合は、ブレーキシステムは完全なブレーキ倍力効果および BAS とともに使用可能なままになります。

アダプティブブレーキアシストの補助で、距離警告信号は車両の進路に長時間ある障害物を検知することができます。

アダプティブブレーキアシストが先行車両との衝突の危険性を検知した場合は、衝突を避けるために必要な制動力を算出します。ブレーキを強く効かせた場合は、アダプティブブレーキアシストは交通状

況に適したレベルまで制動力を自動的に増加させます。

- ▶ 緊急ブレーキの状況が終わるまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。ABS が車輪のロックを防ぎます。

以下の場合、ブレーキは再度通常通り作動します。

- ブレーキペダルを放した
- 衝突の危険性がなくなった
- 車両前方に検知される障害物がなくなった

その後、アダプティブブレーキアシストは解除されます。

アダプティブブレーキアシストが特に高い制動力を必要とする場合は、PRE-SAFE®（予期乗員保護措置）が同時に作動します。

約 250 km/h の速度までは、検知期間の間に 1 度は検知された動いている障害物にも、アダプティブブレーキアシストは反応できます。

約 70 km/h の速度までは、アダプティブブレーキアシストは静止している障害物に反応します。

### アダプティブブレーキライト

アダプティブブレーキアシストは緊急ブレーキ状況で以下のように後続の車両に警告します。

- ブレーキランプの点滅
- 非常点滅灯が作動

約 50 km/h 以上の速度から車両に急ブレーキを効かせた場合、または BAS または BAS プラス（ブレーキアシストプラス）によりブレーキ操作が支援された場合は、ブレーキランプが素早く点滅します。このようにして、より注意を引きやすい方法で後方の車両に警告を行いません。

約 70 km/h 以上の速度で停止するまで急ブレーキを効かせた場合は、非常点滅灯が自動で作動します。再度ブレーキを効かせると、ブレーキランプが点灯し続けます。非常点滅灯は、約 10 km/h 以上で走行すると自動的に消灯します。非常点滅灯スイッチ（▶ 118 ページ）を押して、消灯させることもできます。

### ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）

#### 全体的な注意事項

① "重要な安全上の注意"を遵守してください。（▶ 75 ページ）

ESP®は走行安定性およびトラクション（タイヤおよび路面の間の動力伝達）をモニターします。

ESP®は、車の走行ラインが運転者の望む進行方向から外れていると判断すると、1 本または複数のタイヤにブレーキを効かせ、車の走行姿勢を安定させます。また、エンジン出力を調整して、物理的限界内で運転者の意志に沿った方向に車の向きを保つように作動します。ESP®は、濡れた路面や滑りやすい路面での発進操作をアシストします。また、ESP®はブレーキ時の車の姿勢も安定させることができます。

### ETS/4ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）

① "重要な安全上の注意事項" の項目に従ってください（▶ 75 ページ）。

ETS トラクションコントロールは、ESP®の一部です。4MATIC 装備車両では、4ETS は ESP®の一部です。

トラクションコントロールは、駆動輪が空転した場合に、駆動輪に個別にブレーキを効かせます。これにより、片側が滑りやすい路面などでの発進や加速を可能

にします。さらに、1本または複数の駆動力のかかる車輪にさらなる駆動トルクが伝達されます。

ESP®を解除した場合でも、トラクションコントロールは設定されたままになります。

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

ESP®が故障している場合は、ESP®は車両を安定させることはできません。さらに、他の走行安全装備はオフになります。これにより、横滑りや事故の危険性が高くなります。

注意して運転してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですべての点検を受けてください。

4MATIC 非装備車両：リアアクスルを上げて車両をけん引するときは、ESP®に関する注意事項に従ってください(▶ 261 ページ)。

ESP®が解除されると、 ESP®解除警告灯が点灯し続けます。

警告灯  が点灯し続けている場合は、故障のためESP®は作動しません。

警告灯 (▶ 207 ページ) とメーターパネル (▶ 189 ページ) に表示されるディスプレイメッセージに関する情報に従ってください。

以下の場合、マルチファンクションディスプレイに故障および警告のメッセージが表示されることがあります。

- 立体駐車場などのターンテーブルで車両を回転させた、そして
  - 車両が動いている
  - ECO スタートストップ機能が作動している
- 立体駐車場に進入するときなど、長く狭いらせん状の走行路を走行した

以下のような警告灯も点灯することがあります。

- ESP®警告灯  または
- ABS 警告灯 
- ▶ 道路や交通状況に注意しながら、車両を停止します。
- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ イグニッションをオフにします。
- ▶ エンジンを再始動してください。しばらくすると、メッセージが消え、警告灯が消灯します。そうでない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場原因を調査してください。

推奨されたタイヤサイズの車輪のみを使用してください。そのときにのみ、ESP®は正しく機能します。

### ESP®の特性

#### 全体的な注意事項

走行を開始する前に ESP 警告灯  が消灯した場合は、ESP®が自動的に設定されています。

ESP®が作動した場合は、メーターパネルの ESP®警告灯  が点滅します。

ESP®が作動した場合：

- ▶ どのような状況でも ESP®を解除しないでください。
- ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。
- ▶ 実際の道路や天候の状況に適するように運転スタイルを合わせてください。

#### ECO スタートストップ機能

ECO スタートストップ機能は、車両が停止すると自動的にエンジンを停止します。再度発進するときは、エンジンは自動的に始動します。ESP®は、以前の設定状況のままになります。**例：**エンジンを停止する前に ESP®が解除されていた場合

は、エンジンを再度始動したときに ESP<sup>®</sup>は解除されたままになります。

## ESP<sup>®</sup>の解除/設定

### 重要な安全上の注意事項

**i** "重要な安全上の注意事項" の項目に従ってください (▶ 75 ページ)。

以下の ESP<sup>®</sup>の状態を選択することができます。

- ESP<sup>®</sup>を設定する
- ESP<sup>®</sup>を解除する

### ⚠ 警告

ESP<sup>®</sup>を解除すると、ESP<sup>®</sup> は車両を安定させなくなります。横滑りや事故の危険が高まります。

以下に記載された状況でのみ ESP<sup>®</sup> を解除してください。

以下の状況では、ESP<sup>®</sup>を解除したほうがよいことがあります。

- スノーチェーンを使用しているとき
- 深い雪道で
- 砂地または砂利道で

**i** 上記に記載されているような状況が適用されなくなったら、ただちに ESP<sup>®</sup>を設定してください。さもないと、車両が横滑りしたり車輪が空転し始めたりしたときに、ESP<sup>®</sup>が車両を安定させることができません。

### ESP<sup>®</sup>の解除/設定

マルチファンクションディスプレイで、ESP<sup>®</sup>を解除または設定することができます。

▶ **解除する：** (▶ 186 ページ)

メーターパネルの ESP<sup>®</sup>解除警告灯  が点灯します。

▶ **設定する：** (▶ 186 ページ)

メーターパネルの ESP<sup>®</sup>解除警告灯  が消灯します。

### ESP<sup>®</sup>が解除されているときの特性

ESP<sup>®</sup>が解除されている場合、1 本または複数の車輪が空転し始めると、メーターパネルの ESP<sup>®</sup>警告灯  が点滅します。このような状況では、ESP<sup>®</sup>は車両を安定させることができません。

ESP<sup>®</sup>を解除した場合は：

- ESP<sup>®</sup>は、走行安定性を向上させなくなります
- エンジントルクの制御は行なわれなくなり、駆動輪が空転することがあります  
やわらかい路面では、車輪の空転で路面を掘る動作により、より良い駆動力につながります
- トラクションコントロールは作動したままになります
- ブレーキを効かせたときは、ESP<sup>®</sup>は支援を行ないます

### クロスウインドアシスト (マジックボディコントロール非装備車両)

#### 全体的な注意事項

マジックボディコントロール装備車両：横風の際の車両を安定させるための情報 (▶ 160 ページ)。

直進走行時は、強い横風の突風により車両の走行安定性を損なうおそれがあります。ESP<sup>®</sup>に内蔵されているクロスウインドアシスト機能は、これらの影響を顕著に減少させます。

横風の方向と強さに応じて、ESP<sup>®</sup>が自動的に作動します。

安定させるためのブレーキにより ESP<sup>®</sup>が介入し、車両を車線内にとどめる支援を行ないます。

クロスウインドアシストは、直線路や緩やかなカーブを走行しているときに約 80 km/h 以上の車両速度で作動します。

### 重要な安全上の注意事項

ESP®が解除されていたり、故障により無効になっている場合は、クロスウインドアシストは作動しません。

## EBD (エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション)

### 全体的な注意事項

EBD は、後輪のブレーキ圧をモニターしてコントロールを行ない、ブレーキ時の走行安全性を高めます。

### 重要な安全上の注意事項

**i** "重要な安全上の注意事項"の項目に注意してください (▷ 75 ページ)。

#### **⚠ 警告**

EBD が故障した場合には、急ブレーキ時などには後輪がロックすることがあります。これにより、横滑りして事故が起きる危険性が高くなります。

操縦性の変化に応じて慎重に運転してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのブレーキシステムの点検を受けてください。

表示および警告灯 (▷ 205 ページ) およびディスプレイメッセージ (▷ 193 ページ) に関する情報に注意してください。

## アダプティブブレーキ

アダプティブブレーキは、ブレーキ時の安全性を高めるとともに、さらに快適なブレーキ操作をもたらします。ブレーキ機能に加えて、アダプティブブレーキはホールド機能 (▷ 159 ページ) およびヒルスタートアシスト機能 (▷ 135 ページ) も備えています。

## PRE-SAFE®ブレーキ

### 全体的な注意事項

**i** "走行安全システム"の項目の重要な安全上の注意事項に注意してください (▷ 75 ページ)。

PRE-SAFE®ブレーキはドライバーズアシスタンスパッケージ装備車両でのみ使用できます。

走行時に PRE-SAFE®ブレーキが運転者を支援するためには、レーダーセンサーシステムおよびカメラシステムが設定されていて、作動可能でなければなりません。

レーダーセンサーシステムおよびカメラシステムの支援で、PRE-SAFE®ブレーキは車両の前方に長時間ある障害物を検知することができます。

加えて、車両の進路にいる歩行者を検知することができます。

PRE-SAFE®ブレーキは、身体の輪郭および直立している姿勢のような人間の特徴により歩行者を検知します。

"重要な安全上の注意事項"に記載されている制限に注意してください (▷ 84 ページ)。

PRE-SAFE®ブレーキは、先行車両または歩行者との衝突の危険性を最小限にし、そのような衝突の影響を低減させることで運転者を支援します。PRE-SAFE®ブレーキが衝突の危険を検知した場合は、自動的にブレーキを効かせるとともに、視覚的および聴覚的な警告を行ないません。

### 重要な安全上の注意事項

#### **⚠ 警告**

衝突の危険を感知すると、PRE-SAFE®ブレーキはまず部分的にブレーキをかけて車両を制動します。運転者がブレーキを効かせない場合は衝突することがあります。続いてブレーキをいっぱい効か

せた後であっても、特に非常に速い速度で接近しているときは、必ずしも衝突を避けられるとは限りません。事故の危険性があります。

常にブレーキをご自身で効かせ、安全確認をしながら、危険回避の操作を行ってください。

### ⚠ 警告

PRE-SAFE® ブレーキは、障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるとは限りません。

その場合、PRE-SAFE® ブレーキは以下のように作動することがあります。

- 不必要な警告を行ない、車両にブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる

事故の危険性があります。

PRE-SAFE® ブレーキが警告を行なったときは、必ず交通状況に十分注意を払いながら、ブレーキをかける準備をしてください。危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

先行車両との車間距離を十分に維持して衝突を防ぐためには、適切にブレーキ操作を行なう必要があります。

PRE-SAFE®ブレーキは、以下の条件下で車両に自動的にブレーキを効かせることができます。

- 運転者および助手席乗員がシートベルトを着用している  
および
- 車両速度が約 7 km/h～200 km/h の間である

約 70 km/h までの速度では、PRE-SAFE®ブレーキは以下を検知することもできます。

- 停止している、または駐車している車両など、車両の進路にある静止している障害物
- 車両の進路にいる歩行者

### ⚠ 警告

PRE-SAFE® ブレーキは、以下のものには反応しません。

- 子供などの小柄な人
- 動物
- 対向車
- 交差交通
- カーブを走行するとき

この結果、すべての危険な状況では、PRE-SAFE® ブレーキは警告や作動を行なわない場合があります。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

降雪または激しい雨のときは、検知は困難になるおそれがあります。

レーダーセンサーシステムによる検知は、以下のときも困難になります：

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
  - 他のレーダー発生源による干渉がある
  - 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こっている
  - オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行している
  - 先行車両が他の車線を走行している
- カメラシステムによる検知は、以下のときも困難になります：
- カメラが汚れている、またはカメラが覆われている
  - 空の低いところにある太陽からなどの、カメラシステムへの眩惑がある

- 周囲が暗い
- 以下の場合：
  - 車両の進路に入り込むなど、歩行者が急に動いた
  - 特殊な衣服または他の物により、カメラシステムが歩行者を人として認識しなくなった
  - 歩行者が他の障害物により隠れている
  - 人特有の輪郭が背景と区別できない

車両のフロント部分が損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を行なってください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。フロントウインドウが損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラシステムの設定と作動の点検を行なってください。

## 機能

- ▶ **作動/解除する：** マルチファンクションディスプレイで PRE-SAFE®ブレーキを作動または解除します (▶ 186 ページ)。
- PRE-SAFE®ブレーキが設定されていない場合は、マルチファンクションディスプレイに  マークが表示されます。

この機能は、以下の場合に警告を発します。

- 約 30 km/h またはそれ以上の速度で、数秒間にわたり、前方を走行している車両との間に保たれている距離が十分でない。  
メーターパネルの距離警告灯  が点灯します。
- 約 7 km/h またはそれ以上の速度で、先行車両または歩行者に急激に接近している。

断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの距離警告灯  が点灯します。

- ▶ ただちにブレーキを効かせ、状況を回避してください。

または

- ▶ 安全確認のうえ、危険回避の操作を行なってください。

**i** 衝突の危険性が高まった場合は、PRE-SAFE® (予期乗員保護措置) が作動します。

先行車両との衝突の危険性がある状態で、運転者がブレーキを効かせる、回避操作をとる、または著しく加速することを行なわなかった場合は、急ブレーキの適用レベルまで、車両が自動緊急ブレーキを効かせることがあります。自動緊急ブレーキは、切迫した事故の直前までは作動しません。

PRE-SAFE®ブレーキの介入は、以下によりいつでも解除することができます。

- アクセルペダルをさらに踏む
- キックダウンを作動させる
- ブレーキペダルを放す

以下では、PRE-SAFE®ブレーキのブレーキ操作は自動的に解除されます。

- 障害物を回避する操作を行なった
- 衝突の危険性がなくなった
- 車両前方に検知されていた障害物がなくなった

## ステアコントロール

### 全体的な注意事項

ステアコントロールは、車両を安定させるために必要な向きの操舵力をステアリングに伝達することにより運転者を支援します。

操舵支援は、特に以下の場合に行なわれません。

- ブレーキ時に、両方の右側車輪または両方の左側車輪が濡れた、または滑りやすい路面にある
- 車が横滑りをし始めた

### 重要な安全上の注意事項

① "重要な安全上の注意事項"の項目に従ってください (▶ 75 ページ)。

以下の場合、ステアコントロールによる操舵支援は行なわれません。

- ESP®が故障している
- ステアリングが故障している

ただし、パワーステアリングは作動し続けます。

## 盗難防止

### イモビライザー

イモビライザーにより、正規のキー以外で車両を始動することを防止します。

- ▶ **キーで待機状態にする**： エンジンスイッチからキーを取り外します。
- ▶ **キーレスゴーで待機状態にする**： イグニッションをオフにして、運転席ドアを開きます。
- ▶ **解除する**： エンジンを始動します。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。有効なキーが車内に残されている場合は、誰でもエンジンを始動することができます。

① エンジンを始動したときは常に、イモビライザーは解除されます。

### ATA (盗難防止警報システム)



- ▶ **待機状態にする**： キーまたはキーレスゴーで車両を施錠します。表示灯 ① が点滅します。約 15 秒後に警報システムが待機状態になります。
- ▶ **解除する**： キーまたはキーレスゴーで車両を解錠します。

または

- ▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

システムが待機状態で以下を開いた場合は、視覚的および聴覚的な警報が発せられます。

- ドア
- エマージェンシーキーによる車両
- トランクリッド
- ボンネット

- ▶ **キーで警報を停止する**： キーの  または  スイッチを押します。警報が停止します。

または

- ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します。
- ▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。警報が停止します。

- ▶ キーレスゴーを使用して警報を停止する：車外のドアハンドルを握ります。キーは車外にある必要があります。警報が停止します。

または

- ▶ ダッシュボードのキーレスゴースイッチを押します。キーは車内にある必要があります。警報が停止します。

例えば、警告を作動させた開いたドアを閉じた場合でも、警報は停止しません。

### けん引防止機能

#### 機能

けん引防止機能が待機状態のときに車両の傾きが変化した場合は、聴覚的および視覚的な警報が発せられます。例えば、車両の片側がジャッキアップされた場合に、このことが起こります。

#### 待機状態にする

- ▶ 以下のことを確認してください。
  - ドアが閉じている
  - トランクリッドが閉じている
 この後にのみ、けん引防止機能が待機状態になります。
- ▶ キーまたはキーレスゴーで車両を施錠します。約 60 秒後に、けん引防止機能は待機状態になります。

#### 解除する

- ▶ キーまたはキーレスゴーで車両を解錠します。
- または
- ▶ キーをエンジンスイッチに差し込みます。けん引防止機能は自動的に解除されます。

#### 解除する

COMAND システムを使用して、けん引防止機能を解除することができます。けん引防止機能の解除に関する情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

### 室内センサー

#### 機能

室内センサーが待機状態のときに車内で動きが検知された場合は、視覚的および聴覚的な警報が発せられます。例えば、誰かが車内に手を伸ばした場合などに起こります。

#### 待機状態にする

- ▶ 以下のことを確認してください。
  - サイドウィンドウが閉じている
  - ルームミラーやルーフトリムのグリップハンドルにマスコットなどの物が掛かっていない
 このことは、警報の誤作動を防ぎます。
- ▶ 以下のことを確認してください。
  - ドアが閉じている
  - トランクリッドが閉じている
 この場合のみ、室内センサーは待機状態になります。
- ▶ キーまたはキーレスゴーで車両を施錠します。約 30 秒後に、室内センサーは待機状態になります。

#### 解除する

- ▶ キーまたはキーレスゴーで車両を解錠します。
- または
- ▶ キーをエンジンスイッチに差し込みます。室内センサーが自動的に解除されます。

## 解除する

---

COMAND システムを使用して、室内センサーを解除することができます。室内センサーの解除に関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

役に立つ情報 .....	92
キー .....	92
ドア .....	97
トランク .....	99
サイドウインドウ .....	104
パノラミックルーフ .....	106

## 役に立つ情報

**i** この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

**i** メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご覧ください。(▷ 27 ページ)

## キー

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行い、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

#### ⚠ 警告

キーに、重い物や大きなアクセサリ等を付けていると、エンジンスイッチのキーが不意にまわるおそれがあります。

そのため、エンジンが停止するおそれがあります。事故の危険性があります。

キーには重い物や大きなアクセサリ等を付けしないでください。操作の邪魔になるアクセサリ等は、エンジンスイッチにキーを差し込む前に取り外してください。

**!** 強い磁場を発生する物の近くにキーを保管しないでください。磁場の影響で、リモコン機能が正常に機能しなくなるおそれがあります。

強い磁場は、強力な電気設備の近くで発生します。

以下にはキーを近づけないでください。

- 携帯電話や他のキーなどの電子機器
  - 硬貨や金属片などの金属物
  - 金属ケースなどの金属物の内部
- キーの機能に影響を与えるおそれがあります。

**キーレスゴースタート機能装備車**：パーセルシェルフの上またはトランク内にキーを保管しないでください。さもないと、キーレスゴースタートスイッチを使用しているエンジン始動時などに、キーが検知されないことがあります。

車両とキーとの間で定期的に行なわれる無線通信によるチェックにより、車内に有効なキーがあるかどうかを確認します。以下の様な場合に行なわれます。

- エンジン始動時
- 走行時
- ハンズフリーアクセスを使用するとき
- 車外のドアハンドルに触れたとき
- コンビニエンスクロージング機能の作動時

## キーの機能



- ① 車両の施錠
- ② トランクリッドの開閉
- ③ 車両の解錠

▶ **集中解錠する**：スイッチ ③ を押します。

解錠して約 40 秒以内に車両を開かなかった場合：

- 車両は再度施錠される
- 盗難防止警報システムが再度待機状態になる

▶ **集中施錠する**：スイッチ ① を押します。

キーにより、以下が集中施錠/解錠されます：

- ドア
- トランクリッド
- 燃料給油口フラップ

解錠したときは、方向指示灯が 1 回点滅します。施錠したときは、3 回点滅します。

① 車両が施錠されたことを確認できる、確認音を設定することもできます。COMAND システムを使用して、確認音を設定および解除することができます (デジタル版取扱説明書をご覧ください)。

① COMAND システムでロケイターライティングを設定しているときは、暗いときにリモコンを使用して車両を解錠し

た後に点灯します。ロケイターライティングの設定および解除に関する情報は、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

▶ **車外からトランクリッドを自動的に開く**：トランクリッドが開くまで、スイッチ ② を押して保持します。

## キーレスゴー

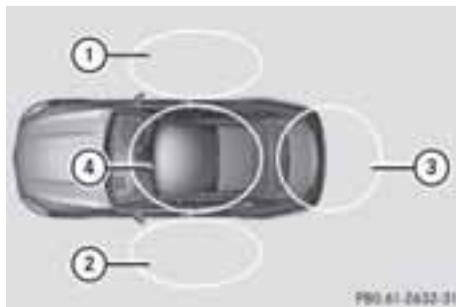
### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 危険

ペースメーカーまたは除細動器などの医療用電子機器を使用されている方：

キーレスゴーを使用するときは、キーと車両の間で電波の交信が行なわれます。電磁波が医療機器の機能に影響を与えるおそれがあります。致命的なけがをするおそれがあります。

車両を操作する前に、医師や医療用電子機器メーカーにキーレスゴーの電波の影響を確認してください。



キーレスゴーアンテナの検知範囲

- ① 右側外部アンテナの検知範囲 (キーレスゴー装備車両のみ)
- ② 左側外部アンテナの検知範囲 (キーレスゴー装備車両のみ)
- ③ リアアンテナの検知範囲
- ④ 車内アンテナの検知範囲

キーが車内にある場合、乗員の誰もがエンジンを始動できることに留意してください。

## 集中施錠および解錠

キーレスゴーを使用して、車両の始動、施錠または解錠ができます。この操作に必要なのはキーを携帯することのみです。キーレスゴー機能と従来のキーの機能を組み合わせることができます。たとえば、キーレスゴー操作で車両を解錠し、キーの  スイッチで施錠することができます。

運転席ドアと使用するハンドルのあるドアが両方とも閉じている必要があります。キーは車外にある必要があります。キーレスゴーで施錠または解錠するときは、キーと対応するドアハンドルの間の距離が 1 m 以上になってはいけません。

車両とキーとの間で定期的に行なわれる無線通信によるチェックにより、車内に有効なキーがあるかどうかを確認します。以下の様な場合に行なわれます。

- エンジン始動時
- 走行時
- ハンズフリーアクセスを使用するとき
- 車外のドアハンドルに触れたとき
- コンビニエンスクロージング機能の作動時



- ▶ **車両を解錠する**：ドアハンドルの内側面に触れます。
- ▶ **車両を施錠する**：センサー面  または  に触れます。

ドアハンドルの内側面に触れていないことを確認してください。

- ▶ **コンビエンスクロージング機能**：センサー面の凹部  に一定時間触れません。

## 解除する

長期間車両を使用しない場合は、キーレスゴーを解除することができます。キーはごくわずかな電力のみを使用し、それによりバッテリーの電力を節約できます。作動/解除時には、近くに車両がなくてもかまいません。

- ▶ **解除する**：素早く 2 回続けてキーの  スイッチを押します。

キーのバッテリーチェックランプが短時間 2 回点灯して、キーレスゴーが解除されます。

- ▶ **作動させる**：キーのいずれかのスイッチを押すか、あるいはエンジンスイッチにキーを差し込みます。キーレスゴーおよびその関連のすべての機能が、再度使用できるようになります。

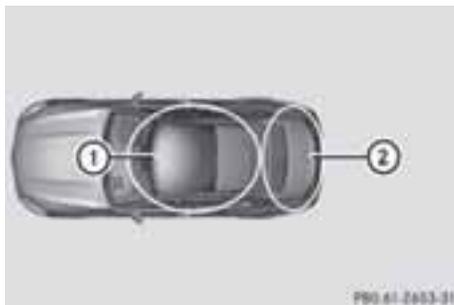
## キーレスゴースタート機能

### 危険

ペースメーカーまたは除細動器などの医療用電子機器を使用されている方：

キーレスゴースイッチを操作するときは、キーと車両の間で電波の通信が行なわれます。電磁波が医療機器の機能に影響を与えるおそれがあります。致命的なけがをするおそれがあります。

車両を操作する前に、そのようなシステムからの放射により起こりうる影響について、医師や医療機器メーカーにお問い合わせください。



キーレスゴーアンテナの検知範囲

- ① 車内アンテナの検知範囲
- ② リアアンテナの検知範囲

キーが車内にある場合は、乗員の誰もがエンジンを始動できることに留意してください。

### ロックシステムの設定変更

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

### エマージェンシーキー

#### 全体的な注意事項

キーまたはキーレスゴーで車両を施錠または解錠できなくなったときは、エマージェンシーキーを使用してください。

エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。警報を停止してください(▶ 87 ページ)。

エマージェンシーキーで車両を解錠しても、燃料給油口フラップは自動的に解錠されません。

- ▶ **燃料給油口フラップを解錠する**： エンジンスイッチにキーを差し込みます。

### エマージェンシーキーの取り外し



- ▶ ロック解除キャッチ①を矢印の方向に押しながらエマージェンシーキー②をキーから取り外します。

詳細情報は、以下をご覧ください。

- 運転席ドアの解錠 (▶ 97 ページ)
- トランクの解錠 (▶ 103 ページ)
- 車両の施錠 (▶ 98 ページ)

### エマージェンシーキーの挿入

- ▶ 固定されて、ロック解除キャッチ①が基本位置に戻るまで、エマージェンシーキー②をキーに完全に押し込みます。

### キーの電池

#### 重要な安全上の注意事項

##### ⚠ 警告

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。電池を飲み込んでしまうと、深刻な健康上の問題を引き起こすことがあります。致命的なけがをするおそれがあります。

電池は子供の手の届かないところに置いてください。電池を飲み込んでしまった場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

## 📌 環境に関する注意



電池には汚染物質が含まれています。家庭ごみと一緒に廃棄することは法律で禁止されています。使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。



電池は環境保護の観点から責任を持って適切に廃棄してください。使用済みの電池はメルセデス・ベンツ指定サービス工場または使用済み電池の収集場までお持ちください。

電池の交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

## 電池の点検



- ▶  または  スイッチを押します。バッテリーチェックランプ ① が短時間点灯した場合は、電池は正常です。バッテリーチェックランプ ① が点滅しない場合は、電池が消耗しています。
- ▶ 電池を交換してください (▶ 96 ページ)。

① 車両の信号受信範囲内で  または  スイッチを押してキーの電池を点検したときは以下ようになります：

- 車両が施錠されます、または
- 車両が解錠されます

① 電池はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手することができます。

## 電池の交換

CR 2025 3 V の電池が必要です。

- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▶ 95 ページ)。



- ▶ 電池収納部カバー ① が開くまで、キーの開口部にエマージェンシーキー ② を押し込みます。このときは、電池収納部カバー ① を押さえて閉じないようにしてください。
- ▶ 電池収納部カバー ① を取り外します。



- ▶ 電池③が落ちるまで、手のひらでキーを繰り返したたきます。
- ▶ プラス面が上になるようにして、新しい電池を差し込みます。このときは、毛羽立ちのない布を使用してください。
- ▶ 電池の表面に糸くず、脂分、汚れがないことを確認してください。
- ▶ 電池収納部カバー①の前側にある凸部を本体に差し込み、押して閉じます。
- ▶ エマージェンシーキー②をキーに差し込みます。
- ▶ 車両で、キーのすべてのスイッチが正常に機能することを確認します。

## キーのトラブル

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

## ドア

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行い、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者の

いない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

手荷物や積載物は、なるべくトランクに収納してください。積載のガイドライン(▶ 222 ページ)に従ってください。

### デジタル版取扱説明書の情報

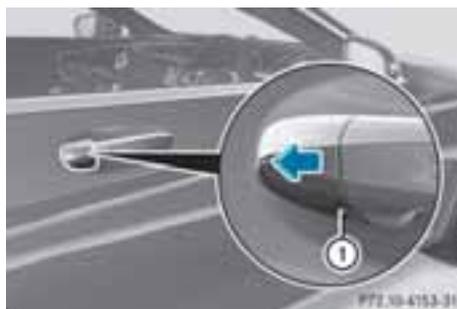
デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 車内からドアを解錠して開く
- 車内からの車両の集中施錠および解錠
- 車速感応ドアロック
- クロージングサポーター

### 運転席ドアの解錠(エマージェンシーキー)

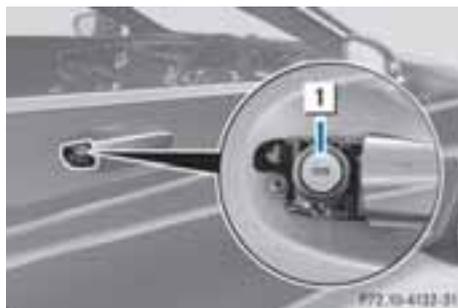
キーまたはキーレスゴーで車両を施錠または解錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用してください。

- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します(▶ 95 ページ)。



- ▶ エマージェンシーキーを保護キャップの開閉部①に差し込みます。
- ▶ ドアハンドルを引いて保持します。

- ▶ 外れるまで、エマージェンシーキー上の保護キャップを車両からできるだけまっすぐに引きます。
- ▶ ドアハンドルを放します。



- ▶ 運転席ドアのキーシリンダーに、エマージェンシーキーをいっぱいまで差し込みます。
- ▶ ①の位置まで、エマージェンシーキーを時計回りにまわします。ロックノブが上がり、ドアが解錠されます。

**①** 左ハンドル車両では、エマージェンシーキーを反時計回りにまわします。

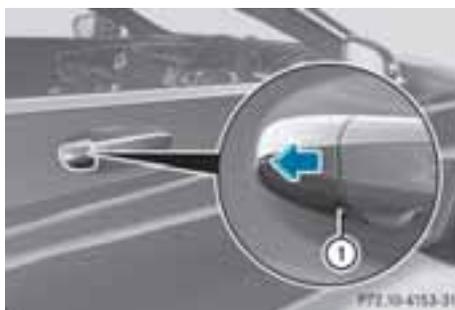
- ▶ エマージェンシーキーをまわして戻し、抜きます。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます (▶ 95 ページ)。
- ▶ 固定され、確実にまるまで、保護キャップをロックシリンダーに慎重に押し込みます。このときは、ドアハンドルを引かないでください。

エマージェンシーキーを使用して運転席ドアを解錠して開いた場合は、盗難防止警報システムが作動します。警報を停止してください (▶ 87 ページ)。

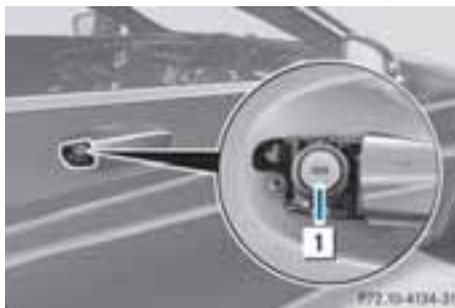
### 車両の施錠 (エマージェンシーキー)

キーまたはキーレスゴーで車両を施錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用してください。

- ▶ 運転席ドアを開きます。
- ▶ 助手席ドアとトランクリッドを閉じます。
- ▶ ロックスイッチ (▶ 97 ページ)を押します。
- ▶ 助手席ドアのロックノブが見えていないことを確認します。必要な場合は、ロックノブを手で押し下げます。
- ▶ 運転席ドアを閉じます。
- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▶ 95 ページ)。



- ▶ エマージェンシーキーを保護キャップの開口部 ① に差し込みます。
- ▶ ドアハンドルを引いて保持します。
- ▶ 外れるまで、エマージェンシーキー上の保護キャップを車両からできるだけまっすぐに引きます。
- ▶ ドアハンドルを放します。



- ▶ 運転席ドアのキーシリンダーに、エマージェンシーキーをいっぱいまで差し込みます。

- ▶ ①の位置まで、エマージェンシーキーを反時計回りにまわします。ロックノブが下がり、運転席ドアが施錠されます。
- ① 左ハンドル車両では、エマージェンシーキーを時計回りにまわします。
- ▶ エマージェンシーキーをまわして戻し、抜きます。
- ▶ ドアとトランクリッドが施錠されていることを確認します。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます (▷ 95 ページ)。
- ▶ 固定され、確実にはまるまで、保護キャップをロックシリンダーに慎重に押し込みます。このときは、ドアハンドルを引かないでください。

① 上記のように車両を施錠した場合は、燃料給油口フラップは施錠されません。盗難防止警報システムは待機状態になりません。

## トランク

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

荷物や重い荷物が固定されていない、または十分に固定されていないと、すべったり、放り出されて乗員にぶつかるおそれがあります。特にブレーキ操作時や急な進路変更時にけがをする可能性があります。

荷物は放り出されないように、必ず収納してください。走行前に、荷物や積載物などがすべったりひっくり返ったりしないように固定されていることを確認してください。

■ トランクは、上方に開きます。そのため、トランクを開くときは、上方に十分なスペースがあることを確認してください。

① トランクリッドの開口角度を COMAND システムで制限することができます (別冊の取扱説明書をご覧ください)。

① トランクリッドを開いたときの寸法については、「サービスデータ」の (▷ 292 ページ) をご覧ください。

トランク内にキーを残さないようにしてください。閉め出されるおそれがあります。

手荷物や積載物は、なるべくトランクに収納してください。積載のガイドライン (▷ 222 ページ) に従ってください。

### トランクリッドのリバース機能付障害物検知

自動開閉トランクリッド装備車両は、トランクリッドにリバース機能付自動障害物検知が装備されています。自動開閉時に固い障害物がトランクリッドをブロックした、または妨げた場合は、この作動は停止します。閉じている作動の間にトランクリッドが停止した場合は、再度自動的に開きます。リバース機能付障害物自動検知機能は支援機能に過ぎません。トランクリッド開閉時のお客様の注意の代わりになるものではありません。

#### ⚠ 警告

リバース機能は以下には反応しません。

- 小さな指などの、やわらかく、軽く、薄いもの
- 閉じるまで残り 8 mm 以下となったこれらの状況では、人が挟まれることをリバース機能が回避できません。けがのおそれがあります。

閉じているときは、閉じている範囲に身体の一部がないことを確認してください。

誰かが挟まれた場合：

- キーの  スイッチを押す、または
- 運転席ドアのリモート操作スイッチを引く、または押す、または
- トランクリッドのクローザーまたはロックスイッチを押します。

## 車外からの自動開閉

### 重要な安全上の注意事項

#### 警告

トランクリッドが自動で閉じている間に、身体の一部が挟まれるおそれがあります。さらに、閉じている作動中に、例えば子供など、人が閉じる範囲に立っていたり、閉じる範囲に入ることがあります。けがのおそれがあります。

閉じている作動中は、閉じる範囲の周辺に誰もいないことを確認してください。

閉じている作動を停止するためには、以下の操作のいずれかを行なってください。

- キーの  スイッチを押します。
- 運転席ドアのリモート操作スイッチを引く、または押します。
- トランクリッドのクローザーまたはロックスイッチを押します。

**!** トランクは、上方に開きます。そのため、トランクを開くときは、上方に十分なスペースがあることを確認してください。

**i** トランクリッドを開いたときの寸法は、「車両データ」の項目にあります（▶ 292 ページ）。

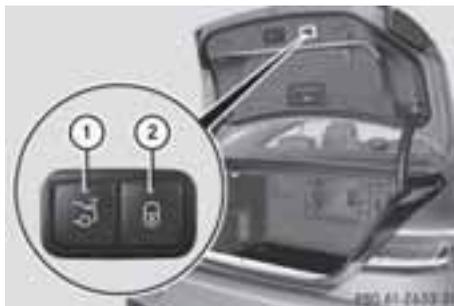
## 開く

キーを使用して、トランクリッドを自動的に開くことができます。

- ▶ トランクリッドが開くまで、キーの  スイッチを押し続けます。

## 閉じる

キーまたはトランクリッドのクローザースイッチを使用して、トランクリッドを自動的に閉じることができます。



- ▶ トランクリッドのクローザースイッチ ① を押して放します。

または

- ▶ キーが車両のすぐ近くにある場合に、キーの  スイッチを押します。トランクリッドが閉じ始めたら、スイッチを放すことができます。

### ▶ 閉じる作動を中止する

- キーの  スイッチを押す、または
- トランクリッドのクローザースイッチ ① またはロックスイッチ ② を押す、または
- 運転席ドアのリモート操作スイッチを押す、または
- ハンズフリーアクセス装備車両：バンパー下のセンサー検知範囲に足を動かす。

**i** 閉じる作動が中止された後にキーの  スイッチを押した、またはハンズフリーアクセスを作動させた場合は、トランクリッドが開きます。

**自動開閉トランクリッドおよびキーレスゴー装備車両：**すべてのドアが閉じているときは、トランクリッドを閉じて、同時に車両を施錠することができます。キーは車両の後方になければなりません。

▶ トランクリッドのロックスイッチ ② を押して放します。

キーレスゴーキーが車外にあるときは、トランクリッドが閉じて車両は施錠されます。

❶ キーレスゴーがトランク内でキーを検知した場合は、トランクリッドは閉じた後に再度開きます。

キーレスゴーが車両の外側で 2 番目のキーを検知した場合は、トランクリッドは閉じたままになります。

## ハンズフリーアクセス

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

車両の排気システムが非常に熱くなることがあります。ハンズフリーアクセスを使用する場合は、排気システムに触れるとやけどをすることがあります。けがの危険性があります。センサーの検知範囲内でのみ、足を動かす動作をしていることを常に確認してください。

❶ キーがキーレスゴーの後方検知範囲内にある場合は、例えば以下の状況ではトランクが不意に開くことがあります。

- 洗車機の使用
- 高圧式スプレーガンの使用

キーが車両から少なくとも 3 m 離れていることを確認してください。

### 全体的な注意事項

キーレスゴーとハンズフリーアクセスにより、手を使わずにトランクリッドを開閉したり、作動を停止することができます。両手がふさがっているときに便利で

す。この操作にはバンパーの下で、足で蹴る動作を行なってください。

以下の点に注意してください。

- お客様ご自身がキーレスゴーキーを携行してください。キーレスゴーのキーが車両後方の検知範囲になければなりません。
- 足で蹴る動作を行なうときは、地面にしっかりと立ち、車両の後方に十分な空間があることを確認してください。さもないと、凍結した場所などでバランスを失うおそれがあります。



- センサー ①の検知範囲内でのみ、足で蹴る動作をしていることを常に確認してください。
- この操作を行なう場合、後方エリアから少なくとも 30 cm 離れて立ちます。
- 足で蹴る動作を行なっている間にバンパーと接触しないようにしてください。さもないと、センサーが正しく機能しないことがあります。
- エンジンがかかっているときは、ハンズフリーアクセスは作動しません。
- キーレスゴーのキーが車両後方のキーレスゴー検知範囲内にある場合、ハンズフリーアクセスが作動することがあります。例えば以下の様な場合に、ト

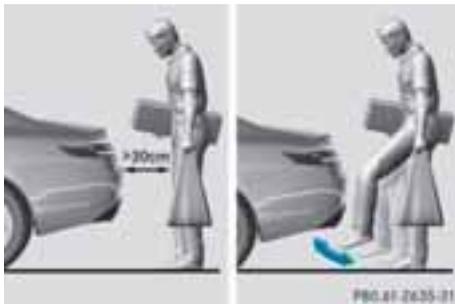
トランクリッドが不意に開いたり閉じたりする可能性があります。

- トランクの端に座る
- 車両後方で物を降ろす、または持ち上げる
- 車両後部を清掃する

上記のような状況では、キーレスゴーキーをポケット、バッグなどに入れて携行しないでください。これによってトランクが不意に開いたり閉じたりすることを防ぎます。

- 路面の塩分によるセンサー①周辺の汚れは、機能を制限することがあります。
- 義足でハンズフリーアクセスを使用した場合、機能が制限されることがあります。

## 作動



- ▶ **開閉する：**バンパー下側のセンサー検知範囲内①で、足で蹴る動作をします。トランクリッドの開閉時には、警告音が鳴ります。
- ▶ **何度試みても、トランクリッドが開かないとき：**少なくとも 10 秒間待ち、その後もう一度バンパーの下で足で蹴る動作をしてください。

**i** バンパーの下に長時間足を入れていた場合、トランクリッドは開閉しません。この場合は、足で蹴る動作を素早く繰り返します。

開閉操作を停止する：

- バンパー下のセンサー検知範囲内①に足で蹴る動作をする、または
- トランクリッドのクローザースイッチを押す、または
- キーの  スイッチを押す

トランクリッドの閉じる作動が停止した場合：

- バンパーの下で再度足を動かすと、トランクリッドが開きます

トランクリッドの開く作動が停止した場合：

- バンパーの下で再度足を動かすと、トランクリッドが閉じます

## 車内からの自動開閉

### 重要な安全上の注意事項

#### 警告

トランクリッドが自動で閉じている間に、身体の一部が挟まれるおそれがあります。さらに、閉じている作動中に、例えば子供など、人が閉じる範囲に立っていたり、閉じる範囲に入ることがあります。けがのおそれがあります。

閉じている作動中は、閉じる範囲の周辺に誰もいないことを確認してください。

閉じている作動を停止するためには、以下の操作のいずれかを行なってください。

- キーの  スイッチを押します。
- 運転席ドアのリモート操作スイッチを引く、または押します。
- トランクリッドのクローザーまたはロックスイッチを押します。

**!** トランクは、上方に開きます。そのため、トランクを開くときは、上方に十分なスペースがあることを確認してください。

① トランクリッドを開いたときの寸法は、「車両データ」の項目にあります (▷ 292 ページ)。

## 開閉



車両が停止していて、解錠されているときに、運転席からトランクリッドを開閉することができます。

- ▶ **開く：** トランクリッドが開くまで、トランクリッド用のリモート操作スイッチ ① を引きます。
- ▶ **閉じる：** トランクリッドが完全に閉じるまで、トランクリッド用のリモート操作スイッチ ① を押します。

## トランクの独立施錠

トランクを独立して施錠することができます。その後に車両を集中解錠しても、トランクは施錠されたままで開くことはできません。



トランクを独立して施錠する機能を作動させる

- ▶ トランクリッドを閉じてください。
- ▶ グローブボックスを開きます。
- ▶ スイッチを ② の位置に押しします。  
車両が集中して解錠された場合は、トランクは施錠されたままです。

① グローブボックスを施錠することもできます (▷ 223 ページ)。

トランクを独立して施錠する機能を解除する

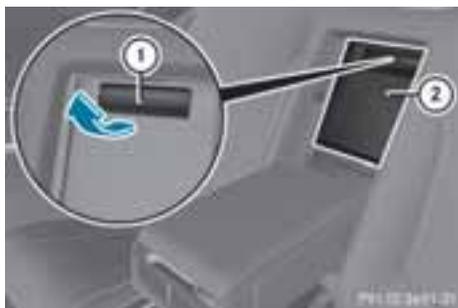
- ▶ グローブボックスを開きます。
- ▶ スイッチを ① の位置に押しします。  
車両が集中して解錠された場合は、トランクも解錠されます。

## トランクの解錠 (エマージェンシーキー)

❗ トランクは、上方に開きます。そのため、トランクを開くときは、上方に十分なスペースがあることを確認してください。

トランクリッドが解錠できなくなった場合：

- キーを使用して、または
- ハンズフリーアクセスを使用して、または
- ドアコントロールパネルのリモート操作スイッチを使用する：  
エマージェンシーリリースを使用する。
- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 95 ページ)。
- ▶ リアシートアームレストを倒します。



- ▶ ハンドル ① を引き、カバー ② を下に倒します。



- ▶ エマージェンシーキーの先端を開口部 ③ に差し込んで、まわします。ロックカバーが外れます。



- ① 基本位置
- ② 解錠する

- ▶ 停止するまで、エマージェンシーキーをキーシリンダーに差し込みます。
- ▶ エマージェンシーキーを ① の位置から ② の位置まで、いっぱいまで反時計回りにまわします。トランクが解錠され、少し開きます。
- ▶ エマージェンシーキーを ① の位置にまわして戻し、抜きます。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます。
- ▶ ロックカバーを閉じます。
- ▶ 固定されるまで、カバー ② を上方に閉じます。
- ▶ リアシートのアームレストを起こします。

**i** 車両を施錠すると(▶ 98 ページ)、トランクリッドも施錠されます。

## サイドウィンドウ

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

サイドウィンドウを開けているときに、サイドウィンドウが動くにつれて、体の一部がサイドウィンドウとドアフレームの間に引き込まれて挟まるおそれがあります。けがををするおそれがあります。

開けている最中は、誰もサイドウィンドウに触れないようにしてください。誰かが挟まれてしまった場合は、スイッチを放すか、あるいはスイッチを引いてもう一度サイドウィンドウを閉じます。

#### ⚠ 警告

閉じる部分に身体を近づけていると、サイドウィンドウを閉じる際に挟まれるおそれがあります。けがををする危険があります。

閉じる手順の間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。誰かが挟まれたら、スイッチを放すか、あるいは

はスイッチを押してサイドウィンドウをもう一度開きます。

### ⚠ 警告

とくに保護者のいない状態で子供を車内に残すと、サイドウィンドウを操作して挟まれるおそれがあります。けがをすることおそれがあります。

リアサイドウィンドウのチャイルドブルーブロックを作動させます。車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

### サイドウィンドウのリバース機能

フロントサイドウィンドウには自動リバース機能が装備されています。自動で閉じている間に固い障害物がフロントサイドウィンドウの上方に動くことをブロックした、または妨げた場合は、サイドウィンドウは再度自動的に開きます。手動で閉じている動作中は、対応するスイッチを放した後にのみ、サイドウィンドウは自動的に再度開きます。ただし、自動リバース機能は単なる補助にすぎず、サイドウィンドウを閉じるときのお客様の注意の代わりになるものではありません。

### ⚠ 警告

リバース機能は以下では反応しません：

- 小さな指などの、やわらかく、軽く、薄いもの
- リセットの間

これらの状況では、誰かが挟まれることをリバース機能が回避できないことを意味しています。けがの危険性があります。閉じているときは、閉じている範囲に身体の一部がないことを確認してください。誰かが挟まれた場合は、スイッチを押して、サイドウィンドウを再度開いてください。

### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- サイドウィンドウの開閉
- コンビニエンスオープニング機能
- コンビニエンスクロージング機能
- サイドウィンドウのリセット

## サイドウィンドウのトラブル

### ⚠ 警告

サイドウィンドウをブロックされたまたはリセットされた後すぐに再度閉じる場合、サイドウィンドウはより大きなまたは最大の力で閉じます。リバーズ機能は作動しません。この手順のとき、身体の一部を閉じる部分に挟み込まれるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

閉じている間は、身体の一部を閉じる部分に近づけないようにしてください。閉動作を止めるには、スイッチを放すか、サイドウィンドウを再度開くためにスイッチをもう一度押します。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ガイドレールなどに落ち葉などの障害物が挟まっているため、サイドウィンドウが全閉しない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 障害物を取り除いてください。</li> <li>▶ サイドウィンドウを閉じます。</li> </ul>
サイドウィンドウが全閉しない、また原因がわからない。	<p>サイドウィンドウを閉じているとき、ウィンドウが障害物を検知して停止し、その位置から少し下降した場合は、以下の操作を行なってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ その状態からただちに再度スイッチを引き続けて、サイドウィンドウを閉じます。 サイドウィンドウは、より強い力で閉じます。</li> </ul> <p>サイドウィンドウを閉じているときに、ウィンドウが再度障害物を検知して停止し、その位置から少し下降した場合は、以下の操作を行なってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ その状態からただちに再度スイッチを引き続けて、サイドウィンドウを閉じます。 サイドウィンドウは挟み込み防止機能が作動しない状態で閉じます。</li> </ul>

## パノラミックルーフ

### パノラミックルーフの電動ブラインドの操作

#### 重要な安全上の注意事項

### ⚠ 警告

電動ブラインドを開閉しているときは、身体の一部が電動ブラインドとフレーム

の間に挟まれるおそれがあります。けがのおそれがあります。

開閉作動の間は、身体を電動ブラインドの動いている部分に近づけないようにしてください。

人が挟まれたとき：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動開閉作動中に、いずれかの方向にスイッチを押します。

開閉作動が停止します。

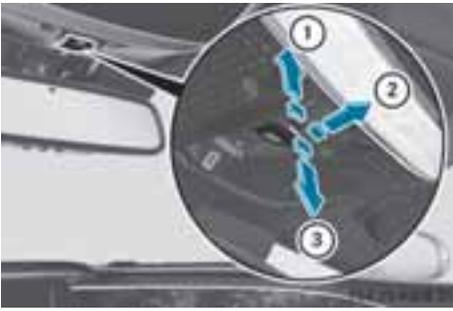
電動ブラインドは日差しから車内を遮ります。

**電動ブラインドのリバース機能**

電動ブラインドには、自動リバース機能が装備されています。閉じている作動中に、障害物が電動ブラインドをブロックした、または妨げた場合は、電動ブラインドは自動的に再度少し開きます。自動リバース機能は単なる補助にすぎず、電動ブラインドを閉じるときのお客様の注意の代わりになるものではありません。

**⚠ 警告**  
 特に、リバース機能は小さな指のように柔らかい、軽いおよび薄いものには反応しません。リバース機能は、これらの状況で挟み込まれることを回避することはできません。けがの危険性があります。閉じている間は、身体の一部を電動ブラインドの動いている範囲内に近づけないようにしてください。  
 挟み込まれたとき：  
 ・ただちにスイッチを放すか、あるいは  
 ・自動閉動作中に、どの方向でもスイッチを押します。  
 閉動作が停止します。

**電動ブラインドの開閉**



- ① 開く
- ② 開く
- ③ 閉じる

▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします (p 131 ページ)。

▶  スイッチを ① の方向に押すか、または ② の方向に引きます。  
 電動ブラインドが開きます。

▶  スイッチを ③ の方向に引きます。  
 電動ブラインドが閉じます。

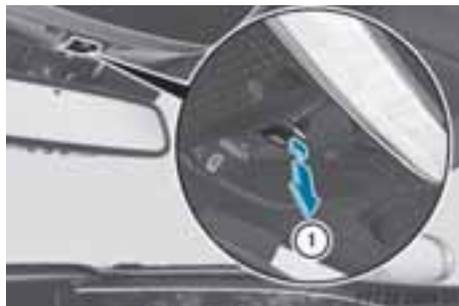
**i** 手応えがあるところを越えるまで  スイッチを押すか、引いた場合は、対応する方向で自動作動が開始します。再度押すか、または引くことにより自動作動を中止することができます。



**マジックスカイコントロール非装備車両：** スイッチ ① を使用して自動作動を開始、および中止することもできます。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** にまわします (▶ 131 ページ)。
- ▶ スイッチ **①** を押します。
  - 電動ブラインドが完全に閉じている場合は、自動的に完全に開きます。
  - 電動ブラインドが完全に閉じていない場合は、自動的に完全に閉じます。
  - 電動ブラインドが動いている場合は、自動作動が中止されます。

### パノラミックルーフの電動ブラインドのリセット



スムーズに作動しない場合は、電動ブラインドをリセットします。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします (▶ 131 ページ)。
- ▶ 電動ブラインドが完全に閉じるまで、手応えのあるところまで  スイッチを矢印の方向 **①** に繰り返し引きます。
- ▶ 数秒間、 スイッチを引いたまま保持します。
- ▶ 電動ブラインド (▶ 106 ページ) が再度全開できることを確認します。
- ▶ そうでない場合は、上の手順を再度繰り返してください。
- ▶ 電動ブラインドがまだスムーズに作動しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

### マジックスカイコントロール

#### 全体的な注意事項

マジックスカイコントロールは、電氣的に透明度を変化させることができるガラスルーフです。

マジックスカイコントロールは、暗い状態および半透明の状態の間で切り替えることができます。

**i** キーを **0** の位置にまわすか、キーを取り外したときは、少しするとマジックスカイコントロールは自動的に暗くなります。

#### 感電のおそれがあります

##### 危険

マジックスカイコントロールは高電圧を使用して作動します。パノラミックルーフ裏のルーファイニングが損傷している、または取り外されている場合は、電気部品が露出します。これらの構成部品に触れると、電気ショックを受けるおそれがあります。致命的なけがをするおそれがあります。

- パノラミックルーフ裏のルーファイニングは取り外さないでください。
- ルーファイニングが損傷している場合は、その裏の電気部品に触れないでください。
- マジックスカイコントロールに関わる作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

マジックスカイコントロールの高電圧構成部品は、ルーファイニング上で保護されています。

マジックスカイコントロールの変圧器には、高電圧に関する警告を行なう、高電圧のマークが刻印されています。高電圧部分のケーブルはオレンジ色です。

## マジックスカイコントロールの操作



- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします (▶ 131 ページ)。エンジンを停止する前に設定されていた状態に、マジックスカイコントロールが切り替わります。
  - ▶ **透明度を切り替える**：スイッチ **①** を押します。
- i** 氷点下の気温では変化が遅くなり、不安定になります。作動全体にやや時間がかかることがあります。

役に立つ情報 .....	112
運転席の適切なシートポジション .....	112
シート .....	113
ステアリング .....	115
ミラー .....	115
メモリー機能 .....	116

## 役に立つ情報

**i** この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

**i** メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて情報をご覧ください。(p 27 ページ)

## 運転席の適切なシートポジション

## ⚠ 警告

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。



▶ シート調整に関する安全上のガイドラインに従ってください (p 113 ページ)。

▶ シート ③ が正しく調整されていることを確認してください (p 114 ページ)。

シートを調整するときは、以下の点を確認してください。

- 運転席エアバッグから十分に離れている
- 通常の起きた姿勢で座っている
- シートベルトを正しく着用できる
- ほぼ垂直の位置になるようにバックレストを調整している
- 大腿部が軽く支えられるようにシートの角度を調整している
- ペダルを正しく踏むことができる

▶ ヘッドレストが適切に調整されていることを確認してください。

その際、ヘッドレストの中央が目の高さに調整され、後頭部がヘッドレストに支えられていることを確認してください。

▶ ステアリング調整に関する安全上のガイドラインに従ってください (p 115 ページ)。

▶ ステアリング ① が正しく調整されていることを確認してください (p 115 ページ)。

ステアリングを調整するときは、以下の点を確認してください。

- 腕を軽く曲げた状態で、ステアリングを握ることができる
  - 脚を自由に動かすことができる
  - メーターパネル内のすべての表示が確実に確認できる
- ▶ シートベルトに関する安全上のガイドラインに従ってください (p 46 ページ)。
- ▶ シートベルト ② を正しく着用しているかどうかを確認します (p 48 ページ)。

シートベルトは以下の状態でなければなりません。

- 身体に密着している
- 肩の中央にかかっている
- 腰の骨盤部分にかかっている
- ▶ 走行する前に、ルームミラーとドアミラーを道路と交通状況がよく見える角度に調整してください (▶ 115 ページ)。
- ▶ メモリー機能を使用して、シート、ステアリングおよびドアミラーの設定を保存します。(▶ 116 ページ)

## シート

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

保護者のいない状態で、お子様がシートを調整すると、挟み込まれる可能性があります。けがの危険性があります。車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。

エンジンスイッチにキーがないときでも、シートを調整することができます。

#### ⚠ 警告

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。

#### ⚠ 警告

シートの高さは慎重に調整しないと、挟み込まれて負傷するおそれがあります。

とくに子供は、電動シート調整スイッチを誤って押ししまい、挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

シートが動いている間は、シート調整システムのレバー部品の下に手や身体などを入れないでください。

#### ⚠ 警告

シートを調整するとき、シートガイドレールなどに挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

シートを調整する場合、身体がシートの動いている部分に触れていないということを確認してください。

#### ⚠ 警告

ヘッドレストが合っておらず、正しく調整されていない場合、本来の機能を果たすことができなくなります。これにより、事故またはブレーキ作動時に頭部および首周りにけがをする危険性が高まります。必ずヘッドレストを取り付けた状態で走行してください。走行を開始する前に、ヘッドレストの中央が乗員の目の高さにあることを確認してください。

#### ⚠ 警告

バックレストをほぼ垂直の位置に動かしていない場合は、シートベルトは意図された保護レベルを発揮しません。ブレーキ時または事故の場合に、シートベルトの下側にもぐり込み、腹部または頸部などがけがを負うおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

走行を開始する前に、シートを正しい位置に調整してください。バックレストがほぼ垂直の位置にあり、シートベルトのショルダー部分が肩の中央にかかっていることを常に確認してください。

❗ シートとシートヒーターの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。
- シートカバーが濡れたときは、シートヒーターを使用しないでください。シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- シートカバーを清掃してください。"日常の手入れ"をご覧ください。
- シートの上に重い物を載せないでください。また、シートクッションの上にナイフやくぎ、工具などの鋭利な物を置かないでください。シートはできるだけ人を乗せるためだけに使用してください。
- シートヒーターの使用中は、ブランケットやコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシート、補助シートなどにより、シートを覆わないでください。

❗ シートの前後位置を調整するときは、足元やシートの下または後方に物が無いことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- シートの調整
- ヘッドレストの調整
- アクティブマルチコントロールシートバックの調整
- 電動ランバーサポートの調整
- シートベンチレーター作動/停止

### シートヒーターの作動/停止

#### 作動/停止

#### ⚠ 警告

シートヒーターを連続して使用すると、シートクッションおよびバックレストが異常に過熱する原因となります。高温により、温度変化を感知できにくい乗員や、異常な高温に対処できない乗員の健康に悪影響を与えたり、低温火傷を起こすおそれがあります。けがの危険性があります。

したがって、シートヒーターを連続して使用しないでください。

スイッチの3つの赤い表示灯は、選択したヒーターレベルを表しています。

約8分後に、レベル**3**からレベル**2**へ、システムが自動的に切り替わります。

約10分後に、レベル**2**からレベル**1**へ、システムが自動的に切り替わります。

レベル**1**に設定した約20分後に、システムが自動的に停止します。

#### フロントシート



- ▶ エンジンスイッチのキーを**1**または**2**の位置にまわします (▶ 131 ページ)。
- ▶ **作動させる**：希望のヒーターレベルが設定されるまで、スイッチ**①**を繰り返し押し押します。
- ▶ **停止する**：すべての表示灯が消灯するまで、スイッチ**①**を繰り返し押し押します。

**i** バッテリー電圧が非常に低下した場合は、シートヒーターが停止することがあります。

## リアシート



- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします (▶ 131 ページ)。
- ▶ **作動させる**：希望のヒーターレベルが設定されるまで、スイッチ **①** を繰り返し押しします。
- ▶ **停止する**：すべての表示灯が消灯するまで、スイッチ **①** を繰り返し押しします。

**i** バッテリー電圧が非常に低下した場合は、シートヒーターが停止することがあります。

## シートヒーターのトラブル

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

## ステアリング

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
  - シートベルトを装着する
- 事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。

#### ⚠ 警告

子供がステアリングを調整するとステアリングに挟まれる可能性があります。けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

ステアリングは、エンジンスイッチからキーを抜いても位置の調整ができます。

### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ステアリング調整レバー
- ステアリングヒーター
- イージーエントリー/エグジジット機能

## ミラー

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ルームミラー
- ドアミラー
- 自動防眩ルームミラー&ドアミラー (運転席側)
- リバースポジション機能付ドアミラー (助手席側)

## メモリー機能

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 設定の保存
- 記憶された位置を呼び出す

役に立つ情報 .....	118
車外ライト .....	118
ルームライト .....	122
電球の交換 .....	122
フロントワイパー .....	123

## 役に立つ情報

**i** この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

**i** メルセデス・ベンツ指定サービス工場  
で情報をご覧ください。(▶ 27 ページ)

## 車外ライト

## 全体的な注意事項

日中にライトを点灯しないで走行したい場合は、マルチファンクションディスプレイで"デイトタイムドライビングライト"機能をオフにしてください(▶ 186 ページ)。

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 非常点滅灯
- ヘッドライト内側の曇り

## 車外ライトの設定

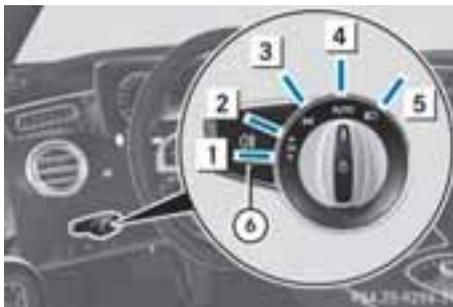
## 設定オプション

以下によって車外ライトを設定できます。

- ライトスイッチを使用して
- コンビネーションスイッチを使用して(▶ 119 ページ)

## ライトスイッチ

## 操作



- 1 **←P** 左側パーキングランプ
- 2 **P→** 右側パーキングランプ
- 3 **☰** 車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明
- 4 **AUTO** ヘッドライトのオートモード、ライトセンサーによる制御
- 5 **☰** ロービーム/ハイビームヘッドライト
- 6 **☷** リアフォグランプ

車両から離れるときに警告音が鳴る場合は、ライトが点灯していることがあります。

▶ ライトスイッチを **AUTO** にまわします。

車外ライト(車幅灯/パーキングランプを除く)は、以下の操作を行なうと自動的に消灯します。

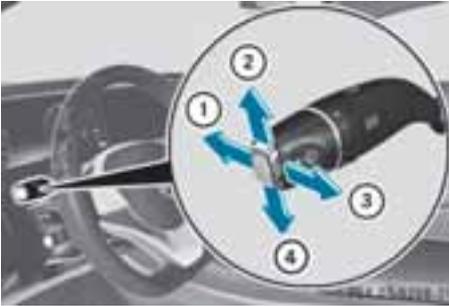
- エンジンスイッチからキーを抜く
- キーが **O** の位置のときに運転席ドアを開く

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ヘッドライトのオートモード
- ロービームヘッドライト
- リアフォグランプ
- 車幅灯
- パーキングランプ

## コンビネーションスイッチ



- ① ハイビームヘッドライト
- ② 方向指示灯、右
- ③ パッシングライト
- ④ 方向指示灯、左

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 方向指示灯
- ハイビームヘッドライト
- パッシングライト

## インテリジェントライトシステム

## 全体的な注意事項

インテリジェントライトシステムは、実際の走行や天候状況に合わせてヘッドライトを自動的に調整するシステムです。車両速度や天候状況などに応じて路面の照射を向上させる先端機能を提供します。システムには、アクティブライトシステムやコーナリングライト、ハイウェイモード、フォグランプ強化機能が含まれます。システムは周囲が暗いときのみ作動します。

マルチファンクションディスプレイを使用して"インテリジェントライトシステム"機能を作動させたり解除したりできます(▶ 186 ページ)。

## アクティブライトシステム



アクティブライトシステムは、前輪の操舵角に応じてヘッドライトを動かすシステムです。そのため、走行中はステアリングを操作した方向が常に照射されます。このシステムにより、歩行者、自転車、動物などを容易に認識することができます。

**作動：** ライトが点灯しているとき

## コーナリングライト機能



コーナリングライトは、コーナリング時に進行方向の路面を広く照射し、夜間の交差点などで運転者の視界を向上させます。ロービームヘッドライトが点灯しているときのみ、作動します。

**作動：**

- 40km/h 以下の速度で走行していて、方向指示灯を作動させた、またはステアリングをまわした場合
- 40km/h～70km/h の間の速度で走行していて、ステアリングをまわした場合

コーナリングライトは短時間点灯し続けますが、約 3 分後に自動的に消灯します。

**ハイウェイモード**

**作動：** 110 km/h 以上の速度で走行していて、少なくとも 1,000 m なんらかの大きなステアリングの動きがない場合、または 130 km/h 以上の速度で走行している場合。

上記はライトの機能の説明です。走行するときは必ず法定速度や制限速度に従ってください。

**解除：** 作動後に、80 km/h 以下の速度で走行した場合。

**フォグランプ強化機能**

フォグランプ強化機能は運転者の眩しさを軽減し、道路の端の照射を向上させます。

**作動：** 70 km/h 以下の速度で走行していて、リアフォグランプを点灯した場合。

**非作動：** 作動後に 100 km/h 以上の速度で走行した場合、またはリアフォグランプを消灯した場合

**アダプティブハイビームアシスト・プラス****全体的な注意事項**

アダプティブハイビームアシスト・プラスにより、ロービーム、パーシャルハイ

ビームおよびハイビームヘッドライトの間で自動的に切り替えることができます。パーシャルハイビーム照明は、他の道路使用者を避けるようなハイビームの配光になっています。他の道路使用者は、ハイビームの範囲外になります。これにより眩しさを防ぎます。先行車両がある場合は、例えばハイビームヘッドライトはその右または左の範囲を照射し、先行車両はロービームヘッドライトによって照射されます。

このシステムは、他車との車間距離に応じてロービームヘッドライトの照射範囲を自動調整します。他車が検知されなくなると、システムは再びハイビームヘッドライトに切り替えます。

ハイビームまたはパーシャルハイビームヘッドライトが交通標識からの非常に強い反射の原因となっている場合は、ライトは自動的に暗くなり、反射光によって引き起こされる眩しさが避けられます。システムの照度センサーは、フロントウィンドウ裏側のオーバーヘッドコントロールパネル付近に装着されています。

## 重要な安全上の注意事項

### ⚠ 警告

アダプティブハイビームアシスト・プラスは以下の道路使用者を認識しません。

- 歩行者などライトを持っていない人
- 自転車などライトの暗い人
- フェンスなどでライトが遮られている人

ごくまれに、アダプティブハイビームアシスト・プラスはライトを持っていない道路使用者を認識しない、または認識が非常に遅れることがあります。このような場合は、他の道路使用者がいるにもかかわらず、自動ハイビームヘッドライトが解除されなかったり、作動したりします。事故の危険性があります。

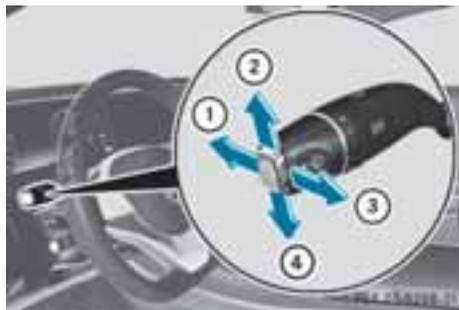
道路や交通事情に常に注意して、適切なタイミングでハイビームヘッドライトをオフにしてください。

アダプティブハイビームアシスト・プラスは、道路、天候または交通状況を考慮に入れることはできません。アダプティブハイビームアシスト・プラスは単なる支援にすぎません。運転者には、そのときの明るさ、視界および交通状況に応じて、車両のライトを調整する責任があります。

特に以下の状況では、障害物の検知が困難になります。

- 霧や激しい雨、雪などで視界が悪い
- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている

## アダプティブハイビームアシスト・プラスの作動/停止の切り替え



- ① ハイビームヘッドライト
- ② 方向指示灯、右
- ③ パッシングライト
- ④ 方向指示灯、左

▶ **作動させる**：ライトスイッチを **Auto** にまわします。

▶ **手応えがあるところを越えるまで**、コンビネーションスイッチを矢印 ① の方向に押しします。

周囲が暗く、ライトセンサーがロービームヘッドライトを作動させたとき

は、マルチファンクションディスプレイの表示灯  が点灯します。

25km/h以上の速度で走行している場合：

ヘッドライトの照射範囲は、他の車両や他の道路使用者との距離に応じて自動的に設定されます。

約 30 km/h 以上の速度で走行していて、他の道路使用者が検知されていない場合：

自動的にハイビームヘッドライトが点灯します。メーターパネルの表示灯  も点灯します。

45 km/h 以上の速度で走行していて、他の道路使用者が検知されている場合：

パーシャルハイビームが自動的に選択されます。メーターパネルの表示灯  も点灯します。

約 40km/h 以下の速度で走行している場合：

パーシャルハイビームヘッドライトが自動的に停止します。他の道路使用者が検知されていない場合は、ハイビームヘッドライトが作動します。

約 25km/h 以下の速度で走行しているか、または道路が十分に照らされている場合：

自動的にハイビームヘッドライトが消灯します。メーターパネルの表示灯  が消灯します。マルチファンクションディスプレイの表示灯  は点灯したままになります。

- ▶ **停止する：** コンビネーションスイッチを通常の位置に戻す、またはライトスイッチを他の位置に動かします。マルチファンクションディスプレイの表示灯  は消灯します。

## ルームライト

ルームライトとルーフオペレーティングユニットの概要は"はじめに"をご覧ください。

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ルームライトの自動点灯
- ルームライトの手動点灯
- 緊急時点灯機能

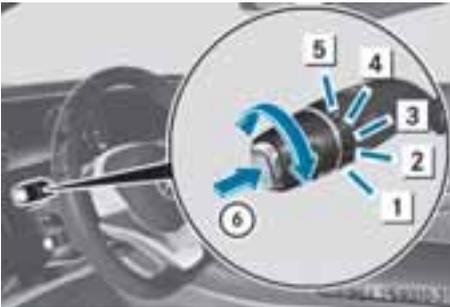
## 電球の交換

車両のフロントおよびリアライトクラスターには LED ライトバルブが装備されています。お客様自身でランプの交換を行なわないでください。必要な専門知識と専用ツールを備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

ライトは車両安全性の重要な要素です。そのため、これらの機能が正常であることを常に確認してください。ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

## フロントワイパー

### フロントワイパーの作動/停止の切り替え



- ① **0** フロントウインドウワイパーの停止
- ② **...** 低速間欠モード（レインセンサーは低感度に設定）
- ③ **....** 高速間欠モード（レインセンサーは高感度に設定）
- ④ **—** 低速連続モード
- ⑤ **≡** 高速連続モード
- ⑥ **👉** 1回の拭き取り / **👉** ウォッシャー液を使用してのフロントウインドウの拭き取り

ワイパーブレードが摩耗した場合は、フロントウインドウは十分に拭き取られなくなります。交通状況への注意を妨げるおそれがあります。

### ワイパーブレードの交換

#### 重要な安全上の注意事項

##### ⚠ 警告

ワイパーブレードを交換中にワイパーが動き出した場合、ワイパーアームに挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

ワイパーブレードを交換する前に、ワイパーおよびイグニッションのスイッチを必ずオフにしてください。

### ワイパーブレードの交換

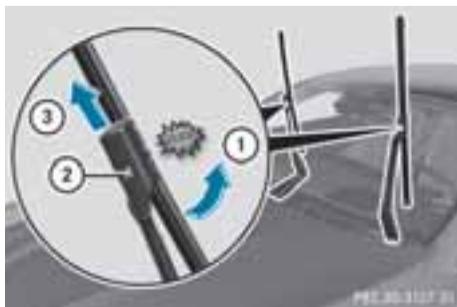
#### ワイパーブレードの垂直位置への移動 キーレスゴー非装備車両：

- ▶ エンジンスイッチのキーを**0**の位置にまわします（▶ 131 ページ）。
- ▶ フロントウインドウのワイパーを**—**の位置に設定します。
- ▶ エンジンスイッチのキーを**1**の位置にまわします（▶ 131 ページ）。
- ▶ ボンネットに対してワイパーアームが垂直になったら、ただちにエンジンスイッチのキーを**0**の位置にまわします（▶ 131 ページ）。
- ▶ キーを抜いてください。
- ▶ 所定の位置に止まった手応えがあるまで、ワイパーアームをフロントウインドウから起こします。

#### キーレスゴー装備車両：

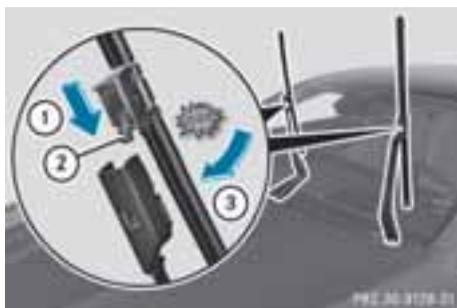
- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ ブレーキペダルから足を放します。
- ▶ フロントウインドウのワイパーを**—**の位置に設定します。
- ▶ フロントワイパーが動き出すまで、キーレスゴースイッチを繰り返し押します。
- ▶ ワイパーアームが垂直位置に達したときに、フロントウインドウのワイパーが停止するまでキーレスゴースイッチを繰り返し押します。
- ▶ 所定の位置に止まった手応えがあるまで、ワイパーアームをフロントウインドウから起こします。

## ワイパーブレードを取り外す



- ▶ **ワイパーブレードを取り外しの位置にする：**ワイパーアームを片方の手でしっかり持ちます。もう片方の手で、手応えがあるところを越えるまでワイパーブレードを矢印①の方向にまわします。カチッと音がして、ワイパーブレードが取り外しの位置で固定されます。
- ▶ **ワイパーブレードを取り外す：**ロック解除ノブ②をしっかりと押し、ワイパーブレードを上方③へ引きます。

## ワイパーブレードを取り付ける



- ▶ タブ②が固定されるまで、ワイパーアーム上で新品のワイパーブレードを矢印①の方向に押します。
- ▶ 手応えがあるところを越えるまで、ワイパーブレードを矢印③の方向にまわします。カチッという音がして、ワイパーブレードが外れ、再び自由に動くようになります。
- ▶ ワイパーブレードが正しく位置していることを確認します。
- ▶ ワイパーアームをフロントウィンドウに倒して戻します。

## フロントワイパーのトラブル

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

役に立つ情報 .....	126
エアコンディショナーシステムの 概要 .....	126
エアコンディショナーシステムの 操作 .....	127

## 役に立つ情報

**i** この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

**i** メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(p.27 ページ)

## エアコンディショナーシステムの概要

## 全体的な注意事項

以下のページで推奨されている設定に従ってください：さもないとウィンドウが曇るおそれがあります。

ウィンドウを曇りから防ぐためには：

- エアコンディショナーは短時間のみ解除してください
- 内気循環モードは短時間のみ作動させてください
- AC モードを作動させてください
- 必要な場合は、フロントウィンドウデフロスター機能を短時間作動させる

エアコンディショナーは車内の温度および空気の湿度を制御します。エアフィルターは空気を清浄し、車内の環境を改善します。

"AC モード"機能は、エンジンがかかっているときにのみ作動します。サイドウィンドウおよびルーフが閉じているときにのみ、エアコンディショナーは最適に作動します。

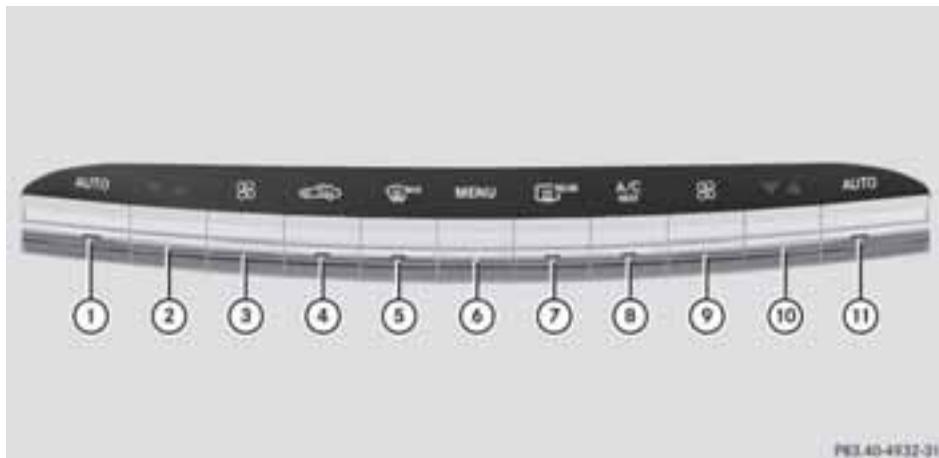
余熱ヒーター機能は、イグニッションがオフのときにのみ作動または停止することができます。キーワード"余熱ヒーター"で、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

**i** 暖かい気候の間は、例えばコンビニエンスオープニング機能を使用して少しの間車両を換気します。キーワード"コンビニエンスオープニング"で、デジタル版取扱説明書をご覧ください。これにより、冷却処理が速くなり、より速く希望の車内温度に達します。

**i** 内蔵フィルターにより、ほこりや煤煙の大部分の粒子や、花粉の大部分をろ過することができます。気体状の汚染物質および臭いも減少させます。詰まったフィルターは、車内に供給される空気の量を減らします。このため、整備手帳で規定されているフィルターの交換時期に必ず従ってください。重度の大気汚染などの環境状況によっては、間隔は整備手帳に記載されているよりも短くなる場合があります。

**i** 外気温度などのさまざまな要因によっては、キーを抜いた後の 60 分間は自動的に送風が作動することがあります。その後、エアコンディショナーを乾燥させるために、車両は 30 分間換気されません。

## オートエアコンディショナーのコントロールパネル



- ① エアコンディショナーをオートに設定、左
- ② 温度の設定、左
- ③ 送風量の設定、左
- ④ 内気循環モードの作動/停止
- ⑤ フロントウインドウの曇り取り
- ⑥ COMAND システムのエアコンディショナーメニューを呼び出す（別冊の取扱説明書をご覧ください）
- ⑦ リアデフォグガーの作動/停止の切り替え
- ⑧ AC モードの作動/停止  
余熱ヒーター機能の作動/停止
- ⑨ 送風量の設定、右
- ⑩ 温度の設定、右
- ⑪ エアコンディショナーをオートに設定、右

## エアコンディショナーシステムの操作

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります：

- エアコンディショナーの作動/停止の切り替え
- AC モードの作動/解除
- エアコンディショナーの AUTO モードへの設定
- エアコンディショナーモードの設定
- 温度の設定
- 送風配分の設定
- 送風量の設定
- 同期機能の作動/停止
- フロントウインドウの曇り取り
- ウインドウの曇り取り
- リアデフォグガーの作動/停止の切り替え
- 内気循環モードの作動/停止

- 内気循環スイッチを使用時のコンビニエンスオープニング/クロージング
- 余熱ヒーター機能の作動/停止
- パフュームアトマイザー
- 空気清浄機能
- 送風口の調整

役に立つ情報 .....	130
慣らし運転の注意事項 .....	130
走行 .....	130
オートマチックトランスミッション .....	136
給油 .....	139
駐車 .....	142
運転のヒント .....	144
走行システム .....	145

## 役に立つ情報

**i** この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

**i** メルセデス・ベンツ指定サービス工場  
で情報をご覧ください。(p. 27 ページ)

## 慣らし運転の注意事項

### 重要な安全上の注意事項

特定の走行および走行安全システムでは、車両が納車された後、あるいは修理後に一定距離を走行する間に、センサーが自動的に調整されます。この読み込み処理が終了するまでは、完全なシステムの効果には達しません。

新しい、もしくは交換されたブレーキパッド/ライニングおよびディスクは、数百キロメートルの走行後に最適な制動効果を発揮します。ブレーキペダルにより大きな力をかけることにより、減少した制動効果を補ってください。

### 最初の 1,500 km

最初から十分な注意を払ってエンジンを取り扱った場合は、エンジンの寿命まで最大限の性能を得ることができます。

- 最初の 1,500 km は、さまざまな車両速度およびエンジン回転数で走行してください。
- フルスロットルで走行するなど、この期間は車両への大きな負担は避けてください。

- 手動でギアをシフトするときは、タコメーターの針がタコメーターのレッドゾーンの  $\frac{2}{3}$  に到達する前に適時シフトアップしてください。
- ブレーキを効かせるために、手動でギアをシフトダウンしないでください。
- 踏み応えがあるところを越えるまでアクセルペダルを踏む（キックダウン）ことは避けるようにしてください。
- 全車両（AMG 車両を除く）**：最初の 1,500 km は、主に走行モード **E** で車両を走行してください。

AMG 車両の慣らし運転に関する追加の注意事項

- 最初の約 1,500 km までは、140 km/h 以上の速度で走行しないでください。
  - エンジンがエンジン最大回転数 4,500 rpm に達するのは、短時間のみにしてください。
  - 最初の 1,500 km は、主に走行モード **C** で車両を走行してください。
- 1,500 km 後は、最大負荷およびエンジン回転数まで、車両を徐々に加速することができます。

車両のエンジンおよび駆動系部品の交換を行なった場合も、慣らし運転に関するこれらの注意事項に従ってください。適用される制限速度には必ず従ってください。

## 走行

### 重要な安全上の注意事項

#### 警告

運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルを妨害することがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。フロアマットは指示にしたがって必ず確実に固定し、ペダル操作の妨げにならないようにペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。

### ⚠ 警告

以下のような適していない履物は、ペダルの正しい作動を妨げることがあります。

- 薄いソールの靴
- 高いヒールの靴
- スリッパ

事故の危険性があります。

適した履物を着用し、ペダルの正しい作動を確保します。

### ⚠ 警告

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

### ⚠ 警告

走行時にパーキングブレーキが完全に解除されていない場合は、パーキングブレーキは以下になることがあります。

- オーバーヒートおよび火災の原因
  - 車両にブレーキを効かせられなくなる
- 火災と事故の危険性があります。発進する前に、パーキングブレーキを完全に解除してください。

**!** 車両が停止しているときは、エンジンを暖機しないでください。ただちに発進

してください。エンジンが作動温度に達するまで、高いエンジン回転数やフルスロットルでの走行は避けてください。

車両が停止しているときのみ、オートマチックトランスミッションを希望の走行位置にシフトしてください。

滑りやすい路面で発進するときは、可能な場所では駆動輪の空転を避けてください。ドライブトレインが損傷するおそれがあります。

**!** **AMG 車：**エンジンオイル温度が約+20℃以下のときなどエンジンが暖まっていない場合は、エンジン保護のためにエンジン回転数が制限されることがあります。エンジンを保護し、スムーズに作動させるため、エンジンが冷えているときはアクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。

## キーの位置

### キー



- 0 キーを抜く
- 1 ワイパーのような電気装備への電力供給
- 2 イグニッション（すべての電気装備への電力供給）および走行位置
- 3 エンジンを始動する

キーがその車両のものでもなくとも、エンジンスイッチでまわすことができます。ただし、イグニッション

はオンになりません。エンジンの始動はできません。

## キーレスゴースイッチ

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 危険

ペースメーカーまたは除細動器などの医療用電子機器を使用されている方：

キーレスゴースイッチを操作するときは、キーと車両の間で電波の交信が行なわれます。電磁波が医療機器の機能に影響を与えるおそれがあります。致命的なけがをするおそれがあります。

車両を操作する前に、そのようなシステムからの放射により起こりうる影響について、医師や医療機器メーカーにお問い合わせください。



① 車内アンテナの検知範囲

② リアアンテナの検知範囲

キーが車内にある場合は、乗員の誰もがエンジンを始動できることに留意してください。

### 全体的な注意事項

すべての車両には、着脱式のキーレスゴースイッチが装備されています。

エンジンスイッチにキーレスゴースイッチが差し込まれていて、キーが車内になければなりません。

キーレスゴースイッチをイグニッションスイッチに差し込んだとき、システムは約 2 秒の認識時間を必要とします。その

後に、キーレスゴースイッチを使用することができます。

連続してキーレスゴースイッチを数回押すことは、エンジンスイッチのキーの位置を変更することに相当します。これは、ブレーキペダルを踏んでいない場合のみです。

ブレーキペダルを踏んでキーレスゴースイッチを押した場合は、ただちにエンジンが始動します。

車両とキーとの間で定期的に行なわれる無線通信によるチェックにより、車内に有効なキーがあるかどうかを確認します。エンジンを始動したときなどに、このことが行なわれます。

キーを操作せずに車両を始動するには：

- キーレスゴースイッチがエンジンスイッチに差し込まれていなければなりません。
- キーが車内になければなりません。
- キーまたはキーレスゴーで車両が施錠されているはいけません。(▶ 93 ページ)

以下にはキーを近づけないでください。

- 携帯電話や他のキーなどの電子機器
- 硬貨や金属片などの金属物
- 金属ケースなどの金属物の内部

キーの機能に影響を与えるおそれがあります。

キーのリモコンで、またはキーレスゴーで車両を施錠した場合は、しばらくすると以下ようになります。

- キーレスゴースイッチでイグニッションをオンにすることができなくなります。
- 車両が再度解錠されるまで、キーレスゴースイッチでエンジンを始動できなくなります。

フロントドアのスイッチを使用して車両を集中施錠した場合は (▶ 97 ページ)、

キーレスゴースイッチでエンジンを始動し続けることができます。

車両が動いている間にキーレスゴースイッチを約3秒間押し続けることにより、エンジンを停止することができます。この機能は、ECO スタートストップ機能の自動エンジン停止の機能とは独立して作動します。

### キーレスゴースイッチでのキーの位置



① キーレスゴースイッチ

② エンジンスイッチ

イグニッションをオンにしたときは、メーターパネルのすべての表示灯が点灯します。エンジン始動後に表示灯が消灯しない、または走行中に点灯する場合は、(p. 203 ページ) をご覧ください。

キーレスゴースイッチ①がまだ押されていない場合は、キーがエンジンスイッチから取り外されていることに相当します。

▶ **電力供給をオンにする**：キーレスゴースイッチ①を1回押します。

電力供給がオンになります。これでフロントウインドウワイパーなどの電気装備を作動させることができます。

以下の場合に、電力供給は再度停止します。

- 運転席ドアを開いて、そして
- この位置のときにキーレスゴースイッチ①を2回押す

▶ **イグニッションをオンにする**：キーレスゴースイッチ①を2回押します。イグニッションがオンになります。

以下の場合、イグニッションがオフになります：

- 運転席ドアを開いて、そして
- この位置のときにキーレスゴースイッチ①を1回押す

### キーレスゴースイッチの取り外し

エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外し、通常のようにキーを使用して車両を始動することができます。トランスミッションがポジションPのときにのみ、キーレスゴースイッチによる方法とキー操作との間で切り替えることができます。

▶ エンジンスイッチ②からキーレスゴースイッチ①を取り外します。

車から離れるときでも、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外す必要はありません。ただし、車両を離れるときは必ずキーを携帯してください。キーが車内にある限りは、以下のことができます。

- キーレスゴースイッチを使用して車両を始動できます。
- 電気で作動する装備を操作できます。

## 車両の始動

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行い、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

### 警告

エンジンの燃焼は、一酸化炭素のような有毒な排気ガスを排出します。これらの排気ガスを吸い込むと中毒につながります。致命的なけがの危険性があります。従って、十分な換気がない閉じた空間でエンジンを作動させたままにしないでください。

### 警告

動物または環境の影響によってもたらされた可燃物が熱くなっているエンジンの部品または排気システムに接触すると、発火するおそれがあります。火災のおそれがあります。

定期的な点検を行ない、エンジンルーム、または排気システムに可燃性の異物がなことを確認してください。

**■** エンジンを始動するときは、アクセルを踏まないでください。

## 全体的な注意事項

触媒コンバーターが作動温度により早く到達できるようにするために、冷間始動の間はエンジンはより高いエンジン回転数で作動します。その結果、エンジンの音が変わることがあります。

## オートマチックトランスミッション

- ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。これについての情報はデジタル版取扱説明書にあります。マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示に **P** が表示されます。これについての情報はデジタル版取扱説明書にあります。

シフトポジション **P** および **N** でエンジンを始動できます。

### キーでの始動操作

キーレスゴースイッチの代わりにキーを使用してエンジンを始動するためには、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り出してください。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **3** の位置にまわして (▶ 131 ページ)、エンジンが作動したらただちに放します。

## キーレスゴースイッチを使用したエンジンの始動

エンジンスイッチにキーを差し込まずに、キーレスゴースイッチを使用して車両を手動で始動することができます。車内にキーがあり、キーレスゴースイッチがエンジンスイッチに差し込まれていなければなりません。エンジン始動のためのこの手順は、ECO スタートストップ機能のエンジン自動始動機能とは独立して作動します。

有効なキーが車内にある場合は、エンジンを始動することができます。短時間でも車両から離れるときは、常にキーを携帯してください。"重要な安全上の注意事項"に注意してください。

- ▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。
- ▶ キーレスゴースイッチを 1 度押します (▶ 132 ページ)。エンジンが始動します。

**発進****全体的な注意事項****⚠ 警告**

エンジン回転数がアイドル回転数以上で、トランスミッションをポジション **D** または **R** に入れると、車両は突然発進することがあります。事故の危険性があります。

トランスミッションをポジション **D** または **R** に入れるときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、同時に加速しないでください。

発進するときはアクセルを慎重に踏んでください。

発進すると、自動的に車両が施錠されます。ドアのロックノブが下がります。

ドアは車内からいつでも開くことができます。

車速感応ドアロックを解除することもできます (p. 97 ページ)。

ブレーキペダルを踏んでいる場合にのみ、トランスミッションをポジション **P** から希望のポジションにシフトすることができます。その後だけにのみ、パーキングロックが解除されます。ブレーキペダルが踏まれていない場合も、DIRECT SELECT レバーを動かすことができますが、パーキングロックは効いたままになります。

**i** 冷間始動後は、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正な作動温度に達します。

電気式パーキングブレーキの自動解除に関する情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

**ヒルスタートアシスト**

ヒルスタートアシストは、登り坂勾配で後退または前進発進するときに運転者の

支援を行いません。ブレーキペダルから足を放した後に、短時間車両を停止したままにします。これにより、車両が動き出す前にブレーキペダルからアクセルペダルへ足を動かし、アクセルペダルを踏む時間が得られます。

**⚠ 警告**

しばらくすると、ヒルスタートアシストは車両にブレーキを効かせなくなり、動き出すおそれがあります。事故やけがの危険性があります。

従って、すばやくブレーキペダルからアクセルペダルに足を動かします。ヒルスタートアシストで車が停止しているときは、絶対に車から離れないでください。

以下では、ヒルスタートアシストは作動しません。

- 平坦な道路または下り坂で発進する
- トランスミッションがポジション **N** である
- 電気式パーキングブレーキを効かせた
- ESP<sup>®</sup>が故障している

**ECO スタートストップ機能****はじめに**

特定の条件下で車両が停止した場合は、ECO スタートストップ機能はエンジンを自動的に停止します。

再度発進するときは、エンジンは自動的に始動します。それにより、ECO スタートストップ機能は、燃料消費と排出物を低減させる支援を行いません。

**重要な安全上の注意事項****⚠ 警告**

エンジンが自動的にオフになり、車両から出ると、エンジンは自動的に再始動します。車両が動き始めることがあります。事故やけがの危険性があります。

車両から出たい場合は、必ずイグニッションをオフにし、動き出さないように車両を固定します。

## 全体的な注意事項



### ① ECO スタートストップ機能表示

マルチファンクションディスプレイにECO マーク **A** が緑色で表示された場合は、車両が停止するとECO スタートストップ機能がすぐにエンジンを自動的に停止します。

キーまたはキーレスゴースイッチを使用してエンジンを始動させるたびに、ECO スタートストップ機能が設定されます。

ECO スタートストップ機能が手動で解除されている(▶ 136 ページ) または故障が原因でシステムが解除されている場合は、ECO マーク **A** は表示されません。

ECO スタートストップ機能は、走行モード **E** (AMG 車両では走行モード **C**) のみ作動します。

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります：

- エンジン自動停止
- エンジン自動始動
- ECO スタートストップ機能の解除/設定

## エンジンのトラブル

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

## オートマチックトランスミッション

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

エンジン回転数がアイドリング回転数以上で、トランスミッションをポジション **D** または **R** に入れると、車両は突然発進することがあります。事故の危険性があります。

トランスミッションをポジション **D** または **R** に入れるときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、同時に加速しないでください。

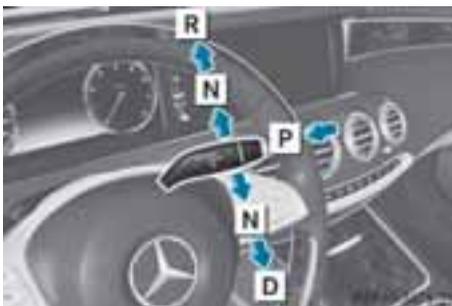
#### ⚠ 警告

エンジンをオフにすると、オートマチックトランスミッションはニュートラルポジション **N** に切り替わります。車両が動き出すおそれがあります。事故の危険性があります。

エンジンをオフにした後は、必ずパーキングポジション **P** に切り替えてください。パーキングブレーキを効かせて、駐車した車両が動き出すのを防いでください。

## DIRECT SELECT レバー

## シフトポジションの概要



- ▶ **P** パーキングロックが作動するパーキングポジション
- ▶ **R** リバースギア
- ▶ **N** ニュートラル
- ▶ **D** ドライブ

DIRECT SELECT レバーは、ステアリングの右側にあります。

DIRECT SELECT レバーは常に元の位置に戻ります。そのときのシフトポジション **P**、**R**、**N** または **D** は、マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示に表示されます。これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- パーキングポジション **P** に入れる
- パーキングポジション **P** の自動選択
- リバースギア **R** に入れる
- ドライブポジション **D** に入れる

ニュートラル **N** にシフトする

## ⚠ 警告

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行い、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

- ▶ トランスミッションがポジション **D** または **R** にある場合：最初に手応えがあるところまで、DIRECT SELECT レバーを上または下に押しします。
- ▶ トランスミッションがポジション **P** にある場合：ブレーキペダルを踏んで、最初に手応えがあるところまで、DIRECT SELECT レバーを上または下に押しします。

エンジンを停止したときは、オートマチックトランスミッションは自動的に **N** にシフトします。

車両をけん引式の自動洗車機で洗車するときなど、オートマチックトランスミッションをニュートラル **N** のままにする場合は、以下の情報に従ってください：

**キーで：**

- イグニッションがオンになっていることを確認します。
- 車両が停止しているときに、ブレーキペダルを踏んで、踏んだまま保持します。
- ニュートラル **N** にシフトします。
- ブレーキペダルを放します。
- 電気式パーキングブレーキが効いている場合は、解除します。
- イグニッションをオフにして、エンジンスイッチにキーを残したままにします。

**キーレスゴースイッチで**

- イグニッションがオンになっていることを確認します。
- 車両が停止しているときに、ブレーキペダルを踏んで、踏んだまま保持します。
- パーキングポジション **P** に入れます。
- ブレーキペダルを放します。
- エンジンスイッチからキーレスゴーキーを取り外します。
- エンジンスイッチにキーを差し込みます。
- イグニッションをオンにします。
- ブレーキペダルを踏んで、踏んだまま保持します。
- ニュートラル **N** にシフトします。
- ブレーキペダルを放します。
- 電気式パーキングブレーキが効いている場合は、解除します。
- イグニッションをオフにして、エンジンスイッチにキーを残したままにします。

**デジタル版取扱説明書の情報**

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- シフトポジション表示
- トランスミッションポジション
- 運転のヒント
- 走行モード選択スイッチ
- ステアリングのギアシフトパドル
- オートマチック走行モード
- トランスミッションのトラブル

**マニュアル走行モード (AMG 車両)****全体的な注意事項**

この走行モードでは、ステアリングのギアシフトパドルを使用して、常に自分自身でギアを変えることができます。トランスミッションはポジション **D** でなければなりません。

マニュアル走行モード **M** は、ギア変速の発生度、応答性および滑らかさの点で走行モード **S** と異なります。

連続的な走行モード **M** に加えて、一時的な走行モード **M** も作動させることができます。デジタル版取扱説明書をご覧ください。

**マニュアル走行モードの作動**

マニュアル走行モード **M** では、トランスミッションがポジション **D** にある場合に、ステアリングギアシフトパドルを使用して自分自身でギアを変えることができます。そのときの走行モードおよび入っているギアは、マルチファンクションディスプレイに表示されます。

- ▶ マルチファンクションディスプレイに **M** が表示されるまで、走行モード選択スイッチを押します（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

## シフトアップ

**!** マニュアルギアシフト M では、現在のギアでのエンジン許容回転数に達しても、自動的にシフトアップしません。エンジンの許容回転数に達すると、エンジンの過回転を防ぎエンジンを保護するため、燃料供給が停止します。エンジン回転数が許容回転数を超えて、タコメーターのレッドゾーンに入らないように注意してください。エンジンが損傷するおそれがあります。



- ① シフトインジケーター
- ② シフトアップインジケーター

エンジン回転数がレッドゾーンに達する前に、シフトアップインジケーターがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

▶ マルチファンクションディスプレイのスピードメーターの色が赤色に変わり、ディスプレイメッセージ UP が表示された場合は、右側のステアリングギアシフトパドルを使用してギアをシフトアップしてください。

可能な場合は、オートマチックトランスミッションは次のギアにシフトアップします。

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- シフトダウン
- マニュアル走行モードの解除

## 給油

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

燃料は可燃性の高いものです。燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジン、当てはまる場合は補助ヒーターを停止します。

#### ⚠ 警告

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料は決して飲まないこと、また目や衣服に付着させないでください。燃料の気体を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹼および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医師の診察を受けてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。無理に吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

#### ⚠ 警告

静電気の蓄積により、火花が発生したり、燃料の気体に引火するおそれがあります。火災および爆発の危険性があります。

燃料給油口を開いたり、給油ノズルに触れる前に、必ず車体に触ってください。蓄積されている可能性がある静電気を放電します。

給油作業中は車内に戻らないでください。さもないと、再度帯電することがあります。

**❗** ガソリンエンジン車両に給油するために軽油を使用しないでください。誤って異なる燃料を給油した場合は、エンジンスイッチをオンにしないでください。さもないと、燃料が燃料システムに入るおそれがあります。たとえ少量の誤った燃料でも、燃料システムやエンジンの損傷につながるおそれがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、燃料タンクや燃料系統から完全に抜き取ってください。

**❗** 給油ノズルの自動停止後は、それ以上補給しないでください。燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。

**❗** 給油中に燃料を塗装面にこぼさないよう注意してください。塗装面が損傷するおそれがあります。

**❗** 燃料携行缶から燃料を補給するときは、フィルターを使用してください。燃料携行缶に付着した微粒子によって、フューエルラインや燃料噴射システムの部品が詰まるおそれがあります。

燃料タンクに給油しすぎた場合は、給油ノズルを外すときに燃料が飛散することがあります。

燃料および燃料品質についてのさらなる情報 (▷ 287 ページ)。

### セルフサービス式のガソリンスタンド

給油に関する注意事項を遵守してください。(▷ 139 ページ)

セルフ式のガソリンスタンドで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- 給油前に必ずエンジンを停止して、ドアやサイドウィンドウなどを閉じてください。
- 燃料給油フラップを開くときから、一連の給油作業を必ずひとりで行なってください。  
給油作業を行なう人以外は燃料給油フラップに近づかないでください。
- キャップの開閉は確実に行ってください。火気を近づけないようにしてください。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料があふれるおそれがあります。
- 給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

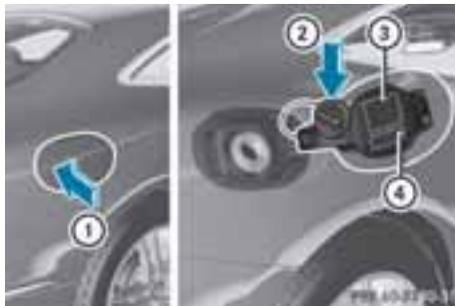
### 給油

#### 全体的な注意事項

重要な安全上の注意事項に従ってください (▷ 139 ページ)。

車外から車両を解錠/施錠した場合は、燃料給油口フラップも解錠/施錠されます。燃料給油口キャップ  の位置はメーターパネルに表示されています。給油ポンプマークの横の矢印は、燃料給油口キャップのある車両側面を示しています。燃料給油口フラップは車両の右側後方にあります。

## 燃料給油口フラップを開く



- ① 燃料給油口フラップを開く
- ② 燃料給油口キャップを差し込む
- ③ タイヤ空気圧表
- ④ 給油燃料種類

▶ エンジンを停止します。

▶ 運転席ドアを開きます。

車両の電気システムが **0** の状態になります。これにより、キーを抜いたときと同様になります。

または、キーがエンジンスイッチに差し込まれている場合：

- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ 燃料給油口フラップを矢印 ① の方向に押します。  
燃料給油口フラップが開きます。
- ▶ 燃料給油口キャップを反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ キャップを燃料給油口フラップ ② の内側にあるホルダーに掛けます。
- ▶ タンクの補給口に給油ポンプノズルを完全に差し込んで掛け、給油します。
- ▶ ポンプノズルが停止するまでのみ給油してください。

**i** 最初にポンプが給油を停止した後は、それ以上燃料を追加しないでください。さもないと、燃料が漏れることがあります。

## 燃料給油口フラップを閉じる

▶ キャップを給油口に取り付け、音がしてロックするまで時計回りにまわします。

▶ 燃料給油口フラップを閉じます。

燃料給油口フラップが開いていて、2 km/h 以上の速度で走行した場合は、マルチファンクションディスプレイに **燃料給油口が開いています** というメッセージが表示されます。

**i** 車両を施錠する前に燃料給油口フラップを閉じてください。

## 燃料および燃料タンクのトラブル

この項目では、安全性に関わるトラブルの内容と対応方法について説明しています。さらなるトラブルの内容および対応方法は、デジタル版取扱説明書にあります。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
燃料が漏れている。	<p><b>⚠ 警告</b></p> <p>フューエルラインまたは燃料タンクに問題がある。火災または爆発の危険性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。</li> <li>▶ エンジンを停止します。</li> <li>▶ 運転席ドアを開きます。 車両の電気システムが <b>0</b> の状態になります。これにより、キーを抜いたときと同様になります。</li> </ul> <p>または、キーがエンジンスイッチに差し込まれている場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。</li> <li>▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。</li> <li>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。</li> </ul>

## 駐車

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

葉、草または小枝のような可燃性の素材は、排気システムの高温部品または排気ガスの排気に長時間触れると発火することがあります。火災の危険性があります。可燃性の素材が車両の熱い部品に触れないように車両を駐車してください。特に、乾燥した草原、または収穫した穀物畑に駐車しないでください。

#### ⚠ 警告

保護者のいない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキを解除したとき
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟み込まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を旋錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

**❗** 車両が動き出さないように、必ず適切な方法で固定してください。車体または駆動系を損傷するおそれがあります。

車両が不意に動き出さないためには、以下でなければなりません。

- パーキングブレーキを効かせなければなりません
- トランスミッションをポジション **P** にし、キーをエンジンスイッチから抜かなければなりません
- 上り坂または下り坂勾配では、前輪を縁石方向に向けなければなりません

- 上り坂または下り坂勾配では、積載していない車両は、例えば輪止め、または類似のもので前輪を固定しなければなりません
- 上り坂または下り坂勾配では、積載している車両は、例えば輪止め、または類似のもので後輪を固定しなければなりません

## エンジンの停止

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

エンジンをオフにすると、オートマチックトランスミッションはニュートラルポジション **N** に切り替わります。車両が動き出すおそれがあります。事故の危険性があります。

エンジンをオフにした後は、必ずパーキングポジション **P** に切り替えてください。パーキングブレーキを効かせて、駐車した車両が動き出すのを防いでください。

### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、エンジンを停止する方法が記載されています。

## 電気式パーキングブレーキ

### 全体的な注意事項

#### ⚠ 警告

保護者のいない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキを解除したとき
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟み込まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

電気式パーキングブレーキの機能は、バッテリー電圧の影響を受けます。バッテリーの電圧が低い、またはシステムに不具合がある場合は、解除してあるパーキングブレーキを効かせることができない場合があります。

▶ このような場合は、水平な場所にのみ車両を駐車して、動き出さないように固定してください。

▶ オートマチックトランスミッションをポジション **P** にシフトします。

バッテリーの電圧が低い、またはシステムに不具合がある場合は、効かせているパーキングブレーキを解除することができないことがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。エンジンが停止しているときに、電気式パーキングブレーキは定期的に機能チェックを行ないます。音が発生しますが正常です。

### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります：

- 手動での作動/解除
- 自動的な作動
- 自動解除
- 緊急ブレーキ操作

## 長期間の車両の駐車

これについての情報はデジタル版取扱説明書にあります。

## 運転のヒント

### 一般的な運転のヒント

#### ⚠ 警告

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

### ECO 表示

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

## ブレーキ

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

エンジンのブレーキ効果を増やすために滑りやすい路面でシフトダウンすると、駆動輪がグリップを失うことがあります。これにより、横滑りや事故が起きる危険性が高くなります。

滑りやすい道路では、シフトダウンによるエンジンブレーキを効かせないでください。

### 下り坂勾配

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

### 高い、および低い負荷

#### ⚠ 警告

走行中にブレーキペダルの上に足を置くと、ブレーキシステムがオーバーヒートすることがあります。これにより制動距

離が増加して、ブレーキシステムが故障する原因になるおそれもあります。事故の危険性があります。

ブレーキペダルをフットレストとして使用しないでください。ブレーキペダルとアクセルペダルを同時に踏まないでください。

さらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

### 濡れた路面

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

### 塩化物が散布された道路でのブレーキ性能の制約

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

### 新しいブレーキディスクおよびブレーキパッド/ライニング

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

### AMG セラミック強化ブレーキシステム

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

### 濡れた路面の走行

### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります：

- ハイドロプレーニング現象
- 冠水路の走行

## 冬季の走行

### ⚠ 警告

エンジンのブレーキ効果を増やすために滑りやすい路面でシフトダウンすると、駆動輪がグリップを失うことがあります。これにより、横滑りや事故が起きる危険性が高くなります。

滑りやすい道路では、シフトダウンによるエンジンブレーキを効かせないでください。

### ⚠ 危険

マフラーが遮られ、適切な換気が可能でない場合は、一酸化炭素（CO）のような有毒ガスが車内に入り込んでくる可能性があります。車両が雪にはまった場合などがあてはまります。致命的なけがの危険性があります。

エンジンまたは補助ヒーターを作動させたままにする場合は、マフラーや車両周辺に雪がないことを確認してください。新鮮な空気の適切な供給を確保するために、風のほうを向いていない車両側のウィンドウを開きます。

さらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

## 走行システム

### メルセデス・ベンツインテリジェントドライブ

メルセデス・ベンツ・インテリジェントドライブは、快適性を高め、危険な状況で運転者を支援する、革新的な運転者支援および安全システムです。一体化されたこれらの優れたシステムにより、メルセデス・ベンツは自動走行に向けた画期的な一段階を得ることができました。

車両乗員および他の道路使用者の安全のため、メルセデス・ベンツ・インテリジェントドライブは、アクティブそしてパッシブセーフティのすべての要素を1つのシステムと想定して統合しています。

走行安全システムに関するさらなる情報は、(p. 75 ページ)をご覧ください。

## クルーズコントロール

### 全体的な注意事項

クルーズコントロールは一定の走行速度を維持します。設定速度を超えないようにするために自動的にブレーキを効かせます。長い下り坂や急な下り坂の勾配では、適切なタイミングで低いギアに変速してください。積載した車両を運転するときは、このことに特に留意してください。そうすることにより、エンジンのブレーキ作用を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。道路や交通状況が長時間の一定速度の維持に適している場合にのみ、クルーズコントロールを使用してください。30 km/h 以上の走行速度を記憶させることができます。

### 重要な安全上の注意事項

運転スタイルを合わせていない場合はクルーズコントロールは事故の危険性を軽減できず、また物理的限界を超えることもできません。クルーズコントロールは道路、天気、交通事情を考慮することはできません。クルーズコントロールは単なる支援に過ぎません。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、および車線を維持する責任があります。

以下の場合にはクルーズコントロールを使用しないでください。

- 一定の速度を維持できないような道路および交通状況（例：混雑している交

通状況、または曲がりくねっている道路)

- 滑りやすい路面 ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が滑るおそれがあります。
- 霧、激しい雨または雪などのために視界が悪いとき

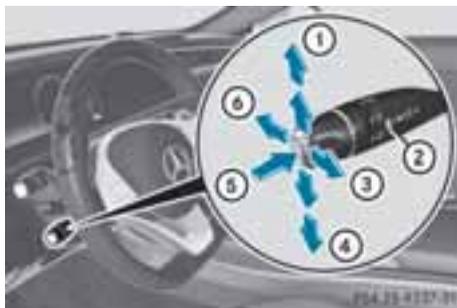
運転者を交代する場合は、次の運転者に記憶させている速度を伝えてください。

### ⚠ 警告

設定速度を呼び出し、それが現在の速度と異なるときは、車両が加速または減速します。設定速度を覚えていないと、車両が不意に加速したりブレーキがかかることがあります。事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

## クルーズコントロールレバー



- ① 現在の走行速度、またはより高い速度を記憶させる
- ② LIM 表示灯
- ③ 現在の走行速度を記憶させる、または記憶されている速度を呼び出す
- ④ 現在の走行速度、またはより低い速度を記憶させる
- ⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
- ⑥ クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムを表しています。

- LIM 表示灯が消灯：クルーズコントロールが選択されています。
- LIM 表示灯が点灯：可変スピードリミッターが選択されています。

クルーズコントロールを作動させたときは、記憶させた速度がマルチファンクシヨンディスプレイに 5 秒間表示されます。スピードメーターには、記憶させた速度と最高速度の間のセグメントが点灯します。

## クルーズコントロールの選択



- ▶ LIM 表示灯 ① が消灯しているか確認してください。

消灯している場合は、クルーズコントロールが選択されています。

そうでない場合は、クルーズコントロールレバーを矢印 ② の方向に押しませう。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ① が消灯します。クルーズコントロールが選択されます。

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 作動条件
- 速度の記憶、維持、呼び出し
- 速度の設定
- クルーズコントロールの解除

## 可変スピードリミッター

### 全体的な注意事項

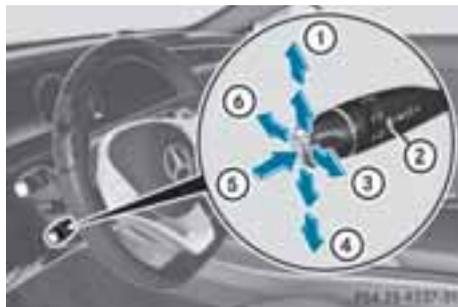
設定された速度を超えないように、可変スピードリミッターは自動的にブレーキを効かせます。長い下り坂や急な下り坂の勾配では、適切なタイミングで低いギアに変速してください。積載した車両を運転するときは、このことに特に留意してください。そうすることにより、エンジンのブレーキ作用を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。

### 重要な安全上の注意事項

運転スタイルを合わせていない場合は可変スピードリミッターは事故の危険性を低減させることができず、また物理的法則を乗り超えることもできません。可変スピードリミッターは道路、天候および交通状況を考慮することはできません。可変スピードリミッターは単なる支援にすぎません。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、および車線を維持する責任があります。運転者を交代する場合は、次の運転者に記憶させている速度を伝えてください。

## 可変スピードリミッター

### 全体的な注意事項



- ① 現在の走行速度、またはより高い速度を記憶させる
- ② LIM 表示灯
- ③ 現在の走行速度を記憶させる、または記憶されている速度を呼び出す
- ④ 現在の走行速度、またはより低い速度を記憶させる
- ⑤ クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
- ⑥ 可変スピードリミッターを解除する

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールまたはディストロニック・プラスおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムを表しています。

- **LIM 表示灯が消灯：** クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが選択されています。
- **LIM 表示灯が点灯：** 可変スピードリミッターが選択されています。

エンジンがかかっている間に、クルーズコントロールレバーを使用して、30 km/h 以上のいかなる速度に速度を制限することができます。

## 可変スピードリミッターの選択

運転者を交代する場合は、次の運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。

- ▶ LIM 表示灯 ② が点灯しているか確認してください。

点灯している場合は、可変スピードリミッターはすでに選択されています。そうでない場合は、クルーズコントロールレバーを矢印 ⑤ の方向に押しします。クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。可変スピードリミッターが選択されます。

## 現在の速度の記憶

エンジンがかかっている間に、クルーズコントロールレバーを使用して、30 km/h 以上の速度に制限することができます。

- ▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ④ に軽く操作します。

現在の速度が記憶され、マルチファンクションディスプレイに表示されます。最初の目盛りと記憶させた速度の間のスピードメーターのダイヤルが点灯します。

## 現在の速度の記憶および最後に記憶させた速度の呼び出し

### ⚠ 警告

設定速度を呼び出し、それが現在の速度より低いときは、車両が減速します。設定速度を覚えていないと、車両が不意に減速することがあります。事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

- ▶ クルーズコントロールレバーを手前 ③ に軽く引きします。

## 速度の設定

- ▶ **設定速度を 10 km/h 単位で調整する**：手応えがあるところを越えるまで、高い速度には上 ① に、低い速度には下 ④ に、クルーズコントロールレバーを軽く押しします。

または

- ▶ 希望する速度に設定されるまで、手応えがあるところを越えるまでクルーズコントロールレバーを押して保持します。高い速度にはクルーズコントロールレバーを上 ① に、低い速度には下 ④ に押しします。

- ▶ **設定速度を 1 km/h 単位で調整する**：手応えがあるところまで、高い速度には上 ① に、低い速度には下 ④ に、クルーズコントロールレバーを軽く押しします。

または

- ▶ 希望する速度に設定されるまで、手応えがあるところまでクルーズコントロールレバーを押して保持します。高い速度にはクルーズコントロールレバーを上 ① に、低い速度には下 ④ に押しします。

## 可変スピードリミッターの待機状態への切り替え

踏み応えがあるところを越えるまでアクセルペダルを踏んだ場合は（キックダウン）、可変スピードリミッターは待機モードに切り替わります。マルチファンクションディスプレイに **可変スピードリミッター制御待機中** というメッセージが表示されます。

この後は、記憶させている速度を超えることができます。可変スピードリミッターは、以下のときに再度作動します：

- キックダウンをせずに、記憶させている速度以下で走行した
- 新たに速度を設定した、または
- 最後に保存された速度を再度呼び出した

マルチファンクションディスプレイの**可変<sup>レ</sup>・ドリミッター・制御待機中**というメッセージが消えます。

### 可変スピードリミッターの解除

ブレーキ操作で可変スピードリミッターを解除することはできません。

可変スピードリミッターを解除するためにはいくつかの方法があります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを前方 ⑥ に軽く押します。

または

- ▶ クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑤ に軽く押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が消灯します。可変スピードリミッターは解除されます。

クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが選択されます。

- ① エンジンを停止したときは、記憶されている速度は消去されます。

### スノータイヤスピードリミッター

マルチファンクションディスプレイを使用して、約 160 km/h（例えばウインタータイヤで走行するとき）から最高速度までの間の値に、常に速度を制限できます（▶ 186 ページ）。

記憶させた速度に到達する少し前に、マルチファンクションディスプレイに速度が表示されます。

可変スピードリミッターを解除した場合でも、スノータイヤスピードリミッターは作動したままになります。

踏み応えがあるところを越えるまでアクセルペダルを踏んだ場合でも（キックダ

ウン）、記憶させた制限速度を超えることはできません。

## ディストロニック・プラス

### 全体的な注意事項

ディストロニック・プラスは速度を制御し、前方に検知された車両との距離を自動的に維持する支援を行いません。車両はレーダーセンサーシステムの支援で検知されます。ディストロニック・プラスは設定された速度を超えないように自動的にブレーキを効かせます。

長い下り坂や急な下り坂の勾配では、適切なタイミングで低いギアに変速してください。荷物を積載している車両を運転するときは、このことに特に留意してください。そうすることにより、エンジンのブレーキ作用を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。

ディストロニック・プラスが衝突の危険があることを検知した場合は、視覚的および聴覚的に警告を行いません。運転者の操作なしでは、ディストロニック・プラスは衝突を回避することはできません。断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの距離警告灯が点灯します。安全な場合にのみ、ただちにブレーキを効かせて先行車両との距離を広げ、危険回避の操作を行なってください。

ディストロニック・プラスは 0 km/h ~ 200 km/h の間の範囲で作動します。

急な勾配の道路を走行しているときは、ディストロニック・プラスを使用しないでください。

## 重要な安全上の注意事項

### ⚠ 警告

ディストロニック・プラスは以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 駐停車している車両など、道路上の静止している障害物
- 対向車や横切る車両

この場合、ディストロニック・プラスは警告も介入も行いません。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

### ⚠ 警告

ディストロニック・プラスは、他の道路使用者および複雑な交通状況を常に明確に認識できるとは限りません。

そのような場合は、ディストロニック・プラスは以下になることがあります。

- 不必要な警告を行ない、車両にブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる
- 意図せず加速する、またはブレーキをかける

事故の危険性があります。

特にディストロニック・プラスが警告した場合は、慎重に走行を続け、ブレーキを効かせる準備をしてください。

### ⚠ 警告

ディストロニック・プラスは最大可能減速の50%まで車両にブレーキを効かせます。減速が十分でない場合は、ディストロニック・プラスは視覚的および聴覚的警告で運転者に警告します。事故の危険性があります。

これらの状況では自分でブレーキを効かせ、回避行動を取るように試みてください。

❗ ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください：

- けん引されるとき
- 洗車時

運転スタイルを合わせられない場合は、ディストロニック・プラスは事故の危険性を低減することはできません。物理的限界を越えることはできません。ディストロニック・プラスは路面、天候および交通状況を考慮することはできません。ディストロニック・プラスは単なる支援に過ぎません。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、および車線を維持する責任があります。

以下のときは、ディストロニック・プラスを使用しないでください。

- 混雑している道路またはカーブの多い道路など、一定の速度を保つことができない道路および交通状況
- 滑りやすい路面。ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が滑るおそれがあります
- 霧、激しい雨または雪などのために視界が悪いとき

ディストロニック・プラスは、オートバイなど前方を走行している幅の狭い車両、または異なる車線を走行している車両を検知しないことがあります。

特に以下のときは、障害物の検知が困難になることがあります。

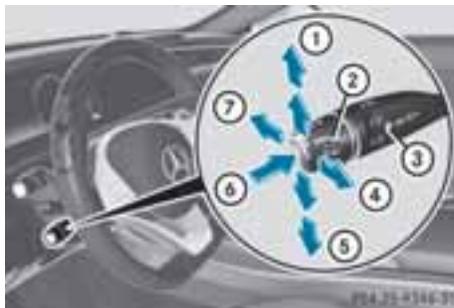
- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 雪または激しい雨が降っている
- 他のレーダー発生源による干渉がある
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射の可能性がある

ディストロニック・プラスが先行車両を検知しなくなった場合は、記憶させた速度まで予期せず加速することがあります。速度は以下になるおそれがあります。

- 変更される車線や滑りやすい道路で非常に高くなりすぎる
- 右車線を走行しているにも関わらず、左車線にいる車両を追い越してしまうほど高くなりすぎる（右側通行の国）
- 左車線を走行しているにも関わらず、右車線にいる車両を追い越してしまうほど高くなりすぎる（左側通行の国）

運転者を交代する場合は、次の運転者に保存した速度を伝えてください。

## クルーズコントロールレバー



- ① 速度を設定する、または上げる
- ② 指定最短距離を設定する
- ③ LIM 表示灯
- ④ 現在の速度/最後に記憶させた速度に設定する
- ⑤ 速度を設定する/下げる
- ⑥ ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
- ⑦ ディストロニック・プラスを解除する

クルーズコントロールレバーでディストロニック・プラスおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ③ は現在選択されている機能を表示しています。

- LIM 表示灯 ③ が消灯： ディストロニック・プラスが選択されています。
- LIM 表示灯 ③ が点灯： 可変スピードリミッターが選択されています。

## ディストロニック・プラスの選択

▶ LIM 表示灯 ③ が消灯しているかどうかを確認してください。

消灯している場合は、ディストロニック・プラスがすでに選択されています。そうでない場合は、クルーズコントロールレバーを矢印 ⑥ の方向に押しします。クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ③ が消灯します。ディストロニック・プラスが選択されます。

## ディストロニック・プラスの作動

### 作動条件

ディストロニック・プラスを作動させるには、以下の条件を満たさなければなりません。

- エンジンがかかっている。ディストロニック・プラスが使用する準備ができるまで、少なくとも 2 分間走行していなければなりません。
- 電気式パーキングブレーキが解除されている。
- ESP® が設定されているが、介入していない。
- アクティブパーキングアシストが作動していない。
- トランスミッションがポジション **D** である。
- **P** から **D** にシフトするときに運転席ドアが閉じている、または運転者のシートベルトが装着されている。

- ・助手席ドアとリアドアが閉じている。
- ・クルーズコントロールレバーでディストロニック・プラス機能が選択されている(▷ 151 ページ)。

### 設定する

- ▶ クルーズコントロールレバーを軽く手前に引くか ④、上 ① または下 ⑤ に操作します。  
ディストロニック・プラスが作動している。
- ▶ 希望の速度になるまでクルーズコントロールレバーを上 ① にまたは下 ⑤ に繰り返し操作します。
- ▶ アクセルペダルから足を放してください。  
希望の記憶させた速度までのみ、先行車両の速度に自車の速度が合わせられます。

**i** アクセルペダルから完全に足を放していない場合は、マルチファンクションディスプレイに **ディストロニック・プラス 制御待機中** というメッセージが表示されます。このときは、ゆっくり走行している先行車両との設定距離は維持されません。アクセルペダルの位置に応じた速度で走行します。

停止しているときもディストロニック・プラスを作動させることができます。設定できる最低速度は 30 km/h です。

- ▶ クルーズコントロールレバーを軽く手前に引くか ④、上 ① または下 ⑤ に操作します。  
ディストロニック・プラスが作動している。

### 現在の速度/最後に記憶させた速度で作動させる

#### ⚠ 警告

設定速度を呼び出し、それが現在の速度と異なるときは、車両が加速または減速します。設定速度を覚えていないと、車

両が不意に加速したりブレーキがかかることがあります。事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

- ▶ クルーズコントロールレバーを手前 ④ に軽く引きます。
- ▶ アクセルペダルから足を放してください。  
ディストロニック・プラスが作動している。初めて作動させたときは、そのときの速度が記憶されます。それ以外の場合は、車両の巡航速度を以前に記憶させた数値に設定します。

### ディストロニック・プラスでの運転

#### 発進と走行

- ▶ **ディストロニック・プラスで発進した** 場合：ブレーキペダルから足を放します。
- ▶ クルーズコントロールレバーを手前 ④ に軽く引きます。

または

- ▶ 軽くアクセルペダルを踏みます。  
車両が発進して、走行速度を先行車両の速度に合わせます。前方に車両を検知していない場合は、車両は設定した速度まで加速します。

未確認の障害物に面しているとき、または他車と異なるラインを走行するときにも、車両は発進できます。その後、車両は自動的にブレーキを効かせます。いつでもブレーキを効かせる準備をしてください。

先行車両がない場合は、ディストロニック・プラスはクルーズコントロールと同じように作動します。

先行車両が減速したことをディストロニック・プラスが検知した場合は、車両

にブレーキを効かせます。このようにして設定した車間距離が維持されます。

前方でより速く走行している車両をディストロニック・プラスが検知した場合は、走行速度が上がります。ただし記憶させた速度までしか車両は加速しません。

### 走行モードの選択

**全車両 (AMG 車両を除く)：** 走行モード **S** を選択しているときは、ディストロニック・プラスはスポーティな運転スタイルを支援します (▶ 138 ページ)。先行車両の後方まで、または設定した速度まで非常にダイナミックに加速します。走行モード **E** を選択している場合は、車両はさらに緩やかに加速します。この設定は交通渋滞で推奨されます。

**AMG 車両：** 走行モード **S** または **M** を選択しているときは、ディストロニック・プラスはスポーティな運転スタイルを支援します (▶ 138 ページ)。先行車両の後方まで、または設定した速度まで非常にダイナミックに加速します。走行モード **C** を選択しているときは、車両はさらに緩やかに加速します。この設定は交通渋滞で推奨されます。

### 車線変更

以下のときに追い越し車線に移る場合は、ディストロニック・プラスは運転者を支援します。

- 70km/h 以上で走行している
- 対応する方向指示灯を作動させている
- ディストロニック・プラスが衝突の危険を検知していない

これらの条件を満たした場合は、車両は加速します。車線変更に時間がかかりすぎたり、車両と先行車両との距離が短すぎる場合は、加速は中断されます。

**i** 車線を変更するとき、ディストロニック・プラスは左の車線 (左ハンドル車両) または右の車線 (右ハンドル車両) をモニターします。

### 停止

#### ⚠ 警告

車から離れるときは、ディストロニック・プラスによりブレーキがかかっても以下の場合は車両が動き出すことがあります。

- システムまたは電源供給に異常があるとき
- 乗員または車外の誰かがクルーズコントロールレバーを操作して、ディストロニック・プラスが解除されたとき
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき
- バッテリーの接続を外したとき
- 同乗者などがアクセルペダルを踏んだとき

事故の危険性があります。

車から離れるときは、必ずディストロニック・プラスをオフにして車両が動き出さないように固定します。

ディストロニック・プラスの解除についてのさらなる情報は、(▶ 154 ページ) をご覧ください。

先行車両が停止したことをディストロニック・プラスが検知した場合は、車両が停止するまでブレーキを効かせます。一度車両が停止すると、停車したままになり、ブレーキを踏む必要はありません。その後すぐに、電気式パーキングブレーキにより車両が動かなくなり、サービスブレーキの負担が軽減されます。

設定最短距離によっては、車両は先行車両の後方に十分な距離があるところで停止することがあります。設定最短距離はクルーズコントロールレバーを使用して設定します。

ホールド機能を作動させているときは、以下の場合にトランスミッションは自動的にポジション P にシフトします：

- 運転席のシートベルトが着用されていなく、運転席ドアを開いた
- ECO スタートストップ機能による自動停止以外の方法でエンジンを停止した車両が停止しているときにディストロニック・プラスが作動状態で以下の場合には、自動的に電気式パーキングブレーキによって車両が動かなくなります。
- システムに異常が発生した
- 電力供給が不十分である

電気式パーキングブレーキが故障した場合は、トランスミッションが自動的にポジション P にシフトすることがあります。

### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 速度の設定
- 最短車間距離の設定
- メーターパネルのディストロニック・プラスディスプレイ

### ディストロニック・プラスの解除



ディストロニック・プラスを解除するためにはいくつかの方法があります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを前方 ① に軽く押します。

または

- ▶ 車両が停止していないときにブレーキを効かせます。

または

- ▶ クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ③ に軽く押します。  
可変スピードリミッターが選択されず。クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。

ディストロニック・プラスを解除したときは、マルチファンクションディスプレイに **ディストロニックプラス オフ** というメッセージが約 5 秒間表示されます。

**i** エンジンを停止するまでは、最後に記憶させた速度が記憶されたままになります。

**i** アクセルペダルを踏んだ場合でも、ディストロニック・プラスは解除されません。

以下の場合は、ディストロニック・プラスが自動的に解除されます。

- 電気式パーキングブレーキを効かせた、または車両が自動的に電気式パーキングブレーキで固定された
- ESP®が介入した、または ESP®を解除した
- トランスミッションが P、R、または N ポジションにある
- 発進するためにクルーズコントロールレバーを運転者の方向に引き、助手席ドアまたはいずれかのリアドアが開いている
- 車両が横滑りした
- アクティブパーキングアシストを作動させた

ディストロニック・プラスが解除された場合は、警告音が鳴ります。マルチファンクションディスプレイに **ディストロニックプラス オフ** というメッセージが約5秒間表示されます。

## ディストロニック・プラスでの運転のヒント

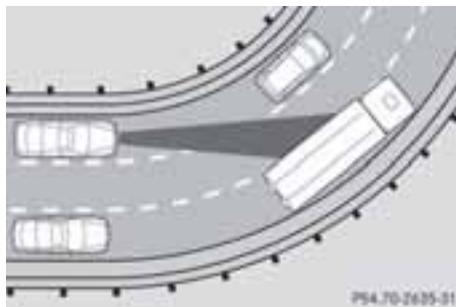
### 全体的な注意事項

以下の交通状況では特に注意して運転してください。

- カーブの走行/侵入/退出時
- 車線の中央を走行していない車両
- 車線変更する他の車両
- 幅の狭い車両
- 障害物や停止車両
- 横切る車両

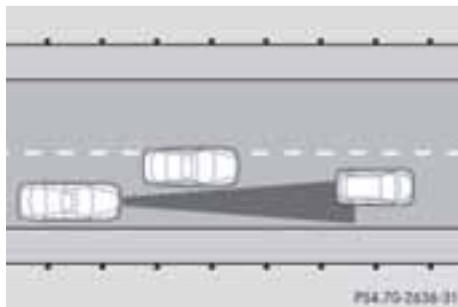
そのような状況では必要であればブレーキを効かせてください。ディストロニック・プラスは解除されます。

### カーブの走行/侵入/退出時



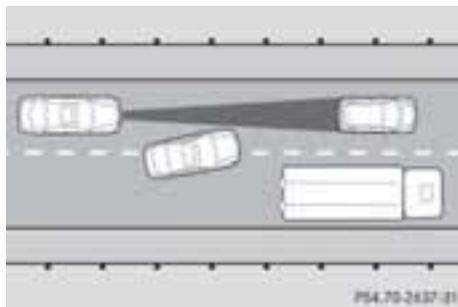
カーブではディストロニック・プラスの車両を検知する能力には限界があります。予期せずまたは遅くブレーキを効かせることがあります。

### 車線の中央を走行していない車両



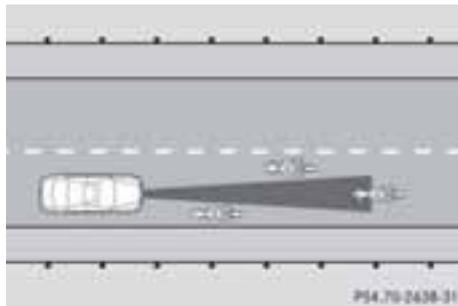
ディストロニック・プラスは車線の中央を走行していない車両を認識することができません。先行車両との距離は非常に短くなる可能性があります。

### 車線変更する他の車両



ディストロニック・プラスは割り込んでくる車両を検知しません。この車両との距離は非常に短くなる可能性があります。

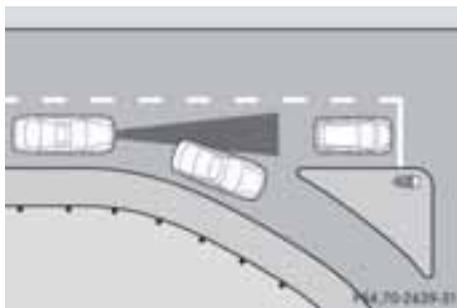
### 幅の狭い車両



ディストロニック・プラスは道路の端の幅の狭い車両を検知しないことがあります。

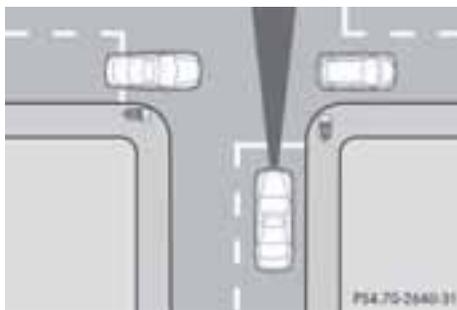
す。先行車両との距離は非常に短くなる  
ことがあります。

### 障害物や停止車両



ディストロニック・プラスは障害物や停止車両に対してブレーキを効かせないことがあります。例えば、検知していた車両がカーブを曲がり、障害物や停止車両が現れたときは、ディストロニック・プラスはこれらに対してブレーキを効かせないことがあります。

### 横切る車両



ディストロニック・プラスは車線を横切る車両を誤って検知することがあります。交差点の信号でディストロニック・プラスを作動させると、例えば不意に車両が発進することがあります。

## ステアリングアシストおよびストップ&ゴーパイロット付ディストロニック・プラス

### 全体的な注意事項



ステアリングアシストおよびストップ&ゴーパイロット付ディストロニック・プラスは、0 ~ 200 km/h の速度域で、緩やかなステアリングの介入により、車両を走行車線の中央に保つ支援をします。これは、フロントウインドウ上部のカメラシステム ① によって車両の前方エリアをモニターします。

交通渋滞で車両に追従しているときなど 0~60km/h の速度域では、ストップ&ゴーパイロットは、車線マークを考慮に入れながら先行車両に目標を合わせます。60km/h 以上の速度では、ステアリングアシストは検知された車線マーク（左および右）に、検知された車線マークがない場合は先行車両にのみ目標を合わせます。

これらの条件を満たしていない場合は、ステアリングアシストおよびストップ&ゴーパイロットは作動しません。

機能が作動できるようにするためには、ディストロニック・プラスが作動していません。

### 重要な安全上の注意事項

運転スタイルを合わせていない場合は、ステアリングアシストおよびストップ&ゴーパイロット付ディストロニック・プ

ラスは事故の危険性を低減することができません。また、物理的限界を超えることはできません。道路、天候および交通状況を考慮することはできません。ステアリングアシストおよびストップ&ゴーパイロット付ディストロニック・プラスは単なる支援にすぎません。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、および車線を維持する責任があります。

ステアリングアシストおよびストップ&ゴーパイロット付ディストロニック・プラスは、道路および交通状況を検知するものでもなければ、すべての道路使用者を検知するものでもありません。道路の端に向かって走行している車両を追従している場合は、お客様の車両が縁石または他の道路境界線に接触するおそれがあります。車両のすぐ隣の自転車など、他の道路使用者には特に気をつけてください。

車線上にあるコーンや車線内にはみ出した障害物は検知されません。

車線マークの上を故意に走行した後などの不適切なステアリングの介入は、反対方向に軽くステアリングを操作した場合にいつでも修正することができます。

ステアリングアシストおよびストップ&ゴーパイロット付ディストロニック・プラスは、車両を車線内に保ち続けることはできません。場合によっては、ステアリングの介入は車両を車線内に戻すのに十分でない場合があります。このような場合は、ご自身で車両のステアリング操作を行ない、車線を外れないようにしてください。

以下の場合、システムにより行なわれている支援が困難になることがあります：

- 道路に十分な照明がなかったり、雪や雨、霧や霧雨などにより、視界が悪い
- 対向交通、太陽または他の車両からの反射光などで眩惑がある（路面が濡れている場合など）
- フロントウィンドウが汚れていたり、曇っている、またはカメラ付近がステッカーなどで覆われている
- 工事エリアなどで1車線分の車線マークがまったくないか、または複数ある、不明瞭である
- 車線マークが摩耗していたり黒ずんでいる、または汚れや雪などに覆われている
- 先行車両との車間距離が短くて車線マークが検知できない
- 車線の分岐や他との交差、合流などで車線マークが頻繁に変わる
- 道路が狭かったりカーブしている
- 道路に著しく様々な日陰の状況がある

以下の場合、システムが待機状態に切り替わり、ステアリング介入の実行による支援を行なわなくなります：

- 頻繁に車線を変更している
- 方向指示灯を作動させる
- 長時間ステアリングから手を放している、またはステアリング操作をしていない

**i** 車線変更後にステアリングアシストおよびストップ&ゴーパイロットは再び自動的に作動します。

ステアリングアシストおよびストップ&ゴーパイロットは以下のときは作動しません。

- 非常に急なカーブで
- タイヤの空気圧の減少またはタイヤの不具合が検知され表示された

ディストロニック・プラスの重要な安全上の注意事項にも注意してください(▶ 150 ページ)。

ステアリング操作の介入は、限られたステアリング操舵力で行なわれます。ステアリングに手を置いたまま、ご自身でステアリング操作をするようにシステムは運転者に要求します。

ステアリング操作をご自身で行なわない場合、または長時間ステアリングから手を放している場合は、システムはまず視覚的な警告で警告します。マルチファンクションディスプレイにステアリングのマークが表示されます。遅くとも5秒後にステアリング操作をまだ開始しておらず、ステアリングを握っていない場合は、車両を操作するように気付かせるために警告音も鳴ります。ステアリングアシストおよびストップ&ゴーパイロットは、待機モードに切り替わります。ディストロニック・プラスは作動したままになります。

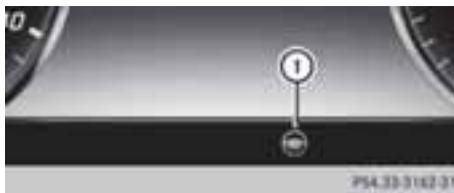
### ステアリングアシストおよびストップ&ゴーパイロットの作動



- ▶ スイッチ ② を押します。

表示灯 ① が点灯します。マルチファンクションディスプレイに **DTR+: ステアリングアシスト** というメッセージが表示されます。ステアリングアシストおよびストップ&ゴーパイロットが作動します。

### マルチファンクションディスプレイの情報



ステアリングアシストおよびストップ&ゴーパイロットが設定されているが、ステアリング介入の準備ができていない場合は、ステアリングのマーク ① が灰色で表示されます。システムがステアリング介入によって支援を行なっている場合は、マーク ① が緑色で表示されます。

### ステアリングアシストおよびストップ&ゴーパイロットの解除



- ▶ スイッチ ② を押します。

表示灯 ① が消灯します。マルチファンクションディスプレイに **DTR+: ステアリングアシスト** というメッセージが表示されます。ステアリングアシストおよびストップ&ゴーパイロットが解除されます。

ディストロニック・プラスが解除されている、または使用できないときは、ステアリングアシストおよびストップ&ゴーパイロットが自動的に解除されます。

## ホールド機能

### 全体的な注意事項

ホールド機能は以下のようなときに運転者を支援します。

- 特に急な坂道で発進するとき
- 急な坂道で車を動かすとき
- 発進待ちをしているとき

運転者がブレーキペダルを踏まなくても、車両が停止した状態を保ちます。

発進するためにアクセルペダルを踏んだときは、ブレーキ効果が解除されホールド機能は解除されます。

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

車両を離れるときは、ホールド機能によりブレーキを効かせているにも関わらず、以下のときに発進するおそれがあります。

- システムまたは電圧の供給に不具合がある
- 例えば車両乗員によってアクセルペダルが踏まれることによりホールド機能が解除される
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造される
- バッテリーの接続が外された

事故の危険性があります。

車両を離れる前には常にホールド機能を解除し、発進しないように車両を固定してください。

ホールド機能の解除についてのさらなる情報は、(▷ 160 ページ)をご覧ください。

❗ ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください：

- けん引されるとき
- 洗車時

### 作動条件

以下の条件のすべてが満たされている場合は、ホールド機能を作動できます。

- 車両が停止している
- エンジンがかかっている、またはECOスタートストップ機能によって自動的に停止している
- 運転席ドアが閉じている、または運転者がシートベルトを着用している
- 電気式パーキングブレーキが解除されている。
- トランスミッションがポジション **D**、**R**、**N** である
- ディストロニック・プラスが解除されている

### ホールド機能を作動させる



- ▶ 作動条件が満たされていることを確認します。
- ▶ ブレーキペダルを踏んでください。
- ▶ マルチファンクションディスプレイに①が表示されるまで、ブレーキペダルを素早くさらに踏みます。ホールド機能が作動します。ブレーキペダルから足を放すことができます。

**i** 最初にブレーキペダルを踏んだときにホールド機能が作動しない場合には、少し待った後に再度試してください。

### ホールド機能を解除する

ホールド機能は以下のときに自動的に解除されます。

- アクセルペダルを踏んで、トランスミッションがポジション **D** または **R** である。
- トランスミッションをポジション **P** にシフトした。
- マルチファンクションディスプレイから **[HOLD]** が消えるまで、ブレーキペダルを再度一定の強さで踏んだ。
- 電気式パーキングブレーキを使用して車両を動かさないようにした。
- ディストロニック・プラスを作動させた。

**i** その後すぐに、電気式パーキングブレーキにより車両が動かなくなり、サービスブレーキの負担が軽減されます。そして、ホールド機能は解除されます。

ホールド機能を作動させているときは、以下の場合にトランスミッションは自動的にポジション **P** にシフトします：

- 運転席のシートベルトが着用されていなく、運転席ドアを開いた
- ECO スタートストップ機能による自動停止以外の方法でエンジンを停止した

車両が停止しているときにディストロニック・プラスが作動状態で以下の場合には、自動的に電気式パーキングブレーキによって車両が動かなくなります。

- システムに異常が発生した
- 電力供給が不十分である

電気式パーキングブレーキが故障した場合は、トランスミッションが自動的にポジション **P** にシフトすることがあります。

### マジックボディコントロール

#### 全体的な注意事項

マジックボディコントロールは、ABC (アクティブ・ボディ・コントロール)、路面スキャン、および CURVE コーナリング機能で構成され、横風を受けた際に自動的に車両を安定させます。

車両は車高を自動的に調整し、燃料消費を減少させます。サスペンションモードは、お客様の選択 (スポーツ、コンフォートまたは CURVE)、路面の状況および車両の積載量に応じて調整されます。多機能カメラは、車両が乗り越える前に路面の凹凸を検知します。これにより、シャーシの動きが抑制されます。

#### 重要な安全上の注意事項

##### 警告

車両を下げるときに、車体と車輪の間、または車両の下に手足がある場合、挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

車両を下げるときは、車両の下、またはホイールアーチのすぐ近くに誰もいないことを確認してください。

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下に関する情報があります。

- クロスウィンドアシスト
- ABC (アクティブ・ボディ・コントロール)
- 路面スキャン

## AIR マティックサスペンション

### 全体的な注意事項

AIR マティックサスペンションは、可変ダンピングを装備した走行快適性を向上させるためのエアサスペンションシステムです。レベルコントロール機能は、サスペンションを最適にして、積載時でも地上高を一定に保ちます。高速で運転するときは、走行安全性を向上させ燃費を低減させるために、自動的に車高が低くなります。手動での車高調整を選択することもできます。AIR マティックサスペンションには、車高の設定、レベルコントロールおよび ADS (アダプティブダンピングシステム) プラスが含まれます。

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

車両を下げるときに、車体と車輪の間、または車両の下に手足がある場合、挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

車両を下げるときは、車両の下、またはホイールアーチのすぐ近くに誰もいないことを確認してください。

## 車高

### 高い車高の設定



"標準" と "高い" 車高の間で選択することができます。通常の路面では "標準" 設定を、スノーチェーンを装着して走行するときや路面が特に悪いときは "高い" を選択してください。エンジンスイッチからキーを抜いた場合でも、選択した内容は記憶されたままになります。

- ▶ エンジンを始動します。

表示灯 ② が点灯していない場合：

- ▶ スイッチ ① を押します。  
表示灯 ② が点灯します。標準の高さと比較して、車両は 30 mm 上がります。マルチファンクションディスプレイに **車高が上がります** というメッセージが表示されます。

**i** 到達した高さに関係なく、メッセージは 10 秒後に消えます。必要な場合は、車両はさらに上がります。

"高い車高" の設定は以下のときに解除されます：

- 約 120 km/h 以上の速度で走行した
- 約 80 km/h 以上の速度で約 3 分間走行した

### 標準の車高の設定

- ▶ エンジンを始動します。

表示灯 ② が点灯している場合：

- ▶ スイッチ ① を押します。  
表示灯 ② が消灯します。車高が標準の車高に調整されます。

## サスペンション制御

デジタル版取扱説明書には、以下に関する情報があります：

- 全体的な注意事項
- スポーツモード
- コンフォートモード

## 4MATIC (フルタイム 4 輪駆動システム)

4MATIC は 4 輪全てが常に駆動しています。不十分な接地力により駆動輪が空転したときはいつでも、ESP® とともに車両の駆動力を向上させます。

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、4MATIC は事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて運転を支援することはできません。4MATIC は路面、天候および交通状況を考慮することはできません。4MATIC はあくまでも運転を支援するシステムです。運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。

不十分なグリップのため駆動輪が空転する場合

- 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。
- 走行時は加速を少なくしてください

**!** 片方のアクスルを持ち上げた状態で車両をけん引しないでください。トランスファーケースを損傷するおそれがあります。このような損傷はメルセデス・ベンツの一般保証では保証されません。全ての車輪が接地しているか、完全に持ち上

がっていないければなりません。車輪全てが完全に接地している状態で車両をけん引するときは、取扱説明書に従ってください。

**i** 冬に走行するときは、ウィンタータイヤ (M+S タイヤ) や必要であればスノーチェーンを装着すると 4MATIC の効果が最大限に発揮されます。

## パークトロニック

### 重要な安全上の注意事項

パークトロニックは超音波センサーによる、電子的な駐車支援です。フロントバンパーの 6 個のセンサーとリアバンパーの 6 個のセンサーを使用して、車両周辺のエリアをモニターします。パークトロニックは、車両と物体との距離を視覚的、聴覚的に示します。

パークトロニックは単なる支援に過ぎません。すぐ周辺に対する注意の代わりになるものではありません。運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。ステアリング操作や駐車を行なっている間は、周囲に人や動物、障害物がないことを確認してください。

**!** 駐車するときは、鉢植えやトレーラーけん引部などセンサーの上下にあるものに十分注意をしてください。パークトロニックはこれらが車両の至近距離にあるときは感知できません。車両や物を損傷するおそれがあります。

センサーは雪やその他の超音波を吸収しやすいものを感知しないことがあります。自動洗濯機やトラックの圧縮空気ブレーキ、空気ドリルなどが発生する超音波によりパークトロニックが機能しないことがあります。

不整地などではパークトロニックが正しく作動しないことがあります。

パークトロン尼克は以下のときに自動的に作動します。

- イグニッションをオンにした
- トランスミッションをポジション D、R または N にシフトした

パークトロン尼克は 18 km/h 以上の速度で解除されます。それより低い速度で再作動します。

## センサーの範囲

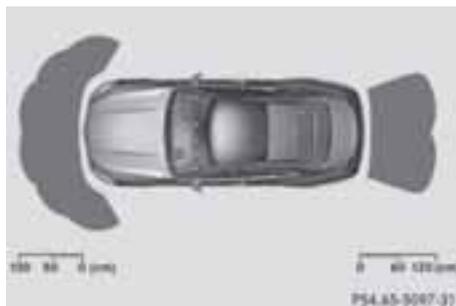
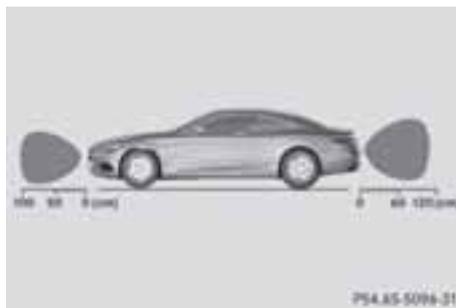
### 全体的な注意事項

以下のときは、パークトロン尼克は障害物を考慮しません。

- 人や動物、障害物などが検知範囲の下にある
- 突き出た荷物、車両後部、または積載用スロープなどが検知範囲の上にある



① 例：左側フロントバンパーのセンサー



センサーに汚れ、氷および泥がないようにしてください。適切に機能しないことがあります。センサーに損傷を与えないように注意して、定期的に清掃してください。(▷ 241 ページ)

### フロントセンサー

センター部	約 100 cm
コーナー部	約 60 cm

### リアセンサー

センター部	約 120 cm
コーナー部	約 80 cm

### 最短距離

センター部	約 20 cm
コーナー部	約 15 cm

この範囲内に障害物がある場合は、対応する警告表示が点灯して警告音が鳴りま

す。距離が最短以下になった場合は、距離が表示されなくなることがあります。

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 警告表示
- パークトロニックの解除/作動
- パークトロニックのトラブル

## アクティブパーキングアシスト

### 全体的な注意事項

アクティブパーキングアシストは超音波により駐車を支援するシステムです。車両の両側の道路を測定します。駐車マークは、適切な駐車スペースを示します。駐車している間、または駐車スペースから出るときに、ステアリング操作への介入およびブレーキの適用によって運転者を支援します。パークトロニックを使用することもできます (▶ 162 ページ)。

### 重要な安全上の注意事項

アクティブパーキングアシストは単なる支援にすぎません。周囲に対する運転者の注意の代わりになるものではありません。運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。操作範囲に人や動物や物がないことを確認してください。

パークトロニックが解除されているときは、アクティブパーキングアシストも作動しません。

#### ⚠ 警告

検知範囲上に障害物がある場合:

- 作動中のパーキングアシストのステアリング操作が早すぎる場合があります。
- 車両が障害物の前で停車しないことがあります。

衝突する原因となる可能性があります。事故の危険性があります。

検知範囲上に障害物があるときは、停止してアクティブパーキングアシストをオフにしてください。

#### ⚠ 警告

駐車するときや駐車スペースから出るとき、車両がはみ出し、対向車線に入ることがあります。他の道路使用者とぶつかる可能性があります。事故の危険性があります。

他の道路利用者に注意してください。必要な場合は停車して、アクティブパーキングアシストの作動を解除してください。

**!** 避けられないときは、ゆっくりと鋭角でない角度で縁石などの障害物を乗り越えてください。ホイールやタイヤを損傷するおそれがあります。

アクティブパーキングアシストは、以下のような駐車するのに適さないスペースを表示することがあります:

- 駐車または停車が禁止されている
  - 私道の手前または建物の出入り口
  - 路面が駐車するのに適していない場所
- 駐車のヒント:

- 狭い道路では、できるだけ駐車スペースの近くを通過して走行してください。
- ゴミが散らかっていたり、草が茂っている駐車スペースは、確認や測定が不正確になることがあります。
- トレーラーけん引部が一部を占有している駐車スペースを識別できなかったり、測定が不正確になることがあります。
- 雪や激しい雨により、正しく計測されていない駐車スペースに誘導されることがあります。
- 駐車操作を行なっている間は、パークトロニック (▶ 164 ページ) の警告メッセージに注意してください。

- 運転者はいつでもステアリング操作に介入して修正できます。その場合はアクティブパーキングアシストが解除されます。
- 車両からはみ出している荷物を運んでいるときは、アクティブパーキングアシストを使用しないでください。
- スノーチェーンを装着しているときは、アクティブパーキングアシストを絶対に使用しないでください。
- タイヤ空気圧が常に適正であることを確認してください。これは車両の駐車動作に直接影響を与えます。

アクティブパーキングアシストは以下のような駐車スペースで使用してください：

- 進行方向と平行または直角である
- カーブしていないまっすぐな道にある
- 歩道などでなく、道路と同じ高さにある

### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 駐車スペースの検知
- 駐車
- 駐車スペースからの退出
- アクティブパーキングアシストの中止

### リアビューカメラ

#### 全体的な注意事項



リアビューカメラ①は、トランクリッドのフラップの下にあります。

リアビューカメラ①は、視覚的な駐車および運転操作の支援です。COMAND ディスプレイに車両後方の映像をガイドライン入りで表示します。

車両後方のエリアは、ルームミラーに映るように鏡像で表示されます。

① COMAND ディスプレイのメッセージは、言語設定により異なった文字で表示されます。以下はリアビューカメラのCOMAND ディスプレイのメッセージの例です。

#### 重要な安全上の注意事項

リアビューカメラは単なる支援にすぎません。周囲に対する運転者の注意の代わりになるものではありません。運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。ステアリング操作や駐車を行なっている間は、周囲に人や動物、障害物がないことを確認してください。

以下のような環境ではリアビューカメラが機能しなかったり、制限された方法で機能します：

- トランクリッドが開いている場合
- 激しい雨、雪または霧で

- 夜や非常に暗い場所で
- カメラが非常に明るい光に照らされている場合
- 周囲が蛍光灯の電球や LED の光で照らされている場合（ディスプレイがちらつくことがあります）
- 冬に暖かい車庫に入ったときなど、急激な温度変化が原因でカメラが曇る場合
- カメラのレンズが汚れている、または遮られている場合。清掃に関する注意事項に従ってください。（▶ 241 ページ）
- 車両の後部が損傷している場合。この場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの位置および設定を点検してください。

車両後部に追加したアクセサリー（ナンバープレートホルダー、自転車ラックなど）により、リアビューカメラの視界および他の機能が制限される可能性があります。

COMAND システムのガイドラインは車両までの距離を表示します。距離は道路の高さにのみ適用されます。

**i** リアビューカメラはフラップによって雨やほこりから保護されています。リアビューカメラの作動中はこのフラップが開きます。

フラップは以下のときに再度閉じます：

- 操作手順を終えた
- エンジンを停止した
- トランクを開いた

清掃に関する注意事項に従ってください（▶ 241 ページ）。

技術的な理由のため、リアビューカメラが停止した後にフラップが短時間開いたままになることがあります。

**!** 以下のような路面に接していない障害物は、実際よりも遠くに見えることがあります。

- 駐車車両のバンパー
- トレーラーのトローリングバー
- トレーラーけん引ヒッチのボールヘッドカップリング
- 大型車のリア部
- 傾いた柱

ガイドラインはあくまでも目安として利用してください。障害物に近付くときは、障害物が一番下のガイドラインを越えないように注意してください。

リアビューカメラは、障害物の歪んだ画像を表示したり、それらを正しく、またはまったく表示しないことがあります。以下のような場所にある障害物は、リアビューカメラで表示されません；

- リアバンパーのすぐ近く
- リアバンパーの下
- テールゲートハンドルの上のエリア

### リアビューカメラの作動/停止

▶ **作動させる**： エンジンスイッチのキーが **2** の位置にあることを確認します。

▶ **P/R-連動** 機能が COMAND システムで選択されていることを確認します（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。

▶ リバースギアに入れます。

リアビューカメラのフラップが開きます。車両後方のエリアがガイドラインとともに COMAND ディスプレイに表示されます。

操作手順中は、リアビューカメラの画像を使用することができます。

**停止する**： トランスミッションを **P** にシフトした場合、または短距離を前進した後に、リアビューカメラは停止します。

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります：

- COMAND ディスプレイの表示
- "後退駐車"機能
- 広角機能
- 障害物検知

## 360° カメラシステム (サラウンドビュー)

### 全体的な注意事項

360° カメラシステムは、4つのカメラで構成されるカメラシステムです。

システムは以下のカメラからの映像を評価します：

- リアカメラ
- フロントカメラ
- ドアミラーの2つのサイドカメラ

カメラは車両周辺の状況を映し出します。360° カメラシステムは、駐車時または視界の悪い出口などで運転者を支援します。

360° カメラシステムからの映像を、COMAND ディスプレイに全画面モードまたは6種類の分割画面表示で表示できます。分割画面表示には、車両上面表示も含まれています。この表示は、装着されているカメラにより提供されたデータから生成されます (バーチャルカメラ)。6つの分割画面表示は以下のとおりです：

- 車両上面表示とリアカメラからの映像 (130° 表示角度)
- 車両上面表示とフロントカメラからの映像 (最大ステアリング角度を表示しない 130° 表示角度)
- 車両上面表示とリア拡大表示
- 車両上面表示とフロント拡大表示

- 車両上面表示と後方サイドカメラからの映像 (後輪表示)
- 車両上面表示と前方サイドカメラからの映像 (前輪表示)

機能が設定されていてトランスミッションを **D** または **R** から **N** にシフトすると、COMAND ディスプレイのガイドラインが非表示になります。

シフトポジションを **D** と **R** の間で切り替えた場合は、直前に選択したフロントまたはリア表示が表示されます。

### 重要な安全上の注意事項

360° カメラは単なる支援に過ぎず、障害物の歪んだ映像を表示したり、それらを不正確に、またはまったく表示しないことがあります。360° カメラシステムは、注意を払った走行の代わりになるものではありません。

運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。ステアリング操作や駐車を行なっている間は、周囲に人や動物、障害物がないことを確認してください。

運転者には安全を確保する責任があり、駐車や運転操作を行なうときは、常に周囲の状況に注意しなければなりません。これには、車両の後方、前方および両側面が含まれます。さもないと、運転者や他の人に危険がおよぶおそれがあります。360° カメラシステムは、以下の場合にまったく機能しなくなるか、制限された方法でのみ機能します：

- ドアが開いている場合
- ドアミラーが格納されている場合
- トランクリッドが開いている場合
- 激しい雨、雪または霧で
- 夜や非常に暗い場所で
- カメラに強い光が直接当たっている場合

- 周囲が蛍光灯の電球や LED の光で照らされている場合（ディスプレイがちらつくことがあります）
- 冬に暖かい車庫に入ったときなど、急激な温度変化が原因でカメラが曇った場合
- カメラのレンズが汚れていたり、覆われている場合。清掃に関する注意事項に従ってください。（▶ 241 ページ）
- カメラ装着部の車両構成部品が損傷した場合。このようなときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの位置および設定を点検してください。

このような場合は、360° カメラシステムを使用しないでください。さもないと、車両駐車時に、他の人にけがをさせたり、物を損傷したりするおそれがあります。COMAND システムのガイドラインは車両までの距離を表示します。距離は道路の高さにのみ適用されます。

**①** 後方カメラはフラップにより、雨や埃から保護されています。このフラップは、360° カメラシステム作動時に開きます。

フラップは以下のときに再度閉じます：

- 操作手順を終えた
- エンジンを停止した
- トランクを開いた

清掃についての注意事項に従ってください（▶ 241 ページ）。

技術的な理由により、360° カメラシステムが停止した後にフラップが一時的に開いたままになることがあります。

## 作動条件

360° カメラシステムの映像は、以下のときに表示されます：

- COMAND システムが作動している（デジタル版取扱説明書をご覧ください）
- 360° **カメラ** 機能が設定されている

**①** 約 30 km/h 以上の速度で 360° カメラシステムが作動している場合は、警告メッセージが表示されます。

以下の場合、警告メッセージが消えます。

- 車両の速度が約 30 km/h 以下に下がる。その後 360° カメラシステムが作動します。
-  スイッチでメッセージを確定します。

## スイッチを使用して 360° カメラシステムのオンおよびオフを切り替える



▶ **オンにする：** スイッチ **①** を押します。シフトポジション **D** または **R** のいずれが選択されているかによって、以下の画面が表示されます：

- フロントカメラからの映像の全画面表示
- リアカメラからの映像の全画面表示

▶ **解除する：** スイッチ **①** を再度押します。

**①** 全画面表示から分割画面表示に切り替えることもできます。

## COMAND システムを使用して 360° カメラシステムを作動させる

- ▶ センターコンソールの  スイッチを押しします。  
車両メニューが表示されます。
- ▶ 360° カメラシステムを選択する：コントローラーをまわして、押しします。シフトポジション **D** または **R** のいずれが選択されているかによって、以下の画面が表示されます：
  - 車両上面表示とフロントカメラからの映像による分割画面表示、または
  - 車両上面表示とリアカメラからの映像による分割画面表示

COMAND コントローラーについてのさらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

## リバースギアを使用して、360° カメラシステムを作動させる

リバースギアに入れることで、自動的に360° カメラシステムの映像が表示されます。

- ▶ エンジンスイッチのキーが **2** の位置にあることを確認します。
- ▶ COMAND システムで **リバース連動** 機能が選択されていることを確認します（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。
- ▶ **360° カメラシステムの映像を表示する**：リバースギアに入れます。  
COMAND ディスプレイに分割画面モードで車両後方エリアが表示されます。車両上面表示およびリアカメラからの映像が表示されます。

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります。

- 分割画面または全画面表示の選択
- COMAND ディスプレイの表示
- パークトロンニックディスプレイでの画像表示

## 360° カメラシステムの表示を停止する

360° カメラシステム表示は、以下のときに停止します：

- シフトポジション **P** を選択したとき、または
  - 緩やかな速度で走行しているとき
- 360° カメラシステムが表示される以前に作動していた画面が COMAND ディスプレイに表示されます。COMAND コントローラーでディスプレイの  マークを選択することにより、360° カメラシステム表示の分割画面を停止することもできます。

## アテンションアシスト

### 全体的な注意事項

アテンションアシストは高速道路や幹線道路のような道路で、長時間の変化の少ない走行をするときに運転者を支援します。60 km/h ~ 200 km/h の範囲で作動します。運転者の疲労や集中力欠如の増加の典型的な兆候を検知した場合は、アテンションアシストは休憩を促します。

### 重要な安全上の注意事項

アテンションアシストは単なる支援にすぎません。疲労や集中力欠如を検出するのが遅すぎたり、まったくしないことがあります。十分な休憩を取り、集中力が

ある運転者の代わりになるものではありません。

以下のときは、アテンションアシストの機能が制限されたり、警告が遅れる、またはまったく行なわれないことがあります。

- 走行時間が約 30 分以下の場合
- 路面が平坦でなかったり、穴があるなど、道路の状態が悪い場合
- 横風が強い場合
- 高いスピードでカーブを曲がっているときや急加速をしているときなど、スポーティな運転を行なっている場合
- 主に 60 km/h 以下、または 200 km/h 以上の速度で走行している場合
- ディストロニック・プラスのステアリングアシストで走行している場合
- 時刻が正しく設定されていない場合
- 車線を変更したり走行速度を変えるなどの活発な運転状況の場合

走行を継続するときは、以下のときにアテンションアシストはリセットされ、運転者の疲労の評価を開始します。

- エンジンを停止した
- 運転者を交代したり、休憩を取るために、運転者がシートベルトを外して運転席のドアを開いた

## アテンションレベルの表示



マルチファンクションディスプレイのアシストメニューに現在の状況の情報を表示させることができます。

- ▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、アテンションアシストのアシスト一覧表示を選択します (▶ 186 ページ)。

以下の情報が表示されます：

- 最後の休憩からの走行時間
- アテンションアシストによって判断されるアテンションレベル、「高い」から「低い」まで 5 段階のバー表示で表示されます。
- アテンションアシストがアテンションレベルを算出できず、警告を発することができない場合は、**システム停止** というメッセージが表示されます。60 km/h 以下、または 200 km/h 以上の速度で走行している場合などは、バー表示の表示が変更されます。

## アテンションアシストの設定

- ▶ マルチファンクションディスプレイを使用してアテンションアシストを設定します (▶ 186 ページ)。  
システムは、選択された以下の設定によって運転者のアテンションレベルを判断します：

**標準を選択：**アテンションレベルを判断するシステムの感度が標準に設定されます。

**高感度を選択：**感度がより高く設定されます。それに従ってアテンションアシストにより検知されるアテンションレベルが合わされ、運転者に早く知らされます。アテンションアシストが解除されているときは、マルチファンクションディスプレイのアシスト一覧に  マークが表示されます。

アテンションアシストが解除されているときは、エンジンが停止した後に自動的

に再設定されます。選択される感度は、最後に設定した選択に対応します（標準/高感度）。

## マルチファンクションディスプレイの警告

疲労または集中力欠如の増加が検知された場合は、マルチファンクションディスプレイに **アテンションアシスト 休憩しましょう！** という警告が表示されます。

マルチファンクションディスプレイに表示されるメッセージに加えて、警告音が聞こえます。

- ▶ 必要に応じて、休憩を取ってください。
- ▶ ステアリングの **OK** スイッチを押して、メッセージを確定します。

長時間の運転では、適切な休憩をするために、適切な時間に定期的に休憩を取るようしてください。休憩を取らず、アテンションアシストがなお集中力欠如の増加を検知している場合は、15分後以降に再度警告されます。これは、アテンションアシストが疲労または集中力低下の増加の兆候を検知した場合にのみ実行されます。

警告がマルチファンクションディスプレイに表示された場合は、COMANDシステムでサービスステーションの検索が実行されます。ガソリンスタンドを選択することができ、このガソリンスタンドへのナビゲーションが開始します。この機能はCOMANDシステムで設定および解除できます。

## ナイトビューアシストプラス

### 全体的な注意事項



通常のヘッドライトの照明に加え、ナイトビューアシストプラスは赤外線を利用して路面を照射します。ナイトビューアシストプラスのカメラ②は赤外線を検知して、マルチファンクションディスプレイにモノクロ画像を表示します。ディスプレイに表示される画像は、ハイビームヘッドライトにより照らされた道路に相当するものです。これにより、進行方向の道路状況や障害物を素早く確認することができます。歩行者検知が作動しているときは、システムによって検知された歩行者がナイトビューアシストプラスの表示に小さな角枠とともに、色付きで視覚的に強調されます。

さらに、赤外線カメラがラジエータートリム①に内蔵されています。カメラは歩行者および動物を検知するために役立ちます。赤外線カメラの清掃に関する注意事項に従ってください（p. 241 ページ）。

**①** 赤外線は人の目に見えないため、対向車両を眩惑させることはありません。したがって、対向車両がいる場合でもナイトビューアシストプラスを作動させることができます。

### 重要な安全上の注意事項

ナイトビューアシストプラスはあくまでも支援にすぎず、注意を払った運転の代

わりになるものではありません。ナイトビューアシストプラスの映像のみに頼らないでください。先行車両との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作の責任は運転者にあります。常に路面や天候の状態に合わせて運転してください。

以下のときはシステムが影響を受けたり、作動しないことがあります。

- 雪、雨、霧、霧雨などで視界が悪い場合
- フロントウィンドウが汚れている、曇っている、または例えばステッカーなどでカメラの周辺が覆われている場合
- ラジエターグリルの熱検知カメラが汚れている、曇っている、または覆われている場合
- カーブ、頂上または下り坂勾配で
- 高い外気温度で

ナイトビューアシストプラスは、車両のすぐ前方または横の物を表示することはできません。

他の障害物が歩行者および動物と同じようにマークされる、または強調されることがあります。

## 歩行者および動物検知

### 全体的な注意事項

以下の場合、歩行者または動物検知が困難になったり、または作動しないことがあります。

- 歩行者または動物が、駐車している車両などの他の障害物によって部分的にまたは全体的に隠されている
- 強い光の反射などによって、ナイトビューアシストプラス表示の歩行者または動物の輪郭が完全でない、または切れている
- 歩行者または動物が周囲に溶け込んでいる

- 特殊な衣服または他の物のために、カメラシステムが歩行者を人として認識しなくなる
- 座っている、かがんでいる、または横たわっているなど、歩行者が立っていない
- その大きさや形のために、動物がシステムによって検知されていない

歩行者および動物検知は、32℃以上の温度で解除されます。そしてスポットライト機能および自動遅延オフが作動しなくなります。

### 歩行者検知機能



- ① ナイトビューアシストプラスの映像
- ② 歩行者検知作動の待機マーク
- ③ 強調
- ④ 検知された歩行者

ナイトビューアシストプラスは、身体の輪郭や人の直立姿勢などの典型的な特徴を使用して歩行者を認識することができます。

歩行者検知機能は以下のときに自動的に作動します。

- ナイトビューアシストプラスが作動しているとき
- 約 10 km/h より速く走行している
- 周囲が暗いとき

歩行者検知が作動している場合は、待機マーク ② が表示されます。検知された人は、フレーム ③ で強調されます。歩行者

検知システムが歩行者を検知したときは、フロントウインドウ越しに前方を直接確認してください。ディスプレイ表示だけでは障害物や歩行者までの距離を正確に把握することはできません。

### 動物検知

動物は、以下の状況で検知されます。

- 暗い
- 市街地の外側である
- 外気温度が 32 °C 以下である

ナイトビューアシストプラスは、典型的な特徴を使用して、シカ、牛または馬のような大きな動物を認識することができます。

システムは以下は検知しません。

- 犬および猫のような小さな動物
- 輪郭が明確に認識できない動物

検知されたときは、動物は色の付いた小さな角枠でマークされます。歩行者検知と対照的に、マルチファンクションディスプレイには独立した待機マークはありません。

### ナイトビューアシストの作動/停止の切り替え

#### 作動条件

以下のすべての条件が満たされたときのみ、ナイトビューアシストを作動させることができます。

- イグニッションがオンである (▶ 132 ページ)、またはエンジンが始動している
- ライトスイッチが **AUTO** または **☾** の位置である
- リバースギアに入っていない

### ナイトビューアシストプラスの作動



- ▶ スイッチ ① を押します。  
ナイトビューアシストプラスの表示がマルチファンクションディスプレイに表示されます。

**i** 車両が約 10 km/h 以上の速度で走行していて、暗いところでのみ、赤外線照射ヘッドライトは作動します。これは、停止している間に十分な視界を得られていないということ、またナイトビューアシストプラスが作動しているかどうかは確認できないということです。赤外線照射ヘッドライトは、5 km/h 以下の速度で解除されます。ナイトビューの画像は、スイッチ ① を押して解除するまで表示され続けます。

#### 自動作動

ナイトビューアシストメニューを経由して、オプションの **ナイトビューアシストオートスタート** を選択できます。歩行者および動物検知機能は、ナイトビューの画像が表示されていないときでも作動したままになります。暗く、照らされていない環境での 60 km/h 以上の速度では、歩行者または動物が検知されるとただちに、マルチファンクションディスプレイにナイトビューの画像が自動的に表示されます。

- ▶ アシストメニューで、ナイトビューアシストプラスの自動消灯遅延を選択します (▶ 186 ページ)。

## ナイトビューアシストプラスの解除

- ▶ スイッチ ① を押します。  
ナイトビューアシストプラスの表示がマルチファンクションディスプレイから消えます。ナイトビューアシストが解除されます。

## ナイトビューアシストのトラブル

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

## ドライバーズアシスタンスパッケージ

### 全体的な注意事項

アクティブドライビングアシストプラスパッケージは、ディストロニック・プラス (▶ 149 ページ)、アクティブブラインドスポットアシスト (▶ 174 ページ) およびアクティブレーンキーピングアシスト (▶ 177 ページ) で構成されています。

## アクティブブラインドスポットアシスト

### 全体的な注意事項

アクティブブラインドスポットアシストは、左右の後ろ向き の 2 つのレーダーセンサーで、運転者には見えない車両の側方エリアをモニターします。ドアミラーの警告表示によって、モニターしている範囲で検知された車両に運転者の注意が向けられます。車線変更するために該当する方向指示灯を作動させた場合は、視覚的および聴覚的な衝突警告も発せられます。側面衝突の危険性が検知された場合は、修正ブレーキが衝突の回避を支援することがあります。車線修正ブレーキの適用前に、アクティブブラインドスポットアシストは進行方向および側方の空いているスペースを測定します。そのため、アクティブブラインドスポットアシストは前向きのレーダーセンサーを使用します。

アクティブブラインドスポットアシストは、約 30 km/h 以上の速度で支援を行いません。

### 重要な安全上の注意事項

アクティブブラインドスポットアシストは単なる支援にすぎず、注意を払った走行の代わりになるものではありません。

#### ⚠ 警告

アクティブブラインドスポットアシストは以下のような車両には反応しません。

- 追い越してくる際に、側面に近づき過ぎて死角に入った車両
- 接近と追い越しの速度差が非常に大きいとき

この場合、アクティブブラインドスポットアシストは警告も介入も行いません。事故の危険性があります。

常に交通状況に十分注意を払い、車両の両側に安全な車間距離を維持してください。

## レーダーセンサー

アクティブブラインドスポットアシストのレーダーセンサーは、前後のバンパーおよびラジエタートリムのカバー裏側に内蔵されています。バンパーとラジエタートリムのカバーに、汚れや氷、泥がないことを確認してください。リアセンサーが自転車用ラック、または突き出た荷物などによって覆われないようにしてください。強い衝撃を受けたり、バンパーに損傷を与えたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ではレーダーセンサーの機能を点検してください。さもないと、アクティブブラインドスポットアシストが正しく機能しなくなることがあります。

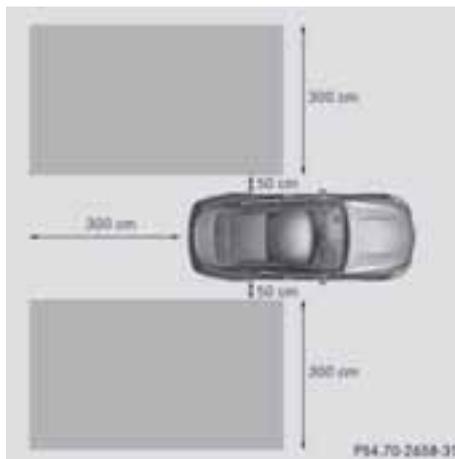
## モニター範囲

#### ⚠ 警告

アクティブブラインドスポットアシストはすべての交通状況と道路使用者を検知

するわけではありません。事故の危険性があります。

他の交通や障害物との距離が十分であることを常に確認してください。



アクティブブラインドスポットアシストは、図に示すように車両後方と真横の3.0 mの範囲をモニターします。

以下のときには、車両の検知が困難になることがあります：

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 雨、雪または霧雨などのため視界が悪い

このときは、モニター範囲にある車両は示されません。

アクティブブラインドスポットアシストは、オートバイや自転車のような幅の狭い車両を検知しなかったり、非常に遅れてからのみ検知することがあります。

車線が狭い場合、特に車両が車線の中央を走行していない場合は、お客様の車両の隣車線の次の車線の車両を検知することがあります。これは、お客様の車両に近い方の車線端部に車両が走行している場合などです。

以下は、システムの特性に起因するものです：

- ガードレール、または類似の連続している車線境界の近くを走行しているときに、誤って警告が発せられることがあります。
- トレーラーなどの特に長い車両と長時間並走しているときに、警告が中断されることがあります。

## 警告表示



### ① 警告表示

アクティブブラインドスポットアシストは約 30 km/h 以下の速度では作動しません。このときは、モニター範囲にある車両は示されません。

30 km/h 以上の速度でアクティブブラインドスポットアシストのモニター範囲で車両が検知された場合は、対応する側の警告灯①が赤色に点灯します。この警告灯は、後方から、または側方から車両がブラインドスポットのモニター範囲に入ってきたときに常に点灯します。車両を追い越すときは、速度差が 12 km/h 以下の場合にのみ警告が発せられます。リバースギアを選択している場合は、アクティブブラインドスポットアシストは作動しません。

警告灯の明るさは、周囲の明るさに自動的に合わせられます。



アクティブブラインドスポットアシストが設定されているときは、後方に発信される灰色のレーダー波がマルチファンクションディスプレイのアシストディスプレイの車両脇に表示されます。30 km/h以上の速度で、アシストディスプレイのレーダー波の色は緑色に変わります②。そして、アクティブブラインドスポットアシストが使用可能になります。

### 視覚的および聴覚的な衝突警告

運転者が車線変更のために方向指示燈を作動させ、側方のモニター範囲で車両が検知された場合は、視覚的および聴覚的な衝突警告が発せられます。その後に、警告音が2回聞こえ、赤色の警告灯①が点滅します。方向指示燈をそのままにしている場合は、検知された車両が赤色の警告灯①の点滅により示されます。警告音はそれ以上鳴りません。

### 車線修正ブレーキの適用

モニター範囲でアクティブブラインドスポットアシストが側面衝突の危険性を検知した場合は、車線修正ブレーキの適用が行なわれます。これは、運転者の衝突回避を支援するために設計されています。

#### ⚠ 警告

車線修正ブレーキの適用は、常に衝突を防ぐわけではありません。事故の危険性があります。

特に、アクティブブラインドスポットアシストが警告するまたは車線修正ブレーキの適用をする場合、必ずステアリング操作、ブレーキ操作、加速操作を行なってください。常に両側との安全な車間距離を維持してください



車線修正ブレーキが適用された場合は、ドアミラーの赤色の警告灯①が点滅して、警告音が2回鳴ります。加えて、側面衝突の危険性を強調した表示②がマルチファンクションディスプレイに表示されます。

まれに、システムが適切でないブレーキの適用を行なうことがあります。ステアリングを反対方向に軽く操作するか、または加速した場合は、いつでも車線修正ブレーキの適用が中断されます。

車線修正ブレーキの適用は、30km/h～200km/hの速度域で行なわれます。

以下の場合には、走行状況に合った、またはまったく合わない車線修正ブレーキの適用が行なわれません：

- 車両の両側に、車両やガードレールなどの障害物がある
- 側方すぐのところから車両が接近している
- 高いコーナリング速度のスポーティーな走行スタイルをとっている
- 明確にブレーキ操作またはアクセル操作を行なっている
- ESP®またはPRE-SAFE®ブレーキのような走行安全システムが介入している
- ESP®を解除している
- タイヤ空気圧の低下やタイヤの不具合が検知されている

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下に関する情報があります：

- アクティブブラインドスポットアシストの作動

## アクティブレーンキーピングアシスト

### 全体的な注意事項



アクティブレーンキーピングアシストは、フロントウインドウ上部のカメラシステム①で車両前方のエリアをモニターします。レーダーセンサーシステムの支援により、車両の前方、後方および側方の他の様々なエリアもモニターされます。アクティブレーンキーピングアシストは道路の車線マークを検知し、意図せずに車線から外れる前に警告を発します。警告に反応しない場合は、車線修正ブレーキを適用することにより、車両を元の車線に戻すことができます。

マルチファンクションディスプレイの**速度・距離単位表示**で **km** を選択している場合は(▷ 186 ページ)、アクティブレーンキーピングアシストは約 60 km/h の速度で作動を開始します。**miles** 表示が選択されている場合は、支援範囲は約 40 mph から始まります。

### 重要な安全上の注意事項

運転スタイルを合わせていない場合は、アクティブレーンキーピングアシストは事故の危険性を軽減することはできません。

また、物理的限界を超えることはできません。アクティブレーンキーピングアシストは道路および天候の状況を考慮することはできません。交通状況を検知しないことがあります。アクティブレーンキーピングアシストは単なる支援に過ぎません。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、および車線を維持する責任があります。アクティブレーンキーピングアシストは車両を車線内に保ち続けることはできません。

### ⚠ 警告

アクティブレーンキーピングアシストは必ずしも明確に車線ラインを検知することはできません。

このような場合、アクティブレーンキーピングアシストは以下を行うことがあります

- 不要な警告を行ない、車両に車線修正ブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる

事故の危険性があります。

特にアクティブレーンキーピングアシストが警告しているときは、必ず交通状況に注意を払い車線内に保つようにしてください。危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

以下のときは、システムの作動が損なわれたり、正しく機能しないことがあります：

- 道路に十分な照明がなかったり、雪や雨、霧や霧雨などにより、視界が悪い
- 対向交通、太陽または他の車両からの反射光などで眩惑がある（路面が濡れている場合など）
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っている、またはカメラ付近がステッカーなどで覆われている

- 雪で覆われているなど、フロントまたはリアバンパー、またはラジエタートリムのレーダーセンサーが汚れている
- 工事エリアなどで1車線分の車線マークがまったくないか、または複数ある、不明瞭である
- 車線マークが摩耗していたり黒ずんでいる、または汚れや雪などに覆われている
- 先行車両との車間距離が短くて車線マークが検知できない
- 車線の分岐や他との交差、合流などで車線マークが頻繁に変わる
- 道路が狭かったりカーブしている
- 道路に著しく様々な日陰の状況がある隣接する車線で車両が検知されず、破線の車線マークが検知されている場合は、車線修正ブレーキの適用はされません。

### ステアリングの警告振動

前輪が車線マークを越えた場合は警告が行なわれます。警告はステアリングを1.5秒以内で振動させることにより行なわれます。

### 車線修正ブレーキの適用

特定の状況で車線から外れた場合には、車両の片側にブレーキが軽く効きます。これは、車両を元の車線に戻すように支援するためのものです。

#### ⚠ 警告

車線修正ブレーキを適用しても車両が元の車線に戻るとは限りません。事故の危険性があります。

特に、アクティブレーンキープिंगアシストが警告する、または車線修正ブレーキが適用される場合、必ずステアリング操作、ブレーキ操作、加速操作を行ってください。



車線修正ブレーキの適用が行なわれた場合は、マルチファンクションディスプレイに①が表示されます。ブレーキの適用により、走行速度も少し低下します。

この機能は、60 km/h ~ 200 km/h の間の速度域内で作動します。

実線または破線と認識された車線マークを越えて走行した後に、車線修正ブレーキの適用は行なわれます。これには、その前にステアリングの断続的な振動による警告が出されている必要があります。さらに、両側に車線マークのある車線が検知されていなければなりません。

破線の車線マークが検知されている場合は、隣接する車線で車両が検知された場合にのみ車線修正ブレーキの適用が行なわれます。対向車両、追い越し車両および隣接する車線の車両を検知できます。

**i** 車両が元の車線に戻った後にのみ、次の車線修正ブレーキの適用が行なわれます。

以下の場合、車線修正ブレーキの適用は行なわれません：

- 明確に、および活発にステアリング操作、ブレーキ操作または加速を行なっている
- きついカーブの内側をまたいだ
- 方向指示灯を作動させた
- ESP<sup>®</sup>、PRE-SAFE<sup>®</sup>ブレーキまたはアクティブブラインドスポットアシス

トのような走行安全システムが介入した

- 高いコーナリング速度、または高い加速度のスポーティーな走行を行なっている
- ESP®を解除している
- トランスミッションがポジション D ではない
- タイヤの空気圧の減少またはタイヤの不具合が検知され表示された
- 走行している車線で障害物が検知された

アクティブレーンキーピングアシストは、他の道路使用者または交通状況を検知しないことがあります。以下の場合はいつでも、不適切なブレーキの適用は中断されます：

- ステアリングを反対方向に軽く操作する
- 方向指示灯を作動させる
- 明確にブレーキ操作またはアクセル操作を行なっている

以下の場合、車線修正ブレーキの適用は自動的に中断されます：

- ESP®、PRE-SAFE®ブレーキまたはアクティブブラインドスポットアシストのような走行安全システムが介入した
- 車線マークが検知されなくなった

### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下に関する情報があります：

- アクティブレーンキーピングアシストの作動

役に立つ情報 .....	182
重要な安全上の注意事項 .....	182
表示および操作 .....	182
メニューおよびサブメニュー .....	186
ディスプレイメッセージ .....	187
メーターパネルの警告および表示 灯 .....	201

## 役に立つ情報

**i** この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

**i** メルセデス・ベンツ指定サービス工場  
で情報をご覧ください。(p. 27 ページ)

## 重要な安全上の注意事項

### ⚠ 警告

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全な時にのみ、操作するようにしてください。安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

マルチファンクションディスプレイを操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。

### ⚠ 警告

メーターパネルに故障や異常がある場合は、安全性関連のシステムに該当する機能制限を認識しないことがあります。車両の操作安全性が損なわれる可能性があります。事故の危険性があります。

そうするときは、交通状況に注意しながら、ただちに車両を停止し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

### ⚠ 警告

メーターパネルに故障や異常がある場合は、安全性に関わる機能を認識することができません。走行安全性が損なわれる可能性があります。事故の危険性があります。

注意して運転してください。すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。

車両の操作安全性が損なわれている場合は、できるだけ早く車両を安全に駐車します。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムからのメッセージや警告のみを表示します。そのため、車両が安全に作動していることを常に確認してください。

概要については、メーターパネルのイラストをご覧ください (p. 34 ページ)。

## 表示および操作

### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- エンジン冷却水温度計
- タコメーター
- マルチファンクションディスプレイ
- 外気温度計

## マルチファンクションディスプレイの操作



- ① マルチファンクションディスプレイ
- ② 右側コントロールパネル
- ③ 左側コントロールパネル

▶ **マルチファンクションディスプレイを  
作動させる：** エンジンスイッチのキー  
を 1 の位置にまわします。

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用して、マルチファンクションディスプレイおよびマルチファンクションディスプレイの設定を操作することができます。

## 左側コントロールパネル

 ・メインメニューの呼び出し

 **軽く押す：**

- 
- ・リストのスクロール
  - ・メニューまたは機能の選択
  - ・**ラジオ/メディア** メニューで：トラックまたは放送局リストを開く、音楽トラックまたはビデオシーンの選択
  - ・**電話** メニューで：電話帳への切り替え、名称または電話番号の選択

 **押し保持する：**

- 
- ・すべてのリストでの高速スクロール
  - ・**ラジオ/メディア** メニューで：高速スクロールを使用しての放送局、音楽トラックまたはビデオシーンの選択
  - ・**電話** メニューで：電話帳が開いている場合の高速スクロールの開始

- 
- ・すべてのメニューで：リストで選択された内容の確定
  - ・**ラジオ/メディア** メニューで：使用可能なラジオソース/メディアのリストを開く
  - ・**電話** メニューで：電話帳への切り替え、および選択した番号のダイヤル開始

 音声認識機能の停止。別冊の取扱説明書をご覧ください。

 **軽く押す：**

- ・戻る
- ・**ラジオ/メディア** メニューで：トラックまたは放送局リスト、または使用可能なラジオソース/メディアのリストの選択解除
- ・ディスプレイメッセージの非表示
- ・電話帳/発信履歴の終了

 **押し保持する：**

- ・**マップ** メニューの基本画面の呼び出し

## 右側コントロールパネル

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 通話の拒否、または終了</li> <li>• 電話帳/発信履歴の終了</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 発信、または受話</li> <li>• 発信履歴への切り替え</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 音量の調整</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ミュート</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 音声認識機能の作動。別冊の取扱説明書をご覧ください。</li> </ul>

## ヘッドアップディスプレイ

### 全体的な注意事項

ヘッドアップディスプレイは、ナビゲーションシステムと運転者支援システムからの情報をダッシュボード上方の運転者の視界内に投影します。

内容を表示するための必要条件は、車両で以下の機能が使用できて、それらが作動していることです：

- クルーズコントロールと可変スピードリミッター
- ディストロニック・プラス
- ナビゲーション

ヘッドアップディスプレイによって、運転者は道路から目を離さずにすべての情報を見ることができます。

### 重要な安全上の注意事項

ヘッドアップディスプレイは単なる補助に過ぎず、注意を払った走行の代わりになるものではありません。

ヘッドアップディスプレイの視認性は、以下の条件に影響を受けます：

- 運転席のシートポジション
- 表示画像の位置

- 全体的な光の条件
- 偏光レンズ付きサングラス
- 濡れた路面
- ディ스플레이カバーの上に置かれている物による日光の遮り

日差しが極端に強いときに、表示部分が薄くなることがあります。これは、ヘッドアップディスプレイをオフにして、再びオンにすると元に戻ります。

**i** ヘッドアップディスプレイ装備車両には、特殊なフロントウィンドウが取り付けられています。修理が必要な場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですフロントウィンドウを交換してください。

## 表示および操作

### ヘッドアップディスプレイの作動/停止



- ▶ スイッチ ① を押します。

ヘッドアップディスプレイが作動すると、運転者の視界内にディスプレイが表示されます。

AMG 車両：スイッチ ① を押すと、標準ディスプレイから AMG ディ스플레이に切り替わり、スイッチ ① を再度押すとヘッドアップディスプレイが停止します。

## ヘッドアップディスプレイ



以下のシステムの内容と情報がヘッドアップディスプレイに表示されます：

- ① ナビゲーションのメッセージ
- ② 現在の速度
- ③ 設定したディストロニック・プラス速度 (▶ 149 ページ)  
 選択したクルーズコントロール速度 (▶ 145 ページ)  
 選択した可変スピードリミッター速度 (▶ 147 ページ)



AMG 車両の AMG ディスプレイの内容および情報

- ① 現在のエンジン回転数
- ② 現在の速度
- ③ シフトアップインジケーター
- ④ 現在選択されているギアと手動でシフト選択が可能なギア

ヘッドアップディスプレイのサブメニューの設定メニューには、以下の設定オプションがあります：

- その他のディスプレイのオン/オフの切り替え (▷ 186 ページ)
- 位置の設定 (▷ 186 ページ)
- 照度の調整 (▷ 186 ページ)

## メニューおよびサブメニュー

### メニュー概要

ステアリングの  スイッチを押して、メニューのリストを呼び出してメニューを選択します。

マルチファンクションディスプレイの操作 (▷ 183 ページ)。

デジタル版取扱説明書には、個別のメニューに関するさらなる情報があります。車両に装着されている装備に応じて、以下のメニューを呼び出すことができます：

- **トッパ** メニュー
- **ナビ** メニュー (ナビゲーションのメッセージ)
- **ラジオ** メニュー
- **メディア** メニュー
- **電話** メニュー
- **アシスト一覧** メニュー
- **システム** メニュー
- **設定** メニュー
- **AMG** メニュー (AMG 車両)

## ディスプレイメッセージ

### はじめに

#### 全体的な注意事項

本項目では、安全に関わるディスプレイメッセージおよびその対応方法などについて記載しています。他のメッセージおよびその対応方法の記載については、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

ディスプレイメッセージはマルチファンクションディスプレイに表示されます。

取扱説明書では記号マークを伴うディスプレイメッセージを簡略化しているため、マルチファンクションディスプレイのマークと異なる場合があります。

ディスプレイメッセージの指示に従って対応し、この取扱説明書の追加の注意事項に従ってください。

特定のディスプレイメッセージでは、警告音も聞こえます。

ディスプレイメッセージを非表示にすることもできます。そしてディスプレイメッセージはメッセージメモリーに保存されます。できるだけすみやかにディスプレイメッセージの原因を修正してください。

車両を駐停車するときは、ホールド機能 (▷ 159 ページ) および駐車 (▷ 142 ページ) についての注意事項に従ってください。

#### ディスプレイメッセージを非表示にする

▶ ディスプレイメッセージを非表示にするには、ステアリングの **[OK]** または **[↔]** スイッチを押します。

ディスプレイメッセージが消えます。

マルチファンクションディスプレイには、重要度の高いメッセージが赤色で表示されます。一部の重要度の高いディスプレイメッセージは非表示にはできません。

これらのメッセージは、故障や異常の原因が解決するまでマルチファンクションディスプレイに常時表示されます。

#### メッセージメモリー

マルチファンクションディスプレイは、特定のディスプレイメッセージを**メッセージメモリー**に保存します。以下のようにしてディスプレイメッセージを呼び出すことができます：

▶ ステアリングの **[☰]** を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの **[▼]** または **[▲]** スイッチを押して、**メナス** メニューを選択します。

▶ ステアリングの **[OK]** を押して確定します。

▶ **[▼]** または **[▲]** を押して、メッセージメモリーを選択します。

ディスプレイメッセージがない場合は、マルチファンクションディスプレイに **故障はありません** というメッセージが表示されます。

ディスプレイメッセージがある場合は、保存されているメッセージの数が表示されます。

- ▶  を押して 確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、ディスプレイメッセージをスクロールします。

## 安全システム

## ディスプレイメッセージ

## 考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



現在 使用できません  
取扱説明書を参照

ABS (アンチロック・ブレーキング・システム)、ESP<sup>®</sup> (エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)、BAS (ブレーキアシスト)、PRE-SAFE<sup>®</sup>、ホールド機能、ヒルス・スタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブブレーキアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストが一時的に作動しない。

BAS プラス (飛び出し検知機能付ブレーキアシスト・プラス)、PRE-SAFE<sup>®</sup>ブレーキ、PRE-SAFE<sup>®</sup>プラスおよびCPA プラス (緊急ブレーキ機能) も故障していることがある。

さらに、メーターパネルの  と  警告灯も点灯している。

アテンションアシストが解除されている。

例えば、バッテリーの電圧が不十分なことがある。

### ⚠ 警告

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがあります。

ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。

ESP<sup>®</sup>が作動しない場合は、ESP<sup>®</sup>が車両を安定させることができません。

横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。

▶ 注意して運転してください。

20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリングを動かしながら、適切な直線路で慎重に走行してください。

ディスプレイメッセージが消えた場合は、上記の機能が再度作動可能になります。

ディスプレイメッセージが表示され続ける場合：

▶ 注意して運転してください。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

## ディスプレイメッセージ

## 考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



作動できません 取扱  
説明書を参照

故障のため、ABS、ESP<sup>®</sup>、BAS、PRE-SAFE<sup>®</sup>、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキーピングアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストが作動しない。

BAS プラス（飛び出し検知機能付ブレーキアシスト・プラス）、PRE-SAFE<sup>®</sup>ブレーキ、PRE-SAFE<sup>®</sup>プラスおよびCPA プラス（緊急ブレーキ機能）も故障していることがある。

さらに、メーターパネルの警告灯 、 および  が点灯することがある。

アテンションアシストが解除されている。

### 警告

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがあります。

ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。

ESP<sup>®</sup>が作動しない場合は、ESP<sup>®</sup>が車両を安定させることができません。

横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。

- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<div data-bbox="120 212 202 256" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="115 264 351 325">作動できません 取扱説明書を参照</p>	<p data-bbox="370 212 1031 368">故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキーピングアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストが作動しない。</p> <p data-bbox="370 376 1031 504">BAS プラス（飛び出し検知機能付ブレーキアシスト・プラス）、PRE-SAFE®ブレーキ、PRE-SAFE®プラスおよびCPA プラス（緊急ブレーキ機能）も故障していることがある。</p> <p data-bbox="370 512 908 544">メーターパネルの  警告灯も点灯している。</p> <p data-bbox="370 552 837 584">アテンションアシストが解除されている。</p> <p data-bbox="381 600 477 632"><b>△ 警告</b></p> <p data-bbox="370 639 1031 703">ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。</p> <p data-bbox="370 711 1016 743">緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。</p> <p data-bbox="370 751 1031 815">ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができません。</p> <p data-bbox="370 823 889 855">横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <ul data-bbox="370 863 1031 927" style="list-style-type: none"> <li>▶ 注意して運転してください。</li> <li>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。</li> </ul>

## ディスプレイメッセージ

## 考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



現在 使用できません  
取扱説明書を参照

故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキーピングアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストが作動しない。

BAS プラス（飛び出し検知機能付ブレーキアシスト・プラス）、PRE-SAFE®ブレーキ、PRE-SAFE®プラスおよびCPA プラス（緊急ブレーキ機能）も故障していることがある。

メーターパネルの  警告灯も点灯している。

例えば、自己診断がまだ完了していないことがある。  
アテンションアシストが解除されている。

### ⚠ 警告

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがあります。

緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。

ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができません。

横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。

- ▶ 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリングを動かしながら、適切な直線路で慎重に走行してください。  
ディスプレイメッセージが消えた場合は、上記の機能が再度作動可能になります。

ディスプレイメッセージが表示され続ける場合：

- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

## ディスプレイメッセージ

## 考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



作動できません 取扱  
説明書を参照

故障のため、EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）、ABS、ESP<sup>®</sup>、BAS、PRE-SAFE<sup>®</sup>、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロススインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキーピングアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストが作動しない。

BAS プラス（飛び出し検知機能付ブレーキアシスト・プラス）、PRE-SAFE<sup>®</sup>ブレーキ、PRE-SAFE<sup>®</sup>プラスおよびCPA プラス（緊急ブレーキ機能）も故障していることがある。

さらに、メーターパネルの警告灯  および  が点灯し、警告音が鳴る。

### ⚠ 警告

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前輪および後輪がロックするおそれがあります。

ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。

ESP<sup>®</sup>が作動しない場合は、ESP<sup>®</sup>が車両を安定させることができません。

横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。

- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>ブレーキ液レベル 点検してください</p>	<p>ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液が不十分である。さらに、メーターパネルの赤色の  警告灯も点灯し、警告音も鳴った。</p> <p><b>△ 警告</b></p> <p>ブレーキ性能が損なわれることがあります。事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。</li> <li>▶ 動き出さないように車両を固定してください (▶ 142 ページ)。</li> <li>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。</li> <li>▶ ブレーキ液を補給しないでください。これを行っても問題は解消しません。</li> </ul>
 <p>SRS システム 故障 工場点検</p>	<p>乗員保護装置が故障している。メーターパネルの  警告灯も点灯している。</p> <p><b>△ 警告</b></p> <p>エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。けがのおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。乗員保護装置についてのさらなる情報は、(▶ 44 ページ) をご覧ください。</li> </ul>
 <p>フロント左 SRS システム故障 工場点検 またはフロント右 SRS システム故障 工場点検</p>	<p>フロント左側またはフロント右側の乗員保護装置に異常がある。メーターパネルの  警告灯も点灯している。</p> <p><b>△ 警告</b></p> <p>エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。けがのおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。</li> </ul>

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>リア左 SRS システム故障 工場点検 またはリア右 SRS システム故障 工場点検</p>	<p>リア左側またはリア右側の乗員保護装置に異常がある。メーターパネルの  警告灯も点灯している。</p> <p><b>⚠ 警告</b></p> <p>エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。けがのおそれがあります。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。</p>
 <p>左ウインドウバッグ故障 工場点検 または右ウインドウバッグ故障 工場点検</p>	<p>左側または右側のウインドウバッグに故障がある。メーターパネルの  警告灯も点灯している。</p> <p><b>⚠ 警告</b></p> <p>左側または右側のウインドウバッグが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。けがのおそれがあります。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。</p>

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p>助手席エアバッグ オフ 取扱説明書を参照</p>	<p>以下にも関わらず、走行中に助手席エアバッグが無効になっている：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 大人の乗員 または</li> <li>• 助手席にいる、対応する身長の人</li> </ul> <p>シートに余分な力がかかっている場合は、システムが検知する体重が低くなりすぎることがあります。</p> <p><b>▲ 警告</b></p> <p>事故の際に助手席エアバッグが作動しません。 けがのおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。</li> <li>▶ 車両を固定して動き出さないようにしてください (▶ 142 ページ)。</li> <li>▶ イグニッションをオフにします。</li> <li>▶ 助手席シートの乗員を車両から降ろしてください。</li> <li>▶ 助手席に乗車していないことを確認し、助手席ドアを閉じてイグニッションをオンにしてください。</li> <li>▶ センターコンソールの助手席エアバッグ表示灯、およびマルチファンクションディスプレイに注意して、以下を確認してください： シートに乗員がいなくて、イグニッションがオンである： <ul style="list-style-type: none"> <li>• 助手席エアバッグオフ表示灯および助手席エアバッグオン表示灯は、同時に約 6 秒間点灯しなければなりません。</li> <li>• そのときは、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、点灯したままにならなければなりません。表示灯が点灯している場合は、助手席エアバッグ自動解除システムは助手席エアバッグを無効にしています (▶ 55 ページ)。</li> <li>• マルチファンクションディスプレイにディスプレイメッセージ <b>助手席エアバッグ オン 取扱説明書を参照</b> または <b>助手席エアバッグ オフ 取扱説明書を参照</b> が表示されていないけません。</li> </ul> </li> </ul>

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	<p>▶ 必要なシステムチェックが完了するまで、60 秒以上お待ちください。</p> <p>▶ マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されていないことを確認してください。</p> <p>これらの条件が満たされた場合は、再度助手席に乗車することができます。助手席エアバッグオフまたはオン表示灯が点灯したままになるか、または消灯するかどうかは、助手席フロントエアバッグ自動解除システムが乗員をどのように検知したかにより異なります。</p> <p>条件が満たされていない場合は、システムは正常に作動していません。</p> <p>▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。</p> <p>助手席エアバッグ自動解除機能についてのさらなる情報 (▶ 54 ページ)。</p>
助手席エアバッグ オン 取扱説明書を参照	<p>以下にも関わらず、走行中に助手席エアバッグが有効になっている：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• システムの重量規定値よりも軽い子供、小柄な大人、荷物が助手席にある</li> <li>または</li> <li>• 助手席シートに乗車していない</li> </ul> <p>システムは、シートに余分な重量をかけている物や力を検知することがあります。</p> <p><b>⚠ 警告</b></p> <p>エアバッグが不意に作動することがあります。けがのおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。</li> <li>▶ 車両を固定して動き出さないようにしてください (▶ 142 ページ)。</li> <li>▶ イグニッションをオフにします。</li> <li>▶ 助手席ドアを開いてください。</li> <li>▶ 助手席シートから子供とチャイルドセーフティシートを降ろしてください。</li> </ul>

## ディスプレイメッセージ

## 考えられる原因および影響 ▶ 解決方法

▶ シートに余分な力をかけている物がないことを確認してください。  
 さもないと、余分にかかっている力をシステムが検知し、乗員の体重を実際よりも重く判断することがあります。

▶ 助手席に乗車していないことを確認し、助手席ドアを閉じてイグニッションをオンにしてください。

▶ センターコンソールの助手席エアバッグ表示灯、およびマルチファンクションディスプレイに注意して、以下を確認してください：

シートに乗員がいなくて、イグニッションがオンである：

- 助手席エアバッグオフ表示灯および助手席エアバッグオン表示灯は、同時に約 6 秒間点灯しなければなりません。
- そのときは、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、点灯したままにならなければなりません。表示灯が点灯している場合は、助手席エアバッグ自動解除システムは助手席エアバッグを無効にしています (▶ 55 ページ)。
- マルチファンクションディスプレイにディスプレイメッセージ [助手席エアバッグ オン 取扱説明書を参照](#) または [助手席エアバッグ オフ 取扱説明書を参照](#) が表示されていないはいけません。

▶ 必要なシステムチェックが完了するまで、60 秒以上待ってください。

▶ マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されていないことを確認してください。

これらの条件が満たされた場合は、再度助手席に乗車することができます。助手席エアバッグオフまたはオン表示灯が点灯したままになるか、または消灯するかどうかは、助手席フロントエアバッグ自動解除システムが乗員をどのように検知したかにより異なります。

条件が満たされていない場合は、システムは正常に作動していません。

▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

助手席エアバッグ自動解除機能についてのさらなる情報 (▶ 54 ページ)。

エンジン	
ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 冷却水が減少 停車して エンジンを停止	<p>冷却水が熱すぎる。 警告音も鳴った。</p> <p><b>⚠ 警告</b></p> <p>エンジンがオーバーヒートした状態では絶対に走行しないでください。エンジンがオーバーヒートした状態で走行すると、エンジンルームに漏れたフルード類に引火するおそれがあります。</p> <p>ボンネットを開くことにより、オーバーヒートしたエンジンからの蒸気により重度の火傷を負うおそれがあります。けがのおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。</li> <li>▶ 動き出さないように車両を固定してください (▶ 142 ページ)。</li> <li>▶ エンジンが冷えるまで待ってください。</li> <li>▶ 凍った泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないことを確認してください。</li> <li>▶ ディスプレイメッセージが消え、冷却水温度が 125 °C 以下になるまでエンジンを再度始動しないでください。さもないと、エンジンが損傷することがあります。</li> <li>▶ 冷却水温度表示に注意してください。</li> <li>▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。</li> </ul> <p>通常の使用条件下で指定の冷却水レベルでは、冷却水温度が 124 °C に上昇することがあります。</p>

## タイヤ

## ディスプレイメッセージ

## 考えられる原因および影響 ▶ 解決方法

タイヤ空気圧 タイヤを点検 してください

タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの急激な空気の漏れを検知した。

警告音も鳴った。

考えられる原因：

- ホイールおよびタイヤの位置を変更した、または新しいホイールおよびタイヤを取り付けた
- 1本または複数のタイヤ空気圧が正しくない

**⚠ 警告**

空気圧不足のタイヤは、以下のような危険をもたらします：

- 負荷や車両の速度が上昇すると特に、タイヤがバーストすることがあります
- タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、それによってタイヤの駆動力が著しく損なわれることがあります
- 走行特性、およびステアリング操作やブレーキ操作が著しく損なわれることがあります

事故の危険性があります。

- ▶ 急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。そのときは、交通状況に注意してください。
- ▶ 動き出さないように車両を固定してください (▶ 142 ページ)。
- ▶ タイヤを点検し、必要な場合は、パンクしたときの指示に従ってください (▶ 246 ページ)。
- ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要な場合は、タイヤ空気圧を調整してください。
- ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください (▶ 271 ページ)。

車両	
ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	<p>ボンネットが開いている。警告音も鳴った。</p> <p><b>⚠ 警告</b></p> <p>車両が動いているときは、開いたボンネットで視界が遮られることがあります。</p> <p>事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。</li> <li>▶ 動き出さないように車両を固定してください (▶ 142 ページ)。</li> <li>▶ ボンネットを閉じてください。</li> </ul>
 パワーステアリング故障 取扱説明書を参照	<p>パワーステアリングのアシストが故障している。警告音も鳴った。</p> <p><b>⚠ 警告</b></p> <p>ステアリング操作に大きな力が必要になります。</p> <p>事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 必要とされる大きな力を加えることができるかどうかを確認してください。</li> <li>▶ <b>安全にステアリング操作ができる場合</b>：注意してメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。</li> <li>▶ <b>安全にステアリング操作ができない場合</b>：走行を続けしないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。</li> </ul>

## メーターパネルの警告および表示灯

### 全体的な注意事項

この章では、メーターパネルに表示される安全に関わる表示灯と警告灯および対応方法について説明しています。メーターパネルに表示される他の表示灯と警告灯の概要および対応方法については、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

## 安全性

## シートベルト

警告/表示  
灯

▷ シグナルタイプ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



▷ フロントドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。

運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。

▶ シートベルトを着用してください (▷ 48 ページ)。

警告灯が消灯します。

助手席シートの上に荷物を置いている。

▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の安全な場所に収納してください。

警告灯が消灯します。



▷ 赤色のシートベルト警告灯が点滅し、断続的な警告音も鳴った。

運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。その状態で、約 25 km/h 以上の速度で走行している。または速度が一時的に約 25 km/h を超えた。

▶ シートベルトを着用してください (▷ 48 ページ)。

警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。

助手席シートの上に荷物を置いている。その状態で、約 25 km/h 以上の速度で走行している。または速度が一時的に約 25 km/h を超えた。

▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の安全な場所に収納してください。

警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。

## 安全システム

警告/表示  
灯

▷ シグナルタイプ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法

①

▷ エンジンがかかっている間に黄色のブレーキシステム警告灯が点灯する。

## ⚠ 警告

ブレーキシステムが故障しているため、ブレーキの作動に影響を与えることがあります。

事故の危険性があります。

- ▶ マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されているときは、そのメッセージに従ってください。
- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

②

▷ エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴った。

## ⚠ 警告

ブレーキの倍力装置が故障しているため、ブレーキの作動に影響を与えることがあります。

事故の危険性があります。

- ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。状況を問わず、走行を続けしないでください。
- ▶ 動き出さないように車両を固定してください (▷ 142 ページ)。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。
- ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。

警告/表示  
灯

▷ シグナルタイプ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



▷ エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。  
警告音も鳴った。

ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液が不十分である。

**警告**

ブレーキ性能が損なわれることがあります。

事故の危険性があります。

- ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。状況を問わず、走行を続けしないでください。
  - ▶ 動き出さないように車両を固定してください (▷ 142 ページ)。
  - ▶ ブレーキ液を補給しないでください。補給しても問題は解消しません。
  - ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。
  - ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。
-

警告/表示  
灯

▷ シグナルタイプ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



▷ エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。

故障のため、ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）が解除されている。そのため、BAS（ブレーキアシスト）、BAS プラス（飛び出し検知機能付ブレーキアシスト・プラス）、CPA プラス（緊急ブレーキ機能）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、PRE-SAFE®、PRE-SAFE®プラス、PRE-SAFE®ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキープアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストも解除されている。

アテンションアシストが解除されている。

## 警告

上記の機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能したままになります。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがあります。

ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。

ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができません。

横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。

- ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。
- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ABS コントロールユニットが故障している場合は、ナビゲーションシステム、オートマチックトランスミッションのような他のシステムも作動しなくなることがあります。

警告/表示  
灯

▷ シグナルタイプ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



▷ エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。警告音も鳴った。

故障のため EBD が作動しない。そのため、ABS、BAS、BAS プラス（飛び出し検知機能付ブレーキアシスト・プラス）、CPA プラス（緊急ブレーキ機能）、ESP<sup>®</sup>、PRE-SAFE<sup>®</sup>、PRE-SAFE<sup>®</sup>プラス、PRE-SAFE<sup>®</sup>ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキープアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストも作動しない。

アテンションアシストが解除されている。

## 警告

上記の機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能したままになります。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前輪および後輪がロックするおそれがあります。

ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。

ESP<sup>®</sup>が作動しない場合は、ESP<sup>®</sup>が車両を安定させることができません。

横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。

- ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。
- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

警告/表示  
灯

▷ シグナルタイプ  
考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



▷ エンジンがかかっている間に、赤色のブレーキ警告灯、黄色の ESP®警告灯および黄色の ABS 警告灯が点灯している。故障のため、ABS および ESP®が作動しない。そのため、BAS、BAS プラス（飛び出し検知機能付ブレーキアシスト・プラス）、CPA プラス（緊急ブレーキ機能）、EBD、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® プラス、PRE-SAFE®ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキーピングアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストも作動しない。アテンションアシストが解除されている。

 **警告**

上記の機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能したままになります。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前輪および後輪がロックするおそれがあります。

ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。

ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができません。

横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。

- ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。
- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

警告/表示  
灯

▷ シグナルタイプ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



▷ エンジンがかかっている間に、黄色の ESP<sup>®</sup>警告灯が点灯している。故障のため、ESP<sup>®</sup>、BAS、BAS プラス（飛び出し検知機能付ブレーキアシスト・プラス）、CPA プラス（緊急ブレーキ機能）、PRE-SAFE<sup>®</sup>、PRE-SAFE<sup>®</sup>プラス、PRE-SAFE<sup>®</sup>ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキーピングアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストが作動しない。

アテンションアシストが解除されている。

## 警告

上記の機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能したままになります。

緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。

ESP<sup>®</sup>が作動しない場合は、ESP<sup>®</sup>が車両を安定させることができません。

横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。

- ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。
- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

警告/表示  
灯▷ シグナルタイプ  
考えられる原因および影響 ▶ 解決方法▷ エンジンがかかっているときに黄色の ESP<sup>®</sup>解除警告灯が点灯する。  
ESP<sup>®</sup>が解除されている。

## 警告

ESP<sup>®</sup>が解除されている場合は、ESP<sup>®</sup>が車両を安定させることができません。

横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。

▶ ESP<sup>®</sup>を再度設定してください。まれに (▷ 83 ページ)、ESP<sup>®</sup>を解除したほうが良い場合があります。ESP<sup>®</sup>の重要な安全上の注意事項に従ってください (▷ 82 ページ)。

▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。

ESP<sup>®</sup>を設定することができない場合：

▶ 注意して運転してください。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で ESP<sup>®</sup>の点検を受けてください。

▷ エンジンがかかっているときに赤色の乗員保護装置警告灯が点灯する。

乗員保護装置が故障している。

## 警告

エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。

けがのおそれがあります。

▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。

▶ 注意して運転してください。

▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で乗員保護装置を点検してください。

乗員保護装置についてのさらなる情報は、(▷ 44 ページ) をご覧ください。

## エンジン

警告/表示  
灯

▷ シグナルタイプ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



▷ エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。警告音も鳴った。

冷却水温度が 124 °C を超えている。エンジンラジエターへの送風が遮られているか、冷却水レベルが低すぎることもある。

**▲ 警告**

エンジンが十分に冷却されないため、エンジンが損傷するおそれがある。

エンジンがオーバーヒートした状態では絶対に走行しないでください。エンジンがオーバーヒートした状態で走行すると、エンジンルームに漏れたフルード類に引火するおそれがあります。

ボンネットを開くことにより、オーバーヒートしたエンジンからの蒸気により重度の火傷を負うおそれがあります。

けがのおそれがあります。

- ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。
- ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。
- ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▷ 142 ページ)。
- ▶ 車両から降り、エンジンが冷えるまで車両から安全な距離を確保してください。
- ▶ 注意事項 (▷ 236 ページ) に従って、冷却水レベルを点検し、冷却水を補給してください。
- ▶ 頻繁に冷却水を補給する必要がある場合は、エンジン冷却システムの点検を受けてください。
- ▶ 凍った泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないことを確認してください。
- ▶ 125 °C 以下の冷却水温度では、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。
- ▶ そのときは、山道の走行や発進/停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷は避けてください。

## 走行システム

警告/表示灯 ▷ シグナルタイプ  
考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



▷ 車両が動いている間に赤色の距離警告灯が点灯する。  
選択された速度に対し、先行車両との距離が近すぎる。  
▶ 距離を広げてください。



▷ 車両が動いている間に赤色の距離警告灯が点灯する。警告音も鳴った。  
進行方向にいる車両または静止している障害物に急速に接近している。  
▶ ただちにブレーキをかける準備をしてください。  
▶ 交通状況に注意して運転してください。ブレーキ操作や危険回避操作が必要となることがあります。

PRE-SAFE®ブレーキについて詳しくは、(▷ 84 ページ) をご覧ください。

CPA プラス (緊急ブレーキ機能) の車間距離警告機能について詳しくは(▷ 79 ページ)をご覧ください。

## 車両

警告/表示灯 ▷ シグナルタイプ  
考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



▷ エンジンがかかっている間に赤色のパワーステアリング警告灯が点灯する。  
ステアリングのパワーアシストが故障している。  
警告音も鳴った。

**警告**

ステアリング操作に大きな力が必要になる。  
事故の危険性があります。

- ▶ 大きな力を加えればステアリングが操作できるか確認してください。
- ▶ **安全にステアリング操作ができるときは**、注意しながら、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。
- ▶ **安全にステアリング操作ができないときは**、走行しないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

役に立つ情報 .....	214
全体的な注意事項 .....	214
重要な安全上の注意事項 .....	214
著作権の情報 .....	214
機能の制限 .....	214
COMAND システムの操作システム .....	216

## 役に立つ情報

これらの取扱説明書は印刷時点で利用可能な COMAND システムのすべての標準装備やオプション装備について記載しています。国により、仕様が異なる場合があります。記載されているすべての機能が COMAND システムに装備されているわけではないことにご注意ください。このことは、安全に関するシステムや機能についても当てはまります。

これらの取扱説明書は印刷時点で利用可能な Audio 20 のすべての標準装備やオプション装備について記載しています。国により、仕様が異なる場合があります。記載されているすべての機能が、お客様の Audio 20 に装備されているわけではないことにご注意ください。このことは、安全に関するシステムや機能についても当てはまります。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場での情報をご覧ください (▶ 27 ページ)。

## 全体的な注意事項

本取扱説明書の COMAND システムの項目には、COMAND システムを操作するための基本的な概要が記載されています。さらなる情報はデジタル版取扱説明書をご覧ください。

## 重要な安全上の注意事項

### ⚠ 警告

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全な時にのみ、操作するようにしてください。安全が確保されない

場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

COMAND システムを操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。

COMAND システムは、例えば以下のことを考慮せずに目的地までのルートを検索します：

- 信号
- 一時停止および優先標識
- 駐車または停車の規制
- 道路の道幅の狭さ
- その他、道路や交通ルール、規則

COMAND システムは、地図上のデータが実際の状況と違う場合には、適切でない走行案内をすることがあります。例えば、道路が変更されたり、または一方通行の方向が変更になったときです。

このため、走行中は、道路や交通ルール、規則に常に従ってください。システムの走行案内よりも道路や交通ルール、規則を常に優先してください。

わずか 50 km/h の速度でも、車両は 1 秒あたり約 14 m の距離を進むことを念頭においてください。

## 著作権の情報

### 全体的な注意事項

車両やその電子部品で使用されているフリーのオープンソースソフトウェアのライセンスの情報を以下のウェブサイトで見つけることができます：<http://www.mercedes-benz.com/opensource>

## 機能の制限

安全上の理由のため、車両が動いている間はいくつかの機能が制限されたり、利

用できません。このことは、例えば、いくつかのメニュー項目が選択できなかったり、このことに関するメッセージが表示されることで、確認できます。

## COMAND システムの操作システム

## 概要

## 構成部品



- ① COMAND ディスプレイ
- ② DVD チェンジャー/シングル DVD ドライブ
- ③ タッチパッド
- ④ コントローラーおよびスイッチ

COMAND システムは、以下のものから構成されています：

- COMAND ディスプレイ  
COMAND ディスプレイは 1440 x 540 ピクセルです。
- シングル DVD ドライブ
- コントローラー
- タッチパッド
- スイッチ
- センターコンソール内のポート（2つの USB、AUX）  
iPod®は USB ケーブル経由で接続されます。
- 助手席乗員用ヘッドホン（コードレスまたは足元のオーディオジャックにケーブルで接続）

**i** 車両に助手席エンターテインメントシステムが装備されている場合は、対応するリモコンを使用して助手席側から COMAND システムを操作することができます。COMAND ディスプレイは、運転席と助手席で異なる情報を表示することができます。助手席には、スプリットビューでディスプレイが表示されます。

## 機能

### • FM ラジオ/AM ラジオ (交通情報)

インターネットラジオ (通信機能経由での呼び出し)

### • メディア

サポートしているメディア: オーディオ CD、MP3 CD、DVD ビデオ、2 つの USB、SD カード、iPod<sup>®</sup>、Bluetooth<sup>®</sup>オーディオ、ハードドライブの 10 GB のメディアレジスター  
すべてのメディアを使用したミュージックサーチ

電子番組ガイド (EPG)、放送局切り替え、BML データ受信、字幕、追加情報 (字幕スーパー) および言語選択オプション、放送メール、緊急警告システムのあるテレビおよびラジオ放送局のデジタルテレビ受信

### • サウンドシステム

以下の 3 つのサウンドシステムから選択できます:

標準的なサウンドシステム

Burmester<sup>®</sup>サラウンドサウンドシステム

音楽を最大限に楽しむための Burmester<sup>®</sup>ハイエンド 3D サラウンドサウンドシステム

### • ナビゲーションシステム

キーワード検索を使用しての目的地の入力

都市モデルを再現したリアルな 3D 地図

ドライブインフォメーションおよび Google<sup>™</sup> マップのような、ナビゲーション機能

VICS/DSRC での渋滞回避探索

ETC 経由での料金収受

### • 通信

アドレス帳

インターネットブラウザー

Google<sup>™</sup>ローカル検索、目的地ダウンロード、天候、Facebook、Google<sup>™</sup>ストリートビュー、インターネットラジオ、株価、ニュースなどがある Mercedes-Benz Apps

COMAND システムへのスマートホン接続用 WiFi インターフェースおよび助手席用リモコンのオプション (スプリットビュー)

メルセデス・ベンツモバイルウェブサイト

お客様の携帯電話を使用してインターネットにアクセスできるようにするための、タブレット PC またはラップトップ接続用 WiFi ホットスポット機能

### • 車両機能

新しいマッサージプログラム付きマルチコントロールシートバックの設定

エアコンディショナー機能

アンビエントライトの操作: いくつかの色と照度レベルの選択

360° カメラシステム

リアビューカメラ

### • お気に入り機能

タッチパッドのお気に入りスイッチを使用して、お気に入り機能に素早くアクセスします。

## COMAND ディスプレイ

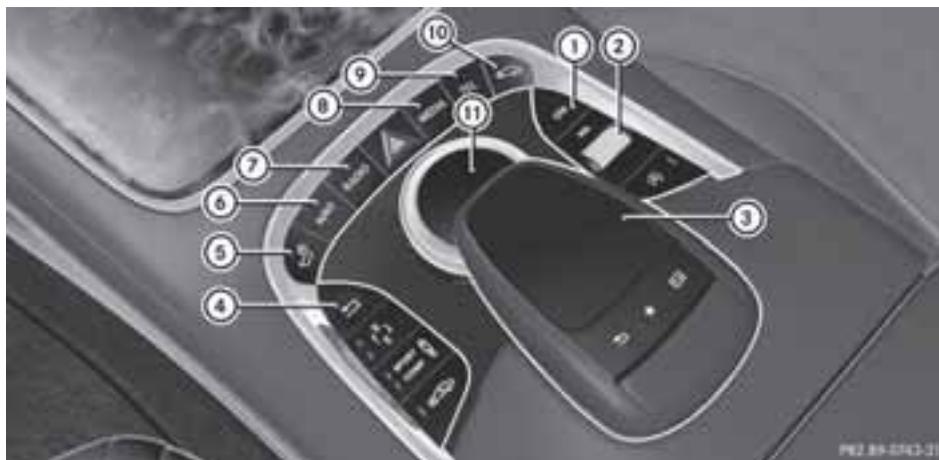


例：オーディオ CD モードの基本画面

- ① 他のディスプレイを表示できる時刻付きステータスバー
- ② 基本画面欄
- ③ エアコンディショナーの作動表示
- ④ 補助ディスプレイエリアの内容表示

## コントローラーおよびスイッチ

## 概要



- ① COMAND システムの作動/停止の切り替え
- ② 音量の調整または消音
- ③ タッチパッド
- ④ リターンスイッチ

- ⑤ シート調整スイッチ
- ⑥ ナビゲーションスイッチ
- ⑦ ラジオスイッチ
- ⑧ メディアスイッチ
- ⑨ 電話、アドレス帳およびインターネットスイッチ
- ⑩ 車両およびシステム設定スイッチ
- ⑪ コントローラー

## リターンスイッチ

 スイッチを使用してメニューを終了したり、現在の操作モードの基本画面を呼び出すことができます。

▶ **メニューを終了する**：  スイッチを軽く押します。

COMAND システムは、そのときの操作モードの中で、1 つ上のメニュー階層に切り替わります。

▶ **基本画面を呼び出す**： 2 秒以上  スイッチを押します。

COMAND システムは、そのときの操作モードの基本画面に切り替わります。

## コントローラー

センターコンソールのコントローラーにより、以下を行なうことができます：

- ディスプレイのメニュー項目を選択する
- 文字を入力する
- 地図で目的地を選択する
- 入力を保存する

コントローラーでは、以下のことができます：

- まわす
- 左右にスライドする 
- 前後にスライドする 
- 斜めにスライドする 
- 軽く押す、または押して保持する

## タッチパッド

コントローラーの代わりに、タッチパッドによって例えばメニュー項目を選択したり、手書き認識を含む文字入力を行なうことができます。



- ① タッチ感応面
- ② お気に入りスイッチ
- ③ オーディオおよび電話のクイックアクセスの呼び出し
- ④ リターンスイッチ

▶ **タッチパッドを作動させる**： タッチパッドの表面を押します。

タッチパッド上を指で強く押さないでください。タッチパッド上で鋭利なものを使用しないでください。これにより、タッチパッドの損傷または故障につながる可能性があります。

役に立つ情報 .....	222
収納エリア .....	222
機能 .....	226

## 役に立つ情報

**i** この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

**i** メルセデス・ベンツ指定サービス工場  
で情報をご覧ください。(▷ 27 ページ)

## 収納エリア

## 積載のガイドライン

## ⚠ 警告

内燃エンジンは、一酸化炭素などの有毒な排気ガスを排出します。エンジンをかけた状態（特に車両が走行中）でトランクリッドが開いたままになっていると、排気ガスが車内に入る可能性があります。中毒を起こすおそれがあります。

トランクリッドを開く前に、必ずエンジンをオフにしてください。トランクリッドを開いたまま走行しないでください。

## ⚠ 警告

荷物や重い荷物が固定されていない、または十分に固定されていないと、すべったり、放り出されて乗員にぶつかるおそれがあります。特にブレーキ操作時や急な進路変更時にけがをする可能性があります。

荷物は放り出されないように、必ず収納してください。走行前に、荷物や積載物などがすべったりひっくり返ったりしないように固定されていることを確認してください。

## ⚠ 警告

マフラーのテールパイプおよびテールエンドが非常に熱くなることがあります。

車両のこれらの部品に触れた場合は、やけどするおそれがあります。けがのおそれがあります。

特にマフラーのテールパイプおよびテールエンド周辺には常に注意してください。これらの構成部品に触れる前には冷ましてください。

荷物の積み方は車両操縦性に大きく影響します。荷物を積むときは、以下の点に注意してください。

- 最高許容車両総重量および車両の許容軸重（乗員を含む）を超えないようにしてください。
- 荷物はトランクに入れて運ぶことをお勧めします。
- 重い物はトランク内のできるだけ前方に、そしてできるだけ低く配置してください。
- 荷物がシートのバックレストの上端よりも高くないようにください。
- 可能な場合は、できるだけ空いている座席の後方に荷物を置くようにしてください。
- 強度のある耐摩耗性の荷物固定用ストラップなどを使用して、荷物を確実に固定してください。鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。

**i** 荷物固定具は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場  
で入手できます。

## 小物入れ

## 重要な安全上の注意事項

## ⚠ 警告

収納物を車内に正しく収納しないと、滑ったり、飛び出したりして、乗員がけがをするおそれがあります。特にブレーキ操作や急な進路変更を行ったときは、けがをするおそれがあります。

- このようなときや似たような状況で収納物が飛び出さないように、常に収納する
- 収納物は必ず小物入れ、収納ネットまたはラゲッジネットからはみ出さないようする
- 走行中はロック可能な小物入れを閉じる
- 重い物、固い物、先の尖った物、鋭利な物、壊れやすいもの、大きな物はトランクに収納し、固定する

積載のガイドライン (▷ 222 ページ) に注意してください。

### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- グローブボックス
- サングラス入れ
- センターコンソール内の小物入れ
- アームレスト下の小物入れ
- フロントシート下の小物入れ
- ドアの小物入れ
- 後席のセンターコンソール内の小物入れ
- リアシートバックレスト内の収納ボックス

### 収納ネット

収納ネットは以下にあります。

- 助手席足元
- 運転席・助手席の背面
- トランクの左右

積載のガイドライン(▷ 222 ページ) および収納用スペースに関する安全上の注意事項 (▷ 222 ページ) に従ってください。

### スキーバッグ

#### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

固定用ストラップと組み合わせたスキーバッグはスキー以外の物を固定することはできません。

以下のような場合は、たとえば急ブレーキまたは事故のときに車両乗員が衝撃を受けるおそれがあります。

- スキーバッグで他の重い物または鋭利な形状の物を運搬する
- 固定用ストラップでスキーバッグを固定していない

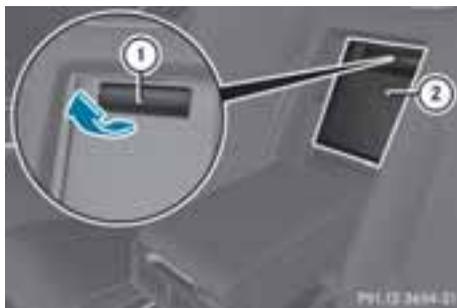
事故やけがの危険性があります。

スキーバッグにはスキーのみを収納してください。動き回らないようにスキーバッグを固定用ストラップで常に固定してください。

スキーバッグを使用するときは、以下の点を遵守してください。

- スキーバッグで 3 組以上のスキーを運搬しないでください。
- スキーをスキーバッグにスライドさせて入れる、またはスキーバッグから取り出すときは、スキーの鋭利な端および角に気をつけてください。
- 以下に記載されているようにスキーを収納します。
  - スキーを滑り込ませるときは、それぞれのスキーの滑降面を向き合わせた位置にします。
  - スキーの先端を外側にして 1 組のスキーを下に置きます。
  - 下にある 1 組のスキーの上の左および右側に、もう 2 組のスキーを置きます。スキーの先端は、下のスキーの先端と 90 度ずらします。

## スキーバッグを開き、スキー板を積載する



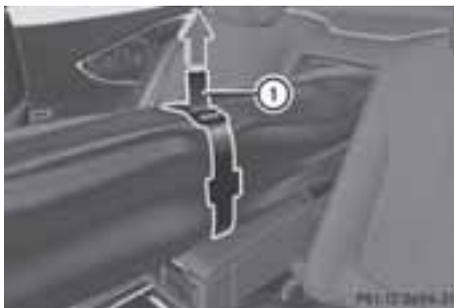
- ▶ リアシートアームレストを倒します。
- ▶ ハンドル ① を引き、カバー ② を下に倒します。



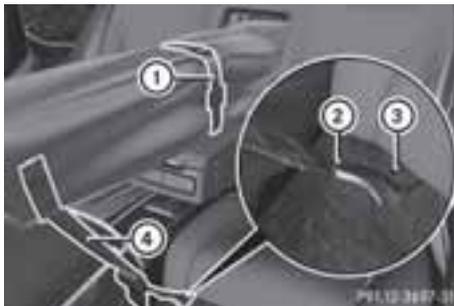
- ▶ スキーバッグ ① のベルクロファスナーを外します。
- ▶ スキーバッグ ① を車内に引き出して広げます。
- ▶ トランクリッドを開きます。



- ▶ フラップ上のハンドル ① を引きます。
- ▶ マグネットで所定の位置に固定されるまで、フラップを横に開きます。
- ▶ トランク内から、スキー板をスキーバッグに通します。



- ▶ スキーバッグの内部でスキー板が確実に固定されるまで、ストラップ ① の端部を引いて締めます。



- ▶ フック ② を固定リング ③ に固定します。
- ▶ テンションストラップ ④ の端部を引いて締めます。

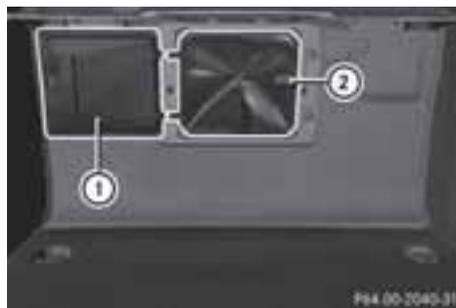
## スキー板を取り出し、スキーバッグを収納する

- ▶ 固定用ストラップ ① を外します。
- ▶ テンションストラップ ④ を緩めます。
- ▶ フック ② を固定リング ③ から外します。

- ▶ トランク側からスキーバッグのスキー板を慎重に取り出します。
- ▶ トランク内のカバーを閉じます。
- ▶ 格納サポーターを使用してスキーバッグをたたみ、ベルクロファスナーで閉じます。
- ▶ スキーバッグをバックレストに収納します。
- ▶ カバーを閉じます。

スキーバッグが必要でない場合は、トランクのフラップを閉じてください。車内からトランクへの意図しないアクセスを防ぎます。

### スキーバッグを取り外す



清掃または乾燥させたい場合は、スキーバッグを取り外すことができます。

- ▶ トランクを開きます。
- ▶ フラップ ①を開きます。
- ▶ キャッチ ②でスキーバッグを外し、取り外します。

### ラゲッジネットフックを使用しての荷物の固定

#### 全体的な注意事項

荷物の固定に関する、以下の点に注意してください：

- ラゲッジネットフックを使用して荷物を固定します。
- 伸縮性のあるストラップまたはネットを使用して荷物を固定しないでください。これらは軽い荷物の滑り止め防止としてのみ想定されています。
- 固定用具が荷物のとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 保護のため鋭い角にはパッドを当ててください。

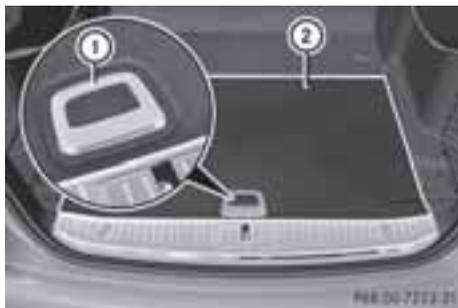
### トランク



トランク内には 4 つのラゲッジネットフックがあります。

### トランクフロア下の収納スペース

トランクフロアボード下には、タイヤフィットなどのための多目的の凹部があります。



- ▶ **開く：** トランクリッドを開きます。
- ▶ 凹凸部を押さえながら、ハンドル①を下方に押し下ろします。  
ハンドル①が浮き上がります。
- ▶ トランクセパレーターに接するまで、ハンドル①を使用して、トランクフロアボード②を持ち上げます。



- ▶ トランクフロアボード裏面のフック③を引き出します。



- ▶ フック③を溝④にかけます。
- ▶ **閉じる：** フック③を溝④から外します。
- ▶ フック③をトランクフロアボード裏面のブラケットに固定します。
- ▶ トランクフロアボードを下に倒します。

## 機能

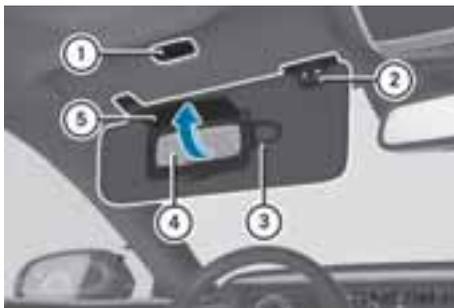
### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- カップホルダー
- 電動ブラインド（リアウインドウ）
- 灰皿
- ライター
- 12V 電源ソケット
- 後席のクーリングボックス
- 赤外線反射フロントウインドウ

## サンバイザー

### 概要



- ① ミラー照明
- ② 固定部
- ③ クリップ
- ④ バニティミラー
- ⑤ ミラーカバー

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

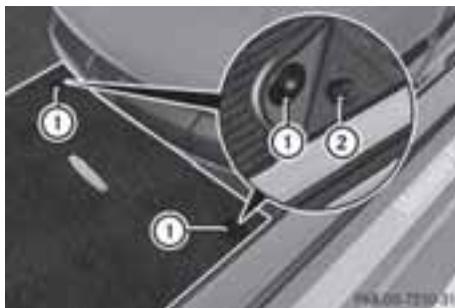
- サンバイザーのバニティミラー
- 横方向からの眩しさ

## フロアマット

### ⚠ 警告

運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルを妨害することがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。フロアマットは指示にしたがって必ず確実に固定し、ペダル操作の妨げにならないようにペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。



- ▶ **運転席および助手席**：対応するシートを後方にスライドします。
- ▶ **後席**：対応する前席を前方にスライドします。
- ▶ **取り付け**：フロアマットを足元に敷きます。
- ▶ **固定される音が聞こえるまで、スタッド①を固定部②に押し込みます。**

- ▶ **取り外す**：固定部②からフロアマットを引き抜きます。
- ▶ フロアマットを取り外します。

## 後付けした防眩フィルム

ウインドウの内側に防眩フィルムなどを貼付すると、携帯電話やラジオなどの電波に影響をあたえるおそれがあります。導電性フィルムや金属コーティングが施されたフィルムを貼付した場合は、特に電波への影響が懸念されます。防眩フィルムについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

役に立つ情報 .....	230
エンジンルーム .....	230
アシストプラス .....	239
手入れ .....	239

## 役に立つ情報

**i** この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

**i** メルセデス・ベンツ指定サービス工場  
で情報をご覧ください。(p.27 ページ)

## エンジンルーム

## ボンネット

## 重要な安全上の注意事項

## ⚠ 警告

解除すると、走行中にボンネットが開いて視界の妨げとなり危険です。事故の危険性があります。

走行中にボンネットを解除しないでください。

## ⚠ 警告

開閉中、ボンネットが急に下がる場合があります。ボンネットの動作範囲では、けがの危険性があります。

ボンネットの動作範囲に誰もいないことを確認して、ボンネットを開閉してください。

## ⚠ 警告

エンジンがオーバーヒートしたときにボンネットを開いたり、エンジンルームに炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。エンジンルームで火災が発生したときは、ボンネットを閉じたままにし、消防局に連絡してください。

## ⚠ 警告

エンジンルームには可動部品があります。ラジエーターファンなどの特定の構成部品は、イグニッションをオフにした後も動き続けたり、再度突然動くことがあります。けがの危険性があります。

エンジンルームの作業を行わなければならない場合は：

- イグニッションをオフにしてください。
- ファンの回転範囲など、可動部品周囲の危険な範囲には決して触れないでください。
- 宝飾品や時計は外してください。
- 衣服や髪の毛などの物は、動いている部品から離してください。

## ⚠ 警告

イグニッションシステムおよび燃料噴射システムは高電圧下で作動しています。高電圧を含んだ構成部品に接触すると、感電するおそれがあります。けがの危険性があります。

イグニッションをオンにしたら、イグニッションシステムまたは燃料噴射システムの構成部品に決して触れないでください。

## アクティブボンネット（歩行者保護）

## 作動原理

**■** 作動したアクティブボンネットはリセットした後にメルセデス・ベンツ指定サービス工場  
で修理しなければなりません。その後で、アクティブボンネット機能は再度作動するようになります。アクティブボンネットによる歩行者追加保護が元に戻ります。

アクティブボンネットは特定の国でのみ装備されます。

アクティブボンネットは、特定の状況下で歩行者のけがの危険性を軽減させることができます。アクティブボンネットが上がることにより、エンジンなどの固い構成部品との間隔が広がります。

アクティブボンネットが作動すると、ヒンジの後方周辺が約 85 mm 上がります。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで運転するためには、作動したアクティブボンネットをお客様ご自身でリセットしてください。アクティブボンネットが作動すると、歩行者保護が制限されます。

## リセット

### ⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。



- ▶ ボンネット ① を開きます (▷ 231 ページ)。
- ▶ ヒンジが音をたてて固定されるまで、ボンネット ① を慎重に持ち上げます (約 45° の位置)。
- ▶ ボンネット ① を閉じます (▷ 232 ページ)。

## ボンネットを開く

### ⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジン

ルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

### ⚠ 警告

ボンネットを開いているとき、ワイパーを作動位置のままにしていると、ワイパーリンクージでけがをするおそれがあります。けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、必ずワイパーおよびエンジンスイッチをオフにしてください。

**!** ワイパーアームを起こしたままでボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが接触して、損傷するおそれがあります。



- ▶ ワイパーが停止していることを確認します。
- ▶ ボンネットロック解除レバー ① を引きます。ボンネットのロックが解除されます。



- ▶ 隙間に手を入れ、ボンネット固定ハンドル②を引き上げながらボンネットを持ち上げます。

ボンネットを約 40 cm 持ち上げた場合は、ガス封入式の支柱によりボンネットは自動的に開き、開いたまま保持されます。

### ボンネットを閉じる

- ▶ ボンネットを下げ、約 20 cm の高さから下ろします。
- ▶ ボンネットが確実に固定されていることを確認します。
- ボンネットがわずかに上がる場合は、確実に固定されていません。再度開き、少し力を入れて閉じます。

## エンジンオイル

### 全体的な注意事項

❗ エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

❗ エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的エンジンオイル量を点検し、必要に応じて補給または交換してください。

運転スタイルによって、車両は 1000 km 当たり最大 0.8 ℓ のオイルを消費します。新車のときや頻繁にエン

ジン回転数を上げて走行する場合は、オイル消費量はこれより増加します。エンジンによっては、オイルレベルゲージは異なる位置に装着されています。エンジンオイルレベルを点検するときは、以下の点に注意してください。

- 車両を水平な場所に停めます。
- エンジンが通常の作動温度の場合は、約 5 分後にエンジンを停止してください。
- エンジンを短時間のみ始動した場合など、エンジンが通常の作動温度にない場合は、計測を行なう前に約 30 分待ってください。

### オイルレベルゲージを使用してのオイルレベルの点検 (S 65 AMG 以外)

#### ⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。



例

- ▶ エンジンオイルレベルゲージ ① をオイルレベルゲージチューブから引き抜きます。
- ▶ エンジンオイルレベルゲージ ① を拭きます。
- ▶ エンジンオイルレベルゲージ ① をガイドチューブにいっぱいまでゆっくり差し込んで、再度引き抜きます。  
レベルが MIN マーク ③ と MAX マーク ② の間にある場合は、オイルレベルは適正です。
- ▶ オイルレベルが MIN マーク ③、またはそれ以下まで下がっている場合は、エンジンオイルを約 1.0 ℓ 補充してください。

## マルチファンクションディスプレイを使用してのオイルレベルの点検 (S 65 AMG)

- ▶ エンジンスイッチのキーが **2** の位置にあることを確認します。
- ▶ ステアリングの  を使用して、メニューのリストを呼び出します。
- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**メンテナンス** メニューを選択します。
- ▶ ステアリングの  を押して確定します。
- ▶  または  を使用してサブメニューの**エンジンオイル量**を選択します。
- ▶  を押して、選択を確定します。

マルチファンクションディスプレイに **エンジンオイルレベル測定中! 正しい測定は車両水平時のみ可能**というメッセージが表示されます。

測定は数秒かかります。マルチファンクションディスプレイに、以下のメッセージのいずれかが表示されます：

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンオイル量 OK	オイルレベルは正常です。
エンジンオイルを 1 リッター 補充してください	オイル量が低すぎる。 ▶ エンジンオイルを 1.0 L 補給します。
エンジンオイルを 抜いてください	エンジンオイル量が多すぎる ▶ 余分なエンジンオイルは抜き取ってください。
エンジンオイル量 測定するには イグニッション オ	イグニッションをオフにした。 ▶ エンジンスイッチのキーを <b>2</b> の位置にまわします。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
しばらく待ってからエンジンオイル量を測定してください	必要な待機時間が守られていない。 ▶ エンジンが通常の作動温度の場合：約 5 分後に測定を繰り返します。 エンジンを短時間のみ始動した場合など、エンジンが通常の作動温度でない場合：約 30 分後に測定を繰り返します。
エンジンオイル量 エンジン停止時のみ測定できます	エンジンがかかっていて、オイル量の測定ができない。 ▶ エンジンを停止します。 ▶ エンジンが通常の作動温度の場合：測定を行う前に約 5 分間待ちます。 エンジンを短時間のみ始動した場合など、エンジンが通常の作動温度でない場合：測定を行なう前に約 30 分待ちます。

## エンジンオイルの追加

### ⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

### ⚠ 警告

エンジンオイルがエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。火災およびけがの危険性があります。

エンジンオイルが補給口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを冷やし、エンジンを始動する前に、エンジンオイルで汚れた構成部品を清掃してください。

### 🌐 環境

エンジンオイルを補給するときは、こぼさないように注意してください。エンジ

ンオイルが地面や排水溝に流れると、環境に悪影響を与えます。

**!** サービスシステム装備車両のために承認されているエンジンオイルとオイルフィルターのみを使用してください。サービスプロダクトに関するメルセデス・ベンツの仕様に適合するためにテストされ、承認されたエンジンオイルとオイルフィルターのリストはメルセデス・ベンツ指定サービス工場です。エンジンまたは排気システムの損傷は以下のことに起因します。

- サービスシステムで承認されていない仕様のエンジンオイルやオイルフィルターの使用
- サービスシステムで要求される交換期間を過ぎた後のエンジンオイルやオイルフィルターの交換
- エンジンオイル添加剤の使用

**!** オイルを過剰に補給しないでください。エンジンオイルを過剰に補給すると、エンジンまたは触媒が損傷する可能性があります。

あります。余分なエンジンオイルを抜き取ってください。



例

- ▶ キャップ①を反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ エンジンオイルを補充します。オイルレベルがオイルレベルゲージのMIN マーク、またはそれ以下の場合は、エンジンオイルを 1.0 ℓ 補充してください。
- ▶ キャップ①を補給口に合わせ、時計回りにまわします。キャップが元の場所に確実にロックされていることを確認します。
- ▶ エンジンオイルレベルゲージを使用してオイルレベルを再度点検します (▷ 232 ページ)。

エンジンオイルについてのさらなる情報は、(▷ 289 ページ) をご覧ください。

### 定期的なオイルの交換

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。アシストプラスのメンテナンスインジケータ表示により、標準的な交換時期が定められています。ただし、交換時期は使用状況に左右されます。詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

### 冷却水

#### 冷却水レベルの点検

##### ⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

##### ⚠ 警告

エンジンが温まっている場合は特に、エンジン冷却システムに圧力がかかっています。キャップを開くとき、高温の冷却水が吹き出す可能性があります。けがの危険性があります。

キャップを開く前に、エンジンを冷ましてください。開くときは、手袋と保護メガネを着用してください。キャップをゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。



- ▶ 車両を水平な場所に停めます。車両が水平な場所にあり、エンジンが冷えている場合にのみ、冷却水レベルを点検してください。
- ▶ エンジンスイッチのキーを 2 の位置にまわします (▷ 131 ページ)。

または

- ▶ キーレスゴースイッチを 2 回押します (▷ 132 ページ)。

- ▶ メーターパネルのエンジン冷却水温度表示を確認します。  
冷却水温度は 70 °C 以下でなければなりません。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわします (▷ 131 ページ)。

または

- ▶ エンジンスイッチからキーレスゴーサインスイッチを取り外します (▷ 132 ページ)。
- ▶ キャップ ① を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。
- ▶ キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。  
冷えているときに冷却水が補給口内のマーカーバー ③ のレベルにある場合は、冷却水リザーブタンク ② 内に十分な冷却水があります。
- ▶ 温かいときに冷却水レベルが補給口内のマーカーバー ③ から約 1.5 cm 上にある場合は、冷却水リザーブタンク ② 内に十分な冷却水があります。
- ▶ キャップ ① を取り付け、時計回りにいっぱいまでまわします。

冷却水についてのさらなる情報は、(▷ 290 ページ) をご覧ください。

## 冷却水の補給

### ⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

### ⚠ 警告

不凍液がエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性

があります。火災およびけがの危険性があります。

不凍液を充填する前にエンジンを冷やしてください。不凍液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを始動する前に、不凍液で汚れた構成部品を清掃してください。

**!** 冷却水が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面が損傷するおそれがあります。



冷却水リザーブタンク ② 内の冷却水レベルが低すぎる場合は、水平な場所に停止し、エンジンが冷えているときに冷却水を補給してください。

- ▶ キャップ ① を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。
- ▶ キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ 冷却水をマーカーバー ③ まで補給してください。  
使用状況 (▷ 290 ページ) に適した水道水および不凍/腐食剤の混合液を使用します。
- ▶ キャップ ① を取り付け、時計回りにいっぱいまでまわします。
- ▶ エンジンを始動し、約 5 分後に再度停止して冷まします。
- ▶ 冷却水レベル (▷ 236 ページ) を点検し、必要であれば補給します。

## 定期的な冷却水の交換

冷却水の品質は時間とともに劣化します。整備手帳の指示に従い、定期的に冷却水を交換してください。詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせ合わせください。

## エンジンのオーバーヒート

### ⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

### ⚠ 警告

エンジンがオーバーヒートしたときにボンネットを開いたり、エンジンルームに炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。エンジンルームで火災が発生したときは、ボンネットを閉じたままにし、消防局に連絡してください。

### ⚠ 警告

エンジンが温まっている場合は特に、エンジン冷却システムに圧力がかかっています。キャップを開くとき、高温の冷却水が吹き出す可能性があります。けがの危険性があります。

キャップを開く前に、エンジンを冷ましてください。開くときは、手袋と保護メガネを着用してください。キャップをゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。

オーバーヒートしたときは：

- メーターパネルに約 120 °C 以上の冷却水温度が表示されている。
- マルチファンクションディスプレイに冷却水が減少 停車して エンジン を停止 というメッセージが表示されている。
- エンジンがかかっているときに、メーターパネルに赤色の  冷却水警告灯が表示される。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

## 他のサービスプロダクト

### ウインドウウォッシャーの補給

#### ⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

#### ⚠ 警告

ウインドウウォッシャー液が熱いエンジン部品または排気システムに触れた場合、発火するおそれがあります。火災およびけがの危険性があります。

ウインドウウォッシャー液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。



- ▶ **開く**：タブを持ってキャップ①を引き上げます。
- ▶ 補給口の端にキャップ①を置き、その場所に固定します。
- ▶ あらかじめ混合しておいたウォッシュャー液を補給します。
- ▶ **閉じる**：固定されるまで、キャップ①を補給口に押し付けます。

ウォッシュャー液量が推奨最小量である 1 ℓ 以下に下がった場合は、ウォッシュャー液を補充するように促すメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

ウインドウウォッシュャー液/不凍液についてのさらなる情報 (p. 291 ページ)。

## ブレーキ液レベル

### ⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

**!** ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液レベルが MIN マークまたはそれ以下まで低下しているときは、ただちにブレーキシステムの漏れを点検してください。ブレーキパッド / ライニングの厚みも点検してください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

絶対にブレーキ液を補給しないでください。これを行っても問題は解消しません。

ブレーキ液レベルの点検は、必ず水平な場所に停車した状態で行なってください。レベルがブレーキ液リザーブタンクの MIN マーク と MAX マーク の間にある場合は、ブレーキ液レベルは適正です。

## アシストプラス

デジタル取扱説明書には、アシストプラスメンテナンスインジケーター画面のさらなる情報が含まれています。

## 手入れ

### 全体的な注意事項

#### ☑ 環境

空の容器や使用済みのクリーニングクロスは、環境に配慮した方法で廃棄してください。

**!** お車の手入れをされる場合は、次のものは絶対に使用しないでください。

- 乾いた布や目の粗い布、硬めの布など
- 研磨剤を含む洗剤
- 溶剤
- 溶剤を含む洗剤

強く擦らないでください。

リングやスクレーパーなどのかたい物が、塗装面や保護膜に触れないようにしてください。塗装面や保護膜が損傷するおそれがあります。

**!** 特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、清掃したままで車面を長い間駐車しないでください。ホイールクリーナーが、ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングの錆を増加させる原因になるおそれがあります。このため、清掃した後は数分間走行してください。ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングを、ブレーキ制動により加熱して乾燥させます。その後で駐車してください。

定期的な車の手入れにより、長い期間品質を保つことができます。

メルセデス・ベンツが推奨し、承認した手入れ用品およびクリーナーを使用してください。

## 外装の手入れ

### 自動洗車機

#### ⚠ 警告

自動洗車機で洗車した直後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。事故の危険性があります。

車両を洗車した後は、完全にブレーキの性能が元に戻るまでは道路状況に注意して慎重にブレーキ操作を行ってください。

**❗** ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください：

- けん引されるとき
- 洗車時

**❗** 注意：

- サイドウィンドウが完全に閉じていること
- ベンチレーション/ヒーターの送風を停止してください (OFF スイッチが押されていること)。
- ワイパースイッチを **O** の位置にしてください。
- 360° カメラシステムまたはリアビューカメラをオフにしてください。

車両を損傷するおそれがあります。

**❗** キーがキーレスゴーの後方検知範囲内にある場合は、例えば以下の状況ではトランクが不意に開くことがあります。

- 洗車機の使用
- 高圧式スプレーガンの使用

キーが車両から少なくとも 3 m 離れていることを確認してください。

**❗** けん引式の洗車機で洗車するときは、オートマチックトランスミッションがニュートラルポジション **N** にあることを

確認してください。車両を損傷するおそれがあります。

#### • キーでの操作

エンジンスイッチからキーを抜かないでください。エンジンが停止しているか、または非常に低い速度のときは運転席ドアを開かないでください。さもないと、トランスミッションポジションが **D** または **R** のときは、オートマチックトランスミッションが自動的にパーキングポジション **P** に切り替わり、車輪をロックします。

#### • キーレスゴースイッチでの操作

エンジンを停止しているか、または非常に低い速度のときは運転席ドアを開かないでください。さもないと、トランスミッションポジションが **D** または **R** のときは、オートマチックトランスミッションが自動的にパーキングポジション **P** に切り替わり、車輪をロックします。

以下に従って、オートマチックトランスミッションがニュートラルの位置 **N** になっていることを確認してください。

#### キーでの操作

- ▶ イグニッションがオンになっていることを確認します。
- ▶ 車両が停止していることを確認してください。
- ▶ ブレーキペダルを踏んだまま保持します。
- ▶ ニュートラル **N** を選択します。
- ▶ ブレーキペダルを放します。
- ▶ 必要であれば、電気式パーキングブレーキを解除します。
- ▶ イグニッションをオフにして、エンジンスイッチにキーを残したままにします。

キーレスゴースイッチでの操作

- ▶ イグニッションがオンになっていることを確認します。
- ▶ 車両が停止していることを確認してください。
- ▶ ブレーキペダルを踏んだまま保持します。
- ▶ パーキングポジション **P** に入れます。
- ▶ ブレーキペダルを放します。
- ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します (▶ 132 ページ)。
- ▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。
- ▶ イグニッションをオンにします。
- ▶ ブレーキペダルを踏んだまま保持します。
- ▶ ニュートラル **N** を選択します。
- ▶ ブレーキペダルを放します。
- ▶ 必要であれば、電気式パーキングブレーキを解除します。
- ▶ イグニッションをオフにして、エンジンスイッチにキーを残したままにします。

最初から自動洗車機で洗車することができます。

ひどい汚れは、自動洗車機で洗車をする前に洗ってください。

自動洗車機を使用した後は、フロントウインドウやワイパーブレードのワックスを拭いてください。フロントウインドウの残留物に起因する汚れを防ぎ、ワイパーのノイズを低減します。

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 手洗い
- 高圧式洗浄機器
- 塗装面の清掃

- マットペイントの手入れと取り扱い
- ホイールの清掃
- ウインドウの清掃
- ワイパーブレードの清掃
- 車外ライトの清掃
- ドアミラー方向指示灯の清掃
- センサーの清掃
- パーキングアシストリアビューカメラの清掃
- 360° カメラシステムの清掃
- マフラーの清掃

## 車内の手入れ

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ディスプレイの清掃
- ナイト/デイビューアシストの清掃
- 樹脂製トリムの清掃
- ステアリングおよびセクターレバーの清掃
- ウッド / トリムストリップの清掃
- シートカバーの清掃
- シートベルトの清掃
- ルーフライニングとカーペットの清掃

役に立つ情報 .....	244
車載品の収納場所 .....	244
パンク .....	246
バッテリー（車両） .....	251
ジャンプスタート .....	255
けん引とけん引始動 .....	258
ヒューズ .....	262

## 役に立つ情報

**i** この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

**i** メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて情報をご覧ください。(▶ 27 ページ)

## 車載品の収納場所

## 懐中電灯

車内には懐中電灯が装備されています。運転席ドアまたは助手席ドアのいずれかの小物入れに収納されています。

**i** 新品の懐中電灯には電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙片が挟まれています。初めて使用する前に、紙片を取り除きます。

**i** 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。電池が切れたら交換してください。

## 停止表示板

## 停止表示板の取り外し/取り付け



- ▶ **取り外す**：トランクリッドを開きます。
- ▶ 停止表示板ホルダー ① を矢印の方向に押し、開きます。
- ▶ クリップ ③ を持ち上げ、停止表示板 ② を取り外します。
- ▶ **取り付ける**：停止表示板 ② を停止表示板ホルダー ① に戻します。
- ▶ 停止表示板ホルダー ① を閉じ、押し上げて固定します。

## 停止表示板の組み立て



- ▶ 脚 ③ を側方外側に出します。
- ▶ 側方の反射板 ② を上方に起こして三角形を作り、押し込み式スタッド ① を使用して、上部で固定します。

## 救急セット



救急セット ① はトランクの右側の収納ネットにあります。

- ▶ トランクリッドを開きます。
- ▶ 救急セット ① を取り出します。

**i** 最低 1 年に 1 度、救急セットの使用期限を点検してください。必要な場合は内容物を交換し、なくなった物は補充してください。

## 車載工具

### 全体的な注意事項

けん引フックはトランクフロア下の収納スペースにあります。

**i** 国ごとの仕様違いを除き、通常車両にはタイヤ交換工具は装備されていません。車両にタイヤ交換工具が装備されている場合、それらはトランクフロア下の収納スペースにあります。車輪交換用工具の中には、その車両専用のものがあります。車両のタイヤ交換を行なうために必要となる、承認されたタイヤ交換工具についての詳細情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

タイヤ交換に必要な工具は、以下のものなどが含まれます。

- ジャッキ
- 輪止め
- ホイールレンチ
- ラチェットレンチ
- ガイドボルト

### タイヤフィットキット装備車両

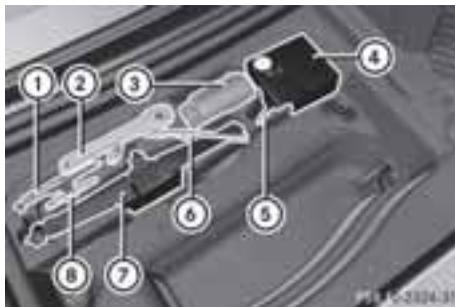


例

- ① タイヤフィット充填ボトル
- ② けん引フック
- ③ タイヤ充填コンプレッサー

- ▶ トランクリッドを開きます。
- ▶ トランクフロアを上げます (▶ 225 ページ)。
- ▶ タイヤフィットキットを使用します (▶ 247 ページ)。

### タイヤ交換工具キット装備車両



例：装備および国別仕様による違いがあります

- ① 折りたたみ式輪止め
- ② ラチェット
- ③ タイヤフィット充填ボトル
- ④ タイヤ充填コンプレッサー
- ⑤ けん引フック
- ⑥ ホイールレンチ

- ⑦ ジャッキ
- ⑧ ガイドボルト

タイヤ交換工具キットは、トランクフロア下の収納スペースのトレイにあります。

- ▶ トランクリッドを開きます。
- ▶ トランクフロアを上方に持ち上げます (▷ 225 ページ)。

## パンク

### 車両の準備

お客様の車両には、以下が装備されていることがあります。

- ランフラット特性を持つタイヤ (MOExtended タイヤ) (▷ 246 ページ)

MOExtended タイヤ装備車両では、車両の準備作業は必要ありません。

- タイヤフィットキット (▷ 245 ページ)
- 車輪の交換/装着に関する情報 (▷ 272 ページ)

- ▶ 交通の妨げにならず、かたく滑らない水平な場所に車両を停車します。
- ▶ 非常点滅灯を作動させます。
- ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▷ 142 ページ)。
- ▶ 可能な場合は、前輪を直進位置にしてください。
- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ 運転席ドアを開きます。  
車両の電気システムが **0** の状態になります。これにより、キーを抜いたときと同様になります。
- ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを外します (▷ 132 ページ)。  
または、キーがエンジンスイッチに差し込まれている場合：
  - ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

- ▶ 乗員全員を車両から降ろします。そのときは、乗員が危険にさらされないことを確認してください。
- ▶ 車輪を交換している間は、危険なエリアの近くに誰もいないことを確認してください。タイヤ交換を直接補助しない人は、フェンスの向こう側に立つなどしてください。
- ▶ 車両から降りてください。そのときは交通状況に注意してください。
- ▶ 運転席ドアを閉じます。
- ▶ 適切な距離を離して停止表示板を置きます (▷ 244 ページ)。法規に従ってください。

**i** 自動車専用道路や高速道路では、停止表示板を使用することにより後続車両に警告を発することが法律で義務付けられています。

### MOExtended タイヤ (ランフラット特性を持つタイヤ)

#### 全体的な注意事項

MOExtended タイヤ(ランフラット特性を持つタイヤ)により、1本または複数のタイヤの空気圧がすべて損失しても、車両の走行を続けることができます。影響を受けたタイヤに明らかに目に見える損傷があるとは限りません。

タイヤウォールの MOExtended マークで MOExtended タイヤを識別できます。このマークはタイヤサイズ表示、耐荷重性能、スピードインデックスの横に表示されています。

MOExtended タイヤは、作動しているタイヤ空気圧警告システムと一緒にのみ使用することができます。

## マルチファンクションディスプレイに空気圧警告メッセージが表示された場合：

- ディスプレイメッセージの指示に従ってください。(▷ 200 ページ)
- タイヤに損傷があるか確認してください。
- 運転する際は、以下の注意事項に従ってください。

最長走行距離は、車両に部分的に積載しているときは 80 km、車両にいっぱいまで積載をしているときは 30 km です。積載する荷物に加えて、走行可能な距離は以下によって異なります。

- 速度
- 道路状況
- 外気温度

ランフラットモードで走行可能な距離は、極端な走行状況/操作によって短くなったり、穏やかな運転スタイルによって長くなることがあります。

走行可能な距離は、タイヤ空気圧警告システムの警告メッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されたときが起点になります。

最高速度が 80 km/h を超えないようにしてください。

**i** 1 本または 4 本すべてのタイヤを交換するときは、必ず以下のみを使用してください。

- 車両に指定されたタイヤサイズ
- "MOExtended"マーク付きタイヤ

タイヤがパンクし、MOExtended タイヤと交換できない場合は、一時的な措置として標準タイヤを使用してください。必ず適正なサイズと適正な種類(サマータイヤまたはウィンタータイヤ)を使用してください。

**i** MOExtended タイヤ装備車両は、出荷時にタイヤフィットキットを装備していません。ウィンタータイヤなど、ラン

フラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットキットを追加で装備することを推奨します。タイヤフィットキットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。

## 重要な安全上の注意事項

### ⚠ 警告

エマージェンシーモードで運転すると、コーナリングや急加速、ブレーキ時などに走行特性が低下します。事故の危険性があります。

規定の最高速度を超えないでください。急激なステアリング操作、運転操作、障害物(縁石、穴、オフロード)を超える運転を避けてください。これは特に荷物積載時にあてはまります。

以下の場合、エマージェンシーモードでの運転は中止してください。

- 大きい異音聞こえるとき
- 車に振動が発生するとき
- 煙やタイヤの焦げる臭いが発生するとき
- ESP®が常時作動するとき
- タイヤのサイドウォールに裂け目があるとき

エマージェンシーモードでの運転のあとは、さらに使用できるかの確認のためにホイールリムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ点検してください。不具合のあるタイヤは新品と交換してください。

## タイヤフィットキット

## 重要な安全上の注意事項

タイヤフィットはタイヤシーラント剤です。

タイヤフィットを使用して、4 mm 以下のパンク、特にタイヤトレッドにあるものをふさぐことができます。タイヤ

フィットは、-20℃までの外気温度で使用できます。

### ⚠ 警告

以下の状況のときは、タイヤフィットが十分に機能しないため、タイヤを適切に修理することはできません。

- 上記に記した以上のタイヤの裂け目や穴
- ホイールリムが損傷しているとき
- 非常に低い空気圧、またはパンクした状態で走行したとき

事故の危険性があります。

それ以上走行しないでください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

### ⚠ 警告

タイヤフィットは有害で、炎症を起こす原因となります。皮膚、眼、服に付着させたり、吸い込んだりしないようにしてください。タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。タイヤフィットは子供の手の届かないところに保管してください。負傷するおそれがあります。

タイヤフィットが付着した場合は、以下の指示にしたがってください。

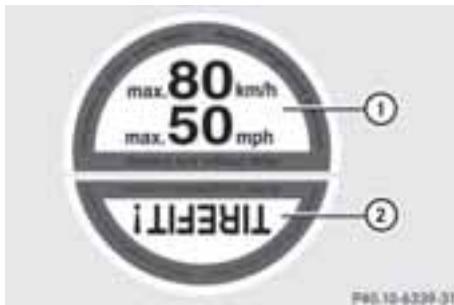
- タイヤフィットをただちに水道水で皮膚から洗い流してください。
- タイヤフィットが眼に付着した場合は、ただちに水道水で十分に洗い流してください。
- 万一、タイヤフィットを飲み込んだ場合は、ただちに水道水で口を十分すすぎ、水道水を大量に飲ませてください。無理に吐かせないでください。ただちに専門医の診断を受けてください。
- タイヤフィットが付着した衣類は、ただちに着替えてください。
- アレルギー反応が生じた場合は、ただちに専門医の診断を受けてください。

**!** 電動エアポンプは、一度に約8分以上連続して作動させると、ポンプがオーバーヒートするおそれがあります。

電動エアポンプが冷えたら、再び作動させることができます。

タイヤ充填コンプレッサーのステッカーにあるメーカーの安全上の指示に注意してください。

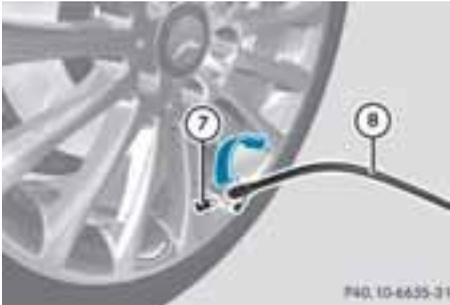
### タイヤフィットキットの使用



- ▶ タイヤに刺さったクギやネジなどは取り除かないでください。
- ▶ トランクフロア下の収納スペースからタイヤフィットのボトル、付属のタイヤフィットステッカー、およびタイヤ充填コンプレッサーを取り出します (▷ 245 ページ)。
- ▶ タイヤフィットステッカーの ① 部分を運転者に視界内に貼付します。
- ▶ タイヤフィットステッカーの ② 部分を不具合のあるタイヤのホイールのバルブ付近に貼ります。



- ▶ ケーブル付き電源プラグ ④ とホース ⑤ をケースから取り出します。
- ▶ ホース ⑤ をタイヤフィットのボトル ① のフランジ ⑥ にしっかり取り付けます。
- ▶ タイヤフィットのボトル ① の頭部を下にして、タイヤ充填コンプレッサーの凹部 ② にはめます。



- ▶ パンクしたタイヤのバルブ ⑦ からキャップを取り外します。
- ▶ タイヤフィットのホース ⑧ をパンクしたタイヤのバルブ ⑦ に締め付けます。
- ▶ プラグ ④ を車両の 12V 電源ソケット (▶ 226 ページ) に差し込みます。
- ▶ エンジンスイッチのキーを 1 の位置にまわします (▶ 131 ページ)。
- ▶ タイヤ充填コンプレッサーの電源スイッチ ③ を押し I の位置にします。タイヤ充填コンプレッサーが作動します。タイヤに空気が注入されます。

**①** 最初に、タイヤにタイヤフィットが送り込まれます。空気圧が一時的に約 500 kPa (5 bar/73 psi) まで上がることがあります。

**この間は、タイヤ充填コンプレッサーを停止しないでください。**

- ▶ タイヤ充填コンプレッサーを 5 分間作動させます。その後にはタイヤは 180 kPa (1.8 bar/26 psi) 以上の圧力になっていなければなりません。

5 分後に、空気圧が 180 kPa (1.8 bar/26 psi) に達している場合は、“十分なタイヤ空気圧”をご覧ください (▶ 250 ページ)。

5 分後に、空気圧が 180 kPa (1.8 bar/26 psi) に達していない場合は、“不十分なタイヤ空気圧”をご覧ください (▶ 249 ページ)。

**①** タイヤフィットが漏れ出した場合は、そのまま乾燥させてください。フィルム状になり、取り除くことができます。

衣類にタイヤフィットが付着した場合は、できるだけ早くパークロロエチレンでクリーニングしてください。

### 不十分なタイヤ空気圧

5 分後に空気圧が 180 kPa (1.8 bar/26 psi) に達していない場合：

- ▶ タイヤ充填コンプレッサーを停止します。
- ▶ 不具合のあるタイヤのバルブから充填ホースを外します。
- ▶ ごく低速で約 10 m 前進または後退します。
- ▶ 再度、タイヤに空気を注入します。5 分後までには、タイヤ空気圧は 180 kPa (1.8 bar/26 psi) 以上にならなければなりません。

#### ⚠ 警告

規定の時間が経過したのに、必要十分なタイヤ空気圧に達しない場合は、タイヤは致命的に損傷しており、タイヤフィットによるタイヤ修理はできません。損傷したタイヤや非常に低下したタイヤ空気圧により、車両のブレーキや走行特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。

それ以上走行を続けしないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

## 十分なタイヤ空気圧

### ⚠ 警告

タイヤフィットで一時的に修理したタイヤは車両操縦性が損なわれてしまい、高速走行には適しません。事故の危険性があります。

そのため、状況に応じて運転スタイルを調整し慎重に走行してください。タイヤフィットで修理したタイヤで走行する場合は、指定された最高速度を超過しないでください。

タイヤフィットで修理されたタイヤの最高速度は 80 km/h です。運転者が容易に視認できるメーターパネル内に、タイヤフィットステッカーの上部を貼付してください。

**!** 使用後は、ホースから余分なタイヤフィットが漏れ出ることがあります。タイヤフィットが付着すると、シミの原因になります。

したがって、ホースはタイヤフィットが収納されていた専用袋に収納してください。

### 🌀 環境保護に関する注意

使用済みのタイヤフィットのボトルを廃棄処分する場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご依頼ください。

5 分後にタイヤ空気圧が 180 kPa (1.8 bar/26 psi) に到達している場合：

- ▶ タイヤ充填コンプレッサーを停止します。
- ▶ 不具合のあるタイヤのバルブから充填ホースを外します。
- ▶ タイヤフィットのボトル、タイヤ充填コンプレッサーおよび停止表示板を収納します。

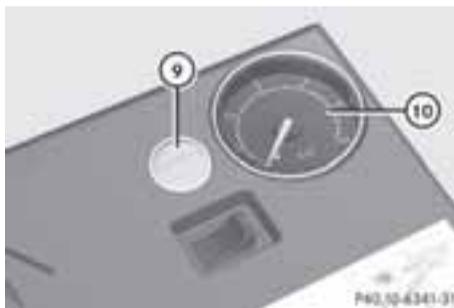
▶ ただちに発進します。

- ▶ 約 10 分間走行した後には停止し、タイヤ充填コンプレッサーでタイヤ空気圧を点検します。  
タイヤ空気圧が 130 kPa (1.3 bar/19 psi) 以上でなければなりません。

### ⚠ 警告

短時間の走行後に規定タイヤ空気圧に達しない場合は、タイヤがひどく損傷しています。この場合は、タイヤフィットでタイヤを修理することができません。タイヤの損傷およびタイヤ空気圧が低すぎるにより、車両のブレーキ操作や操縦性が著しく損なわれるおそれがあります。事故発生の危険性があります。  
それ以上走行を続けずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

- ▶ タイヤ空気圧がまだ 130 kPa (1.3 bar/19 psi) 以上の場合は修正します。数値は燃料給油口フラップのタイヤ空気圧ラベルをご覧ください。
- ▶ **タイヤ空気圧を上げる：** タイヤ充填コンプレッサーを作動させます。



- ▶ **タイヤ空気圧を下げる：** 空気圧ゲージ ⑩ の横にある空気圧リリーススイッチ ⑨ を押します。

- ▶ タイヤ空気圧が適正になったら、修理したタイヤのバルブから充填ホースを外します。
- ▶ 修理したタイヤのタイヤバルブにバルブキャップを締め付けます。
- ▶ タイヤフィットのボトルをタイヤ充填コンプレッサーから引き出します。  
充填ホースはタイヤフィットのボトルにとどまったままになります。
- ▶ タイヤフィットのボトル、タイヤ充填コンプレッサーおよび停止表示板を収納します。
- ▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、そこでタイヤを交換してください。
- ▶ できるだけ早くメルセデス・ベンツ指定サービス工場にてタイヤフィットのボトルを交換してください。
- ▶ タイヤフィットのボトルは 4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場にて交換してください。

## バッテリー（車両）

### 重要な安全上の注意事項

バッテリーの取り外し、または取り付けなどの作業は、専門的な知識および専用工具の使用が必要です。そのため、バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

### ⚠ 警告

バッテリーに不適切な作業を行なうと、例えばショートにつながり、車両の電子部品を損傷します。これにより、ライトシステム、ABS（アンチロック・ブレーキングシステム）または ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）のような安全に関連したシステムに機能の制限を与えることにつながるおそれがあります。車両の操作安全性が制限されるおそれがあります。例えば、以下のときに車両のコントロールを失うおそれがあります。

- ブレーキ時
- 急なステアリング操作時、および/または車両速度が道路の状態に合っていないとき

事故の危険性があります。

ショート、または似たような出来事のあるときは、すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。それ以上走行しないでください。バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

**i** ABS および ESP®に関するさらなる情報は、(▶ 75 ページ) および (▶ 81 ページ) をご覧ください。

### AMG 車両を除く全車両：

### ⚠ 警告

静電気を帯びていると、火花が発生してバッテリーから発生する高可燃性のガスに引火することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱う前に、車体に触れて身体の静電気を放電させてください。

バッテリー充電時、およびジャンプスタート時は、可燃性の高い混合ガスが発生します。

お客様にも、そしてバッテリーにも静電気が帯電していないことを常に確認してください。静電気は以下のような場合に発生します。

- 合成繊維製の衣服を着用することにより
- 衣服とシートの間で摩擦が起こることにより
- カーペットまたは他の合成繊維の上でバッテリーを引きずった、または押したとき
- バッテリーを布で拭いたとき

#### ⚠ 警告

充電中はバッテリーから水素ガスが発生します。バッテリーのショートや火花の発生により、水素ガスに引火するおそれがあります。爆発の危険性があります。

- 接続されたバッテリーのプラス端子が車両部品と接触していないことを確認してください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- バッテリーの接続および切り離しを行なうときは、記載された手順通りにバッテリー端子を接続することが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極のバッテリー端子を接続していることを確認してください。
- プースターケーブルの接続、切り離しを行なうときは、記載された手順に従うことが特に重要です。
- エンジン作動中は、決してバッテリー端子の接続または切り離しを行なわないでください。

#### ⚠ 警告

バッテリー液は腐食性です。けがのおそれがあります。

皮膚、目または衣服への付着を防いでください。バッテリーのガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞき込まないでください。子供の手の届かない所

に置いてください。ただちにバッテリー液を多量の清潔な水で十分にすすぎ、至急医師の診断を受けてください。

#### 全車両：

##### 🚫 環境に関する注意



電池には汚染物質が含まれています。家庭ごみと一緒に廃棄することは法律で禁止されています。使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。



電池は環境保護の観点から責任を持って適切に廃棄してください。使用済みの電池はメルセデス・ベンツ指定サービス工場または使用済み電池の収集場までお持ちください。

**!** メルセデス・ベンツ指定サービス工場  
でバッテリーの点検を定期的に受けてください。

整備手帳のメンテナンスインターバルを確認するか、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

**!** バッテリーに関する作業は、常にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行ってください。例外的な状況下で、お客様自身でどうしても12Vバッテリーの接続を外す必要がある場合は、以下に従ってください。

- 動き出すことを防ぐために車両を固定します。
- エンジンを停止し、キーを抜きます。イグニッションがオフになっていることを確認します。メーターパネルのすべての表示灯が消灯していることを確認します。さもないと、オルタネーターなどの電子部品を損傷するおそれがあります。

- 先にマイナス端子、次にプラス端子を外します。決して端子を逆に接続しないでください。さもないと、車両の電子部品を損傷するおそれがあります。
- バッテリーの接続を外した後は、トランスミッションは **P** の位置でロックされます。動き出さないように車両が固定されます。そのため、車両を動かすことができなくなります。

運転中は、バッテリーおよびプラス端子のカバーが常に装着されていないと危険です。

バッテリーを取り扱うときは安全上の注意事項に従い、防護措置をとってください。



警告



バッテリーを取り扱うときは、火気や裸火、喫煙は禁止です。火花の発生は避けてください。



電解液またはバッテリー液は腐食性です。皮膚、目または衣服への付着を防いでください。

手袋やエプロン、マスクなど、適切な保護衣を着用してください。

清潔な水で、ただちに電解液またはバッテリー液を洗い流してください。必要な場合は、医師に相談してください。



保護眼鏡を着用してください。



子供を近づけないでください。



取扱説明書の指示に従ってください。

安全上の理由のため、お客様の車両のためにメルセデス・ベンツによりテストされ、承認されたバッテリーのみを使用することをメルセデス・ベンツは推奨します。これらのバッテリーには、衝撃に対する高い耐性があり、その結果、事故の際にバッテリーが損傷した場合の乗員への酸による火傷の危険性を低減します。バッテリーの性能を長期的にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分に充電されていることが必要です。

車両のバッテリーは他のバッテリーと同様に、車両を使用しないと、徐々に放電する可能性があります。そのような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのバッテリーの接続を外してください。メルセデス・ベンツにより推奨された充電器で、バッテリーを充電することもできます。さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

車両を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多い場合は、通常よりも頻りにバッテリー液量や充電状態を点検してください。車両を長期間使用しないときの保管方法については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

**i** 車両を駐車するとき、電気装備を必要としない場合は、キーを抜いてください。車両は非常にわずかな電力を使用し、これによりバッテリーの電力を消費します。

## バッテリーの充電

### AMG 車両：

**!** 最大充電電圧が 14.4 V のバッテリー充電器のみを使用してください。

### 他の全車両

**⚠ 警告**

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、可燃性のガスがバッテリーから発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱うときは、特に火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、十分な換気を確認してください。バッテリーをのぞき込まないでください。

**⚠ 警告**

バッテリー液は腐食性があります。けがをするおそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞき込まないでください。バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

**⚠ 警告**

放電したバッテリーは、気温が氷点下になると凍結するおそれがあります。ジャンプスタートやバッテリーの充電を行なうときは、バッテリーからガスが発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なう前に、凍結したバッテリー液を解凍してください。

**❗ 必ず最大充電電圧が約 14.8 V のバッテリー充電器を使用してください。**

**全車両：**

**❗** バッテリーを充電する場合は、必ずジャンプスタートターミナルを使用してください。

ジャンプスタート接続端子は、エンジンルーム内にあります（▷ 255 ページ）。

▶ ボンネットを開きます。

▶ ジャンプスタートにより救援車のバッテリーを接続したときと同じ順序で、バッテリー充電器をプラス端子とアース端子に接続してください（▷ 255 ページ）。

火気を近づけないようにしてください。バッテリーをのぞき込まないでください。メルセデス・ベンツによりテストおよび承認されたバッテリー充電器を使用しない場合は、車両に装着されたままバッテリーを充電しないでください。メルセデス・ベンツ車両用に特別に適合し、メルセデス・ベンツによりテストおよび承認されたバッテリー充電器ユニットはアクセサリとして入手できます。この充電器は、車両に装着された状態でバッテリーの充電が許可されています。情報および入手については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。バッテリーを充電する前に、バッテリー充電器の取扱説明書をお読みください。

**AMG 車両を除く全車両：** 低温度でメーターパネルの表示灯/警告灯が点灯しない場合は、放電したバッテリーが凍結していることがあります。このような場合は、車両をジャンプスタートすることも、バッテリーを充電することもできません。解凍したバッテリーの寿命は短くなることがあります。特に低温時の始動性能が損なわれることがあります。解凍したバッテリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

**AMG 車両：** 低温時に、取り外したバッテリーをバッテリー充電器を使用して充電しないでください。必要な場合は、まずバッテリーをゆっくり温めてください。さもないと、寿命が短くなり、特に低温時には始動特性が損なわれることがあります。

## ジャンプスタート

ジャンプスタート作業には、エンジンルーム内のプラス端子とアースポイントで構成されているジャンプスタート接続端子のみを使用してください。

## AMG 車両を除く全車両：

## ⚠ 警告

バッテリー液は腐食性です。けがのおそれがあります。

皮膚、目または衣服への付着を防いでください。バッテリーのガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞき込まないでください。子供の手の届かない所に置いてください。ただちにバッテリー液を多量の清潔な水で十分にすすぎ、至急医師の診断を受けてください。

## ⚠ 警告

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、可燃性のガスがバッテリーから発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱うときは、特に火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、十分な換気を確保してください。バッテリーをのぞき込まないでください。

## ⚠ 警告

充電中はバッテリーから水素ガスが発生します。バッテリーのショートや火花の発生により、水素ガスに引火するおそれがあります。爆発の危険性があります。

- 接続されたバッテリーのプラス端子が車両部品と接触していないことを確認してください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- バッテリーの接続および切り離しを行なうときは、記載された手順通りにバッテリー端子を接続することが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極のバッテリー端子を接続していることを確認してください。
- ブースターケーブルの接続、切り離しを行なうときは、記載された手順に従うことが特に重要です。
- エンジン作動中は、決してバッテリー端子の接続または切り離しを行なわないでください。

## ⚠ 警告

放電したバッテリーは、気温が氷点下になると凍結するおそれがあります。ジャンプスタートやバッテリーの充電を行なうときは、バッテリーからガスが発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なう前に、凍結したバッテリー液を解凍してください。

**!** エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。未燃焼燃料によって触媒が損傷するおそれがあります。

低温時に表示/警告灯が点灯しない場合は、放電したバッテリーが凍結していることがあります。このような場合は、車両をジャンプスタートすることも、バッテリーを充電することもできないことがあります。解凍したバッテリーの寿命は短くなることがあります。特に低温時の始動性能が損なわれることがあります。解凍したバッテリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

### 全車両：

車両の始動のために急速充電器を使用しないでください。車両のバッテリーが放電した場合は、ブースターケーブルを使用して他の車両や他のバッテリーからエンジンをジャンプスタートすることができます。以下の点に注意してください。

- すべての車両でバッテリーに手が届くわけではありません。他の車両のバッテリーに手が届かない場合は、他のバッテリーまたはジャンプスタート用機器を使用して、車両をジャンプスタートしてください。
- エンジンおよび排気システムが冷えているときのみ、車両のジャンプスタートを行ってください。
- 火気を近づけないようにしてください。
- バッテリー液が凍結しているときは、エンジンを始動しないでください。最初にバッテリーを解凍してください。
- **AMG 車両を除く全車両：** バッテリーが凍結した場合は、エンジンを始動しないでください。最初にバッテリーを解凍してください。
- ジャンプスタートは、定格電圧 12 V のバッテリーを使用してのみ行なうことができます。
- 十分な太さ、および絶縁された端子クランプを持つブースターケーブルのみを使用してください。
- バッテリーをのぞき込まないでください。
- バッテリーが完全に放電している場合は、始動を試みる前に、ジャンプスタートのために接続したバッテリーを数分間接続したままにしてください。これにより、放電したバッテリーに若干充電されます。
- 2 台の車両が接触していないことを確認します。

以下を確認してください：

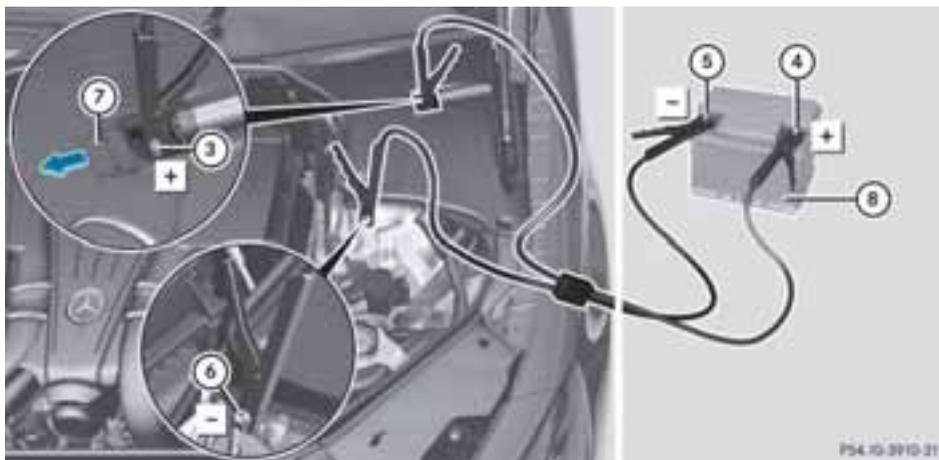
- ブースターケーブルが損傷していない
- ブースターケーブルをバッテリーに接続している間、端子クランプの絶縁されていない部分が他の金属部品と接触していない
- エンジンが回転しているとき、ブースターケーブルが V ベルトプーリーやファンなどの部品に巻き込まれないようにする
- ▶ 電気式パーキングブレーキを作動させ、車両が動き出さないように固定します。
- ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。
- ▶ イグニッションがオフになっていることを確認してください (▶ 132 ページ)。メーターパネル内のすべての表示灯が消灯しなければなりません。キーを使用しているときは、エンジンスイッチのキーを **O** の位置にまわして、抜きます (▶ 131 ページ)。

- ▶ リアデフォグガー、ライトなどすべての電気装備を停止します。
- ▶ ボンネットを開きます。



例：アースポイントカバー

- ▶ クリップ ① を 1/4 回転まわして、取り外します。
- ▶ カバー を取り外します。



位置番号 ⑧ は、救援車両のバッテリーまたはジャンプスタート装置を示します。

- ❶ **左ハンドル車両**： プラス端子とアースポイントは車両の反対側にあります。
  - ▶ プラス端子 ③ のカバー ⑦ を矢印の方向に動かして開きます。
  - ▶ ブースターケーブルを使用して、自車のプラス端子 ③ を救援車両のバッテリー ⑧ のプラス端子 ④ に接続します。常にまず自車のプラス端子 ③ から始めます。
  - ▶ 救援用車両のエンジンを始動し、アイドリング回転数で作動させます。
  - ▶ ブースターケーブルを使用して、救援車両のバッテリー ⑧ のマイナス端子 ⑤ を自車のアースポイント ⑥ に接続します。その際は、救援車両のバッテリー ⑧ から最初に接続します。
  - ▶ エンジンを始動します。

- ▶ ブースターケーブルを外す前に、エンジンを数分間作動させます。
  - ▶ 最初にブースターケーブルをアースポイント ⑥ とマイナス端子 ⑤ から、次にプラスクランプ ③ とプラス端子 ④ から取り外します。いずれの際も、最初に自車の端子から開始してください。
  - ▶ ブースターケーブルを取り外した後に、プラス端子 ③ のカバー ⑦ を閉じます。
  - ▶ アースポイントカバーを取り付けます。クリップのすべてのマウントが、カバーのそれぞれの凹部の下に正確に位置していることを確認してください。
  - ▶ 固定されるまで、クリップ ① をマウントに押し込みます。
  - ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。
- ❗ ジャンプスタートは、正常な操作状態とはみなされていません。
- ❗ ジャンプスタートのケーブル、およびジャンプスタートについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

## けん引とけん引始動

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

安全性に関連する機能は以下の場合に制限されるか、または使用できなくなります。

- エンジンが作動しないとき
- ブレーキシステムまたはパワーステアリングに不具合がある
- 電圧供給または車両の電気システムに不具合がある

車両をけん引する場合は、ステアリング操作、またはブレーキ操作により大きな力が必要になることがあります。事故の危険性があります。

そのような場合は、けん引バーを使用してください。けん引する前に、ステアリングが自由に動くことを確認してください。

#### ⚠ 警告

ステアリングロックがかかっている場合は、ステアリングが操作できなくなります。事故の危険性があります。

けん引ケーブルまたはけん引バーで車両をけん引するときは、常にイグニッションをオンにしてください。

#### ⚠ 警告

他の車両をけん引する、またはけん引始動するとき、その重量がお客様の車両の許容総重量よりも大きい場合：

- けん引フックがちぎれる可能性があります
- トレーラー連結車両が蛇行し、横転するおそれがあります

事故の危険性があります。

他の車両をけん引する、またはけん引始動するときは、その重量はお客様の車両の許容総重量よりも大きくてはいけません。

❗ コリジョンプリベンションアシストプラス、ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではこれらのシステムが解除してください。：

- けん引時
- 洗車時

❗ パーキングブレーキが解除されていることを確認してください。パーキングブレーキが故障している場合は、メルセデス

ス・ベント指定サービス工場をおたずねください。

❗ けん引ロープやけん引バーは、けん引フックにのみ固定してください。車体が損傷するおそれがあります。

❗ けん引ロープを使用してけん引を行なう場合は、必ず以下の点に注意してください。

- ロープは、両車とも同じ側につないでください。
- けん引ロープの長さは5m以内である必要があります。その中間に白い布(30x30cm)を付けて、けん引中であることが周囲から明確にわかるようにしてください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- 走行中は、けん引する車のブレーキランプに注意してください。常に車間距離を維持しつつ、ロープをたるませないように走行してください。
- ワイヤロープや金属製のチェーンは使用しないでください。車体に傷が付くおそれがあります。

❗ スタックから脱出するためにけん引フックを使用しないでください。車体を損傷するおそれがあります。できれば、クレーンを使用して車両を脱出させてください。

❗ けん引する時は、ゆっくりとスムーズにけん引します。けん引力が大きすぎると、車両が損傷するおそれがあります。

❗ けん引するときは、オートマチックトランスミッションを**N**にシフトし、運転席または助手席のドアを開かないでください。さもないと、オートマチックトランスミッションが**P**にシフトして、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

❗ 車両は最長で約50kmまでけん引できません。けん引する際の速度は、約30km/hを超えないようにしてください。

距離が約50kmを超える場合は、必ず車両全体をリフトアップして、車両運搬車を利用してください。

けん引を行なうときは、各国の法規制に従ってください。

できるだけけん引は避け、車両を運搬してください。

車両のトランスミッションが損傷した場合は、車両運搬車またはトレーラーで運搬してください。

車両をけん引するときは、オートマチックトランスミッションがポジション**N**になければなりません。

オートマチックトランスミッションをポジション**N**にシフトできない場合は、車両運搬車またはトレーラーで車両を運搬してください。

バッテリーが接続されていて、充電されていないければなりません。さもないと、以下ようになります。

- エンジンスイッチのキーを**2**の位置にまわすことができない
- 電気式パーキングブレーキを解除できない
- オートマチックトランスミッションをポジション**N**にシフトできない

❗ 車速感応ドアロック(▷ 97 ページ)を解除してください。さもないと、車両を押したり、けん引するときに、閉め出されるおそれがあります。

❗ 車両をけん引する前に、けん引防止機能を解除してください(▷ 88 ページ)。

## けん引フックの取り付け/取り外し

## けん引フックの取り付け



けん引フック締め付け用のブラケットは、バンパー内にあります。それらは、フロントおよびリアのカバー①の下にあります。

- ▶ 車載工具キット/収納トレイからけん引フックを取り出します(▶ 245 ページ)。
- ▶ カバー①のマークを矢印の方向に内側に押しします。
- ▶ カバー①を開口部から取り外します。
- ▶ 停止するまで時計回りにけん引フックをまわし、締め付けます。

## けん引フックの取り外し

- ▶ けん引フックを緩めて取り外します。
- ▶ カバー①をバンパーに取り付け、固定するまで押しします。
- ▶ けん引フックを車載工具キット/収納トレイに収納します。

## 両アクスルを接地させての車両のけん引

車両をけん引するときは、安全に関する以下の指示に従うことが重要です。(▶ 258 ページ)

運転席または助手席ドアを開いたとき、またはエンジンスイッチからキーを取り外したときは、オートマチックトランスミッションは自動的にポジション **P** にシフトします。

車両をけん引するときに、オートマチックトランスミッションをポジション **N** のままにするためには、以下の点に従わなければなりません。

- ▶ キーレスゴースイッチの代わりにキーを使用しなければなりません(▶ 131 ページ)。
- ▶ 停車していること、そしてエンジンスイッチのキーが **0** の位置にあることを確認します。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。
- ▶ ブレーキペダルを踏んだまま保持します。
- ▶ オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトします。
- ▶ ブレーキペダルを放します。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを解除します。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置のままにします。
- ▶ 非常点滅灯を点灯させます(▶ 118 ページ)。

**①** 非常点滅灯を点滅させてけん引してもらうときは、進路変更を行なうために、通常通りコンビネーションスイッチを操作してください。このときは、希望の方向の方向指示灯のみが点滅します。コンビネーションスイッチを元に戻すと、非常点滅灯が再度点滅し始めます。

**リアアクスルを上げての車両のけん引**

4MATIC 非装備車両のみ、リアアクスルを上げてけん引することができます。

**!** リアをつり上げてけん引を行なうときは、必ずイグニッションをオフにしてください。ESP®の介入によりブレーキが損傷するおそれがあります。

**!** 4MATIC 装備車は、フロントまたはリアアクスルを持ち上げてけん引しないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。

4MATIC 装備車両は、両アクスルを地面に接地させてけん引するか、積載して運搬してください。

- ▶ 非常点滅灯を点滅させます (▶ 118 ページ)。
- ▶ 前輪を直進位置にします。
- ▶ 必要な場合は、エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして、エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ 車両を離れるときは、キーを携帯してください。

リアアクスルを上げて車両をけん引するときは、安全指示に従うことが重要です (▶ 258 ページ)。

**車両の運搬**

**!** 車両を固定するときは、アクスルやステアリング構成部品などにかかわらず、ホイールにのみかけてください。車体を損傷するおそれがあります。

運搬のため車両をトレーラーまたはトランスポーターに引き上げるためにけん引フックを使用することができます。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。
- ▶ オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトします。

車両を積載したら、ただちに以下のことを行なってください。

- ▶ 車両が動き出すのを防止するため、電気式パーキングブレーキを作動させます。
- ▶ オートマチックトランスミッションをポジション **P** にシフトします。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして、抜きます。
- ▶ 車両を固定します。

**4MATIC 車両に関する注意事項**

**!** 4MATIC 装備車は、フロントまたはリアアクスルを持ち上げてけん引しないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。

4MATIC 装備車両は、両アクスルを地面に接地してけん引する、または積載して運搬するかのいずれかにします。

車両のトランスミッションが損傷したり、フロントまたはリアアクスルが損傷した場合は、運搬車両またはトレーラーで運搬してください。

**電気システムに損傷がある場合：** バッテリーが故障している場合は、オートマチックトランスミッションはポジション **P** でロックされます。オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトするためには、ジャンプスタート時と同じ方法で車両の電気装備に電力を供給しなければなりません (▶ 255 ページ)。運搬車両またはトレーラーで車両を運搬してください。

**けん引始動 (エンジンエマージェンシースタート)**

**!** オートマチック車はけん引始動しないでください。オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

**i** "ジャンプスタート"に関する情報  
(▷ 255 ページ)

## ヒューズ

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

切れたヒューズを使用したり、ブリッジしたり、またはより高いアンペア数のヒューズと交換すると、ケーブルに過負荷がかかります。火災の原因になります。事故やけがの危険性があります。

切れたヒューズは、必ず正しいアンペア数の指定された新品のヒューズと交換してください。

切れたヒューズは、色とヒューズ定格で確認した上で、同じ定格のヒューズと交換しなければなりません。ヒューズの定格は、ヒューズ配置表に記載されています。

ヒューズ配置表はトランク内のヒューズボックスにあります (▷ 264 ページ)。

新しく差し込んだヒューズが切れる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場の原因究明および修理を行なってください。

**!** ヒューズは必ずメルセデス・ベンツ車両に適合し、該当する電気装備と同じ規定容量を満たすものを使用してください。適切でないヒューズを使用すると、構成部品や電気装備を損傷するおそれがあります。

車両のヒューズは異常のある回路への接続を切断します。ヒューズが切れた場合は、回路上のすべての構成部品とそれらの機能が作動しなくなります。

### ヒューズを交換する前に

- ▶ 車両が動き出さないように固定します (▷ 142 ページ)。
- ▶ すべての電気装備を停止します。
- ▶ イグニッションがオフになっていることを確認します (▷ 132 ページ)。

または

- ▶ キーを使用しているときは、エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして、抜きます (▷ 131 ページ)。

メーターパネル内のすべての表示灯が消灯しなければなりません。

ヒューズは、以下のヒューズボックス内にあります。

- ダッシュボードの運転席側のヒューズボックス
- 助手席足元のヒューズボックス
- 進行方向に見たときの車両のエンジンルーム内右側のヒューズボックス
- 進行方向に見たときの車両のトランク内右側のヒューズボックス

### ダッシュボードのヒューズボックス

**!** ドライバーなどの鋭利な物を使用して、ダッシュボードのカバーを開かないでください。ダッシュボードやカバーを損傷するおそれがあります。

**!** カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

**!** カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にハマっていることを確認してください。ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。



例：右ハンドル車両

- ▶ 運転席ドアを開きます。
- ▶ **開く**：カバー ① を矢印の方向に外側に引き、取り外します。
- ▶ **閉じる**：カバー ① をダッシュボードの前面に差し込みます。
- ▶ 固定されるまで、カバー ① を内側に閉じます。

### 助手席足元のヒューズボックス

**!** カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

**!** カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にハマっていることを確認してください。ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。



例：右ハンドル車両

- ▶ 助手席ドアを開いてください。
- ▶ カバー ① を下に倒し、取り外します。

### エンジンルーム内のヒューズボックス

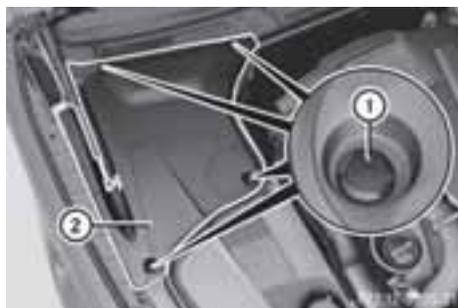
#### ⚠ 警告

ボンネットを開いているとき、ワイパーを作動位置のままにしていると、ワイパーリンクージでけがをするおそれがあります。けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、必ずワイパーおよびエンジンスイッチをオフにしてください。

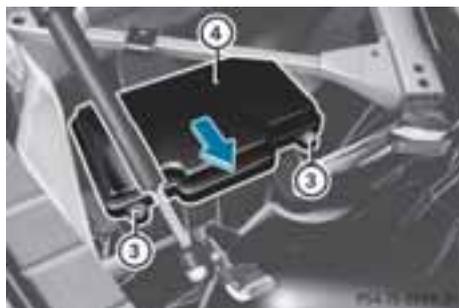
**!** カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

**!** カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にハマっていることを確認してください。ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。



例：右ハンドル車両

- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ **開く**：固定クランプ ① を外し、カバー ② を取り外します。



例：右ハンドル車両

- ▶ 乾いた布を使用して、ヒューズボックスに付着している水分を取り除きます。
- ▶ ヒューズボックスのネジ ③ を外します。
- ▶ ヒューズボックスカバー ④ を前方に取り外します。
- ▶ 閉じる：シール部がカバー ④ に正しく位置していることを確認します。
- ▶ カバー ④ をヒューズボックスの後部で固定部に差し込みます。
- ▶ ヒューズボックスのカバー ④ を下に倒し、ネジ ③ を締めます。
- ▶ カバー ② を挿入し、固定クランプ ① で固定します。
- ▶ ボンネットを閉じてください。

- ▶ トランクリッドを開きます。
- ▶ 開く：平たい物を使用して、カバー ① 上部の左右を取り外します。
- ▶ カバー ① を矢印の方向に下方に開きます。

**i** ヒューズ配置表はヒューズボックス側面の凹部にあります。対応するヒューズの規格およびヒューズの種類はヒューズ配置表にあります。

### トランク内のヒューズボックス

**!** カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

**!** カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にハマっていることを確認してください。ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。

役に立つ情報 .....	266
重要な安全上の注意事項 .....	266
操作 .....	267
寒冷時の取り扱い .....	269
タイヤ空気圧 .....	269
車輪の交換 .....	272
ホイールとタイヤの組み合わせ ...	278

## 役に立つ情報

**i** この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

**i** メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて情報をご覧ください。(▷ 27 ページ)

## 重要な安全上の注意事項

## ⚠ 警告

誤ったサイズのホイールやタイヤを使用すると、車輪ブレーキまたはサスペンションの部品を損傷することがあります。事故の危険性があります。

純正部品の仕様に適合するホイールやタイヤと必ず交換してください。

ホイールを交換する場合、正しく取り付けるために以下を確認してください：

- 型式
- タイプ

タイヤを交換する場合、正しく取り付けるために以下を確認してください：

- 型式
- メーカー
- タイプ

## ⚠ 警告

パンクは車両の走行、ステアリング、ブレーキ特性を著しく損なうことがあります。事故の危険性があります。

ランフラット特性のないタイヤ：

- パンクしたタイヤで走行しないでください。
- ただちにパンクしたタイヤを応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤと交換

するか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご相談ください。

ランフラット特性を持つタイヤ：

- MOExtended タイヤ(ランフラット特性を持つタイヤ)に関する情報と警告注意に注意してください。

メルセデス・ベンツにより承認されていない、または正しく使用されていないアクセサリーは、操作安全性を損なうおそれがあります。

承認されていないアクセサリーを購入し、ご使用になる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて以下についてご確認ください。

- 適合性
- 合法性
- 推奨品

お客様の車両のホイールおよびタイヤのサイズおよび種類に関する情報は、「ホイール/タイヤの組み合わせ」にあります(▷ 278 ページ)。

車両のタイヤ空気圧に関する情報は、以下にあります：

- 燃料給油口フラップにあるタイヤ空気圧ラベル(▷ 141 ページ)
- "タイヤ空気圧"(▷ 269 ページ)

ブレーキシステムおよびホイールの改造は許可されていません。ホイールスペーサーまたはブレーキダストシールドの使用は許可されていません。これらは車両の一般使用許可を無効にします。

**i** タイヤとホイールについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて入手できます。

## 操作

## 走行に関する情報

車両に重い荷物を積んでいるときは、タイヤ空気圧を点検し、必要な場合は調整してください。

走行中は、振動、騒音、および片方に引かれるなどの普段とは異なるハンドリング特性に注意してください。これは、タイヤやホイールが損傷していることを示していることがあります。タイヤ不具合が疑われる場合は、ただちに速度を落としてください。すみやかに安全な場所に停車して、タイヤとホイールの損傷を点検してください。目に見えないタイヤの損傷も、普段とは異なるハンドリング特性の原因になるおそれがあります。損傷が何も認められない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でホイールとタイヤの点検を受けてください。

車両を駐車するときは、タイヤが縁石や障害物により変形していないことを確認してください。また、縁石や路面の段差などを乗り越える必要がある場合は、速度を落とし、縁石や段差に対してタイヤをできるだけ直角にして乗り越えてください。さもないと、タイヤ、特にサイドウォールが損傷するおそれがあります。

## ホイールとタイヤの定期点検

## ⚠ 警告

タイヤが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。その結果として、車両のコントロールを失うおそれがあります。事故発生の危険性があります。

タイヤに損傷がないか定期的に点検を行ない、損傷したタイヤはただちに新品と交換してください。

ホイールとタイヤの定期点検は、少なくとも月に1度、またオフロードや凹凸路の走行後にも行ない、タイヤに損傷がないか確認してください。損傷したホイールは、タイヤ空気圧低下の原因になるおそれがあります。特に、以下のような損傷にご注意ください。

- タイヤの傷
- 刺し傷などの穴
- タイヤの裂け目
- タイヤの突起
- ホイールの変形や腐食

タイヤ残り溝の深さやタイヤの幅全体にわたるトレッドの状態を定期的に点検してください (▷ 267 ページ)。必要に応じて、タイヤ表面の内側を点検するために、前輪をフルロックまでまわしてください。

ほこりや水分の侵入を防ぎバルブを保護するため、すべてのホイールにバルブキャップを必ず装着してください。純正品または承認された製品以外のバルブキャップをバルブに装着しないでください。純正品以外のバルブキャップまたはタイヤ空気圧モニタリングシステムなどのシステムを装着しないでください。

長距離走行の前は特に、定期的にすべてのタイヤの空気圧を点検してください。必要な場合は、タイヤ空気圧を調整してください (▷ 269 ページ)。

タイヤの耐用年数は、以下を含むさまざまな要因に左右されます。

- 運転スタイル
- タイヤ空気圧
- 総走行距離

## トレッド面の注意事項

## ⚠ 警告

タイヤのトレッドが不十分であると、タイヤのグリップが低下します。このよう

なタイヤは水を排出することができなくなり、濡れた路面で、特に走行状況に適していない速度で走行すると、ハイドロプレーニング現象が生じる危険性が高くなります。事故発生の危険性があります。タイヤ空気圧が高すぎたり低すぎたりすると、トレッド面の位置によって偏摩耗が生じることがあります。タイヤの定期点検を行なう時は、タイヤの溝の深さだけでなく、タイヤの内側の摩耗状態も点検してください。

タイヤの溝の深さの最小値：

- サマータイヤ：3mm
- ウィンタータイヤ：4mm

安全保持のために、タイヤの溝の深さが法律で定められた最小値に達する前に、該当するタイヤを新品と交換してください。

## タイヤの選択、装着および交換

### ⚠ 警告

記載されているタイヤ耐荷重性能および承認されている最高速度を超過すると、タイヤが損傷したり、タイヤが破裂したりするおそれがあります。事故の危険性があります。

このため、車両モデルに使用が承認されているタイヤのタイプとサイズのみを使用してください。車両に必要なタイヤ荷重指数と速度記号を確認してください。

タイヤの認証に関する国の要件に注意してください。これらの要件には特定のタイヤのタイプを車両に使用するよう定められていることがあります。さらに、特定の地域およびエリア内の運転のために特定のタイヤ種類の使用は、非常に有益になることがあります。タイヤに関するさらなる情報は、専門のタイヤ業者またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にあります。

- 同じ種類で同じ銘柄のタイヤおよびホイールのみを装着してください。

例外：パンクした場合は、異なる種類や銘柄の装着が認められています。"MOExtended タイヤ (ランフラット特性を持つタイヤ)" の項目に注意してください (▶ 246 ページ)。

- 適正なサイズのタイヤをホイールに装着してください。
- 新しいタイヤでは、最初の 100 km は控えめな速度で走行してください。この距離の後でのみ、最高の性能に達します。
- トレッドの深さがほとんどないタイヤで走行しないでください。さもないと、濡れた路面ではタイヤのグリップが著しく低下します (ハイドロプレーニング現象)。
- 摩耗の程度にかかわらず、6 年以上経過したタイヤは交換してください。

## MOExtended タイヤ (ランフラット特性を持つタイヤ)

MOExtended タイヤ (ランフラット特性を持つタイヤ) により、1 本または複数のタイヤの空気圧がすべて損失しても、車両の走行を続けることができます。

MOExtended タイヤは、作動しているタイヤ空気圧警告システム、およびメルセデス・ベンツにより特別にテストされたホイールとの組み合わせでのみ使用することができます。

パンクした MOExtended タイヤで走行する時の注意事項 (▶ 246 ページ)

**i** MOExtended タイヤ装備車両は、出荷時にタイヤフィットキットを装備していません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットキットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットキットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で購入できます。

## 寒冷時の取り扱い

### 全体的な注意事項

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

### サマータイヤでの走行

約+7℃以下の温度では、サマータイヤは弾力性を失い、接地性と制動力が低下します。車両のタイヤを M+S タイヤに交換してください。非常に低い温度でのサマータイヤの使用は、亀裂が発生し、復元不可能なタイヤの損傷の原因になるおそれがあります。このようなタイヤの損傷は、保証の対象外になります。

#### ⚠ 警告

タイヤが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。その結果として、車両のコントロールを失うおそれがあります。事故発生の危険性があります。タイヤに損傷がないか定期的に点検を行ない、損傷したタイヤはただちに新品と交換してください。

### M+S タイヤ

#### ⚠ 警告

ウィンタータイヤの溝の深さが約 4 mm 以下になったときは、冬季用のタイヤとして不適切になり、十分な接地性を確保できなくなります。事故につながるおそれがあります。

ウィンタータイヤの溝の深さが約 4 mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。

さらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

## スノーチェーン

#### ⚠ 警告

スノーチェーンが前輪に装着されている場合は、車体またはシャーシの部品に引き込まれることがあります。これにより、車両またはタイヤが損傷するおそれがあります。事故の危険性があります。

危険な状態を避けるために

- スノーチェーンを前輪に装着しないでください
- スノーチェーンは必ずペアで後輪に装着してください。

さらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

## タイヤ空気圧

### タイヤ空気圧基準値

#### ⚠ 警告

タイヤ空気圧が不足または過剰な場合、以下の危険があります。

- 荷重が大きく車両速度が高い場合は特に、タイヤが破裂するおそれがある。
- タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、それによってタイヤの駆動力が損なわれるおそれがある。
- ステアリング操作やブレーキ操作などの車両操縦性が大幅に損なわれるおそれがある。

事故の危険性があります。

指定のタイヤ空気圧を遵守し、以下のときにはスペアタイヤを含むすべてのタイヤの空気圧を点検してください。

- 走行を開始する前の毎日
- 荷重が変化したとき
- 長距離走行を開始する前
- オフロード走行のように使用状況が変わったとき

必要であれば、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

### ⚠ 警告

適切でないアクセサリをバルブに取り付けると、バルブに過負荷がかかって誤作動し、タイヤ空気圧が不足する原因となります。設計上、タイヤ空気圧モニターシステムを後装着すると、バルブが開いたままになり、タイヤ空気圧が不足するおそれもあります。事故発生の危険性があります。

標準仕様のバルブキャップまたはメルセデス・ベンツ純正の車両専用バルブキャップのみをバルブに取り付けてください。

### ⚠ 警告

タイヤ空気圧が何度も低下する場合は、ホイール、バルブまたはタイヤが損傷している可能性があります。タイヤ空気圧が不十分であると、タイヤが破裂するおそれがあります。事故発生の危険性があります。

- タイヤに異物がないか点検します。
- ホイールやバルブからの空気漏れがないか点検します。

損傷を修理できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

### Ⓢ 環境保護に関する注意

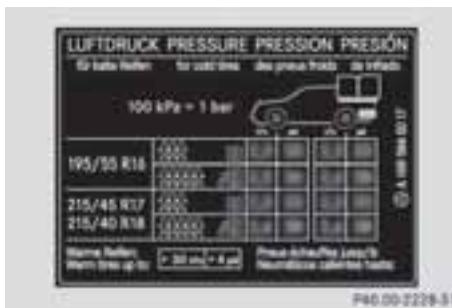
少なくとも 2 週間に 1 度、タイヤ空気圧の点検を行なってください。

車両の燃料給油口フラップ内側には、さまざまな使用状況でのタイヤ空気圧の表があります。

燃料給油口フラップ内側の表には、さまざまな積載状態でのタイヤ空気圧が記載されていることがあります。この表には、さまざまな乗員数および積載量のものが指定されています。実際の座席数と異なることがあります。さらなる情報は、車両の登録書類を確認してください。

タイヤサイズの指定がない場合、タイヤ空気圧情報ラベルに記載されているタイ

ヤ空気圧は、この車両用に承認されているすべてのタイヤに適用されます。



タイヤのサイズに応じて空気圧を調整する場合は、以下の空気圧に関する情報は、そのタイヤサイズのみ有効となります。タイヤ空気圧を点検するには、適切な空気圧ゲージを使用してください。タイヤの外観によりタイヤ空気圧についての信頼性のある判断はできません。

可能であれば、タイヤが冷えているときにのみ、タイヤ空気圧を修正してください。

以下では、タイヤが冷えています：

- タイヤに直射日光が当たらない状態で、最低 3 時間車両を駐車した場合、および
- 車両が 1.6 km 以上走行しなかった場合

外気温度、走行速度およびタイヤの荷重によって、タイヤの温度およびタイヤ空気圧は 10 °C ごとに約 10 kPa (0.1 bar/1.5 psi) ずつ変化します。温まっているタイヤの空気圧を点検するときは、このことを考慮に入れてください。使用条件に対してタイヤ空気圧があまりにも低すぎる場合にのみタイヤ空気圧を調整してください。

著しく高い、または著しく低いタイヤ空気圧で走行すると、以下になります：

- タイヤ寿命が短くなります
- タイヤの損傷が増える原因になります
- ハンドリング特性および走行安全性へ悪影響を与えます（ハイドロプレーニング現象など）。

**i** 低負荷用のタイヤ空気圧値は、快適な乗り心地を得ることができる最低値です。

ただし、高負荷用の数値を使用することもできます。これらは許容値であり、車両の走行に悪影響を与えることはありません。

タイヤ空気圧情報ラベルに記されている値に関らず、**"210 km/h までの部分積載時"** の状況での車両では、安全性を損なうことなく以下のように値を下げる事ができます。

- -20 kPa (-0.2 bar/-3 psi) 全モデル用

## タイヤ空気圧警告システム

### 全体的な注意事項

タイヤ空気圧警告システムは、車両が動いている間に、車輪の回転速度を使用して設定されているタイヤ空気圧をモニターします。これにより、システムはタイヤ空気圧の著しい低下を検知することができます。タイヤ空気圧の低下にともない車輪の回転速度が変化した場合は、マルチファンクションディスプレイに対応する警告メッセージが表示されます。マルチファンクションディスプレイの **メナス** メニューに表示される **タイヤ空気圧警告システム オン OK ボタン** で再始動でタイヤ空気圧警告を認識することができます。メッセージの表示に関する情報は、**"タイヤ空気圧警告システムの再起動"** の項目にあります (p. 271 ページ)。

### 重要な安全上の注意事項

タイヤ空気圧警告システムは、適切でないタイヤ空気圧の設定には警告は行ないません。推奨タイヤ空気圧に関する注意事項に従ってください (p. 269 ページ)。タイヤ空気圧警告は、定期的なタイヤ空気圧点検の必要性に代わるものではありません。同時に複数のタイヤで均等に空気圧が低下した場合、タイヤ空気圧警告システムでは検知されません。

タイヤ空気圧モニタリングシステムは、タイヤに異物が刺さった場合などの急激な空気圧の低下には、警告を行なうことができません。空気圧が突然低下した場合は、ブレーキを慎重に効かせて車両を停止させます。急激なステアリング操作は避けてください。

以下では、タイヤ空気圧警告システムの機能が制限されたり、遅れることがあります：

- 車両のタイヤにスノーチェーンを装着している
- 冬季の道路状況
- 砂地や砂利道を走行している
- 非常にスポーティな運転スタイル（高速コーナリング、急加速など）で走行している
- 重い荷物を積載して走行している（車内、またはルーフ上に）

### タイヤ空気圧警告システムの再起動

以下の場合には、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

- タイヤ空気圧を変更した
  - ホイールまたはタイヤを変更した
  - 新しいホイールまたはタイヤを装着した
- ▶ 再起動の前に、4本すべてのタイヤで、タイヤ空気圧が使用状況に応じて適正に設定されていることを確認してください。

さい。推奨タイヤ空気圧は燃料給油口フラップのラベルに記載されています。タイヤ空気圧警告システムは、適切なタイヤ空気圧に設定してある場合にのみ、信頼性のある警告を行なうことができます。適切でないタイヤ空気圧に設定されている場合は、これらの適切でない数値がモニターされます。

- ▶ タイヤ空気圧の項目にある注意事項に従ってください (▶ 269 ページ)。
- ▶ エンジンスイッチのキーが **2** の位置にあることを確認します (▶ 131 ページ)。
- ▶ ステアリングの  を使用して、メニューリストを呼び出します。
- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**メンテナンス** メニューを選択します。
- ▶  スイッチを押します。
- ▶  または  スイッチを押して、**タイヤ空気圧** を選択します。
- ▶  スイッチを押します。  
マルチファンクションディスプレイに **タイヤ空気圧 警告システム オン OK ボタンで再始動** というメッセージが表示されます。

#### 再起動を確定したい場合：

- ▶  スイッチを押します。  
マルチファンクションディスプレイに **タイヤ空気圧 正常ですか?** というメッセージが表示されます。
- ▶  または  スイッチを押して、**はい** を選択します。
- ▶  スイッチを押します。  
マルチファンクションディスプレイに **タイヤ空気圧 警告システム 再始動しました** というメッセージが表示されます。  
読み込み期間後に、4 輪すべてのタイヤに設定されたタイヤ空気圧のモニターを行ないます。

#### 再起動をキャンセルしたい場合：

- ▶  スイッチを押します。  
または
- ▶ **タイヤ空気圧 正常ですか?** というメッセージが表示される場合は、 または  スイッチを使用して、**キャンセル** を選択します。
- ▶  スイッチを押します。  
前回の再起動時に保存されたタイヤ空気圧値が引き続きモニターされます。

## 車輪の交換

### パンク

タイヤがパンクしたときの対処方法に関する情報は、“万一のとき”(▶ 246 ページ)に記載されています。タイヤがパンクしたときに MOExtended タイヤで走行する際の情報は、“万一のとき”のセクションをご覧ください (▶ 246 ページ)。

### 車輪の入れ替え

#### 警告

ホイールまたはタイヤのサイズが異なる場合に、フロントとリアの車輪を入れ替えると、走行特性が著しく損なわれることがあります。車輪のブレーキまたはサスペンションの部品も損傷することがあります。事故の危険性があります。  
ホイールとタイヤが同じサイズの場合にのみ、フロントとリアの車輪を入れ替えてください。

異なるサイズのフロントとリアの車輪を入れ替えると、一般使用許可が無効になることがあります。

“車輪の取り付け”(▶ 273 ページ)の項目にある説明および安全上の注意事項に従ってください。

タイヤは、走行状況によって前輪と後輪で摩耗具合に差が生じ、偏摩耗を起こし

ます。タイヤに明らかな摩耗具合が形成される前に、車輪を入れ替えてください。一般的に、フロントタイヤではショルダー部が、リアタイヤではセンター部がより摩耗します。

前後同じサイズの車輪を持つ車両では、タイヤの摩耗具合に応じて 5,000 ~ 10,000 km ごとに車輪を入れ替えることができます。回転方向が維持されていることを確認します。

車輪を入れ替えるときは常に、ホイールの接触面とブレーキディスクを十分に清掃してください。タイヤ空気圧を点検し、必要な場合はタイヤ空気圧警告システム (▷ 271 ページ) を再起動してください。

### 回転方向

タイヤの回転方向が指定されているタイヤは、例えばハイドロプレーニング現象のおそれがある状況などで補助的な効果を発揮します。このような利点は回転方向に応じてタイヤが装着されている場合に得ることができます。

タイヤのサイドウォールにある矢印は、正しい回転方向を示しています。

### 車輪の保管

使用していないタイヤは、涼しくて乾燥している、なるべく暗い場所に保管してください。タイヤにオイルやグリース、ガソリン、軽油などが付着しないように保護してください。

### 車輪の取り付け

#### 車両の準備

- ▶ かたく、滑らない水平な地面に車両を停車します。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを手動で効かせてください。

- ▶ 前輪を直進位置にします。
  - ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。
  - ▶ AIR マティックで、"標準" レベルが選択されていることを確認します (▷ 161 ページ)。
  - ▶ エンジンを停止します。
  - ▶ 運転席ドアを開きます。  
車両の電気システムが、**O** の状態になります。これにより、キーを抜いたときと同様になります。
  - ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを外します (▷ 132 ページ)。
- または、キーがエンジンスイッチに差し込まれている場合：
- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
  - ▶ 車両装備に含まれている場合は、車両からタイヤ交換工具キットを取り出します。
  - ▶ 動き出さないように車両を固定します。

**i** 国ごとの仕様の違いによって、車両にはタイヤ交換工具は装備されていません。車輪交換用工具の中には、その車両専用のもも含まれています。車両の車輪交換を行なうために必要な工具についてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

必要な車輪交換工具としては、例えば以下が含まれることがあります。

- ジャッキ
- 輪止め
- ホイールレンチ
- ガイドボルト

## 動き出さないように車両を固定する



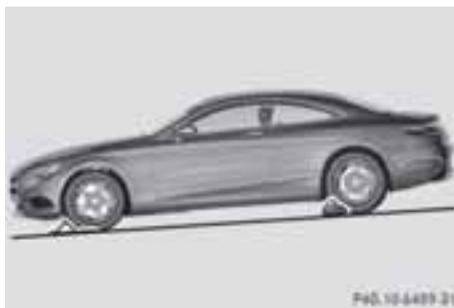
車両に輪止めが装備されている場合は、タイヤ交換工具キットの中にあります (▶ 245 ページ)。

折りたたみ式の輪止めは、タイヤ交換時などに車が動き出すのを防止するための補助的な固定手段です。

- ▶ 両側のプレートを上方に起こします ①。
- ▶ 下側のプレートを引き出します ②。
- ▶ 下側のプレートの凸部をベースプレートの開口部に差し込みます ③。



- ▶ **水平な場所で**： 交換したい車輪の対角線上にある車輪の前後に、輪止めまたは適切な他の物を置きます。



- ▶ **軽い下り坂勾配で**： フロントおよびリアアクスルの車輪の前に、輪止めまたは適切な他の物を置きます。

## 車両を上げる

## ⚠ 警告

車両の適切なジャッキポイントに正しくジャッキを設置しないと、車両をジャッキアップした時にジャッキが倒れるおそれがあります。負傷するおそれがあります。

必ず車両の適切なジャッキポイントにジャッキを設置してください。ジャッキの底面は車両のジャッキポイントの真下に来るように設置してください。

車両を上げるときは以下に従ってください。

- 車両を上げるときは、メルセデス・ベンツによりテストされ、承認された車両専用のジャッキのみを使用してください。ジャッキが正しく使用されていない場合は、車両を上げている間に倒れるおそれがあります。
- ジャッキは、車輪交換の間に短時間車両を上げたままにするためだけに設計されています。車両下部のメンテナンス作業を行なう目的には適していません。
- 上り坂や下り坂の斜面での車輪交換は避けてください。
- 車両を上げる前に、パーキングブレーキを効かせて輪止めをして車両が動き

出さないようにしてください。車両を持ち上げている間は、パーキングブレーキを解除しないでください。

- ジャッキは、かたく平坦で滑らない地面の上に置いてください。やわらかい地面の上では、大型で平坦な耐荷重マットを使用してください。滑りやすい地面の上では、ラバーマットなどの滑り止めマットを敷いてください。
- ジャッキの下敷きとして、木製のブロックや類似のものを使用しないでください。さもないと、高さが制限されることにより、ジャッキが耐荷重性能を得られない可能性があります。
- タイヤの下面と地面との間の距離が3cmを超えていないことを確認してください。
- 上げた車両の下には、絶対に手または足を入れないでください。
- 車両の下で横にならないでください。
- 車両を上げているときは、エンジンを始動しないでください。
- 車両を上げているときは、ドアまたはトランクリッドを開閉しないでください。
- 車両を上げているときは、車内に人がいないことを確認してください。

**AMG ホイールおよびハブキャップ装備車両：**ホイールボルトはハブキャップにより覆われています。ホイールボルトを緩める前に、ハブキャップを取り外さなければなりません。異なる2種類のいずれかが装着されています。



#### AMG ホイールおよびプラスチックハブキャップ装備車両：

- ▶ **取り外す：** ハブキャップのセンターカバー①を反時計回りにまわし、取り外します。
- ▶ **取り付ける：** 取り付ける前に、ハブキャップ①が開いた位置にあることを確認してください。そのためには、センターカバーを反時計回りにまわしてください。
- ▶ ハブキャップ①を位置に合わせ、ハブキャップ①が固定される音が聞こえるまで、センターカバーを時計回りにまわします。
- ▶ ハブキャップ①が確実に取り付けられていることを確認してください。



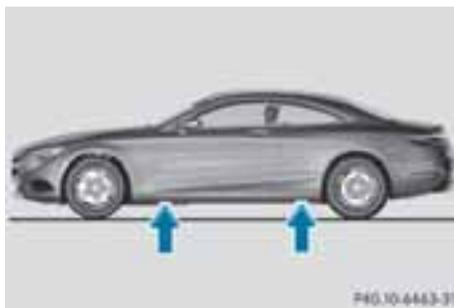
#### AMG ホイールおよびアルミニウムハブキャップ装備車両：

- ▶ **取り外す**：車載工具キットから、ソケット②およびホイールレンチ③を取り出します (▶ 245 ページ)。
- ▶ ソケット②をハブキャップ①に合わせます。
- ▶ ホイールレンチ③をソケット②に取り付け、ハブキャップ①を反時計回りに緩めます。
- ▶ ハブキャップ①を取り外します。
- ▶ **取り付ける**：取り付ける前に、ハブキャップ①およびホイール部分に汚れがないことを点検し、必要場合は清掃します。
- ▶ ハブキャップ①を取り付け位置に合わせ、正しい位置になるまでまわします。
- ▶ ソケット②をハブキャップ①に合わせます。
- ▶ ホイールレンチ③をソケット②に取り付け、ハブキャップ①を締めます。締め付けトルクは **25Nm** でなければなりません。

**i** ハブキャップが規定のトルク **25Nm** で締められることに**注意**してください。ハブキャップはメルセデス・ベンツ指定サービス工場に取り付けることを、メルセデス・ベンツは推奨します。

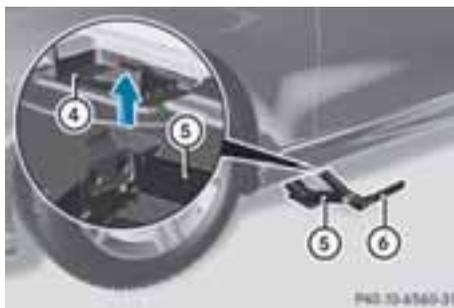


- ▶ ホイールレンチ③を使用して、交換する車輪のホイールボルトを約 1 回転緩めます。ボルトは完全に緩めないでください。

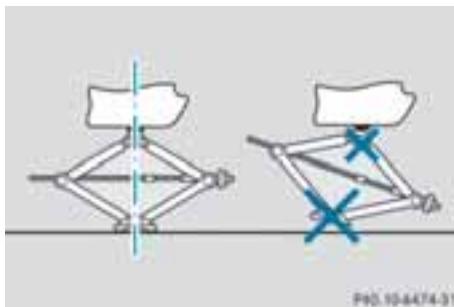


ジャッキポイントは、フロントのホイールアーチのすぐ後ろと、リアのホイールアーチのすぐ前にあります (矢印部分)。

- ▶ 車載工具からラチェットレンチを取り出して、**AUF** の文字が見えるようにジャッキの六角ナットに取り付けます。



- ▶ ジャッキ⑤をジャッキポイント④の位置に合わせます。



- ▶ ジャッキの底面がジャッキポイントの真下に位置していることを確認してください。

- ▶ ジャッキ ⑤ がジャッキポイント ④ に完全にはまり、ジャッキの底面が地面に均一に接地するまでラチェットレンチ ⑥ をまわします。
- ▶ ラチェットレンチ ⑥ をまわし、タイヤが地面から最大 3cm 離れるまでジャッキアップします。

## 車輪の取り外し

**!** 砂などの異物が付着しないように注意してください。ホイールボルトをねじ込む時に、ボルトやハブのネジ山が損傷するおそれがあります。

車輪の着脱時、および車輪が取り外されている間は、ブレーキディスクに外力がかからないようにしてください。これにより、ブレーキ時の快適性レベルが損なわれるおそれがあります。



- ▶ 最も上にあるホイールボルトを完全に外します。
- ▶ ホイールボルトの代わりに、ネジ山にガイドボルト ① を締め付けます。
- ▶ 残りのホイールボルトを完全に外します。
- ▶ 車輪を取り外します。

## 新しい車輪の取り付け

### ⚠ 警告

オイルやグリースが付着したホイールボルトまたは損傷したホイールボルト/ハブのネジ山は、ホイールボルトが緩む原因

になります。その結果として、走行中にホイールが緩むおそれがあります。事故発生の危険性があります。

ホイールボルトには、絶対にオイルやグリースを塗布しないでください。ネジ山が損傷している場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷したホイールボルトまたはハブのネジ山を切り直してください。それ以上は走行を続けしないでください。

### ⚠ 警告

車両をジャッキアップしている時にホイールボルトまたはホイールナットを締め付けると、ジャッキが倒れることがあります。負傷の危険性があります。

車両が接地している場合にのみ、ホイールボルトまたはホイールナットを締め付けてください。

"車輪の交換"にある指示や安全上の注意事項に従ってください (▶ 272 ページ)。

ホイールおよび車両用に設計されたホイールボルトのみを使用してください。安全上の理由のため、メルセデス・ベンツ車およびそれぞれのホイールのために承認されたホイールボルトのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します。



- ▶ ホイールおよびホイールハブの接合面を清掃します。
- ▶ 装着するホイールをガイドボルトにスライドさせて押し込みます。

- ▶ 指の力で締まるまで、ホイールボルトを締め付けます。
- ▶ ガイドボルトを取り外します。
- ▶ 指の力で締まるまで、最後のホイールボルトを締め付けます。

## 車両を下げる

### ⚠ 警告

ホイールナットやボルトが規定の締め付けトルクで締め付けられていないと、ホイールが緩むおそれがあります。事故発生時の危険性があります。

タイヤを交換した後で、直ちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で、締め付けトルクの点検を受けてください。



- ▶ **AB** の文字が見えるように、ジャッキの六角ナットにラチェットレンチを取り付けます。
- ▶ 車両が再度しっかりと接地するまでラチェットレンチをまわします。
- ▶ ジャッキを横に置きます。
- ▶ 示されている対角パターンの順番 (① ~ ⑤) で、ホイールボルトを均一に締めます。締め付けトルクは、**150 Nm** でなければなりません。
- ▶ ジャッキをまわして元の状態に戻します。
- ▶ ジャッキや他のタイヤ交換工具キットをトランクに再度収納します。
- ▶ 新しく取り付けたタイヤの空気圧を点検し、それに応じて調整します。

推奨タイヤ空気圧に従ってください (▷ 269 ページ)。

## ホイールとタイヤの組み合わせ

### 全体的な注意事項

❗ 安全に走行するため、タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。

それらのタイヤは、ABS や ESP® などのコントロールシステムに適応しており、以下のマークが付いています。

- MO = Mercedes-Benz Original
- MOE = Mercedes-Benz Original Extended(ランフラット特性を持つタイヤ)
- MO1 = Mercedes-Benz Original(特定の AMG タイヤ)

ランフラット特性を持つタイヤ (MOExtended)は、純正品および承認されたホイールだけに装着できます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリを使用しないでください。車両操縦性や騒音、排出ガス、燃料消費などに悪影響を与えるおそれがあります。また、乗車人数や荷物が増えた場合などには、タイヤやホイールが車体やサスペンションに接触するおそれがあり、タイヤや車両の損傷につながるおそれがあります。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリを装着した場合は、損傷が生じても保証の対象外になります。

タイヤやホイール、指定された組み合わせなどに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

❗ 再生タイヤは、元の損傷状態を確認することが難しいため、使用をお勧めできません。再生タイヤを装着した場合、安

全性の保証はできなくなります。中古タイヤは、過去の使用状況が確認できない場合は装着しないでください。

**!** 大径ホイール：特定のホイールサイズの断面幅が減少すると、悪路での乗り心地が低下します。走行快適性および安定性が低下し、さらに路面の障害物を乗り越える際にホイールやタイヤへの損傷リスクが高くなります。

下記のタイヤ一覧表にある略号

- BA：前後の車輪
- FA：前輪
- RA：後輪

さまざまな使用条件での推奨タイヤ空気圧の表は、車両の燃料給油口の内側にあります。タイヤ空気圧に関するのさらなる情報は（▶ 269 ページ）をご覧ください。タイヤ空気圧の点検は定期的に、タイヤが冷えている状態で行なってください。

タイヤとホイールは、以下の点を確認して正しく装着してください。

- 左右には必ず同サイズのタイヤを装着してください。
- サマータイヤ、ウィンタータイヤ、MOExtended タイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）など、異なる種類のタイヤを同時に装着しないでください。

例外：パンクした場合は、違う種類、違う銘柄の使用が認められています。MOExtended タイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）（▶ 246 ページ）に従ってください。

MOExtended 装備車両には、タイヤフィットを標準装備していません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットはメルセデ

ス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

**i** すべてのホイール / タイヤの組み合わせが、すべての国の工場では装着できるわけではありません。

## タイヤ

## S 550

## サマータイヤ

## R 18

タイヤ	軽合金ホイール
FA : 245/50 R18 100 W <sup>5</sup> RA : 245/50 R18 100 W <sup>5, 6</sup>	FA : 8.0 J x 18 H2 ET 41 RA : 8.5 J x 18 H2 ET 35.3
FA : 245/50 R18 100 W <sup>5</sup> RA : 275/45 R18 103 W <sup>5, 6</sup>	FA : 8.0 J x 18 H2 ET 41 RA : 9.5 J x 18 H2 ET 43.5

## R 19

タイヤ	軽合金ホイール
FA : 245/45 R19 102 Y XL <sup>5</sup> RA : 275/40 R19 101 Y <sup>5, 6</sup>	FA : 8.5 J x 19 H2 ET 36 RA : 9.5 J x 19 H2 ET 43.5
FA : 245/45 R19 102 Y XL <sup>5, 7</sup> RA : 275/40 R19 101 Y <sup>5, 6, 7</sup>	FA : 8.5 J x 19 H2 ET 38 RA : 9.5 J x 19 H2 ET 38

## R 20

タイヤ	軽合金ホイール
FA : 245/40 R20 99 Y XL <sup>5</sup> RA : 275/35 R20 102 Y XL <sup>5, 6</sup>	FA : 8.5 J x 20 H2 ET 36 RA : 9.5 J x 20 H2 ET 43.5
FA : 245/40 R20 99 Y XL <sup>5</sup> RA : 275/35 R20 102 Y XL <sup>5, 6</sup>	FA : 8.5 J x 20 H2 ET 36.5 RA : 9.5 J x 20 H2 ET 44
FA : 245/40 R20 99 Y XL <sup>5, 7</sup> RA : 275/35 R20 102 Y XL <sup>5, 6, 7</sup>	FA : 8.5 J x 20 H2 ET 38 RA : 9.5 J x 20 H2 ET 38

5 MOExtended タイヤも使用可能

6 スノーチェーンの使用は許可されていません。"スノーチェーン" の注意事項に従ってください。

7 AMG ライン装備装着車両 (コード 950) のみ。

## ウィンタータイヤ

## R 18

タイヤ	軽合金ホイール
FA : 245/50 R18 104 V XL M+S  5	BA : 8.0 J x 18 H2 ET 41
RA : 245/50 R18 104 V XL M+S  5, 6	RA : 8.5 J x 18 H2 ET 35.3

## R 19

タイヤ	軽合金ホイール
FA : 245/45 R19 102 V XL M+S  5	FA : 8.5 J x 19 H2 ET 36
RA : 245/45 R19 102 V XL M+S  5, 6	RA : 9 J x 19 H2 ET 30.5
BA : 245/45 R19 102 V XL M+S  5	BA : 8.5 J x 19 H2 ET 38

## S 550 4MATIC

## サマータイヤ

## R 18

タイヤ	軽合金ホイール
FA : 245/50 R18 100 W <sup>5</sup>	FA : 8.0 J x 18 H2 ET 41
RA : 245/50 R18 100 W <sup>5, 6</sup>	RA : 8.5 J x 18 H2 ET 35.3
FA : 245/50 R18 100 W <sup>5</sup>	FA : 8.0 J x 18 H2 ET 41
RA : 275/45 R18 103 W <sup>5, 6</sup>	RA : 9.5 J x 18 H2 ET 43.5

## R 19

タイヤ	軽合金ホイール
FA : 245/45 R19 102 Y XL <sup>5</sup>	FA : 8.5 J x 19 H2 ET 36
RA : 275/40 R19 101 Y <sup>5, 6</sup>	RA : 9.5 J x 19 H2 ET 43.5
FA : 245/45 R19 102 Y XL <sup>5, 7</sup>	FA : 8.5 J x 19 H2 ET 38
RA : 275/40 R19 101 Y <sup>5, 6, 7</sup>	RA : 9.5 J x 19 H2 ET 38

5 MOExtended タイヤも使用可能

6 スノーチェーンの使用は許可されていません。"スノーチェーン"の注意事項に従ってください。

7 AMG ライン 装備装着車両 (コード 950) のみ。

## R 20

タイヤ	軽合金ホイール
FA : 245/40 R20 99 Y XL <sup>5</sup> RA : 275/35 R20 102 Y XL <sup>5,6</sup>	FA : 8.5 J x 20 H2 ET 36 RA : 9.5 J x 20 H2 ET 43.5
FA : 245/40 R20 99 Y XL <sup>5</sup> RA : 275/35 R20 102 Y XL <sup>5,6</sup>	FA : 8.5 J x 20 H2 ET 36.5 RA : 9.5 J x 20 H2 ET 44
FA : 245/40 R20 99 Y XL <sup>5,7</sup> RA : 275/35 R20 102 Y XL <sup>5,6,7</sup>	FA : 8.5 J x 20 H2 ET 38 RA : 9.5 J x 20 H2 ET 38

## ウィンタータイヤ

## R 18

タイヤ	軽合金ホイール
FA : 245/50 R18 104 V XL M+S  <sup>5</sup> RA : 245/50 R18 104 V XL M+S  <sup>5,6</sup>	FA : 8.0 J x 18 H2 ET 41 RA : 8.5 J x 18 H2 ET 35.3

## R 19

タイヤ	軽合金ホイール
FA : 245/45 R19 102 V XL M+S  <sup>5</sup> RA : 245/45 R19 102 V XL M+S  <sup>5,6</sup>	FA : 8.5 J x 19 H2 ET 36 RA : 9 J x 19 H2 ET 30.5
BA : 245/45 R19 102 V XL M+S  <sup>5</sup>	BA : 8.5 J x 19 H2 ET 38

## S 63 AMG 4MATIC

## サマータイヤ

## R 19

タイヤ	軽合金ホイール
FA : 255/45 ZR19 (104 Y) XL <sup>8</sup> RA : 285/40 ZR19 (107 Y) XL <sup>6,8</sup>	FA : 8.5 J x 19 H2 ET 38 RA : 9.5 J x 19 H2 ET 38
FA : 255/45 ZR19 (104 Y) XL <sup>8</sup> RA : 285/40 ZR19 (107 Y) XL <sup>6,8</sup>	FA : 8.5 J x 19 H2 ET 39 RA : 9.5 J x 19 H2 ET 39

<sup>5</sup> MOExtended タイヤも使用可能

<sup>6</sup> スノーチェーンの使用は許可されていません。"スノーチェーン"の注意事項に従ってください。

<sup>7</sup> AMG ライン装備装着車両(コード950)のみ。

<sup>8</sup> セラミックブレーキシステムとの組み合わせを除く。

## R 20

タイヤ	軽合金ホイール
FA : 255/40 ZR20 (101 Y) XL <sup>9</sup> RA : 285/35 ZR20 (104 Y) XL <sup>6,9</sup>	FA : 8.5 J x 20 H2 ET 38 RA : 9.5 J x 20 H2 ET 38
FA : 255/40 ZR20 (101 Y) XL <sup>9</sup> RA : 285/35 ZR20 (104 Y) XL <sup>6,9</sup>	FA : 8.5 J x 20 H2 ET 39 RA : 9.5 J x 20 H2 ET 39

## ウィンタータイヤ

## R 19

タイヤ	軽合金ホイール
BA : 255/45 R19 104 V XL M+S  <sup>8</sup>	BA : 8.5 J x 19 H2 ET 38
BA : 255/45 R19 104 V XL M+S  <sup>8</sup>	BA : 8.5 J x 19 H2 ET 39

## R 20

タイヤ	軽合金ホイール
BA : 255/40 R20 101 V XL M+S  <sup>9</sup>	BA : 8.5 J x 20 H2 ET 38
BA : 255/40 R20 101 V XL M+S  <sup>9</sup>	BA : 8.5 J x 20 H2 ET 39
FA : 255/40 R20 101 V XL M+S  <sup>9</sup> RA : 285/35 R20 104 V XL M+S  <sup>6,9</sup>	FA : 8.5 J x 20 H2 ET 38 RA : 9.5 J x 20 H2 ET 38
FA : 255/40 R20 101 V XL M+S  <sup>9</sup> RA : 285/35 R20 104 V XL M+S  <sup>6,9</sup>	FA : 8.5 J x 20 H2 ET 39 RA : 9.5 J x 20 H2 ET 39

- 9 "ホイール/タイヤの組み合わせ" の "全体的な注意事項" にある "大型ホイール" の注意事項に従ってください。
- 6 スノーチェーンの使用は許可されていません。"スノーチェーン" の注意事項に従ってください。
- 8 セラミックブレーキシステムとの組み合わせを除く。

## S 65 AMG

## サマータイヤ

## R 20

タイヤ	軽合金ホイール
FA : 255/40 ZR20 (101 Y) XL <sup>9</sup> RA : 285/35 ZR20 (104 Y) XL <sup>6.9</sup>	FA : 8.5 J x 20 H2 ET 38 RA : 9.5 J x 20 H2 ET 38
FA : 255/40 ZR20 (101 Y) XL <sup>9</sup> RA : 285/35 ZR20 (104 Y) XL <sup>6.9</sup>	FA : 8.5 J x 20 H2 ET 39 RA : 9.5 J x 20 H2 ET 39

## ウィンタータイヤ

## R 20

タイヤ	軽合金ホイール
BA : 255/40 R20 101 V XL M+S  <sup>9</sup>	BA : 8.5 J x 20 H2 ET 38
BA : 255/40 R20 101 V XL M+S  <sup>9</sup>	BA : 8.5 J x 20 H2 ET 39
FA : 255/40 R20 101 V XL M+S  <sup>9</sup> RA : 285/35 R20 104 V XL M+S  <sup>6.9</sup>	FA : 8.5 J x 20 H2 ET 38 RA : 9.5 J x 20 H2 ET 38
FA : 255/40 R20 101 V XL M+S  <sup>9</sup> RA : 285/35 R20 104 V XL M+S  <sup>6.9</sup>	FA : 8.5 J x 20 H2 ET 39 RA : 9.5 J x 20 H2 ET 39

- 9 "ホイール/タイヤの組み合わせ" の "全体的な注意事項" にある "大型ホイール" の注意事項に従ってください。
- 6 スノーチェーンの使用は許可されていません。"スノーチェーン" の注意事項に従ってください。

役に立つ情報 .....	286
車両の電子制御部品 .....	286
ビークルプレート .....	286
サービスプロダクトと容量 .....	287
車両データ .....	292

## 役に立つ情報

**i** この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

**i** メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて情報をご覧ください。(▶ 27 ページ)

## 車両の電子制御部品

## エンジン電子制御部品の不正改造

**!** コントロールユニット、センサー、作動構成部品、コネクタケーブルなど、電子制御部品およびその関連部品に関わる点検整備や修理などの作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。車両の構成部品が通常より早く摩耗したり、保証を適用できないことがあります。

**!** 性能を高めるためのエンジン制御は、ドライブシステムの摩耗、亀裂または損傷につながります。

## 無線機 (RF 送信機) の後付け

RF 送信機の装着について疑問がある場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場へご相談ください。

## ビークルプレート

## 車台番号 (VIN) のあるビークルプレート



例：右ハンドル車両

- ▶ 運転席ドアを開きます。  
ビークルプレート ① が確認できます。



例：ビークルプレート

② 車台番号

**i** 車両のビークルプレートに示されたデータは、データの一例です。このデータは車両ごとに異なりますので、ここに示されたデータとは異なることがあります。お客様の車両に該当するデータは、車両のビークルプレートにあります。

## 車台番号 (VIN) のあるビークルプレート



- ▶ フロント右側のドアを開きます。
- ▶ カバー ① を下に倒し、取り外します。車台番号が確認できます。

車台番号はビークルプレートでも確認できます (▶ 286 ページ)。

## エンジン番号

エンジン番号はクランクケースに刻印されています。さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐに入手できます。

## サービスプロダクトと容量

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

サービスプロダクトは健康に有害で危険です。けがの危険性があります。

サービスプロダクトの使用、保管および廃棄については、それぞれ元の容器のラベルの指示を遵守してください。サービスプロダクトは必ず元の容器に密閉して保管してください。サービスプロダクトは必ず子供の手の届かないところに保管してください。

#### 🌿 環境

燃料および油脂は、環境汚染を配慮して、廃棄処分してください。

サービスプロダクトには以下のものが含まれます：

- 燃料
- 潤滑剤 (エンジンオイル、トランスミッションオイルなど)
- 冷却水
- ブレーキ液
- ウインドウウォッシャー液
- エアコンディショナーの冷媒

メルセデス・ベンツにより承認されたサービスプロダクトは、容器の以下のマークにより識別できます：

- MB-Freigabe ( MB-Freigabe 229.51 など)
- MB Approval ( MB Approval 229.51 など)

他のマークや推奨は、MB シート番号 (MB229.5 など) に準拠した品質レベルまたは仕様を示しています。これらはメルセデス・ベンツによって承認されているとは限りません。

その他の識別コード (例)：

- 0 W-30
- 5 W-30
- 5 W-40

さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐに入手できます。

## 燃料

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

燃料は可燃性の高いものです。燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジン、当てはまる場合は補助ヒーターを停止します。

**⚠ 警告**

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料は決して飲まないこと、また目や衣服に付着させないでください。燃料の気体を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹸および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医師の診察を受けてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。無理に吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

**燃料タンク容量**

モデル	全容量
全モデル	80.0 ℓ

モデル	うち予備燃料
AMG 車両	約 12.0 ℓ
全モデル	約 8.0 ℓ

**ガソリン****燃料のグレード**

**!** ガソリンエンジン車両に給油するために軽油を使用しないでください。誤って異なる燃料を給油した場合は、エンジンスイッチをオンにしないでください。さもないと、燃料が燃料システムに入るおそれがあります。たとえ少量の誤った燃料でも、燃料システムやエンジンの損傷につながるおそれがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、

燃料タンクや燃料システムから完全に抜き取ってください。

**!** 最低 95 RON の無鉛ガソリンのみを使用して給油してください。

そうしないと、エンジンの出力が低下したり、エンジンが損傷する原因になります。

**!** 必ず指定の燃料を使用してください。その他の燃料で車両を操作すると、エンジンの不具合の原因になります。

**!** 以下の燃料を使用しないでください。

- E 85 (エタノール配合率 85%のガソリン)
- E 100 (エタノール 100%)
- M 15 (メタノール 15%のガソリン)
- M 30 (メタノール 30%のガソリン)
- M 85 (メタノール 85%のガソリン)
- M 100 (メタノール 100%)
- 金属含有添加物を配合したガソリン
- ディーゼル

このような燃料を車両に推奨されている燃料とは決して混合しないでください。添加剤を使用しないでください。さもないと、エンジンが損傷することがあります。ただし、スラッジの生成を抑制・除去する効果のある添加剤を除きます。ガソリンにはメルセデス・ベンツにより推奨された添加剤のみを混合してください。"添加剤"をご覧ください。さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場です。

通常、燃料グレードに関する情報は給油ポンプに表示されています。給油ポンプにラベルがない場合、ガソリンスタンドのスタッフにおたずねください。

**i** E10 燃料には最大 10%のバイオエタノールが含まれています。お客様の車両は、E10 燃料の使用に適しています。E10 燃料をお客様の車両に給油することができます。

推奨燃料が入手できない場合は、一時的な措置としてオクタン価が 91 RON の無鉛レギュラーガソリンを使用することができます。このような燃料を使用した場合、エンジン性能が低下したり、燃料消費が増加したりすることがあります。フルスロットルでの走行および急加速は避けてください。91RON 以下の燃料を給油しないでください。  
給油に関する情報 (p. 140 ページ)。

### 添加剤

**■** 燃料添加剤を後で加えてエンジンを作動させると、エンジン故障につながるおそれがあります。燃料に燃料添加剤を混ぜないでください。これには、生成堆積物除去および防止のための添加剤は含まれません。ガソリンにはメルセデス・ベンツにより承認された添加物のみを混合してください。製品の容器に記載の使用上の注意をお守りください。推奨添加剤に関するさらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場です。

メルセデス・ベンツは、添加剤を含有している燃料ブランドの使用を推奨します。一部の国で入手できる燃料の品質は、十分でないことがあります。結果として、残留物が噴射システムに堆積するおそれがあります。そのような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談のうえ、メルセデス・ベンツにより推奨された清浄添加剤をガソリンに混合してください。容器にある注意事項および規定の配合率を常に遵守してください。

### 燃料消費の情報

#### 🌿 環境に関する注意

CO<sub>2</sub> (二酸化炭素) の排出は、地球温暖化の主な原因となります。車両の CO<sub>2</sub> 排出量は、燃料消費と直接関係があり、以下の条件によって変化します。

- エンジンの燃焼効率
  - 走行スタイル
  - 環境の影響や道路状況、交通の流れのような、技術的ではない他の要因
- 緩やかな運転を心がけ、定期的に点検整備を行なうことにより、CO<sub>2</sub> 排出量を最小限に抑えることができます。

以下のような状況では、燃料消費量が増加します。

- 非常に低い外気温で
- 市街地で
- 短距離の走行で
- 山間路で

### エンジンオイル

#### 全体的な注意事項

エンジンオイルを取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意事項に従ってください (p. 287 ページ)。

エンジンオイルの品質は、エンジンの性能や使用寿命に大きな影響を与えます。広範囲にわたるテストの末、メルセデス・ベンツでは最新の技術基準に適合するエンジンオイルのみを承認しています。そのため、メルセデス・ベンツエンジンには、メルセデス・ベンツが承認したエンジンオイルのみを使用してください。テストされ、承認されたエンジンオイルについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場です。オイル交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことを、メルセデス・ベンツは推奨します。メルセデス・ベンツの承認は、オイル容器の"MB Approval" の記載および MB Approval 229.51 などの対応する記号により示されています。

テストされ、承認されたエンジンオイルについてのさらなる情報は、メルセデ

ス・ベンツ指定サービス工場です。オイル交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことを、メルセデス・ベンツは推奨します。

AMG 車両には SAE 0W-40 または SAE 5W-40 のエンジンオイルのみを使用してください。

## 容量

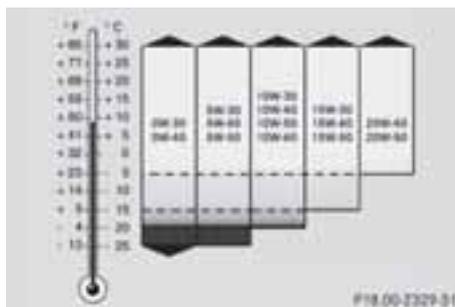
以下の数値は、オイルフィルターを含むオイル交換時のものです。

モデル	交換容量
S 63 AMG 4MATIC	8.5 ℓ
S 65 AMG	10.5 ℓ
他の全モデル	8.0 ℓ

## 添加剤

**!** エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

## エンジンオイルの粘度



粘度は、液体の流動特性を示します。エンジンオイルは粘度が高いほどゆっくりと流れ、粘度が低いほど速く流れます。エンジンオイルの選択は、対応する外気温度を基準にして、SAE グレード（粘度）に応じたものにしてください。表では、使用するべき SAE グレードを示して

います。低温の環境では、劣化や煤、燃料添加剤などにより使用時のエンジンオイルの特性が著しく損なわれます。そのため、適切な SAE グレードの承認されたエンジンオイルを使用して、定期的にオイル交換を行なうことを強く推奨します。

## ブレーキ液

### 警告

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。ブレーキ液の沸点を下げます。ブレーキ液の沸点が低すぎる場合、ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生します。ブレーキ液が劣化しベーパーロックが起こると、ブレーキの性能が損なわれます。事故の危険性があります。ブレーキ液は、定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですべて交換してください。

ブレーキ液 (▷ 287 ページ) を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意事項に従ってください。

ブレーキ液の交換時期は、整備手帳を確認してください。

承認されたブレーキ液についての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですべて入手できます。

**i** ブレーキ液はメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですべて定期的に交換し、点検内容は整備手帳をご確認ください。

## 冷却水

### 重要な安全上の注意事項

### 警告

不凍液がエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性

があります。火災およびけがの危険性があります。

不凍液を充填する前にエンジンを冷やしてください。不凍液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを始動する前に、不凍液で汚れた構成部品を清掃してください。

**!** 冷却水は、必ず弊社指定の不凍液を混合したものを補給してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

冷却水についての詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

**!** たとえ高温の地域であっても、必ず適切な冷却水を使用してください。

不適切な冷却水を使用すると、エンジン冷却システムの腐食やオーバーヒートを防ぐことができなくなります。

**i** 冷却水はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で定期的に交換し、交換を整備手帳で確認してください。

冷却水は水と不凍液/防錆剤の混合液です。以下の役割があります。

- 防錆保護
- 凍結防止
- 沸点上昇

不凍液/防錆剤が適切な濃度の場合、作動中の冷却水の沸点は約 130 °C になります。

エンジン冷却システム内の不凍液/防錆剤の濃度：

- 50 % 以上にしてください。これにより、約 -37 °C までエンジン冷却システムを凍結から保護します。
- 55 % ( -45 °C までの凍結防止保護) を超えないようにしてください。さもないと、熱が効果的に発散されません。

**i** 車両の納車時には、適切な凍結防止および防錆保護を行なうことができる濃度の冷却水が充填されています。

**i** 冷却水は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での定期整備ごとに点検が行なわれます。

## ウインドウウォッシャー

### 重要な安全上の注意事項

#### **⚠ 警告**

ウインドウウォッシャー液が熱いエンジン部品または排気システムに触れた場合、発火するおそれがあります。火災およびけがの危険性があります。

ウインドウウォッシャー液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。

**!** 蒸留水や脱イオン水をウォッシャー液リザーブタンクに入れないでください。レベルセンサーを損傷するおそれがあります。

**!** 夏季用および冬季用の純正ウォッシャー液を混合して使用します。純正品以外のウォッシャー液を使用すると、噴射ノズルが詰まるおそれがあります。

気温が 0 °C 以上のとき：

▶ 水と夏用ウォッシャー液の混合液をウォッシャー液リザーブタンクに補充します。

水の量 100 に対して夏用ウォッシャー液の量 1 を混合します。

気温が 0 °C 以下のとき：

▶ 水と冬用ウォッシャー液の混合液をウォッシャー液リザーブタンクに補充します。

正しい混合値については、不凍液リザーブタンクの情報をご覧ください。

① 1年を通して、夏用または冬用ウォッシャー濃縮液をウォッシャー液に追加してください。

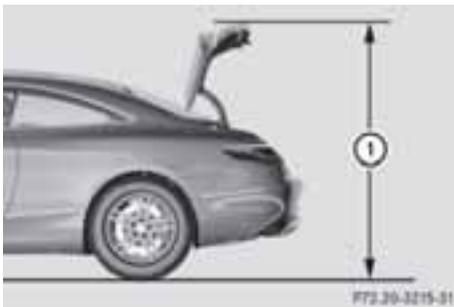
## 車両データ

### 全体的な注意事項

記載の車両データについては、以下の点に注意してください。

- 記載されている車高は、以下に応じて異なります。
  - タイヤ
  - 積載量
  - サスペンションの状態
  - オプション装備
- オプション装備は最大積載量を減少させます

### 寸法および重量



モデル	① 開いたときの高さ
AMG 車両	1755 mm
他の全モデル	1746 mm

### ルーフとトランクの最大積載量

未記載の数値は、発行時点で確認できなかったものです。

モデル	ルーフの最大積載量
全モデル	

モデル	トランクの最大積載量
全モデル	100 kg

### バッテリー

モデル	バッテリー電圧
全モデル	12 V

モデル	バッテリー容量
AMG 車両	78 Ah
他の全モデル	95 Ah

## 発行物の詳細

### インターネット

メルセデス・ベンツ車や Daimler AG についての詳細情報については、以下のウェブサイトに記載されています。

<http://www.mercedes-benz.co.jp>

### 編集オフィス

©Daimler AG: Daimler AG の書面による許可なく、本書のすべてまたは一部を複製、翻訳または複製することはできません。

### 車両メーカー

Daimler AG  
Mercedesstrasse 137  
70327 Stuttgart  
ドイツ



2175849700

Order no. 6515 4515 20 Part no. 217 584 97 00 Edition AEJ2014-Aa